

気仙沼市の海洋教育2021

実践記録集



宮城県気仙沼市教育委員会

目 次

ページ

◆	あいさつ 気仙沼市教育委員会 教育長 小山 淳	1
◆	気仙沼市における海洋教育の推進	2
◇	資料1 気仙沼市海洋教育とその根拠・参照先の整理	12
◇	資料2 「気仙沼・未来創造力」とらえ図	13
◇	資料3 海洋教育パイオニアスクールの学習活動一覧	14
◇	資料4 「海洋教育研究会」「海洋教育学会設立準備大会」における発表資料	17
◆	気仙沼市の海洋教育特例校の実践事例	23
◇	鹿折小学校（2年目）	24
◇	唐桑小学校（1年目）	95
◆	気仙沼市の海洋教育パイオニアスクールの実践事例	135
◇	唐桑幼稚園	136
◇	松園幼稚園	138
◇	小泉幼稚園	140
◇	大谷幼稚園	142
◇	気仙沼小学校	144
◇	松岩小学校	156
◇	階上小学校	160
◇	大島小学校	162
◇	面瀬小学校	166
◇	中井小学校	170
◇	小泉小学校	176
◇	大谷小学校	182
◇	鹿折中学校	186
◇	階上中学校	190
◇	大島中学校	194
◇	面瀬中学校	198
◇	唐桑中学校	204
◇	大谷中学校	206
◆	第9回海洋教育こどもサミット in 東北（オンライン大会）	212
◇	開催要項	212
◇	「海のはた」ワークショップ	214
◆	気仙沼市教育研究員（海洋教育領域）の実践	217
◇	松岩小学校 教諭 三浦 大樹（2年目）	223
◇	大谷小学校 教諭 佐藤 祐司（1年目）	235

気仙沼市「海洋教育実践記録集2021」の発行によせて



気仙沼市教育委員会 教育長 小山 淳

気仙沼市は、2011年に発生した東日本大震災において、人知を超える海の力の大きさを経験しました。震災から立ち上がる私たちは、復興のキャッチフレーズ「海と生きる」を大切にしてきました。本市においては、この「海と生きる」を心に留め、新たなまちづくりを進めております。

学校教育においては、震災後数年は近づくことの叶わなかった海での活動の再開とともに、海の素晴らしさや暮らしとのかかわりを、体験を通して感じることができるようになりました。このきっかけとなったのが、「海洋教育」との出会いでした。本市においては、平成26年度より、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター（旧 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター）との連携協定により、田中智志センター長をはじめ、同センターの先生方の御指導をいただき、海洋教育に取り組んでまいりました。

また、日本財団、笹川平和財団、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの「海洋教育パイオニアスクールプログラム」に参加し、現在は地域展開部門として3か年の取組を終えようとしております。パイオニアスクールを幼稚園4園、小学校10校、中学校6校に拡充するとともに、海洋教育に関する教育課程特例校として鹿折小学校、唐桑小学校の2校が、特設領域「海と生きる探究活動」を中心とした学習を展開し市内の取組を牽引しております。

コロナ禍においても、学校は様々な工夫により海と親しむ活動や海洋教育に係る外部人材から学ぶ活動、オンラインにより国内外と結び、学びを広げ、深める活動を取り入れてまいりました。海洋に関する多様な体験活動をきっかけとして、「海と生きる」とはどういうことか、学年の段階に応じて考え行動する児童生徒の姿が見られました。

また、今年度は、気仙沼市海洋教育推進委員会を中心として、本市海洋教育で育みたい資質能力「海洋リテラシー for 気仙沼」を策定いたしました。さらに、12月には、これまで積み上げてきた実践を「海洋リテラシー」の視点から整理した海洋教育副読本「『海と生きる』を学ぶガイドブック」が完成いたしました。次年度からはこの副読本を活用して、パイオニアスクールのみならず市内全小中学校において、教育課程全体を通じて「海洋リテラシー for 気仙沼」を意識した教育活動を展開してまいります。

気仙沼市「海洋教育実践記録集2021」には、本年度の各学校の実践の紹介に加え、各校での海洋教育の位置付けを示した全体計画、海洋教育デザインシート、指導案なども掲載しました。気仙沼市の海洋教育の歩みの記録とともに、海洋教育の価値を各方面に伝え、実践を広げ、深めるための資料として充実した内容となっています。

貴重な事例を提供いただいた各園・各校の指導者並びに学習を支えていただいているすべての関係者の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後さらに気仙沼市の海洋教育が発展していくことを期待しております。

気仙沼市における海洋教育の推進

気仙沼市教育委員会

1 海洋教育に取り組む背景

本市が海洋教育に取り組む背景を最もよく表したものとして、2021（令和3）年度作成の「海洋リテラシー for 気仙沼」前文を引用する。詳細については本章3（2）を参照願いたい。

（1）「海と生きる」気仙沼の人々のために

気仙沼で育つ子供たち、気仙沼で生きる人々、そして気仙沼の未来をつくる人々、気仙沼の様々な人々の根底には、昔も今も変わらず「海と生きる」という揺るぎないアイデンティティがある。このアイデンティティは、自覚的に意識する・しないにかかわらず、年齢、立場、職業、性別などの様々な違いを超えて、気仙沼の一人一人の中に存在している。

2011（平成23）年3月に発生した東日本大震災を経て、気仙沼の人々は「海と生きる」というキャッチフレーズを復旧・復興のために掲げた。この短いキャッチフレーズは、これまでずっと気仙沼の人々の中にあつた共通のアイデンティティを言葉にしたものである。そこには気仙沼の豊かな未来を描き、持続可能なまちづくりと人づくりに向かおうという決意が込められている。

私たちは、どのように「海と生きる」ことができるのだろうか。この「問い」に対する答えはいくつもあるはずである。海洋教育での探究的で協働的な学びは、これらの「問い」へ導くとともに、これからも「問い」を考えていくための足がかりとなるものである。

（2）子供たちを「海と生きる」へと導く

気仙沼市の公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校は、これまで地域の自然や伝統文化に触れたり、基幹産業である水産業を体験したり、様々な人々とかかわったりしながら、「海と生きる」気仙沼への理解を深めてきた。地域の魅力を生かし、地域の課題の解決を考え、自分たちにもできることに取り組みながら、その地域、学校ならではの個性的で多様性に富んだ海洋教育での実践を積み重ねてきた。

気仙沼で学ぶことは、地域と海とのかかわり、人と海とのかかわりを学ぶことでもある。海についての様々な思いや生き方に向き合うことでもある。東日本大震災を経て、大人の生活は一変したが、子供たちの学びも大きく変わった。その変化を踏まえながら、どのように子供たちを「海と生きる」へいざない、導いていくのか幼稚園も学校も試行錯誤を繰り返してきた。

幼稚園と学校は、気仙沼で生きる子供たちを「海と生きる」へ招待する役割を担っている。それは、地域、人々、子供たちとともに未来の気仙沼を積極的につくっていくことでもある。幼稚園と学校は、海と生きる郷土に向き合うこと、主体的に考え行動すること、多様な人々と協働することの大切さを子供たちに伝えている。気仙沼に根差しながら協働し行動していくことが、未来の社会を人間性が生かされる持続可能な社会にするために必要だからである。

(3) 未来に向かうために必要な力を育む

「海と生きる」ためには、様々な知識や技能を理解し身に付けることに加え、実践的な力が必要となる。批判的・創造的な思考力、行動力、多様性を受容すること、そして他者とのコミュニケーション力や協働性が求められる。一人一人が「海と生きる」を実現する方法や場面は様々であるため、このような力はその度ごとに異なるバランスや内実で求められ、表現される。

気仙沼という土地、歴史、文化はすべて海とつながっている。そして気仙沼での暮らしは海を介して世界とつながっている。そこで重要なのは、持続可能な生活とまちづくりである。一人一人の未来、気仙沼の未来、そして世界の人々と地球の未来を考えながら、人はどのように生き、どのようなまちづくりをする必要があるのだろうか。人と土地、そして海を取り巻く状況が日々変わり、新しい知識・技術が登場することで、未来に生かせる力を豊かにしていく必要がある。

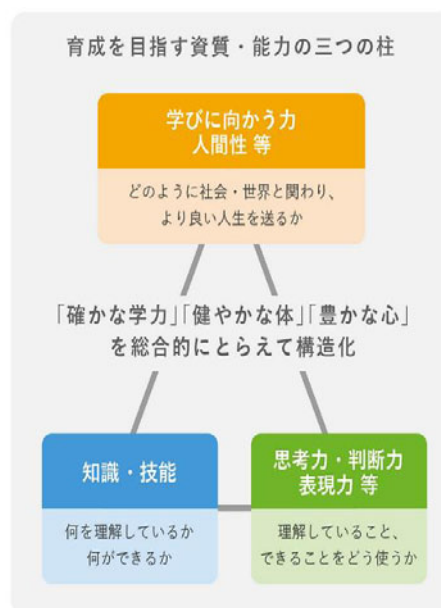
2 海洋教育のとらえ (※章末資料1「令和3(2021)年度気仙沼市海洋教育とその根拠・参照先」を参照)

(1) 海洋基本法及び新学習指導要領の側面から

2007(平成19)年4月に制定された「海洋基本法」の第28条には、「広く国民一般が海洋についての理解と関心を深めることができるよう、学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進等のために必要な措置を講ずるとともに、大学等において海洋に関する政策課題に対応できる人材育成を図るよう努めるよう…」とある。

また、2020(令和2)年から順次実施された小・中学校の新学習指導要領では各学校において、社会に開かれた教育課程を重視し、知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」のためのカリキュラム・マネジメントの確立が強く求められている。海と人のかかわりを考える上で、地域の文化や産業などを踏まえることや地球の環境・生命を支えているものとして海を考えることは、子供たちにより深い理解と思考を促すことにもなる。

「海と人との共生」という理念を掲げる海洋教育は、新学習指導要領に示された、社会で生きて働く「知識・技能」、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育み、「持続可能な社会の創り手」の育成に合致するものと言える。



【図1：東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターHPから】

(2) 「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」及び海洋リテラシーの側面から

2021年から2030年までの10年間は、「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」とされ、提案したUNESCO-IOC(ユネスコ・政府間海洋学委員会)が平成29年に刊行した『Ocean Literacy for All』に、子どもから大人までの学習者のための「海洋リテラシー」(7つの重要原理と45の基本概念)が示された。このことは、これまで「地域のもの」として取り組まれることが多かった海洋教育を、地球規模で起こっている海洋の問題という国際的な枠

組の中に位置付けることにもなり、海洋リテラシーという観点によって、海洋教育での学びと経験は「海と人との共生」に向けての重要な意義をもつ。学校教育に期待されることは、児童・生徒に、海と人の親和性を理解する「海洋リテラシー」を育成することであり、学習を通して、海の役割や人とのつながりを理解するとともに、直面している深刻な海洋問題の解決に対応できる人材を育成することである。

気仙沼市では、UNESCO-IOC による『Ocean Literacy for All』を踏まえつつ、「海と生きる」気仙沼の人々のアイデンティティと文化、海とかかわる産業と人々の生活、震災の教訓を次代に伝える防災・減災などの要素と結び付けながら、本年度新たに、地域の実情に合った「海洋リテラシー for 気仙沼」を作成し、それらの育成に努めている。



【図 2 左：UNESCO-IOC（ユネスコ・政府間海洋学委員会HP から、図 3 右：「海洋リテラシー for 気仙沼」ガイドから】

(3) 海洋教育のコンセプトと 12 分野の側面から

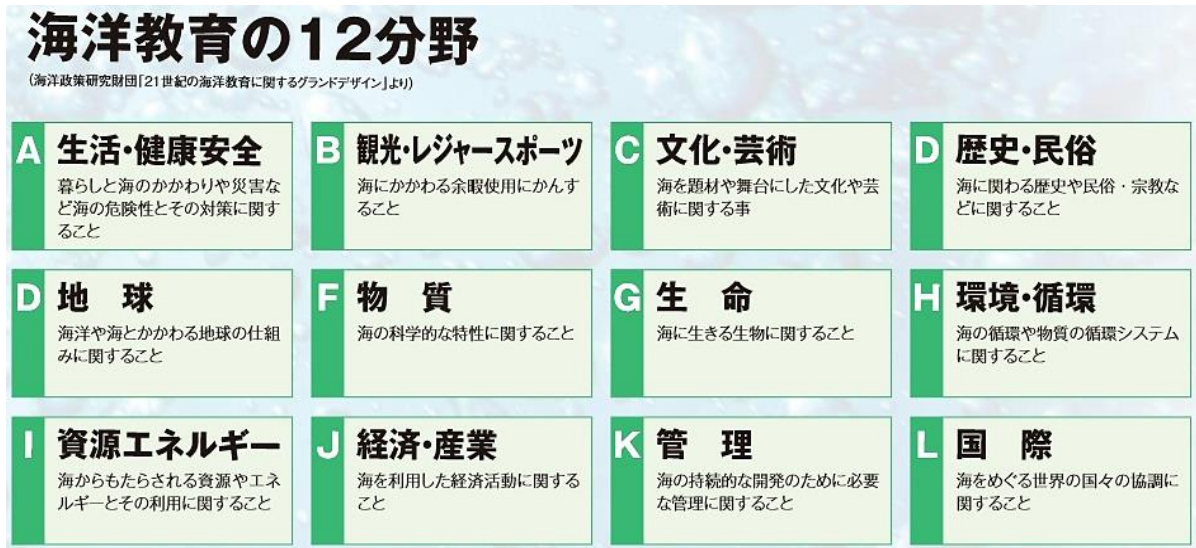
海洋教育の推進にあたり、本市では東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター（以下東京大学海洋教育センター）と市教育委員会が研究拠点としての協定（平成 26 年 8 月促進拠点協定、平成 28 年 8 月研究拠点協定）を結び、継続して指導・助言を受けている。このほかにも、気仙沼市が連携協定を結んでいる東京海洋大学のほか、市内外の海洋に関わる研究機関や市内のスローフード気仙沼、水産業関連機関・団体との多様な関わりを通して海洋教育を進めている。

下の概念図は、「21 世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」に海洋教育のコンセプトとして示している 4 つ（「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」）であり、海洋



【図 4：東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターHP から】

教育の12分野（「生活・健康・安全」「観光・レジャー・スポーツ」「文化・芸術」「歴史・民俗」「地球」「物質」「生命」「環境・循環」など）に主な教育内容が整理されている。



【図5：東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターHPから】

本市の海洋教育のとらえは、(1) 海洋基本法及び学習指導要領を法的な根拠としつつ、(2) 国際的な潮流と課題を射程に入れるものである。なお、このとらえは(3) 市内外の諸機関との連携による方向性の検討、また何よりも次章以降で示す海洋教育の具体的推進・実践を経ることによって、本市の教育に応じた形(= (2) 「海洋リテラシー for 気仙沼」)へと再構築される段階に入っている。

3 気仙沼市の海洋教育の現状

(1) 気仙沼市の海洋教育推進体制の概要

気仙沼市は、2016(平成28)年度から海洋教育パイオニアスクールプログラムの実践に継続して取り組んでいる。2019(平成31)年度からは「地域展開部門(3年間)」として取り組み、最終年度となる本年度は、幼稚園4園、小学校10校、中学校6校が海洋教育パイオニアスクールとして実践を展開している。

そのうち小学校2校(鹿折小学校：令和2年度から、唐桑小学校：令和3年度から)は、文部科学省より「特別の教育課程編成による教育実践校(海洋教育に関する教育課程特例校)」に指定され、新たな領域「海と生きる探究活動」を中心に教科・領域を横断させ、探究的で協働的な海洋教育の推進に力を入れている。

これらの海洋教育パイオニアスクールメンバー校のほか、県立高等学校として地域探究的なカリキュラムの中で海洋教育の実践を行っている気仙沼高等学校と、水産業を支える情報海洋や産業経済などの学習を展開している気仙沼向洋高等学校が加わり、海洋に関する教育推進の方向性を共有しながら、取組を充実させるための連携に努めている。

(2) 気仙沼市海洋教育推進連絡会・推進委員会・副読本編集委員会

気仙沼市海洋教育推進連絡会(以下連絡会)は、市立幼稚園から市内高等学校までの海洋教育

パイオニアスクールと海洋に関する学習を展開する学校、東京大学海洋教育センターを中心に、必要に応じて東京海洋大学関係者、地域の教育に関する有識者等の参加により組織している。この連絡会は、海洋教育の目的と方向性等を共有するとともに、それぞれの実践について情報交換したり、学び合ったりする場であり、本市海洋教育の土台となる組織である。令和2・3年度には、本市海洋教育のさらなる充実のため、連絡会の専門委員会として「海洋教育推進委員会」「海洋教育副読本編集委員会」を新たに位置付け、3組織を有機的に連動させた。



【図6:海洋教育ガイドブック活用研修会】

気仙沼市海洋教育推進委員会（以下推進委員会）では、全てのメンバー校における海洋教育に関する実践を集約・整理する中で、本市海洋教育の目的と海洋リテラシーの意義、内容項目等についての検討を重ね、地域版となる「海洋リテラシー for 気仙沼」を作成した。また、気仙沼市海洋教育副読本編集委員会（以下編集委員会）では、2年間の編集会議を重ね、「海洋リテラシー for 気仙沼」と一体的に「海と生きる」を自立的に学び、探究的な指導に生かせる構成による海洋教育副読本『「海と生きる」を学ぶガイドブック～未来をえがくわたしたち～』を発刊した。第4回連絡会では、全ての市立幼稚園、小・中学校の参加により、海洋リテラシーと副読本との関係性、副読本の効果的な活用の仕方について学び合った。

4 実践の概要

(1) 地域展開としての取組・・・海洋教育パイオニアスクールの実践

【気仙沼市海洋教育研究開発事業〔地域展開部門〕の目標】

地域展開メンバーが連携を図り、地域連携の見直しや再構築を進め、気仙沼の海で子供たちが学び、育つ「海洋教育」として各校のカリキュラムを往還的・探究的・協働的なものへと改善する。幼・小・中の発達段階を踏まえて研究を進め、「海と生きる」気仙沼の特色を生かした海洋教育モデルを創出することで、新学習指導要領のキーワードの一つである「地域に開かれた教育課程」の具現につなげ、質の高い学びを実現する。

- 事務局 気仙沼市海洋教育推進連絡会（気仙沼市教育委員会）
- メンバー校 唐桑幼稚園、松園幼稚園、大谷幼稚園、小泉幼稚園
気仙沼小学校、鹿折小学校、松岩小学校、階上小学校、大島小学校、
面瀬小学校、唐桑小学校、中井小学校、小泉小学校、大谷小学校
鹿折中学校、階上中学校、大島中学校、面瀬中学校、唐桑中学校、
大谷中学校
- 特例校 鹿折小学校（令和2年度～）、唐桑小学校（令和3年度～）

(2) 第9回海洋教育こどもサミット in 東北（オンライン大会）

2016（平成28）年度から、東北地方で海洋教育に取り組んでいる幼稚園から高等学校が一堂に会して実践を伝え合い、テーマに沿った対話による学び合いを行う「海洋教育こどもサミット」を開催している。2016（平成28）年度は気仙沼市（面瀬小学校）で、2017（平

成29)年度と2019(令和元)年度は岩手県洋野町で、2018(平成30)年度は気仙沼市(鹿折小学校)で、2020(令和2)年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催地の気仙沼市がホストとなりオンラインで開催した。

本年度は、東京大学海洋教育センターがホストを務めた「第9回海洋教育こどもサミット in 東北(オンライン大会)」を、東京大学海洋教育センター、公益財団法人日本財団が主催し、気仙沼市立小学校10校と中学校4校、岩手県洋野町の小・中学校11校、福島県只見町の中学校1校の児童・生徒などが参加して11月26日(金)に開催した。

サミットに先立ち11月19日からの「海洋教育ウィーク」では参加校の取組を紹介する動画配信・視聴を通して学び合い、サミット当日には、予め「海と生きるビジョン」を一人一人が描いておいたオリジナルの旗に表し思いを伝え、交流し合うオンラインワークショップを行った。

交流テーマは「わたしが叶えたい、未来の海」であり、動画配信による取組発表では、コロナ禍のため海での直接的な体験や交流による学習が制限されてしまった中であっても、「ふるさとの自然環境や海洋資源を活かし活気あふれる地域にしていくためにどうするか」など、地元の海の魅力と海とのつながり、海が抱える地球規模的な深刻な問題に目を向けながら、海と人との共生に関する各地域での多様な実践が紹介された。

ワークショップ交流では、見えないものを見る、形のないものを形に表す「旗」にそれぞれが思い描いた「未来の海」を互いに見せ合いながら、デザイン、色合いに込めた意味と思いを多様な視点から互いに言葉で伝え、楽しみながら海を感じ、海のイメージを膨らせる交流となった。



【図7: 海洋教育こどもサミット in 東北「海洋教育ウィーク」での動画発表／「海のはた」ワークショップ交流】

(3) 第9回全国海洋教育サミット

2月11日(金)に、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催となった「第9回全国海洋教育サミット」に、市内5校の児童・生徒(気仙沼小学校、鹿折小学校、面瀬小学校、階上中学校、気仙沼高校)が参加した。「海洋教育の10年これまでとこれから」をテーマに据え、海洋教育のこれまでの歩みを振り返り、地球温暖化やプラスチックゴミ問題等、海洋をめぐる様々な問題が進行する中、今後の海洋教育に期待されることやこれまでの成果と課題を踏まえたこれからの海洋教育の展開について意見交換し学び合った。「海と生きる」気仙沼を取り巻く海の生態系と資源保全、地球温暖化等について探究してきたことを、タブレット等で写真や図を効果的に提示しながら表現豊かに発表し質問にもしっかり答えていた。グループ別セッションでは

他地域の児童・生徒と、学習成果をどのように生かし、これからどう行動していきたいと考えているのか、何を学びたいと感じているのか等について活発に意見交換していた。田中智志センター長から「身体感覚を通して『感じる』ことを豊かに、そして『行動』に」との励ましがあつた。

(4) 地域別発表会・交流会の開催

① 市立幼稚園（唐桑幼・松園幼・大谷幼・小泉幼）「海洋こどもサミット in 沼尻海岸」

本年度、海洋教育メンバー校に新たに松園幼稚園が加わり、6月11日（金）に初めての取組として4園合同による「海洋こどもサミット」を大谷・沼尻海岸で実施した。海との直接的な出会いによる多様な気づきや海に対して一人一人が持つ興味・関心を大切に子どもの情緒を豊かに育むという幼児教育のねらいのもと、他園の同年齢の友達と関わることを楽しみながら、様々な海の姿があることを知ったり新たな発見に心を躍らせたり、「海と出会い、なかよくなる」ことを目的とした活動であった。教員は子供たちが生き物探しや海のいいもの探しが楽しくできるように共に発見を楽しみながら、目を向けさせたいポイントへの導きや発見したことの称賛を重ねていた。子供たちは自然の中で本物に出会い触れる体験を通して、心の動きが活発になり、海や友達と関わり合う姿が見られ、園に戻ってから思いを伝え、絵などに表す活動にもその成果が現れていた。来年度は津谷幼稚園を加え、5園によるサミット開催を計画している。



【図8：海で見つけた生き物の姿や動きを観察】



【図9：他園の友達と発見した「海」を共有】

② 大島小学校・大島中学校「第5回海洋教育発表会」

大島小学校では、2016（平成28）年度より「大島小学校海洋教育発表会」を開催しており、本年度は2月22日（火）に大島漁業協同組合青年部の方々を招いて開催した。今回は大島中学校も録画発表で参加し、当日の発表会の様子を録画し各家庭でも視聴していただいた。

1～3年生は海の絵や工作を展示紹介し、4～6年生は「大島は本当に豊かなのか」という大きな問いについて養殖体験を中心に教わり調べた成果を学年毎に発表した。ワカメ、カキ、ホタ



【図10：ホタテ養殖体験での学びを模型で実演】



【図11：大島中は4名の個人探究の成果を動画発表】

テといった大島で養殖される海の恵みの生育過程と環境を切り口にしながらも、生産に携わる人々の知恵と工夫、食と栄養、大島の海への地球温暖化や海洋汚染の影響など視野の広がりや深まりが見られた。講師のコメントも意義深く、学校と地域の一体感を感じる学び合いであった。

③ 唐桑小学校「第5回リアスサミット in 唐桑」（海洋教育に関する教育課程特例校）

唐桑小学校では、生活科や総合的な学習の時間等における地域を題材とした体験的・探究的な学びの成果を、保護者や地域の方々に発信する場として「リアスサミット in 唐桑」を毎年開催しており、本年度は1月27日（木）に行った。会の進行は全て6年生が担当し、3～6年生がそれぞれの学年での取組をグループに分かれ、特例校1年目としての「海と生きる探究活動」の成果をポスターやタブレット等で発表し、森と海のつながりにとらわれず、海洋プラスチックごみ問題や唐桑地域の歴史文化など、様々なテーマでの発表へと広がりを感じられた。唐桑地区で体験活動などに協力いただいている地域支援者の方々や市探究学習コーディネーターからも適宜コメントやアドバイスを受けながら学習を深めることができていた。本年度も、市内山間部にある月立小学校の5・6年生が会場参加し、八瀬川の生き物や食べ物への感謝など自分たちの取組を紹介するとともに、対面によるワークショップでの意見交流を通して「森の豊かさ、海の豊かさ」を通じた未来の地域の姿を互いに思い描く交流となっていた。



【図 12：探究したことについてポスター発表】



【図 13：「未来」をテーマに月立小と唐桑小との交流】

④ 鹿折小学校「海洋フォーラム in 鹿折 2021」（海洋教育に関する教育課程特例校）

鹿折小学校では、2018（平成30）年度より「海洋フォーラム in 鹿折」を開催している。本年度は1月26日（水）にオンラインを併用しながら、特例校2年目となる「海と生きる探究活動」において5・6年生が取り組んできた成果を、個人または課題別グループごとに発表した。

海と人々の暮らし・世界とのつながり、地球温暖化と海面上昇、地域のよさをつなぐスロワードなど、一人一人が問題意識をもったことをテーマに多様な視点から捉えた発表が各ブースで展開されていた。発表児童は、探究に至った背景や必要性、問題の現状、自分たちが実際に取り組んだこと、海外のキリバス共和国との交流や福島県翁島小学校との交流からの気付きと発見、探究の成果とこれから取り組む課題などについてタブレットを活用し、写真や動画などを提示しながら効果的にプレゼンテーションを行っていた。発表後には、地域の学習支援者や企業の方々も各グループに参加し、産業、環境、まちづくりなどの視点から、「海と生きる」気仙沼の

あるべき姿について活発な意見交流がなされていた。当日視聴していただいた東京大学海洋教育センターの丹羽淑博特任准教授，田口康大特任講師，梶川萌特任研究員からもオンラインで指導助言やコメントをいただき、「海と生きる」への考えを深め，海と人との共生を目指す気仙沼のために自ら行動できる児童を育む学びへとつながるフォーラムとなった。



【図 14: 探究したことをタブレットでのプレゼン発表】



【図 15: 企業・地域と「海と生きる」を語り合う】

(5) 教職員地域研修会の実施

気仙沼市では，初めて市内小・中学校に勤務する教職員を対象に，地域理解を深め指導に生かすことを目的とした地域研修会を長きに渡り実施している。昨年度に引き続き，本年度も5月19日(水)・20日(木)に，海洋教育の基本理念であり，気仙沼市の復興キャッチフレーズでもある「海と生きる」を知る研修を行った。気仙沼魚市場・水産情報等発信施設(水産振興センター)を見学した後，森里海研究所を訪問し，NPO森は海の恋人の畠山重篤理事長と畠山信副理事長から，海の生態系に関する講話とフィールドワークによる御指導をいただいた。東日本大震災遺構・伝承館では佐藤健一館長から，震災直後の状況等にも触れながら説明をいただいた。参加者一人一人が「問い」をもって臨み，震災後の気仙沼の復旧・復興の状況と自然環境や水産業が抱える魅力と課題等への理解を深め今後の指導に生かすための貴重な研修となった。



【図 16: 舞根で海の生態系に関する体験研修】

(6) 気仙沼市教育研究員による海洋教育の実践的授業研究

1971(昭和46)年にスタートし，多くの人材を輩出してきた気仙沼市教育研究員制度では2017(平成29)年度から海洋教育を研究領域に加え，本市の特色ある教育のさらなる推進と質の向上を目的に，横断的・探究的な授業づくりを中核とした実践的な研究を進めている。

本年度は，2名の研究員が「思いを持って表現し，学びを深める子どもの育成」を研究テーマに，「対話的な学び」に重点を置いた授業研究に取り組んだ。三浦大樹教諭(松岩小学校)は，課題を自分事として捉えられるように講話や体験等から得た一人一人の気づきや考えを言語化し，タブレットによる学習支援アプリを活用しながら，漁業者，消費者，環境を守るという3つ

の立場から考えを整理しそれらを少人数で共有し深め合うことに視点を当てた実践を行った。

また、佐藤祐司教諭（大谷小学校）は、防災・安全分野による海洋教育に取り組み、児童の考えを言語化させる具体場面として振り返りの時間を設け、ワークシートへ記載したことを拠り所としながら互いの考えを紹介し合うことを重視した実践を行った。

いずれも思いや考えを言語化(話す・書く)するねらいと振り返りなどの場面を意図的に設け、継続して取り組んだことで児童の思いや考えをより鮮明で根拠あるものとし、それらを他者に伝える際の目的や内容、方法などの意識と表現スキルにも高まりが見られていた。それにより「対話的な学び」が充実し、より自律的で探究的な単元づくり、授業づくりへとつながる実践研究事例であった。



【図 17：市教育研究員の研究授業の様子（左：松岩小 右：大谷小）】

5 気仙沼市における海洋教育のこれまでとこれから

「海と生きる」気仙沼市において、「海」は食、観光、産業、文化、まちづくり等、人々の生活と切り離すことができない存在であり、気仙沼の人々が考え、生きていくための拠り所とも言える。この「海と生きる」を学ぶ対象の「海」は、教員にとっても子供たちにとっても馴染みやすい姿で間近に存在し、意義ある地域教材として扱われている。東日本大震災で海の怖さを体験した私たちは、ふるさとの復興と創造への術（すべ）としての海に向き合い、海とのつながりを大切に、海と人が共生する未来を描きながら、持続可能なまちづくりとそれを担う人づくりを目指している。

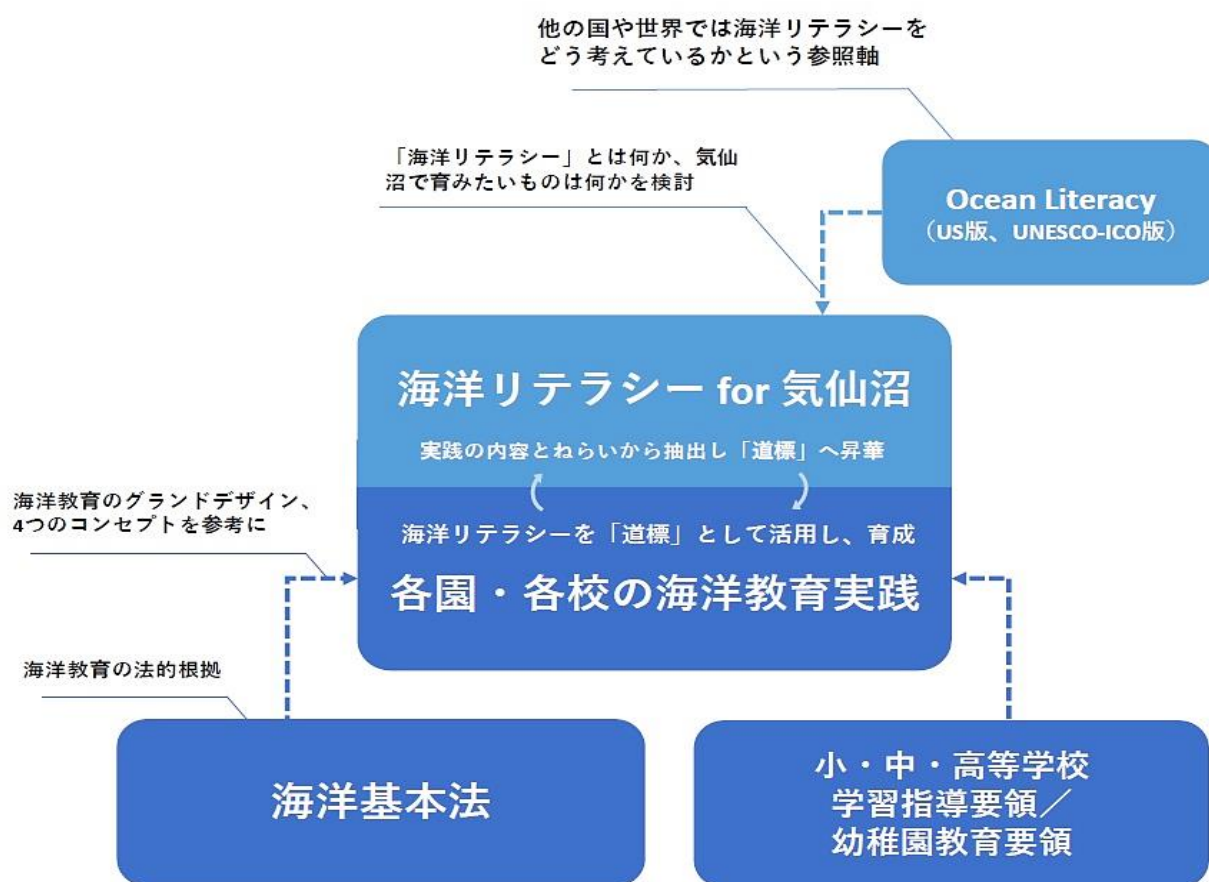
2014（平成26）年度に市立小・中5校と2団体によってスタートした本市の海洋教育は、その後海洋教育パイオニアスクールプログラム（地域展開部門）参加による助成を得ながら、幼稚園、小・中学校、高校の20校による連絡会での展開へと広がった。それぞれの発達段階に応じた取組、地域の特色を生かし体験を通じた取組、他地域や他国・大学等の専門機関とつながる取組とともに、教科横断的な取組、探究的で協働的な取組など多様な実践を通して質的な面でも成果を上げている。昨年、ユネスコによる国際的な「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」がスタートし、本市でも来年度は新たなフェーズである「アドバンス部門」での取組に舵を切る。特例校2校及び各園・各校のこれまでの好事例を共有しながらも、副読本『「海と生きる」を学ぶガイドブック』を積極的かつ効果的に活用し、学校教育を超え、地域と共に「海洋リテラシー for 気仙沼」を育む海洋教育として一層充実させ、本市が目指す「気仙沼・未来創造力」を体現していきたい。



【図 18：副読本「海と生きる」ガイドブック】

【資料1】2021（令和3）年度 気仙沼市海洋教育とその根拠・参照先の整理

- 「海洋リテラシー for 気仙沼」は、気仙沼のものとして洗練された包括的な位置にある。そのため、「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン（小学校編）」（2009.3 海洋政策研究財団）に示されている4つのコンセプト（海に親しむ、海を知る、海を守る、海を利用する）や内容領域については、この実践記録集ではこれまで重ねた実践の参考として整理してある。
- 2021（令和3）年度の気仙沼市海洋教育推進委員会と気仙沼市海洋教育副読本編集委員会、気仙沼市教育委員会において、US版「Ocean Literacy*」や学習指導要領と照らし合わせながら気仙沼のものとして検討・整理し、反映したものである。
 - *) US版の海洋リテラシーが記載された際の文献名は以下
Ocean Literacy: The Essential Principles and Fundamental Concepts of Ocean Sciences for Learners of All Ages （2005年初版、2013年第2版、2020年第3版）
- 本市海洋教育の中核に位置付く「海洋リテラシー for 気仙沼」を育むという目的に向けた具体的な学習活動として各園・各校の海洋教育実践が行われることが重要である。それらの実践一つ一つが「海洋リテラシー for 気仙沼」を体現し、『「海と生きる」を学ぶガイドブック』は、その教育的効果を一層高める指導と学びのガイドとして活用するものである。



【図19：2021年度気仙沼市海洋教育とその根拠・参照先の整理】

より良い未来を創造する力を育む気仙沼の教育

気仙沼・未来創造力

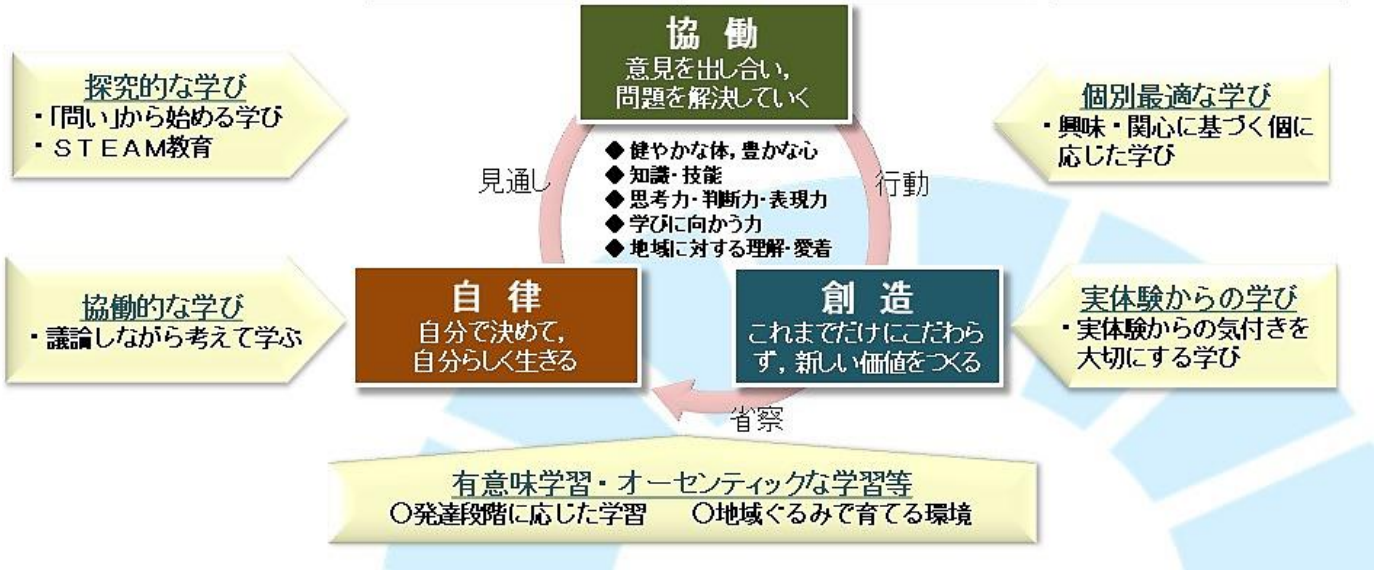
海と生きる郷土を思い、自ら考え主体的に行動し、多様な人々と協働して、人間性が生かされる持続可能な社会へと責任を持って変革していく力（※ 海洋リテラシー for 気仙沼を含む）

F (Foresight) 先を見渡す力

I (Insight) 本質を見抜く力

S (Strategy) 道を切り拓く力

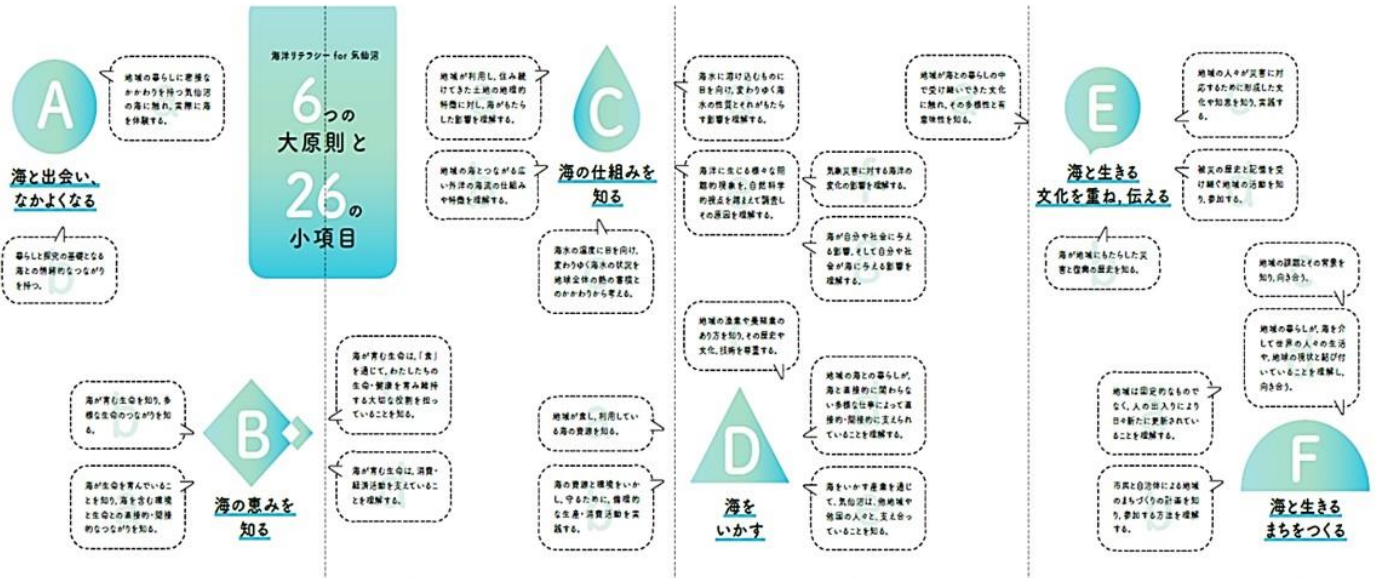
H (Harmony) つなぐ力



「海と生きる」学びを通して育む「海洋リテラシー for 気仙沼」

海洋リテラシー for 気仙沼

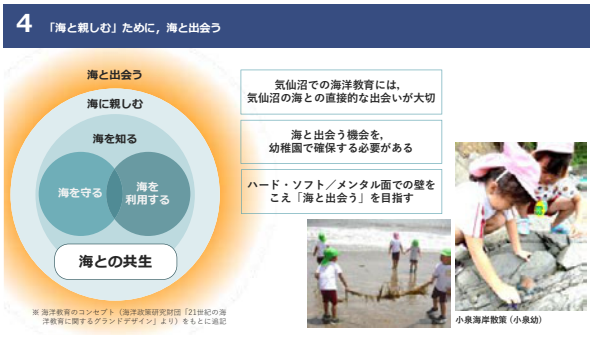
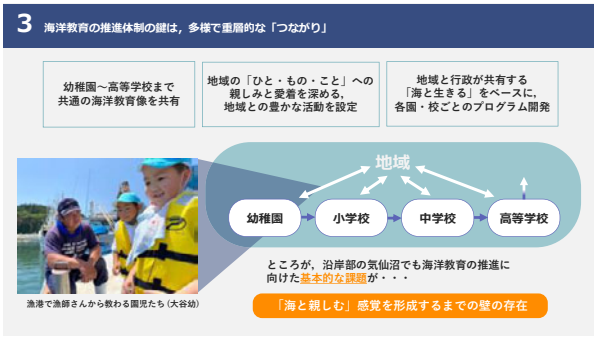
なぜ「海と生きる」のかを考え、海と生きる未来を描きながら、自らの人生を通じて実践していく人を、気仙沼では海洋リテラシーを身に付けた人と呼ぶ。



カテゴリー	海と出会い、なかよくなる	海の恵みを知る	海の仕組みを知る	海を活かす	海と生きる文化を重ね、伝える	海と生きるまちをつくる	海と生きる未来を描く
副読本の内容 ※参考	海との触れ合い／自然の様子や生き物、暮らしや地域の中での海との出会い／表現活動（絵や作文、動作など）	海の生物／食物連鎖／生命と自然環境のつながり／海の恵みとは？の問い直し	気仙沼の沿岸域の地形的特徴／海流と対流／水の循環と気候／地球温暖化と海への影響／気象災害	気仙沼の水産業／漁業・養殖業／その他の海とかわる仕事の存在	気仙沼の民俗文化（祭事、舞踊、食事、言語、技術・道具、風景など）／自然災害への向き合い／伝承活動	行政のまちづくり参加／地域市民のまちづくり参加／気仙沼の新しい課題（国際化する産業・環境汚染など）	「海と生きる」多様な生き方の振り返り／未来で「海と生きる」ために必要なことを考える／「わたし」はどう生きるかを考える
実践の主眼・対象 ※複数にまたがる実践は該当するすべてもしくは主要なコマを示してください。	海との出会い・触れ合いに重きを置く活動、またその表現活動。	生物および環境と生命一般の関わりをあつかうもの。	海の物理的、化学的な性質をあつかうもの。	海に直接・間接的にかかわる産業に着目したものを。	海とともに生きてきた先人の文化・生き方に着目したものを。過去に主眼を置く。	海とともに生きる現在の文化・生き方に着目したものの。今日的課題も含む。	〈わたし（たち）はどう海と生きるか〉を考え構想することに主眼を置くもの。
唐桑幼稚園	・馬場の浜、沼尻海岸散策 ・海の宝物での制作遊び ・漁協見学（ホタテ釣り→ごっこ遊び）	・出船見学 ・海産物の試食	・馬場の浜、沼尻海岸散策	・漁協見学 ・海洋教室			
松園幼稚園	【海と出会う】気仙沼の様々な海に出向き、興味や関心をふくらませる。 【表現遊び】海にちなんだ歌や遊戯で海を表現する。	【海の生き物を見る・触れる】魚・貝・海藻等、様々な生物と触れ合い、その命を恵みとして感謝しながらいただく。	【違いに触れる】砂浜・石浜、波の強弱や満潮干潮等、場所や時間帯によって様々な違いがあることに気付く。	【ワカメ・メカブの種ばさみと刈り取り体験】ワカメの生長に興味や関心を持ち、種ばさみから刈り取り、美味しく食べるまでのプロセスを感じる。 【様々な船】動く船への興味や関心を広げる。	【唐桑の文化に触れる】唐桑の海にまつわる舞踊や民芸品等を見たり触れたりする機会を設ける。	【海に良くないものが落ちていく】散策活動の中で、海洋ごみに気付けるような場面を設ける。	【海となかよし・唐桑のまち】自分たちが住む唐桑、海と仲良しの唐桑がどんな町になったらいいか語り合い、様々な表現で形にする。
大谷幼稚園	○大谷の海って素敵！ 水揚げされた魚の見学（いいものボックス）・沼尻海岸散策 →体験から広がるごっこ遊び（年間を通して…おおよっこおたからハンターごっこ）	○海と畑のめぐみを味わおう！ 海のおたからクッキング（とろろてん・つみれ・かまぼこ） 海と畑のめぐみ（シーフードカレー）	○大谷の海にでかけよう！ ・沼尻海岸・日門海岸・大谷海岸散策 →砂浜や石など、海の違いを感じる	○大谷のおたからを見よう！ 日門網見学・道の駅大谷海岸見学・中華高橋見学 →体験から広がるごっこ遊び（道の駅ごっこなど）	○大谷のおたからを見よう！ →大谷大漁唄いこみ（予定）	○大谷のまちを知ろう！ 大谷探検（散歩）、沼尻海岸散策 →おおよこしいものランド、沼尻海岸ごっこで遊ぼう ○向洋高校見学（施設見学・思い出作り）	実施していない
小泉幼稚園	海洋教育子どもサミットin沼尻海岸/海に親しむつどい/海ごっこ遊び/幼稚園ウィーク	親子食育活動 魚や海藻の試食	小泉海岸の観察	蔵内之芽組見学 小泉川鮭見学 南三陸市卸売市場見学	実施していない	実施していない	実施していない
気仙沼小学校	海岸散策を通して海に親しむ。（1年生活科）	魚屋や海産物店の方との交流から海とのつながりについて知る。（2年生活科）		気仙沼の水産業を支えるサメについて学ぶ。（3年総合的な学習の時間）	防災・減災のためにできることについて考える。（4年総合的な学習の時間）	遠洋漁業や水産加工の現状から海と人との共生について考える。（5年総合）	気仙沼の復興について自分の考えを提案する。（6年総合的な学習の時間）

鹿折小学校	<p>海に親しむ 1年生生活科「おおしまうみたんけん」 「いわいさきうみたんけん」 「ふねのふみつはっけん」 2年生生活科「海の生き物仲良し大作戦（舞根森里海研究所）」 「海の宝物を紹介しよう」</p>	<p>海の生き物 1年生生活科「いわいさきうみたんけん」 2年生生活科「海の生き物仲良し大作戦（舞根森里海研究所）」 「海の宝物を紹介しよう」</p>	<p>海と環境 4年探究活動 「山・川・里・海の生命をつなぐ鹿折川」 ・命を育む鹿折川を調べよう 水質・環境調査 鹿折川と米作り 米作り体験 ・鹿折川から環境を考えよう 5・6年生生活科探究活動 丹羽教授、須賀教授の地球環境についての講話・実験</p>	<p>海と産業 5年生海と生きる探究活動 「世界につながるぼくらの海郷丸」 ・気仙沼と海をつなぐを調べよう 魚市場見学・水産加工場見学・造船所見学・漁船乗船体験 ・気仙沼の水産業を調べよう ・海洋サミット参加 ・海のフォーラムで発信</p>	<p>海と生きる文化と伝統 3年生海と生きる探究活動 「鹿折の宝～人・自然・もの～」 食（魚・米・ワカメ） 伝統行事（波板虎舞・みなとまつり・天旗まつり） ※ワカメ養殖体験・天旗体験・虎舞体験</p>	<p>海と生きるまちづくり 6年生海と生きる探究活動 「海と生きる自分・未来～海と生きる気仙沼の魅力発信プロジェクト～」 ・気仙沼のまちづくりについて調べよう う1 気仙沼スロフードについての講話 気仙沼市と会津若松市の食 ・気仙沼のまちづくりについて調べよう う2 気仙沼の魅力（海と生きる・海との共生）を発信 ・海洋サミット参加 ・海のフォーラムで発信</p>	<p>海と生きるまちづくり 6年生海と生きる探究活動 「海と生きる自分・未来～海と生きる気仙沼の魅力発信プロジェクト～」 ・気仙沼のまちづくりについて調べよう う1 気仙沼スロフードについての講話 気仙沼市と会津若松市の食 ・気仙沼のまちづくりについて調べよう う2 気仙沼の魅力（海と生きる・海との共生）を発信 ・海洋サミット参加 ・海のフォーラムで発信</p>	<p>海と生きるまちづくり 6年生海と生きる探究活動 「海と生きる自分・未来～海と生きる気仙沼の魅力発信プロジェクト～」 ・気仙沼のまちづくりについて調べよう う1 気仙沼スロフードについての講話 気仙沼市と会津若松市の食 ・気仙沼のまちづくりについて調べよう う2 気仙沼の魅力（海と生きる・海との共生）を発信 ・海洋サミット参加 ・海のフォーラムで発信</p>
松岩小学校	<p>・海と仲良し（2年大島） 3年志津川へ行こう）</p>	<p>・海博士からや環境博士から話を聞こう（3年）～三陸と生物の多様性～ ・森と海をつなぐを知ろう（5年）～植林体験と舞根森里海研究所見学をしよう～</p>	<p>・マイクロプラスチック調査をしよう（4年） ・三陸沖の海の特徴を知ろう（5年） ・地球温暖化と海洋の関係を知ろう（6年）</p>	<p>・松岩のワカメ養殖体験をしよう（5年） ・気仙沼市の水産業について知ろう（5年）</p>	<p>・東日本大震災大震災について知ろう（5年） ・海と生きる漁師さんからお話を聞こう（5年）</p>	<p>・プラスチックゴミ減量作戦を実行してみよう（4年） ・気仙沼海大使になり、気仙沼の海についてアピールしよう（5年） ・未来の気仙沼について考えよう（6年）</p>	<p>・プラスチックゴミ減量作戦を実行してみよう（4年） ・気仙沼海大使になり、気仙沼の海についてアピールしよう（5年） ・未来の気仙沼について考えよう（6年）</p>	<p>・プラスチックゴミ減量作戦を実行してみよう（4年） ・気仙沼海大使になり、気仙沼の海についてアピールしよう（5年） ・未来の気仙沼について考えよう（6年）</p>
階上小学校	<p>岩井崎の秘密（自然・生き物）を探る（3, 5年）</p>	<p>岩井崎のゴミ調査</p>	<p>気仙沼の水産業と三陸の海（海流）</p>	<p>気仙沼の水産業と三陸の海（漁法と漁獲量） 階上の水産業・養殖（アワビやワカメ）</p>	<p>津波防災</p>	<p>海のフォーラム</p>	<p>海のフォーラム</p>	
大島小学校	<p>○海に親しむ集い ○若木浜散策（生き物調べ）</p>	<p>○若木浜散策（生き物調べ）</p>	<p>○海の環境と生息する生き物の関係の調査</p>	<p>○ワカメ、カキ、ホタテの養殖体験学習・講話</p>	<p>○食育（大島の水産物を使った調理実習） ○十八鳴り浜の清掃</p>	<p>○「海と生きる町づくりプロジェクト」</p>	<p>○「海と生きる町づくりプロジェクト」</p>	
面瀬小学校	<p>海に親しもう（1, 2年） ※幼保小連携 石や貝で作ってみよう（1年） 海藻押し葉を作ろう（1年） 唐桑の海に親しもう（4年）</p>	<p>唐桑の海に豊かさを探ろう（4年） 海辺の自然と生物調査（5年） 豊かな森の秘密を探ろう（5年）</p>	<p>森・川・海の秘密を探ろう（5年）</p>	<p>サケの稚魚放流（1, 2年） サケの稚魚を育てよう（1, 2年） ワカメの養殖について調べよう（3年） カキの養殖について調べよう（4年） カキ養殖体験（4～6年） カキが育つ環境について発表しよう（5年） カキ養殖の工夫や努力を調べよう（6年）</p>	<p>唐桑の「宝」を知ろう（3年） 地域の防災を探ろう（5年）</p>	<p>唐桑のすばらしさを伝えよう（6年） まちづくりについて考えよう（6年） 自分たちの未来を考えよう（6年）</p>	<p>尾崎の干潟と砂浜学習会／面瀬の自然発表会</p>	<p>尾崎の干潟と砂浜学習会／面瀬の自然発表会</p>
唐桑小学校	<p>・海に親しむ会（全年） ・滝浜散策（5年） ・鮭の稚魚放流（1, 2年）</p>	<p>・森里海研究所（5年）</p>	<p>実施していない</p>	<p>・工場見学（3年） ・網起こし体験（5年）</p>	<p>・大漁旗でエコバック作り（5年） ・鮭の調理教室（5年） ・伝統文化の体験（4年） ・防災マップ作り（4年）</p>	<p>実施していない</p>	<p>・歴史探訪（6年）</p>	

大谷小学校	海に親しむ集い(海岸清掃,砂の造形)①②③④⑤⑥,磯遊び(海辺の生き物)①②,海の自然物でおもちゃ作り①	ワカメの養殖体験③,海浜清掃④,海洋プラスチックごみについて考える④,エコラップ作り④森川海のつなぎ⑤⑥,大谷の環境を守る(森川海)⑤⑥,海浜植物の保全・活用⑥	水生生物調査⑤,森川海のつなぎ⑤,海浜清掃④,海洋プラスチックごみについて考える④,エコラップ作り④	ワカメの養殖体験③,日門漁港漁船見学⑤,フカヒレ工場見学⑤,大谷の産業調べ⑥	平磯虎体験②	大谷里海づくり検討委員会に学ぶ復興に向けた地域市民によるまちづくり(海を守る防潮堤・国道かさ上げ,地下水を通す仕組み)⑥未来の大谷のまちづくりに必要なことを提案する⑥	調べたことを発表し合い,海と共に生きるために自分たちができることを考える④⑤⑥
小泉小学校	海に親しむ集い	いのちのつながり調べよう(サケの稚魚放流)	地域の防災マップづくり	小泉の水産業を調べよう(ワカメの摘み・刈り取り)	小泉の伝統芸能調べ(小泉浜大漁打ちばやし)	オイカワデニムのひみつ調べ	小泉の魅力を発信(公民館での発表)
鹿折中学校	実施していない	実施していない	気仙沼湾の地形,鹿折地区の地形的特徴(リアス式海岸と津波の影響) *総合,理科,社会	海洋教育保全推進活動(漂着物,水質調査)実施 *大島中と合同交流学习	過去の災害,震災経験や教訓から命の大切さや命を守る行動について学び,震災の記憶風化を防ぐ震災伝承学習への取り組み。	津波死ゼロを目指し,地域,行政と連携した防災・減災活動の展開。(避難所設営訓練,マニュアルの作成など)	「海のまち気仙沼に生きる」市民として「津波死ゼロ」を達成するために必要なことを考え,発信する。
階上中学校	国語 ・海の作文 総合的な学習の時間 ・志津川少年自然の家での野外活動(1学年) ・探究学習「防災×○○」(○○は探究テーマ)における紙芝居等の作成	理科 ・「自然のなかの生物」(3学年)	社会 ・「地形から見た日本の特色」(1学年) 理科 ・「大気の動きと日本の天気」(2学年) 総合的な学習の時間 ・「防災×海洋」特別講話(東京大学 丹羽准教授)	総合的な学習の時間 ・地元の水産加工場や海上保安署への職場体験(2学年)	社会 ・「自然災害と防災・減災への取り組み」(1学年) ・「東北地方-過去からの継承と未来に向けた社会づくり-」(2学年) 総合的な学習の時間 ・防災学習(全学年) ・陸前高田市震災伝承施設「TSUNAMIメモリアル」訪問(1学年) ・女川震災遺構等施設訪問における石碑の見学・拓本づくり(2学年) ・郷土料理講習会(3学年) ボランティア活動 ・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の館内ガイド	理科 「自然環境の調査と保全」 総合的な学習の時間 ・女川震災遺構等施設訪問における町総務課からの講話及びまち歩き(2学年) ・気仙沼市役所等への職場体験(2学年)	総合的な学習の時間 ・探究学習「防災×○○」(防災×海洋等)
大島中学校	海の恵み(知る) ・權練り体験①	海を生かす(利用) ・漂着物調査 ・海浜清掃①②③	海を生かす(知る)	海を生かす(利用) ・防災・減災①	海を支える(守る) ・職場体験学習②	海とまちづくり(共生) ・海と生きるまちづくり,人づくり③	
面瀬中学校	海の恵み(知る) ・食文化と気仙沼市を取り巻く環境①	海を生かす(利用) ・防災・減災①	海の仕組み(知る) ・気仙沼市の産業の特色や魅力②	唐桑の水産品を使った食品作りとその提案をする活動	唐桑の伝統芸能について知り,広めていく活動 ・唐桑の魅力を再発見し,他地域に発信していく活動	海洋ゴミとその減少のための取り組み ・海洋ゴミとその減少のための取り組み ・海と生きるまちづくり,広めていく活動	海洋ゴミとその減少のための取り組み ・海洋ゴミとその減少のための取り組み ・海と生きるまちづくり,広めていく活動
唐桑中学校	・現在の子どものための海での遊びについて調べ,より親しめるものを提案する活動	ウニによる磯焼けの原因とその被害を受ける海藻について調べ,広めていく活動	気象災害について調べ,防災に活かしていく活動	唐桑の水産品を使った食品作りとその提案をする活動	唐桑の伝統芸能について知り,広めていく活動 ・唐桑の魅力を再発見し,他地域に発信していく活動	唐桑の水産品を使った食品作りとその提案をする活動	唐桑の魅力を再発見し,他地域に発信していく活動
大谷中学校			水産試験場の方から世界・日本・三陸の海で生じている海の諸問題について講話をいただいた。地球温暖化による海流や魚種の変化,海の酸性化などに注目した。	海洋ゴミの削減から地球温暖化問題について考える活動を実施。新聞エコバックの作成や配布,紙ストローの提案をすることで,身近な海を守ろうと活動している。		本来捨てられてしまう物だが,有効に活用すれば資源になる物に注目した。メカジキのフン,アワビのウニのからなどを活用してアクセサリーを作り,販売すれば地域にたくさんの方が来てくれるのではないかと考え,行動している。	大谷地区が更に活性化するためには私たちが出来ること,すべきことは何かを考えて行動する取組を実施している。地域資源の活用や環境の保全や改善,地域経済の活性化の観点から取り組んでいる。



6 「海と親しむ」ために、海と出会う

ハード・ソフト・メンタル面での壁をこえる

近くの海と出会い、最初のつながりへ

- ねらいに沿った声かけ
- 「綺麗でないもの」にも自然に触れる
- 園生活でも海体験の関心と親しみをつなげる

園生活を通じた「海との出会い」の始まり



沼尻海岸での海のゴミ拾い(4幼稚園交流による海のサミット)

「生業としての海」「生活の中の海」との広いつながりへ

どんこ(イナメ)に触れてみたい(松園幼)

7 「海と親しむ」ために、海と出会う

園生活を通じた「海との出会い」を継続

「生業としての海」「生活の中の海」との広いつながりへ

- 市場や魚屋見学で、人や職業への興味・憧れを引き出す

- 生活の中でも海を発見・探究するように

ハード・ソフト・メンタル面での壁をこえる

近くの海と出会い、最初のつながりへ



市場(南三陸町)見学(大谷幼)



会食に使用するためスーパーで購入したイカを観察(松園幼)

8 「海と出会う」の土台をつなぎ、小学校でも受け継ぐ

幼稚園での蓄積をもとに

海との「出会い」「つながり」が、海についての考えや思いのきっかけ・土台に。

海体験の少ない児童へも学級内で共有できる、学級全体の財産。

教員にとっては取り組みの共有が土台

取り組みの情報を共有することで、どんな蓄積があるかを小学校側が理解・意識。

幼稚園は、小学校で自園での蓄積がどう表現されたかを確認できる。



幼児と海の交流・サケの稚魚放流(唐森小1年生)



岩井姉と大魚で見つけた「海」を園や給士で表現して学級で共有(唐森小1年生)

9 「新しい生活様式」は活動を洗練させる機会

感染症対策による制限と、「新しい生活様式」

直接体験が不可欠な活動内容か、他の方法の方がよいのかの精査へ

直接活動でのねらい・声かけ内容・確認点等を事前に吟味・共有

教職員同士で丁寧に共有して取り組む

海洋教育としての質や教職員の意欲の向上



10 ICTはこどもと園・学校にとって、「つなぐ」選択肢と「つながる」機会の広がり

こどもにとってのICT

園・学校にとってのICT

表現方法が広がり、それに伴って「伝えたい思い」へ深く向き合うように。

小

活動の写真をタブレットに取って設置。こどもの関心を引き出し、保護者への情報共有の機会に。

幼

タブレットで時間の経過を表現した発表が可能に。

小

他地域との学び合い・交流が実現。新しい学びと意欲の高まりへ。

小



海洋教育こどもサミットin気仙沼での交流(小学校グループ)



画像をみながら海での活動の振り返り(小泉幼)



海に関する探究的な学びの発表(唐森小6年生)

11 「つながり」を介し、「つながり」を生む、気仙沼の「海と生きる」海洋教育

まとめ

- 幼稚園段階での海洋教育は、「海と出会う」をめざす。
- 気仙沼の海洋教育での「幼小の連携/接続」は、潜在的な部分も含む一体的なもの。



課題・展望

- 新しい生活様式で、幼稚園での「出会わせ方」の吟味が一層深まっていく。
- 海との距離、プログラムの参加不参加を超えて、幼稚園での「海と出会う」を確保することを考えたい。

日本海洋教育学会設立準備大会 実践研究発表 2022.2.12

「海と生きる」を学び、未来をえがく ～「気仙沼・未来創造力」を育む海洋教育の展開～

気仙沼市・宮城教育大学連携センター 浅野 亮

1 より良い未来を創造する力を育む気仙沼の教育

気仙沼・未来創造力

海と生きる郷土を思い、自ら考え主体的に行動し、多様な人々と協働して、人間性が生かされる持続可能な社会へと責任を持って変革していく力 (※ 海洋リテラシー for 気仙沼を含む)

F(Foreflight)先を見据える力 I(Inight)本質を見抜く力 S(Strategy)道を選び拓く力 H(Harmony)つなぐ力

協働
意見を出し合い、問題を解決していく

自律
自分で決めて、自分らしき生きる

創造
これまで以上にこだわらず、新しい価値をつくる

協力的な学び
「問い」から始まる学び
・STEAM教育

協力的な学び
・議論しながら考えて学ぶ

個別最適な学び
・興味・関心に基づき選んだ学び

実践からの学び
・実践からの実践力を大切に学ぶ

省察

有意義な学習・オーセンティックな学習等
○発展段階に応じた学習 ○地域ぐるみで育てる環境

2 国・学校の多様な「つながり」による気仙沼市の海洋教育の推進体制

幼稚園や小学校ごとに、多様なつながりの中で推進

- 学区ごとの横のつながり
- 校種内、校種間をつなぐ
- 学区、学校段階を問わない共通の場(地域全体)

地域 学校間での情報共有

松園幼稚園 小泉幼稚園 大谷幼稚園

鹿角小学校 中井小学校 鹿折小学校 小泉小学校 松岩小学校 気仙沼小学校 大島小学校 西瀬小学校 麗上小学校 大谷小学校

鹿角中学校 鹿折中学校 大島中学校 西瀬中学校 麗上中学校 大谷中学校

気仙沼高等学校 気仙沼海洋高等学校

海洋教育推進連絡会
協賛教育推進委員会
海洋教育関係本職職員委員会

※ 海洋教育推進連絡会に参加している各団体の名称、正置は教育課程特科校。

3 「海と生きる」学びを通して育む気仙沼版海洋リテラシーと副読本

海洋リテラシー for 気仙沼

なぜ「海と生きる」のかを考え、海と生きる未来を描きながら、自らの人生を通して実践していく人を、気仙沼では海洋リテラシーを身に付けた人と呼ぶ。

子供たちを「海と生きる」へと導く6つの大原則

- 海と出会い、なかよくなる
- 海の恵みを知る
- 海の仕組みを知る
- 海をいかに
- 海と生きる文化を重ね、伝える
- 海と生きるまちをつくる

(※原則A～Fにおいて、全部で26の小項目を設定)

市HPにも掲載

4-1 海洋リテラシー for 気仙沼 (6つの大原則と26の小項目)

A 海と出会い、なかよくなる

理解(知識)
a 地域の暮らしに密接なかかわりを持つ気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する。
b 暮らしと探究の基礎となる海との情緒的なつながりを持つ。

感性(情意)

実践(行動)

B 海の恵みを知る

a 海が生命を育てていることを知り、海を含む環境と生命との直接的・間接的なつながりを知る。
b 海が育む生命を知り、多様な生命のつながりを知る。
c 海が育む生命は、「食」を通じて、わたしたちの生命・健康を支えている大切な役割を担っていることを知る。
d 海が育む生命は、消費・経済活動を支えていることを理解する。

C 海の仕組みを知る

a 地域が利用し、住み続けてきた土地の地理的特徴に対し、海がもたらした影響を理解する。
b 地域の海とつながる広い世界の海の仕組みや特徴を理解する。
c 海水の温度(目)を向け、変わりゆく海水の状況や地球全体の熱の循環とのかかわりから考える。
d 海水に溶け込むものを向け、変わりゆく海水の性質とそれがもたらす影響を理解する。
e 海洋に生じる様々な問題の現象を、自然科学的視点と踏まえて調査しその原因を理解する。
f 気象災害に対する海洋の変化の影響を理解する。
g 海が自分や社会に与える影響、そして自分や社会が海に与える影響を理解する。

4-2 海洋リテラシー for 気仙沼 (6つの大原則と26の小項目)

D 海をいかに

a 地域が食し、利用している海の資源を知る。
b 海の資源と環境をいかに、守るために、倫理的な生産・消費活動を実践する。
c 地域の漁業や養殖業のあり方を知り、その歴史や文化、技術を尊重する。
d 地域の海との暮らしが、海と直接的に関わらない多様な仕事によって直接的・間接的に支えられていることを理解する。
e 海をいかに産業を通して、気仙沼は、他地域や他国の人々と、支え合っていることを知る。

E 海と生きる文化を重ね、伝える

a 地域が海との暮らしの中で受け継いできた文化に触れ、その多様性と有意義性を知る。
b 市民と自治体による地域のまちづくりの計画を知り、参加する方法を理解する。
c 地域の歴史とつながりを知る、向き合う。
d 被災の歴史と記憶を受け継ぐ地域の活動を知り、参加する。

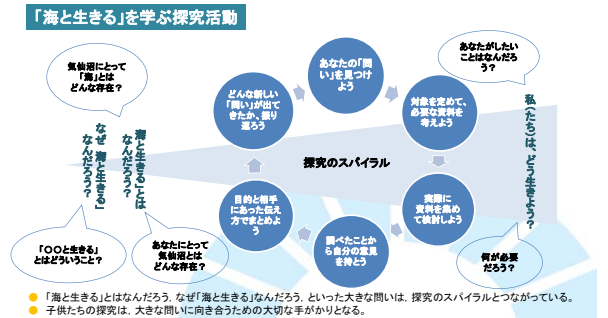
F 海と生きるまちをつくる

a 地域は固定的なものではなく、人の出入りにより日々新たに更新されていることを理解する。
b 市民と自治体による地域のまちづくりの計画を知り、参加する方法を理解する。
c 地域の課題とその背景を知り、向き合う。
d 地域の暮らしが、海を介して世界の人の生活や、地球の現状と結び付いていることを理解し、向き合う。

5 「海と生きる」を学ぶガイドブック ～未来をえがくわたしたち～

<p>A 海と出会い、なかよくなる</p> <p>まず大切なのは、子どもたちが地域の海に出会い、幼稚園や学校が、子どもたちと海との出会い、楽しみを持つ基本の体験を提供していきます。</p>	<p>B 海の恵みを知る</p> <p>海の「恵み」は、毎日の食事にも登場するとても身近なもの。海が育む生命と、その海を豊かにする魚や川のつながりにも目を向けて、海の「恵み」のつながりを学んでいきます。</p>
<p>C 海の仕組みを知る</p> <p>地域の海は、地球規模の海の仕組みとつながっています。高度な海水の性質を学び、今、私たちの大きな課題でもある地球温暖化と海のかかわりに目を向けて、未来を考えることに挑戦します。</p>	<p>D 海をいかに</p> <p>気仙沼と水産業は切っても切り離せない深い関係にあります。養殖業を含む漁業に目を向け、気仙沼の人びとがどのように海をいかに、持続させようとしているのかを知ります。水産業を支えるたくさんの方のつながりにも注目し、町への理解も深めます。</p>
<p>E 海と生きる文化を置か、伝える</p> <p>気仙沼で生きる人びとが培ってきた文化は、食や祭り、仕事の取り決めなど、生活のいたるところに存在します。自然災害との生き方も、防災や復興関連などの形になった文化です。文化を再発見し、未来へ引き継ぐ大切さを伝えていきます。</p>	<p>F 海と生きるまちをつくる</p> <p>気仙沼の未来を考えるなら、まちづくりの拠点は欠かせません。気仙沼市は、そして地域の人々は、どのように気仙沼をつつていくのかを学びます。国際化や環境問題などの新しい課題を考えることに挑戦します。</p>

6 海と生きるを学ぶ「問い」を探究し、深く考えるために



7 大原則A 海と出会い、なかよくなる (小項目2)

「海となかよくなる」って、どういうこと？

- 気仙沼にはどんな姿をした海があるかな？
- まちの中にも海を感じるもの、ひと、ことをたくさん見つけられるかもしれないね。いろいろなところで海を探してみよう！
- 漁師さんなど、海に関わる人たちにインタビューしてみよう！



《海洋リテラシー for 気仙沼(項目の一部)》

- 地域の暮らしに密接なかかわりを持つ気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する。
- 暮らしと探究の基礎となる海との情緒的なつながりを持つ。

8 コラム どうやって海と「なかよく」なるの？

海を見つけよう	海とつながろう
<p>舞鶴の海でウニの特産を発見</p> <p>海で見つけた貝類とシーグラス</p>	<p>定置網船こし体験</p> <p>海岸清掃と恵みごみ調査</p>
海を感じよう	海を表そう
<p>手こぎの舟への乗船体験</p> <p>親子料理教室</p>	<p>見学後に「お魚屋さん」を再視</p> <p>見学後に「解体ショー」を再視</p>

9 大原則B 海の恵みを知る (小項目4)

海はどのような生命を育てているの？

- 海の生き物には、お互いどのような「つながり」があるのかな？
- 森に木を植えると海の力がおいしくなるのはなぜだろう？

海の恵みって、何だろう？

- 考えついた海の恵みとは、何によって、どのような恵みになっているのかな？



《海洋リテラシー for 気仙沼(項目の一部)》

- 海が生命を育てていることを知り、海を含む環境と生命との直接的・間接的なつながりを知る。

10 大原則C 海の仕組みを知る (小項目7)

海は、どのような姿をしているの？

- 海流同士がぶつかる海域のことをなんと呼ぶの？
- その海域にはどんなひみつがあるのかな？

人類は海にどのような影響を与えているの？

- 海水温上昇の直接の原因の後ろにはどんな原因がかかっているのかな？
- 海の成層強化って何かな？



《海洋リテラシー for 気仙沼(項目の一部)》

- 海洋に生じる様々な問題の現象を、自然科学的視点を踏まえて調査しその原因を理解する。
- 海が自分や社会に与える影響、そして自分や社会が海に与える影響を理解する。

11 大原則D 海をいかす (小項目5)

気仙沼では、どんな魚がとれるの？
何を育てているの？

- 気仙沼で獲れる魚の種類や量は変化しているのかな？

海で働く人は、どんな仕事をしているの？

- 遠洋漁業にはどんな人がどのように関わっているのかな？
- 水産資源を守るって、どうすることかな？MSC認証やASC認証って何かな？



《海洋リテラシー for 気仙沼(項目)の一部》

- b 海の資源と環境をいかし、守るために、倫理的な生産・消費活動を実践する。
- d 地域の海との暮らしが、海と直接的に関わらない多様な仕事によって直接的・間接的に支えられていることを理解する。

12 大原則E 海と生きる文化を重ね、伝える (小項目4)

気仙沼で生きる人は、どのような文化を積み重ねてきたの？

- 神社や道、石碑など、まちの風景の中にどんな文化が潜んでいるのかな？

気仙沼で生きる人は、自然災害にどのように向き合ってきたの？

- 自助、共助、公助、N助というのとはどんな意味なのかな？
- 人々の心の中以外に、まちの中にどんな記憶があるかな？



《海洋リテラシー for 気仙沼(項目)の一部》

- a 地域が海との暮らしの中で受け継いできた文化に触れ、その多様性と有意義性を知る。
- d 被災の歴史と記憶を受け継ぐ地域の活動を知り、参加する。

13 大原則F 海と生きるまちをつくる (小項目4)

気仙沼の人々は、どのように気仙沼というまちをつくらせているの？

- 第2期気仙沼市総合計画には、全体的な計画が示されているけど、どう感じるかな？

気仙沼のまちには、どんな新しい課題が生まれているの？

- 気仙沼へやってきた人々が気仙沼と関わるのは、どんな背景や理由からなのかな？



《海洋リテラシー for 気仙沼(項目)の一部》

- a 地域は固定的なものではなく、人の出入りにより日々新たに更新されていることを理解する。
- c 地域の課題とその背景を知り、向き合う。

14 まとめ 海と生きる未来をどう描こう？

「海と生きる」とは、どういうこと？

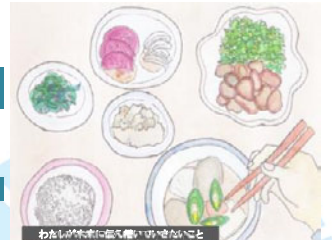
- 様々な魅力、持ちよう、課題、生活している人の思いや願いなどに着目して考えてみよう！

未来で「海と生きる」ために必要なこととは何だろうか？

- 共通点、相違点など、他地域や海外の学校との交流でも新しいことが発見できそうだね。

これから、どう「海と生きる」？

- 「誰が」(自分、大人、気仙沼、世界など)を考えてみよう。
- 「どうする」(姿勢、技術、仕組みなど)を考えてみよう。



提供：一般社団法人3710Lab「わたしが大切にしたい気仙沼」

15 「海と生きる」ガイドブック活用研修会 (第4回海洋教育推進連絡会)

<p>研修会内容</p> <p>1. ガイドブックの活用方法について</p> <p>2. 気仙沼の魅力を伝えるための活用方法について</p> <p>3. 気仙沼の魅力を伝えるための活用方法について</p>	<p>研修会内容</p> <p>1. ガイドブックの活用方法について</p> <p>2. 気仙沼の魅力を伝えるための活用方法について</p> <p>3. 気仙沼の魅力を伝えるための活用方法について</p>	<p>研修会内容</p> <p>1. ガイドブックの活用方法について</p> <p>2. 気仙沼の魅力を伝えるための活用方法について</p> <p>3. 気仙沼の魅力を伝えるための活用方法について</p>
--	--	--

ガイドブックの効果的な活用方法を、簡易実験を通して学び合う(中学校)

16 海洋教育バイオニクス(特例校など)の探究成果の発表・公開

<p>海洋フォーラム in 鹿折 2021</p>	<p>企業・地域の方との意見交換</p>	<p>発表・ワークショップの報告・共有</p>
<p>リアスサミット in 鹿角 2021</p>	<p>山間部の学校との意見交換</p>	<p>保護者・地域の方からのアドバイス</p>

17 「他地域とのつながり」による海への思いの伝え合い、学び合い



海洋教育こどもサミット in 気仙沼2018 ESDこどもサミット in 大牟田2019 海洋教育こどもオンラインサミット2020
海洋教育こどもサミット in 洋野2019 2019全国海洋教育サミット 「海のはた」ワークショップ交流2021

18 「海外との交流」による気候変動の学習から学ぶ持続可能な世界



War Memorial Primary School (キリバス共和国)と鹿折小学校(気仙沼)との交流学習ニュース

19 「海洋教育国際シンポジウム」(要旨集)での実践事例の紹介



20 気仙沼ESD・海洋教育実践に関する新聞報道・市民理解の促進



21 まとめ1 (児童生徒・個人レベル)

- 地域の海を教材とする学習(生態系、産業、まちづくり等)への好奇心と意欲、事象がもつ意味への課題意識と探究心が高まり、自己肯定感の向上にもつながっている。
- 事象相互のつながり、教科領域のつながり、自分(たち)とのつながり、持続可能なまちづくりとのつながりなど、関連性と互恵性への認識が深まってきている。
- 海に関する情報を読み解く力が磨かれ、学んだことを伝えたい意欲と他者に伝え、表現するスキルが高まってきている。
- 気仙沼の魅力と課題の両面から、自分(たち)の「問い」を見出し、探究課題とプロセスに膨らみと深まりが見られるようになってきている。
- 「海と生きる」とはどうか、自分(たち)の未来に向けてより良く生きるとはどうすることかなど、探究の意義とその効果を吟味し、自分(たち)事として行動化(実践)に繋げようとする姿勢が強化されてきている。

22 まとめ2 (指導者・社会レベル)

- これまでのふるさと教育・環境教育・国際理解教育・防災教育などの個別枠組みを海洋教育という枠組みで包括的にとらえ、地域に向き合いながら、持続可能な社会を目指した必然性の高いカリキュラムの探究化・往還化での学びへと進みつつある。
- 学校と地域(行政・地域・企業・NPO等)が「支える・支えられる」、「提供する・提供される」などの関係から、双方にとって補完的・互恵的なステークホルダーとしての協働認識とコンソーシアム体制が充実してきている。
- 地域視点でのパイオニアスクールとして、学際的な研究面と財政面でのサポートが得られ、ダイナミックで質の高い指導と学びの充実・進(深)化につながっている。
- 幼小中高の各段階での実践は充実しているものの、これまで海洋教育による学習の目的と接続・系統、育む資質・能力などの捉えが十分ではないことから、この度策定した海洋リテラシー for 気仙沼を踏まえ、海洋教育ガイドブックを効果的に活用しながら、系統性ある指導改善と、学習者目線に立った学びの自律化に一層努めていく。

海洋教育 2021

特別の教育課程に編成による教育実践校 (海洋教育に関する教育課程特例校) 実践事例

令和2年度～

1	鹿折小学校	「問い」をもち、主体的に学び続ける児童の育成 ～海と生きる探究活動・生活科を中心とした横断的・探 究的なカリキュラムデザインの活用を通して～
---	-------	--

令和3年度～

1	唐桑小学校	自ら課題を見だし、身に付けた知識を活用して解決し ようとする児童の育成 ～「海と生きる探究活動」における探究的な学びの充実 を通して～
---	-------	--

「問い」をもち、主体的に学び続ける児童の育成

～海と生きる探究活動・生活科を中心とした横断的・探究的なカリキュラムデザインの活用を通して～

◎ 海洋教育（特設領域「海と生きる探究活動」）指導計画

(1) 「海と生きる探究活動」の全体テーマ

地域の人と触れ合い、自然・文化・産業にかかわりながら、ふるさと気仙沼への思いや考えを深め、自分の考えを表現し、課題解決に向けて協働して活動することができる「持続可能な社会の創り手」としての児童の育成を目指す。

(2) 指導計画

① 「海と生きる」気仙沼市を目指す教育大綱（第2期：令和元年度～4年度）

○ 基本理念

第2期気仙沼市総合計画に掲げる将来像「世界とつながる 豊かなローカル」に向けて、ふるさとを愛し、創造力に富み、持続可能な社会の創り手として人間性豊かで心身ともに健康な市民の育成を目指し、生涯にわたる教育の充実に努める。

I 人を思いやる心と高い倫理観，豊かな感性～幅広い人間性～

II 創造的に自立して生きていく力～未来への飛躍～

III 郷土に貢献し，世界で飛躍するためのグローバルな視点～社会の創り手～

○ 基本理念実現のために必要な力

F (Foresight) 「先を見渡す力」 ・現状を正しくとらえ，先を見渡す力

I (Insight) 「本質を見抜く力」 ・何が大切なのか適切に判断する力

S (Strategy) 「道を切り開く力」 ・進むべき道筋を見出し，構想を立てて邁進する力

H (Harmony) 「つなぐ力」 ・周囲と調和し，つながり，支え合い，高め合いながら社会の一員としての役割と責任を果たす力

② 「海と生きる探究活動」の目標

○ 「海と生きる」気仙沼市の地域，環境，文化に関心をもち，自分とのつながりとかかわりに目を向けながら意欲的に課題を解決することができる児童を育成する。

○ 自分の「問い」をもち，課題について学ぶ必要性と道筋を理解しながら他者と協働して学習を進め，自分の生活の在り方を深く考える児童を育てる。

○ 学ぶ目的や内容に応じた探究の仕方やまとめ方，表現を工夫しながら分かりやすく説明する力を高める。

(3) 「海と生きる探究活動」を通して身に付けさせたい力

① 身に付けさせたい力のとらえ

学んだことを人生や社会に生かそうとする

【学びに向かう人間性等】

H (Harmony) 「つなぐ力」 『つなぐ』

実際の社会や生活で生きて働く

【知識・技能】

F (Foresight) 「先を見渡す力」 『とらえる』

未知の状況にも対応できる

【思考力・判断力・表現力等】

I (Insight) 「本質を見抜く力」 『判断する』

S (Strategy) 「道を切り開く力」 『切り拓く』

② 学習段階に沿った「身に付けさせたい力」

	中 学 年	高 学 年
実際に社会や生活に生きて働く知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○自然や伝統・文化，人など，身の回りの事象に興味・関心・疑問をもち，課題解決に必要な知識・技能を身に付けることができる。 ○課題解決に必要な情報を収集することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科と関連付けたり，グローバルな視点で考えたりしながら，課題解決するために必要な知識・技能を身に付け，活用しようとするすることができる。 ○課題解決に必要な情報を収集ことができ，自分が伝えたい考え・思いに合わせて活用することができる。

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的・探究的に情報を収集し、課題解決に向けた自分の考えをもつことができる。 ○考えたことを基に適切に表現することができる。 ○学んだことを他教科で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向けた見通しをもち、体験的・探究的に収集した情報を精査しながら、自分の考えを深めることができる。 ○グローバルな視点から自分の考えを見つめ、多面的に考えを広げ深めることができる。 ○学んだ学習内容及び習得した知識・技能を、教科・領域を横断しながら深めることができる。
学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ○自然や身の回りの生活に興味・関心・疑問をもち、進んで活動しようとする。 ○他者と進んで関わり、共に考えようとする事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを互いに交流しながら分かりやすくまとめて活用・発信することができる。 ○他者と協働的・対話的に関わり、考えを深化させたり、新しい価値を創造しようとしたりする。

(4) 各学年のテーマと学習内容

学年・時間	海と生きる探究活動の学習内容
3年生 (50時間)	【鹿折の宝～人・自然・ものを見つけよう～】 ○わかめ養殖体験 ○白山小唄 ○浪板虎舞 ○天旗 ○気仙沼みなとまつり ○キリバス共和国との交流会
4年生 (50時間)	【山・川・海～命をつなぐ鹿折川～】 ○川の働き(治水・利水・環境) ○鹿折川環境調査 ○米づくり体験 ○鹿折川のゴミ調査 ○舞根森里海研究所島山さんの講話 ○キリバス共和国との交流会
5年生 (60時間)	【世界とつながるぼくらの海郷学】 ○魚市場・海の市見学 ○水産加工場見学 ○海流実験 ○造船所見学 ○地球温暖化の講話 ○キリバス共和国との交流会 ○海洋教育こどもサミットin東北への参加 ○全国海洋教育サミット ○海洋フォーラムin鹿折(5・6年合同)
6年生 (60時間)	【海で復興 未来へつなぐ「気仙沼の魅力」発信プロジェクト】 ○地域づくり協議会・震災復興企画課の出前授業 ○スローフード講話 ○気仙沼市のまちづくり(産業・環境・国際・食・観光・防災) ○海洋教育こどもサミットin東北への参加 ○探究旅行(猪苗代・会津若松) ○キリバス共和国との交流会 ○全国海洋教育サミット ○海洋フォーラムin鹿折(5・6年合同)

(5) 評価の方法

- ① 評価の観点
 - ・評価の観点として3つを設定し、その観点に照らして評価する。 ※別紙「評価表」
 - 【知識・技能】
 - 【思考・判断・表現】
 - 【主体的に学習に取り組む態度】
- ② 評価規準の明確化
 - ・評価の観点を基に、各学習や活動場面における評価規準を明確にし、教師の評価や児童同士の相互評価、自己評価が適切にできるようにする。
- ③ 評価の資料
 - ・一人一人に海と生きる探究活動の個人ファイルを持たせ、学習評価の資料とする。
 - ・児童の自己評価や児童同士の相互評価を行わせる。
 - ・一人一人の活動の様子や発言など、顕著な事項や特徴などを記録し評価に生かす。
 - ・外部講師の方や保護者などからも活動の様子や意見などを伺い、評価の資料とする。

2 「海と生きる探究活動」デザインシート(別紙)

3 今年度の海洋教育の成果と課題

(1) 「海と生きる探究活動」で目指す目標について

○ 気仙沼の地域性、環境、文化に関心をもち、自分とのつながりに目を向けながら、主体的に課題を解決しようとする姿を目指してきた。1・2年生では、大島の小田の浜や岩井崎、舞根森里海研究所に行き、様々な生き物に触れる体験をしたり、3年生では、気仙沼市・鹿折地区に伝統として大切に受け継がれている「天旗まつり」「浪板虎舞」について学んだりすることができた。実際に自然の中で、五感を使いながら多様な生き物に触れる経験や、祭りなどの由来、海とのつながり、気仙沼の伝統を守る人の思いについて知ることで、上学年で学習する「海との共生」についての基礎を培うことができた。しかし、一人一人が個人探究を設定し、多面的な調査活動を行う中で、考えを深く追究する姿は見られなかった。その原因は、指導者が校外学習及び体験活動を感染症に留意しながら見通しをもって実施できなかったことや探究的な学びに必要な児童の資質・能力を系統立てて育むことができなかったことにあると考える。コロナと共存していく状況下で、どのように児童の力を育てていくか、また、感染症の拡大時にはどのようにICTを活用しながら児童の学びを保障していくかを今後も考えていく必要がある。

○ 『問い』をもち、課題について学ぶ必要性和道筋を理解しながら他者と協働して学習を進め、自己の生活の在り方を考える児童を育成するために指導を続けた結果、多くの学年で変容が見られた。6年生では気仙沼で見られた地球温暖化の影響の一つ「秋刀魚の不漁」を課題として探究活動を進める児童が人口の減少が進む気仙沼市の問題を解決するために、スローフードに焦点を当てて、気仙沼市の魅力を他地域に発信した。また、探究旅行では会津若松で食育に携わる山際博美さんをお願いしてオリジナル弁当を作成していただき、その試食会を行った。（写真1）5年生では気仙沼の水産業の学習をしてきたが、昨年には見られなかった、海洋プラスチック問題やマグロの水産資源を守る取組について調べ、まとめた児童も見られるようになってきた。学校で学んだことを環境保護のために実践したり、地域で生活している中で生じた疑問を学校での学びで解決しようとする探究的な姿は、今後につながる成果だと考える。個人毎に課題を設定し、他者と協働的に学習する活動を系統立てて行ってきたことで、昨年度まで限定的だった課題を自分の事として考える児童の姿が、各学年に広がってきた様子が見える。



写真1 オリジナル弁当試食会

○ 様々な視点で物事を考えることができるように以前から交流があった仙台ユネスコ協会と日本キリバス協会のケンタロ・オノさんをお願いをして、地球温暖化の影響で引き起こされる海面上昇で海に沈む恐れのある国・キリバス共和国の小学生と交流会を行った。3年生以上の学年で「伝統文化」「水」「産業」「将来のまち・国」というテーマを設定し、リモートで意見交換会を行った。3年生は、これまで学習してきた伝統文化を発表すると共に、キリバス共和国で大切に受け継がれてきた「キリバスダンス」について知ることができた。伝統や文化を大切にしたいという願いは、地域や国境を超えたものであると感じ、自分たちが気付き大切にしようと思う伝統や文化への思いをさらに強くすることができた。



写真2 キリバス共和国との交流会

また、高学年では地球温暖化の影響を強く受ける国内の状況を、現地の子供たちから直接聞くことができた。その経験が、さらに温暖化の影響を自分たちの行動で変えたいという思いを大きくさせ、課題を自分の事として考えさせることができた。交流会の中で、合言葉を決めたいという意見が出され「スィナウニカテトンゴ（マングローブの木を植えましょう）」というキリバスの言葉を教えてもらった。交流会が終わった後も、その言葉を大切にしながら環境を守る行動に取り組んだり、様々な発表会の際には、他地域の人への言葉の意味と自分たちの思いを発信したりする様子が見られた。

- 学ぶ目的や内容に応じた探究の仕方やまとめ方、表現を工夫しながら、自分の考えを筋道を立てて分かりやすく説明する力を高めるために、思考ツールを活用した活動を行ってきたところ、課題の解決につながる道筋をイメージして協働的に学ぶ児童が増えた。具体的には、付箋を活用しながら友達と協働的に課題の原因や背景、影響などのつながりについて考え、模造紙や発表スライド等に整理して他者に伝える姿が見られた。11月に開かれた「海洋教育子どもサミット in 東北」、1月の「海洋フォーラム in 鹿折」（写真3）2月に行われた「全国海洋教育サミット」、等で、他地域や保護者、協力していただいた企業や大学、地域の方々に発信する活動を行うことで、相手意識をもって伝えようとする意欲も高めることができた。各発表会ではタブレットを使いながら、スライドで説明したり、動画を作成して映したりするなど、発表する内容に応じて、発信する方法を工夫する様子も見られた。今回は発信する方法としてタブレットを活用したが、コロナ禍では調査活動や友達と情報を練り合う活動でもICT機器を活用することが求められる。今年度の成果と併せて、来年度につなげていきたい。



写真3 海洋フォーラム in 鹿折

「海と生きる探究活動」全体構想図

学校教育目標

『志高く、自ら考え、たくましく未来を拓く児童』の育成

- 夢や志をもち、進んで学ぶ子ども（かしこく） … 自分の考えをもつ力 ● 自律・責任
- 思いやりをもち、助け合う子ども（やさしく） … 人を大切にする力 ● 調和・協働
- 協力し合い、喜んで働く子ども（なかよく） … 自らかかわる力 ● 志・創造
- 心と体をきたえ、粘り強い子ども（たくましく） … チャレンジする力

課題や実態、願い

- 今日の課題
 - ・社会で生きて働く力の育成
 - ・Society5.0の社会
- 児童の実態
 - ・素直で活動的
 - ・思考力、表現力が十分ではない
- 保護者の願い
 - ・思いやりと向上心を育みたい
 - ・確かな学力を身に付けてほしい
- 教師の願い
 - ・相手意識をもって対応できる
 - ・夢や志、目標に向かって学び、努力する

海洋教育のねらい

「海洋と人間の共生」（海とともに生きる）についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力などの海洋教育リテラシーを有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進する。

本校の海洋教育「海と生きる探究活動」の目標

～「気仙沼・未来創造力」の具体像としての「海洋リテラシー for 気仙沼」の育成～

- 「海と生きる」気仙沼の地域、環境、産業、文化に関心をもち、自分とのつながりとかかわりに目を向けながら意欲的に課題を解決することができる児童を育てる。
- 自分の「問い」をもち、課題について学ぶ必要と道筋を理解しながら他者と協働して学習を進め、自分の生活の在り方を深く考え、行動する児童を育てる。
- 学ぶ目的や内容に応じた探究の仕方やまとめ方、表現の仕方を工夫しながら、自分の考えを豊かに表現する力や筋道立てて分かりやすく説明する力を高める。

自律的・協働的・創造的な学びの循環により「価値観」と「価値実現の力」を育む

各学年の「海と生きる探究活動」のねらい・概要

3年 (50)	<p>海と生きる地域 「鹿折の宝～人・自然・ものを見つけよう～」</p> <p>鹿折・気仙沼市の人々が守ってきた海にかかわる自然・伝統文化・養殖など、参加・体験を生かした実感的な探究を通じて、それらの価値を考え、自分たちが協力してできることを実践する。</p>
4年 (50)	<p>海と生きる環境 「山・川・海～命をつなぐ鹿折川～」</p> <p>鹿折川の水の恩恵を、多様な生命が育まれている「環境」の視点と、稲作・防災など「生活」の視点から探究し、その豊かさを守るために自分たちが協力してできることを実践する。</p>
5年 (60)	<p>海と生きる産業 「世界とつながるぼくらの海郷学」</p> <p>震災で壊滅的な被害を受けた造船業、水産加工業を中心に、ふるさとの復興と創造に向かう地域の人々の熱い思いと、水産業を通じて世界とつながる気仙沼の水産業の現状を探究することで、「海と生きる」気仙沼とは何かを考え、自分たちが協力してできることを実践する。</p>
6年 (60)	<p>海と生きる自分、未来 「海で復興、未来へつなぐ「気仙沼の魅力」発信プロジェクト」</p> <p>復興と発展に向かう気仙沼の将来像について、水産業の魅力と課題の視点から探究する学習を通して、自分たちと産業、地球環境、国際協調での関係性・互惠性を多面的・多重的に捉え、自分たちにできることを個またはグループで提案し、他者と協力しながら実践行動につなげる。</p>

地域・関係機関との連携・協働

- 人のつながり、家庭・地域とのつながり、他地域・大学等とのつながり、他国とのつながりを大切にしたステークホルダーの構築と推進
- ※行政間、企業間、地域間、市民間、校種間
- 地域素材の教材化と学習環境の積極的な活用
- 他の海洋教育パイオニアスクールやユネスコスクールとの交流
- ※学校間、地域間、国際間

法的な根拠・潮流

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 新学習指導要領
 - ◆知識及び技能
 - ◆思考力・判断力・表現力等
 - ◆学びに向かう力・人間性等
- 海洋基本法
- 国連持続可能な開発目標（SDGs）
- 国連持続可能な海洋科学の10年（Ocean Literacy for All）
- 気仙沼市教育大綱



教科領域との関連

（横断的・往還的）

- 各教科や特別の教科道徳、外国語、特別活動での学習や体験を通して課題意識（問い）を持ち、つなぎ、膨らませる
- ※国語…読解力と表現力など
- ※社会…社会的な見方・考え方
- ※理科…科学的な見方・考え方
- 総合的な学習の時間での体験的・探究的な学び
- 生活科での学習の経験と接続

地域リソースの教材化

実体験からの発見を大切にす有意義な学び

- 地域リソースの開発と効果的活用
 - ・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりをもつため、学区内周辺の自然や人材、産業、文化、行事等の学習素材を調査し整備する。
- 教材化のコンセプト
 - ・各教科や特別の教科道徳、外国語、総合的な学習、特別活動との関連から地域のひと・もの・ことへ児童の課題意識が広がるように教材化する。
 - ・人や自然、産業、文化等との出会いやふれ合い、特別の教科道徳で培った心情をさらに深めるように教材化する。
 - ・課題を解決する目的と必要性、自分たちの生活とのつながりの自覚を促し、学んだことの発信・実践へと広げ深められるように教材化する。

プロジェクト型の課題探究プロセス

探究的で協働的な学び／オーセンティックな学び

- (1) 「課題意識・課題設定」の段階
 - ・教科学習の見方・考え方の発展として
 - ・総合的な学習の時間の拡充・深化として
 - ・行事等特別活動への主体的なかかわりとして
 - ・生活の中での気づきや疑問を生かして
 - ・様々な体験や問題から
- (2) 「計画・探究」段階
 - ・なぜ探究するのか（背景・目的・意義）
 - ・どこで、何について、どのような方法で調べるのか（対象・情報・方略・プロセス）
 - ・誰に、何を、どのように伝えるか（相手意識）
 - ・何に取り組み、どうするか（実践・自分事）
- (3) 「まとめ・表現・発信・行動」段階
 - ・成果や課題を自分の言葉で整理する（言語化）
 - ・まとめたことをもとに交流する（共有・協働）
 - ・学んだことを生かして提案する（主張・提言）
 - ・自ら行動し、周囲に働きかける（行動・変容）

指導方法・指導体制マネジメント

個別最適な学び／振り返りを大切にす学び




- 教師の適切な指導・助言
 - ・児童の興味関心、課題意識、学習状況等に合わせた（生かした）適切な指導・助言
- 学びを深める単元づくり
 - ・必然性（意義や価値）とつながり（系統性と学びの文脈）ある探究単元の創造
- 学習形態の工夫
 - ・課題意識を生かした個人ベースでの探究
 - ・課題別グループによる協働での取組
 - ・他者（異学年・地域）との協働での取組
- 指導体制の工夫
 - ・地域のGTの積極的・効果的な活用
 - ・大学や専門機関による指導・助言
 - ・TTによる連携・指導
- 学習環境の工夫
 - ・ICT（タブレット）活用、副読本の活用
- 振り返りと評価規準の明確化
 - ・ポートフォリオ・パフォーマンス評価

3年『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート（プログラムチャート）

単元名	鹿折の宝～人・自然・もの～【50時間】	テーマ	歴史民俗、水産資源、食文化	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科、学校行事
総括目標	鹿折地区の人が守り続けてきた自然・伝統・産業などを体験的に学び、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることに気づく。また、活動を通して自然や伝統、産業を大切にしようとする態度を育む。			SDGs 関連	気仙沼市2次総合計画関連 自然・環境・食産業
身に付けたい資質能力	【知識及び技能】 ・気仙沼市や鹿折地区に、昔からある伝統文化や自然産業を知り、それらに携わっている人々の思い等を理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・課題解決に向けた自分の考えをもつことができる。 ・自分やグループで設定した探究課題についての考えを、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自然や身の周りの生活に興味・関心・疑問をもち、進んで活動しようとする。				【主な連携機関と内容】 ・浪板虎舞（虎舞保存会） ・魚の大使（気仙沼市の会） ・ワカメ養殖（小浜マツトリ）
探究過程	1学期（4～7月） 2学期（8～12月） 3学期（1～3月）				
探究活動（海探）	オリエンテーション 学習の見直しをもう（1）時間 ・1年間の学習の流れをつかむ。				
探究内容エッセンス	1学期を振り返ろう（10）時間 鹿折・気仙沼の伝統行事を調べよう① ○天旗学習【5月】 ・天旗の意味、柄に込められた思い、柄の種類を知る。 連風制作（気仙沼風の会） ○浪板虎舞【5、6月】 ・虎舞の意味、込められた思いについて知る。 ・虎舞の体験。（講師：小野寺さん） 【教科等との関連】 【国語】メモを取りながら話を聞こう（2） 【課外】「天旗まつり」参加は任意	判断する【I】 ～科学的に思考・吟味する力～			
【生命】生態系多様性水産資源食文化健康歴史民俗国際協調	2学期を振り返ろう（7）時間 ○小浜夕漁港でワカメの刈り取り体験をする。（講師：熊谷さん） ○伝統文化を大切にすることや、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることを、どう伝えるか考える。 【教科等との関連】 【国語】外国のことをいしょうかいしょう（2）	つなぐ【H】 ～対話力・志～			
【環境】気候変動大気循環地形地質海洋資源海洋汚染観光居住	1学期を振り返ろう（1）時間 ○1学期の活動の振り返りと、夏季休業中のみなとまつりについて話し合い、再度、鹿折・気仙沼の宝は何かを考える。 課題探究（第2次）（探究課題別グループ・個） 鹿折・気仙沼の宝を見つめよう（22）時間 課題探究（グループ） ○伝統行事（天旗、虎舞） ・地域域の天旗や虎舞について調べ、自分たちの地域のものと比較する。 ・活動の違いを整理し、気仙沼天旗、浪板虎舞ならではの良さなどを考える。 対話・発表・共有 ○調べたことを発表しよう ・グループごとに、探究したことを、写真などを使って模造紙にまとめ、自分たちが調べたことを、発表しよう。	切り拓く【S】 ～能動的に学び姿勢、価値を生み出す感性、探究力～			
【安全】防災減災領土領海海上輸送法規条約	行動・発信・振り返り【第1次】 鹿折・気仙沼の伝統行事を調べよう②（4）時間 ○天旗と浪板虎舞について学習したこと、グループごとにまとめる。 ○学習を比較し、どちらも海（安全祈願、大漁祈願、海風など）とつながりのある文化に気付かせる。 【4月】 【教科等との関連】 【国語】調べて書こう、わたしのレポート（4）				
	2学期を振り返ろう（2）時間 鹿折・気仙沼の宝を見つめよう④（2）時間 鹿折・気仙沼の宝とは何だろう。 ・自然 ・食（魚、米、ワカメ） ・伝統行事（浪板虎舞、みなとまつり、天旗まつり） ※海に関係する事柄について調べるところを確認する。 【4月】 【教科等との関連】 【国語】調べたことを発表しよう ・参観日で、保護者に学習成果を発表する。 ・1年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見付けたりする。				
	3学期を振り返ろう（3）時間 発表会をしよう（3）時間 ○調べたことを発表しよう ・参観日で、保護者に学習成果を発表する。 ・1年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見付けたりする。 行動・発信・振り返り（グループ） 発表会をしよう（3）時間 ○調べたことを発表しよう ・参観日で、保護者に学習成果を発表する。 ・1年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見付けたりする。 【教科等との関連】 【国語】外国のことをいしょうかいしょう（2）				

【3】学年 海と生きる探究活動年間指導計画

活動名「鹿折の宝～人・自然・ものを見つけよう～」全【50】時間

総括目標		関連するSDGs
鹿折地区の人が守り続けてきた自然・伝統・産業などを体験的に学び、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることに気付く。また、活動を通して自然や伝統、産業を大切にしようとする態度を育む。		  
育てたい資質・能力		教科・領域を関連させる意図・効果
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生きて働く「知識及び技能」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼市や鹿折地区に、昔からある伝統文化や自然産業を知り、それらに携わっている人々の思い等を理解することができる。 ・ 探究課題の解決に必要な情報を体験的に収集し、それらを整理・分析する技能を身に付けることができる。 ○ 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的・探究的に情報を収集し、課題解決に向けた自分の考えをもつことができる。 ・ 自分やグループで設定した探究課題についての考えを、相手や目的に応じて分かってやすくまとめ、表現することができる。 ○ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然や身の周りの生活に興味・関心・疑問をもち、進んで活動しようとする。 ・ 他者と進んでかかわり、共に考えようとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ねらい 指導のねらいを関連付ける ② 内容 学習内容を関連付ける ③ 資質・能力 資質・能力を関連付ける 	
	ア 強化 指導のねらいや資質・能力を強化する	
	イ 付加 学習内容を付加する	
	ウ 補完 ねらいや学習内容、資質・能力を補完する	

月	時数【移行】	段階	児童の探究的な学習内容	探究方法・資料	形態	教科・領域との関連【移行内容】（関連内容）	評価と指導者の支援
4	1【総1】	第1次	<p>「学習の見通しをもとう」【1時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション【1時間（総1）】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海と生きる探究活動のねらいを知る。 ・ 学び方の確認をする。 ・ 一年間の活動の見通しをもつ。 		一斉		<p>自分が興味をもったことを、さらに探究課題や目標へとつなげようとしている。 【学びに向かう力・人間性】</p>
	2【総2】		<p>「鹿折・気仙沼の宝を見つけよう①」【2時間（総2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①鹿折・気仙沼の宝物について話し合う。 ・ 鹿折・気仙沼の自然・人・ものには、どのようなものがあるかを考え、プリントに書く。 ・ 「地域のすてきなところ、自慢できるところ＝宝物」 	○地域の伝統文化の写真を掲示する。	一斉		

5	10 【国2】 【総8】 【課外】		課題の設定	<p>を調べていくことを確認する。</p> <p>〈児童に気付けたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔からある地域の伝統文化，行事，建物 ・海，川，山などの豊かな自然 ・どのような人が働いているか。 ・伝統行事に携わっている人々の思いは何か。 <p>②3年生全体の課題を設定する。</p> <p>海とかかわりのある伝統文化，産業について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で話し合った自然・人・ものについて振り返る。 ・詳しく調べたいことを1つ設定し，調べる方法を考え，ワークシートに書く。 <p>※設定した課題は，変更してよいことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的に，調べたことをまとめて，家族や2年生に伝えることを知らせる。 	○天旗や浪板 虎舞の映像	一斉	自分が調べることと，調べる方法について自分なりの考えをもとうとする。 【学びに向かう力・人間性】
	情報 の 収 集 ・ 整 理 分 析		<p>「鹿折・気仙沼の伝統行事を調べよう①」【10時間】</p> <p>○天旗について調べよう【2時間（国2）】</p> <p>①気仙沼風の会の方々を講師として招き，風の種類，天旗の意味，風に込められた思いを知る。</p> <p>〈児童に気付けたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ，気仙沼で天旗が有名なのか。 ・天旗と海風との関係 ・天旗まつりを行う理由 ・風に込められた願い ・風の会の思いや苦勞 <p>②天旗の講話で聞いたことを振り返る。</p> <p>○みんなで連風を作ろう【3時間（総3）】</p> <p>①連風制作の準備として，魚の絵を風に描く。</p> <p>②③気仙沼風の会の方々を講師としてお招きし，連風制作をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭で連風の試し揚げを行う。 	○天旗についての学習 【気仙沼風の会に連絡】	一斉	話を聞いて要点をメモすることができる。 【知識及び技能】 講話を通して，天旗の意味や，それに携わる人々の思いを理解することができる。 【知識及び技能】	
				○天旗についての学習 【気仙沼風の会に連絡】	一斉	連風制作を通して，自分の願いを込めて風揚げをする楽しさ，達成感を味わおうとしている。 【学びに向かう力・人間性】	

6		情報 の 収 集 ・ 整 理 分 析	<p>○ 天旗まつりに参加しよう【課外】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩井崎で開催される天旗まつりに参加し、まつりの雰囲気や催し物に触れると共に、作成した連凧を揚げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈児童に気付かせたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天旗まつりの趣旨 ・まつりの雰囲気 ・凧揚げ以外の催し物（明戸虎舞） ・階上産ワカメの紹介 </div> <p>○ 浪板虎舞について調べよう【2時間（総2）】</p> <p>①虎舞保存会の方々に講師として招き、虎舞の意味、込められた思い等について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈児童に気付かせたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、気仙沼で虎舞が有名なのか。 ・虎舞の意味 ・虎舞の踊りに込められた思い ・保存会の思いや苦労 </div> <p>②虎舞の講話で聞いたことを振り返る。</p> <p>○ 虎舞を体験しよう【3時間（総3）】</p> <p>①②虎舞を体験する。</p> <p>③学習と体験を振り返る。</p>	<p>○任意参加</p> <p>【気仙沼凧の会に連絡、お便りを出し、児童の参加の有無を確認する。】</p>	個人	
7	4 【国4】	第1次まとめ	<p>「鹿折・気仙沼の伝統行事を調べよう②」【4時間】</p> <p>○ 学習した伝統行事についてまとめよう【4時間（国4）】</p> <p>①②③自分が詳しく調べたいことを基に、天旗と浪板虎舞について学習したことをまとめめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料や写真などの効果を考えながらまとめめる。 	<p>○浪板虎舞についての講話</p> <p>【虎舞保存会に連絡】</p>	個人	<p>講話を通して、虎舞の意味や、それに携わる人々の思いを理解することができる。</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>虎舞の体験を通して、太鼓と笛が奏でる良さと、踊る虎の迫力、伝統をつなぐ保存会の思いを感じ取ることがができる。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <p>地域の伝統文化についてまとめ、他図佐丸人の思いと、気仙沼ならではの文化の良さなどに気付くことができるとして、レポートを書く。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p>

8	1 【総1】	第2次	<p>④書いたレポートを互いに紹介し合い、学習で得た学びを深める。 【期待する効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験しながら自分の課題に沿った資料を収集する力が育ち、それを活用しながらわかりやすく意見を伝える力が向上する。 ・互いの発表を聞き合って、自分が知らないことを吸収し、学びが深まる。 <p>「1学期を振り返ろう」【1時間】</p> <p>○ ガイダンス【1時間（総1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学習を振り返り、夏季休業中のみなとまつりについて話し合い、再度、鹿折・気仙沼の宝物は何かを考える。 ・2学期の学習の見通しをもつ。 	○国語のワークシートを活用し、レポートを作成する。	一斉	相手に伝わるように意識して、要点を明確に言葉遣いや話し方、情報の取り上げ方に気を付けながら表現することができる。 【思考力・判断力・表現力】
9・10	2 【総12】 【国3】 【社7】	情報の収集・整理分析・行動	<p>「鹿折・気仙沼の宝物を見つけよう」【22時間】</p> <p>○ 鹿折・気仙沼の宝物（伝統行事・自然産業）について、より深く調べたいものを話し合い、グループ分けをする。【1時間（総1）】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・児童の探究課題から探究領域を設定する。 〈予想される探究領域〉</p> <p>伝統行事 課題：気仙沼及び、他地域の天旗の取組 浪板虎舞及び、他地域の虎舞の様子</p> <p>自然産業 課題：ワカメ養殖</p> </div> <p>○ グループに分かれて調査活動を行う。 【15時間（国2、社6、総7）】</p>	○1学期の学習の写真、みなどまつりの映像 ○他地域の伝統行事の資料	一斉	1学期に学んだことを振り返りながら、自分が興味をもったことをさらに深めようとしている。 【学びに向かう力・人間性】
		班	○図書室の本や、気仙沼図書館の本 ○インターネット等で検索した資料	『グループの合い言葉をきめよう』 情報を整理するため、観点を明確にすることで、複数の情報を比べたり、共通な性質について	調べたことを比較したり分類したりして課題解決をしようとする。 【思考力・判断力・表現力】	

11・12			<p>伝統行事 (天旗, 虎舞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地域の天旗や虎舞について調べ、自分たちの地域のものと比較する。 ・それぞれの行事や活動の違いを整理し、気仙沼天旗, 浪板虎舞ならではの良さを考える。 ・詳しく知りたいことがあれば、気仙沼風の会や、虎舞保存会の方々に質問する。 <p>自然産業 (浦島地区のワカメ養殖)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワカメの生育の仕方や特徴などを調べる。 ・小々汐漁港でワカメの種はさみ体験をする。 ・体験学習とこれまでの調べ学習をつなげ、ワカメ養殖と、それに携わる人々の思い等についてまとめていく。 	<p>を使用しても良いこととするが、できるだけ、自分が学習してきた資料や本を基に調べさせる。</p> <p>○気仙沼風の会, 虎舞保存会, ワカメ養殖の方への質問</p> <p>○小々汐漁港【熊谷さん】</p>	<p>班</p> <p>班</p> <p>班</p> <p>班</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>	<p>で分けたりすることができる。</p> <p>【国語2・②】</p> <p>『工場の仕事 (はたらく人のくふう)』</p> <p>疑問に思ったことを整理して、工場の方に質問し、分かったことをメモすることができる。</p> <p>【社会2・②】</p> <p>『工場の仕事 (地いきとのかかわり)』</p> <p>工場が、地域とどのようににかかわっているか理解する。</p> <p>【社会2・②】</p> <p>『店ではたらく人 (スーパーマーケットの様子)』</p> <p>地域には販売に関わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色、他地域などのかかわりを学ぶ。</p> <p>【社会2・②】</p> <p>『グループの合い言葉をきめよう』</p> <p>話し合いの目的を理解して、意見を深くしたり分類したりして結論を出すことができる。</p> <p>【国語1・③-A】</p>	<p>地域の伝統行事の様子や、自然産業について、地域の方に聞きながら調べようとする。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <p>伝統行事や自然産業が、地域とどのようなかかわりをもっているか、自分なりの考えをもって調べるができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>ワカメの種はさみ体験を通して、地域の特色を生かした仕事があることを理解することができる。</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>話し合いの目的を理解して、意見を深くしたり分類したりして結論を出すことができる。</p> <p>【知識及び技能】</p>
第2次まとめ		<p>○調べたことを発表しよう (学級)</p> <p>【6時間 (国1, 社1, 総4)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを発表資料 (模造紙の半分のサイズ) にまとめる。 ・調べた探究課題と課題の設定理由, 調べて行動したことで、調べた自分が考えたことを整理し、模造紙に書く。 ・発表会の準備を行う。発表資料を使って調べたことを 					







1	7 【総5】 【国2】	第3次	振り返り・分析・行動	発表できるように発表メモを作成する。 (まとめること) ①探究課題 ②課題設定の理由 ③調べたこと ④調べて行動したこと ⑤探究活動を通して自分が考えたこと	発表できるよりに発表メモを作成する。 (まとめること) ①探究課題 ②課題設定の理由 ③調べたこと ④調べて行動したこと ⑤探究活動を通して自分が考えたこと	『工場の仕事(せんでんシールを考える)』 お菓子を宣伝するシールの案を考える。 【社会1・②】	調べたことが相手に伝わるように、情報の取り上げ方に気を付けながら表現することができ。 【知識及び技能】
2	3 【総1】 【国2】		まとめ・表現・行動・振り返り	「2学期を振り返ろう」【7時間】 ○ 鹿折・気仙沼の宝物をまとめよう【7時間(総5, 国2)】 ①これまでの学習を振り返る。 ②③ワカメの刈り取り体験をする。 ④⑤⑥⑦伝統文化を大切にすることの意味や、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることを、どう伝えるか考える。	○2学期までの学習資料や写真 ○小々汐漁港【熊谷さん】	『外国のことをしようかいしよう』 グループで調べたことを、聞き手に伝えるように、話の構成を考える。 【国語2・②】	2学期に学んだことを振り返りながら、自分が興味をもったことをさらに深めようとしている。 【学びに向かう力・人間性】
				「発表会しよう」【3時間】 ○ 調べたことを発表しよう【2時間(国1)】 ・参観日で、保護者に学習成果を発表する。 (実施内容) ①グループ毎に作成した模造紙を貼る。 ②グループ毎に発表する。 ③質疑応答、感想発表 ○ 1年間の学習を振り返ろう【1時間(総1)】 ・1年間の振り返りをする。 ・学習したことこの感想を書く。	○外国のことをしようかいしよう』 グループで調べたことを、聞き手に伝えるように、話の構成を考える。 話し方を工夫して話すことができる。 【国語2・③ーア】	『外国のことをしようかいしよう』 グループで調べたことを、聞き手に伝えるように、話の構成を考える。 話し方を工夫して話すことができる。 【国語2・③ーア】	探究活動を通して調べたことを、構成を考えながらえらめ、自分の考えが聞き手に分かりやすいうちに伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力】

4年『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート（プログラムチャート）

単元名 包括目標	山・川・里・海の生命をつなぐ鹿折川【50時間】	テーマ	生態系、大気循環、海洋汚染	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科、業前活動							
	鹿折川流域に住む人々の生活の仕方を見つめ、鹿折川の水の恩恵を受けて人を含む多くの生き物のいのちが育まれていることを知る。水辺の環境を守るために、自分たちでできることを考え実践しようとする心情を育む。			SDGs 関連	気仙沼市 2次総合 計画関連 自然・ 環境・食							
身に付けたい資質能力	【知識及び技能】・・・体験活動を通して、地域の自然環境や社会環境に目を向けながら、川の水が地域の田や工場と関わりのあることを理解することができる。 探究課題の解決に必要な情報を収集し、それらを整理・分析する技能を身に付けることができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・環境保全のために、自分たちができていることを考えることができる。 自分やグループでの考えを、地図やレポートに表現して、分かりやすく発表することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・探究課題解決のために、友達と協力し合いながら情報収集したり、集めた資料を整理・分析したりしてまとめようとする。学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。				【主な連携機関と内容】 ・気仙沼市役所環境課 ・気仙沼市役所環境課 ・米倉多利上俊一さん・鹿折公民館館長 ・気仙沼自然塾 ・宮城教育大学陣方准教授 ・気仙沼グリーンヒルセンター・終末処理場 ・水山養殖島山信さん							
学 期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
探究過程	1学期（4～7月） 2学期（8～12月） 3学期（1～3月）											
育みたい資質能力（学力）	知識及び技能 とらえる【F】～情報の読解力～ 判断する【I】～科学的に思考・吟味する力～ 切り拓く【S】～能動的に学ぶ姿勢、価値を生み出す感性、探究力～ 思考力・判断力・表現力等 発信（発表・提言・行動） 学びに向かう力・人間性等 つなぐ【H】～対話力・志～											
探究活動（海探） 探究内容 リセッション 一年間の見直しをしよう(2)時間 鹿折川が海につながっていることを知り、鹿折川について学習することに関心をもつ。 学習の見直しをもつ。	オリエンテーション 探究活動（一斉）(第1次) 命を育む鹿折川について調べよう。 鹿折川から環境を考えよう①(5)時間 ○鹿折川の役割について知る。(3時間) ・市役所環境課の方の講話 ・鹿折川の水質、生物環境、川の役割、流域の土地利用等、各自課題を設定する。 ○鹿折川の水を利用する農家を調べよう①(2時間) ・稲を発芽させ、苗を育てる。 ・成長した苗の観察を行う。 鹿折川から環境を考えよう②(7時間) ○鹿折川の水質調査を行う。 ・鹿折川上流(白山地区)の生物・水質の調査を行う。 ・宮城教育大学の棟方先生を招き生物調査を行う。 ○分かったことをまとめよう。 ・分かったことをまとめよう。											
【環境】 気候変動 大気循環 地形地質 海洋資源 海洋汚染 観光居住	第一次探究課題の設定・調査（一斉・グループ） 探究課題を見直そう(1)時間 ○第一次探究課題を設定する(1時間) ・鹿折川の水質と生態系を保護するためにできることを調べる。 ・山と川をつなぎ、海の豊かさをもちたらず川の動きを理解し、水産資源の保護や豊かな海を守るためにできることを考える。 ・鹿折川の治水機能を理解し、防災減災のためにできることを考えよう。 第一次行動・発信・振り返り 調べたことを発表しよう(4)時間 ○4次探究課題についてまとめ(3時間) ・テーマ毎に調べたことをまとめる。 ・模造紙に資料などを貼り、発表原稿を作成する。 ○発表会をしよう(1時間) ・学級の中でポスター発表会をする。 ・川と海をつながりが分かり、川の環境を守ることが海の環境を守ることにちなむことを理解させる。											
【安全】 防災減災 領土領海 海上輸送 法規条約	第二次課題探究（探究課題別グループ） 第二次課題探究【発展】(個) 発表会を振り返る(2)時間 ○探究課題を修正する。(1時間) ○補充探究の見直しをもつ。(1時間) ・環境に配慮した生活の仕方を知り各自家庭や学校で実践したことを振り返り、まとめる。 第三次行動・発信・振り返り(個) 調べたことを発信しよう(8)時間 ○家族や3年生等、身近な人々に伝える。(7時間) ○一年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見つけたりする。(1時間)											
	第二次課題探究（探究課題別グループ） 第二次課題探究【発展】(個) 発表会を振り返る(2)時間 ○探究課題を修正する。(1時間) ○補充探究の見直しをもつ。(1時間) ・環境に配慮した生活の仕方を知り各自家庭や学校で実践したことを振り返り、まとめる。 第三次行動・発信・振り返り(個) 調べたことを発信しよう(8)時間 ○家族や3年生等、身近な人々に伝える。(7時間) ○一年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見つけたりする。(1時間)											

【4】学年 海と生きる探究活動年間指導計画

活動名「山・川・里・海の生命をつなぐ鹿折川」全【49】時間

総括目標		関連するSDGs
<p>鹿折と鹿折川に関する基礎資料の読解や鹿折川の調査や観察を通して、鹿折川が地域の環境と関わりが深いことに気付くとともに、山と海と川、漁業との結び付きを知り、地域の環境保全に主体的に関わろうとする態度を養う。</p> <p>鹿折川流域に住む人々の生活の仕方を見つめ、鹿折川の水の恩恵を受けて人を含む多くの生き物のいのちが育まれていることを知る。水辺の環境を守るために、自分たちでできることを考え実践しようとする心情を育む。</p>		     
教科・領域を関連させる意図・効果		
○ 生きて働く「知識及び技能」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験活動を通して、地域の自然環境や社会環境に目を向けながら、川の水が地域の田や工場と関わりがあることを理解することができる。 ・ 地域の環境保全に向けて必要な情報を集め、整理・比較・関連付けて考えている。 ・ 探究課題の解決に必要な情報を収集し、それらを整理・分析する技能を身に付けることができる。 	<p>① ねらい 指導のねらいを関連付ける</p> <p>② 内容 学習内容を関連付ける</p> <p>③ 資質・能力 資質・能力を関連付ける</p>
○ 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境保全のために、自分たちができることを考えることができる。 	ア 強化
○ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分やグループでの考えを、地図やレポートに表現して、分かりやすく発表することができる。 	イ 付加
○ 学びを人生や社会に生かそうとする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究課題解決のために、友達と協力し合いながら情報収集したり、集めた資料を整理・分析したりしてまとめようとする。 ・ 学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。 	ウ 補完

月	時数【移行】	段階	児童の探究的な学習内容	探究方法・資料	形態	教科・領域との関連【移行内容】（関連内容）	評価と指導者の支援
4	2【総2】	第1回	<p>「一年間の見通しをもとう」</p> <p>○ オリエンテーション【2時間（総2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生で学習したことを振り返る。 <p>テーマ「鹿折・気仙沼の宝」</p> <p>＜調べたこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白山小唄 ・ 浦島のわかめ養殖 ・ 鹿折金山 ・ 飯綱神社 等 <p>※伝統やお祭りなどは、気仙沼の豊かな自然、海などが由来、関連していることを想起させる。</p>	○ 昨年度作成した資料等	一斉	<p>他教科（領域）でもウェブページを活用して、考えを可視化し、整理することができようにする。</p> <p>【総合2・③-ア】</p>	<p>自分が興味をもったことを、さらに探究課題や目標へとつなげようとしている。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p>

5	5 【総1】 【国2】 【社2】		<p>・ 4年生のテーマ「命を育む鹿折川」を確認し、児童に一年間の学習の見通しをもたせる。</p> <p>「鹿折川から環境を考えよう①」[5時間] ○ 鹿折川の役割について知る。【3時間（社1・国2）】 ① 鹿折川の役割について気仙沼市役所環境課の方の講話を聞き、川の機能について学ぶ。 ② 鹿折川の水質、生物環境、川の役割、流域の土地利用など、各自課題を設定する。</p> <p>〈予想される課題・質問〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿折川にはどんな生き物（水中生物、鳥、昆虫、植物）がいるのか。 ・ 鹿折川の水は汚れているのか。 ・ 鹿折川の上流・中流・下流の比較 ・ 山（森）と川と海のつながりはどうなっているのか。 <p>○ 鹿折川の水を利用する農家を調べよう 鹿折川の役割について知る。【2時間（社1・総1）】 ① 稲を発芽させ、苗を育てる。</p> <p>〈児童に気付かせたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲が生長するために必要な水は鹿折の川を利用している。 <p>② 成長した稲の観察を行う。5月と比較し、苗がどのくらい成長したのか観察し、記録する。また、田んぼにどのような生物がいたのか調査する。</p> <p>〈児童に気付かせたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水田の水は鹿折川（本流）から取り入れているのではない。 ・ 水田にも様々な生物が生息している。 	<p>○ 探究テーマを決めよう</p> <p>① 調べたい探究テーマを設定する。 （市役所環境課の講話）</p>	一斉	『たしかめながら話を聞こう』 聞きたいことの中心を考えて聞き、必要なことをよく知るために質問をして、自分の考えを持つことができる。 【国語2・③-ア】	<p>必要なことを質問しながら聞き、聞きたいことの中心を考えて自分の考えを持っている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 聞くときに確認するなかで、聞きたいことの中心をきめることができる。 【知識及び技能】</p>
		課題の設定	<p>○ 地域の農家の方から話をいただき、発芽させる。</p> <p>【村上俊一さんに連絡】</p> <p>○ 田んぼの稲の生育を確認する。</p> <p>・ 稲の発育状況や、田んぼ付近の様子を観察する。</p> <p>【村上俊一さんに連絡】</p>	一斉 (班)	『水はどこから』 飲料水の供給の仕組みや経路などに着目して調べ、安全で安定的に供給できるように工夫されていることや、人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できようにする。 【社会2・①②イ】	<p>学習したことを基に、節水や水を汚さないために自分たちが協力してできるところを考えたり選択・判断したりして表現している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>学習したことを基に、節水や水を汚さないために自分たちが協力してできるところを考えようとしている。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p>	

6	7 【社5】 【総1】 【理1】	情報 の 収 集 ・ 整 理 分 析	<p>「鹿折川の環境を調べよう②」〔7時間〕</p> <p>○ 鹿折川の環境調査を行う。【5時間（社5）】</p> <p>① 鹿折川上流（白山地区）の生物・水質、水辺の環境を調査し、分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城教育大学棟方有宗先生を招き、鹿折川上流の生物調査を行う。 <p>〈児童に気付かせたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水が澄んでいる。 ・きれいな水にしか生息しない生き物がいる。 ・学校付近の川よりも水がきれい。 <p>「学んだことをまとめよう」【2時間（総2）】</p> <p>○ 観察して気付いたことをグループ毎にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたことを発表し合い、みんなで学習したいことを考える。 	○鹿折川上流（白山地区）の生物・水質、水辺の環境を調査する。 【宮城教育大学准教授棟方有宗氏・自然塾菅野宏明氏・鹿折公民館に連絡】	一斉（班）	一斉（班）	ゴミを処理すること、私たちの生活にどのような影響を与えるのか調べる。（残食、環境変化）ごみを減らすために、家庭や学校、お店ではどのような取り組みを行っているか調べまとめる。 【社会5②ーア】 『雨水のゆくえ』 雨水の地面にしみこみ、地下水として流れ、川や海へとたどり着くことから、水の循環について考える。【理科1②イ】	性) 学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現している。 【思考力・判断力・表現力等】
7	1 【総1】	ま と め	<p>「探究課題を見直そう」〔1時間〕</p> <p>○ 第一次探究課題を設定する【1時間（総1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が1年間調べたい探究課題を設定する。 ・決定した探究課題を発表する。 <p>※ 決定した課題は変更しても良いことを確認する。</p> <p>〈予想される課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鹿折川の水質と生態系を保護するためにできごとを調べる。 ○鹿折川の流域の自然環境の保護や海洋汚染を防止するために、自分たちができごとを調べる。 ○山と川をつなぎ、海に豊かさをもたらす川の働きを理解し、水産資源の保護や豊かな海づくりのために自分たちができごとを考える。 ○鹿折川の治水機能を理解し、防災減災のために、自分たちができごとを考える。 	○探究テーマを決めよう ① ・調べたい探究テーマを設定する。 ※校外学習で体験したことや気付いたことから探究課題を設定する。	一斉	一斉	気づきや関心から地域に想定される災害についての課題を設定し、解決方法を考えて探究する。 【総合1③ーア】	校外学習を通して学んだことや気付いたことを整理し、探究課題を設定することができ。 【思考力・判断力・表現力】
7	4 【総4】	表 現 ・	<p>「調べたことを発表しよう」〔4時間〕</p> <p>○ 第一次探究課題についてまとめる【3時間（総3）】</p>	○校外学習で見学した際	個人	相手に応じて、分かりやすくまとめ、表現する。 【総合4③ーイ】	友達と協力し合いながら情報収集したり、集めた資料を整理	

8	1 【総1】	第2次	振り返り・考えの更新	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマをもとに調べたことを、構成を考えながら模造紙（模造紙の半分のサイズ）にまとめる。 ・資料や写真などの効果を考えながらまとめる。 ・発表原稿も作成し、ポスターを活用して発表できるように準備する。 <p>○ 発表会をしよう【1時間（総1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の中でポスター発表会をする。 ・グループに分かれて発表会を行い、感想を伝え合う。 <p>【期待する効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験・見学しながら自分の課題に沿った資料を収集する力が育ち、それを活用しながらわかりやすく意見を伝える力が向上する。 	<p>に、もらった資料</p> <p>○ インターネット等で検索した資料を活用しても良いが、できるだけ見つけ、自分が見学してきた資料やメモの中でポスターを作成する。</p>	班		理・分析したりしてまとめている。 【学びに向かう力・人間性】
8	1 【総1】	第2次	問いをもつ・課題の設定	<p>「1学期を振り返ろう」</p> <p>○ ガイダンス【1時間（総1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学習を振り返り、自分が探究課題として設定したテーマを確認する。 ・2学期の校外学習の見通しをもつ。 ・探究活動を通して、まとめたことの問題点を想起する。 ・自分のテーマと再設定する。 ・校外学習で調べたいことや質問を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゴミ問題 課題：マイクロプラスチック等の悪影響</p> <p>水質汚染 課題：浄化槽問題、家庭排水による川と海の汚染</p> <p>多様性 課題：川の水質悪化による生態系の変化</p> <p>川と海をつながり 課題：川の水質悪化が海にもたらす影響</p> </div>	<p>○ 探究テーマを決めよう</p> <p>① 調べたい探究テーマを設定する。</p>	一斉	地域の地形と鹿折川を関連づけて水害の原因を整理し、相互に意見交換をする。 【総合1③ーイ】	1学期に学んだことを振り返りながら、自分が興味をもったことをさらに深めようとしている。 【学びに向かう力・人間性】

9	13 【総8】 【社2】 【国2】 【理1】		<p>多様性 課題：川の環境悪化による生態系の変化 川と海のつながり 課題：川の環境悪化が海にもたらす影響</p> <p>「鹿折川から環境を考えよう③」[13時間] ○ 鹿折川の環境調査を行う。 【5時間（社2・国2・総1）】 ① 鹿折川下・中流の生物・水質、水辺の環境を調査し、分かったことをまとめる。 ・宮城教育大学棟方有宗先生を招き、鹿折川下・中流の生物調査を行う。 ○ 「森は海の恋人」運動の講話を聞く。 【3時間（総3）】 ・川が山の養分を海に運び、海が豊かになる事や漁師さんの思いを知る。 「鹿折川の学習を深めよう」 ○ 課題別のグループに分かれ調べたことを深める。 【5時間（総4・理1）】</p>	<p>○ 鹿折川下・中流（白山地区）の生物・水質、水辺の環境を調査する。 ○ NPO 法人 森は海の恋人 島山さんの講話。 ○ 校外学習で見学した際に、もらった資料 ○ インターネット等で検索した資料</p>	<p>一斉 グループ 一斉 グループ</p>	<p>『地震からくらしを守る』 土地利用の様子から川の防災を知る。資料から川の防災読みとり考える。 【社会2②ーア】</p> <p>『学校についてしようか いすることを考えよう』 伝えたいことの中心を決めて、組み立てを考え、心に残った出来事を伝える 文章を書くことができる。 【国語2③ーア】</p>	<p>家庭、学校、市全体、市や住民、住民どうしなどは、連携や協力しながら地震に 対して、対策や準備をそれぞれの役目を果たしながら行っていることを理解している。 【知識及び技能】 相手を見て話したり聞いたりするなど、参加者全体に伝わっているかを注意しながら話すことができる。 【知識及び技能】</p>
10		情報の収集・整理分析 まとめ・表現・行動	<p>環境問題 ・なぜ、寒流と暖流の流れが起こるのか。また、地球温暖化の影響について考える。（海水温の上昇、海が熱を吸収していること、海洋ゴミ） 水質汚染 ・なぜ、川は下流に行くにつれて汚れているのか。生活排水について考える。（浄化槽、生活排水） 多様性 ・川が汚れると川にすむ生き物は、どう変わるのか。きれいな川にはどのような生き物がすむようになるのか。（川の環境悪化による生態系の変化）</p>				

11	7 【総7】			<p>川と海のつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の汚れが海にどのような影響を与えるのか。豊かな海にするために、どのような取組ができるか。 <p>(川 of 環境悪化が海にもたらす影響)</p>		『自然のなかの水のすがた』 自然の中の水の姿の変化について学習したことをまとめる。 【理科1②ーア】	自然界の水の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 【思考力・判断力・表現力】
		まとめ・表現・行動	表現・振り返り・	<p>○キリバス共和国と交流しよう【2時間（総2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に調べたことを基に、水の大切さや、きれいな水を保つ方法について、キリバス共和国の小学生と話し合う。 <p>「発表会をしよう」[6時間]</p> <p>○ 調べたことを整理しよう【4時間（総2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを横造紙(模造紙の半分のサイズ)にまとめめる。 ・調べた探究課題と課題の設定理由、調べ行動したことで、調べた自分が考えたことを整理し、横造紙に書く。 ・発表会の準備を行う。模造紙を使って調べたことを発表できるように発表メモを作成する。 ・調査した課題や問題点を学級で話し合い深める。(まとめること) <p>①探究課題 ②課題設定の理由 ③調べたこと(2～3点)調べて行動したこと ④探究活動を通して自分が考えたこと</p> <p>○ 調べたことや実践したことをポスターにまとめ発信しよう【2時間（総2）】</p>	○校外学習で見学した際にメモした資料やもらった資料 ○インターネット等で検索した資料	一斉 グループ グループ	集めた資料や情報を基に、環境保全のために、自分たちができることを考えることができる。 【思考力・判断力・表現力】







				<p>・個人でまとめた探究課題について調べたことを3・4グループに分かれ、ポスターセッション形式で発表する。</p> <p>・発表したこと、聞いたことを振り返り、疑問に思ったことや、さらに調べたいことをまとめる。</p>				
	2 【総2】			<p>「発表会を振り返ろう」</p> <p>○環境に配慮した生活の仕方を知り、各自家庭や学校で実践したことを振り返り、まとめる。</p>	一斉			
1	8 【総4】 【国4】	第3次	まとめ・表現・行動	<p>「調べたことを発信しよう」【8時間】</p> <p>○調べたことをまとめよう【4時間（総4）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をまとめ、家族などに伝える準備をする。 <p>○調べたことや実践したことをポスターにまとめ発信する【4時間（国3）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観日で保護者に学習したことを発信する。 <p>〈実施内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ポスター発表 ②活動の振り返り ③パネルディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞き、意見交換を行う。 <p>○1年間の学習内容を振り返る。【1時間（国1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見つけたりする。 	グループ グループ	<p>○発表会の資料</p> <p>○発表会でまとめたポスター一等</p>	<p>『言葉で考えを伝える』</p> <p>伝える目的と形式を考え、描き方を工夫してポスターを書くことができる。</p> <p>【国語2③ーア】</p> <p>『調べたことを報告しよう』</p> <p>アンケート調査をして分かかったことと考えたことを、図や表やグラフなどを、図や表やグラフなどを用いながら聞き手に分かりやすく筋道を立てて話して報告することができる。</p> <p>【国語2②ーウ】</p>	<p>自分の考えを明確にし、理由のまともりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>聞き手の反応を確かめながら、分かりやすくするように、言葉の強弱や間の取り方などに注意して話すことができる。</p> <p>【知識及び技能】</p>
2			表現・振り返り・考えの更新		一斉			

5年『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート（プログラムチャート）

単元名	世界につながるぼくらの海郷学【60時間】	テーマ	生態系・多様性・水産資源・食文化・国際協調 気候変動・防災減災・海洋汚染	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科、学校行事
総括目標	震災から10年が経過し、以前のような町並みや水産関連会社等が戻りつつあるこの鹿折地区について、故郷復興へ向けた地域の人の熱い思いと、水産業を通して世界とつながっている鹿折のよさを「ひと・もの・こと」の観点からみつめ、「海と生きる」ふるさと気仙沼について自分の考えをもち行動できる児童を育てる。			SDGs 関連	気仙沼市2次総合計画関連 産業 自然・環境・食
身に付けたい資質能力	【知識及び技能】・・・気仙沼市や鹿折地区が抱える課題が、身の回りの地域のみならず、地球規模での自然・社会環境の変化に起因していることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・気仙沼市や鹿折地区が抱える課題を解決するために向かふ必要なのかを、学んだことを多角的・多面的に考えて表現することができる。自分やグループで設定した探究課題についての考えを、学校内外の人々に広くわかりやすく情報発信することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・探究課題解決のために学校外の他者と協働し、対話的に考えを深めようとする。探究課題解決に主体的に取り組む、学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。				【生活・環境】 気仙沼市や鹿折地区が抱える課題が、身の回りの地域のみならず、地球規模での自然・社会環境の変化に起因していることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・気仙沼市や鹿折地区が抱える課題を解決するために向かふ必要なのかを、学んだことを多角的・多面的に考えて表現することができる。自分やグループで設定した探究課題についての考えを、学校内外の人々に広くわかりやすく情報発信することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・探究課題解決のために学校外の他者と協働し、対話的に考えを深めようとする。探究課題解決に主体的に取り組む、学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。
学期	1学期（4～7月）	2学期（8～12月）	3学期（1～3月）		
探究過程	課題設定（体験・理田） 知識及び技能	課題設定（体験・見学・観察・実験・実験・情報収集・分析・整理） 思考力・判断力・表現力等	発見（発表・観音・行動） 学びに向かう力・人間性等		
育みたい資質能力（学力）	とらえる【F】 ～情報の調能力～	判断する【I】 ～科学的に思考・吟味する力～	切り拓く【S】 ～能動的に学ぶ姿勢、価値を生み出す感性、探究力～	つなぐ【H】 ～対話力・感～	
探究活動（海探）	（オリエンテーション） 一年間の見通しをもう（1）時間 ・4年生での学習を振り返る。 ・意見の確認をする。 ・意見と理由を区別して、正しく聞き取ることを学ぶ。	課題探究【第1次】（一斉・グループ） 探究課題を設定しよう（1）時間 ○第一次探究課題を設定する（1時間） 【予想される課題】 ・なぜ、気仙沼にカツオなどの魚が多く水揚げされるのか。 ・漁船はどのように漁をするのか。 ・漁船はどのように建造されるのか。 ・水産加工品の製造工程を調べよう。 ・漁船にはなぜ外国人が乗船しているのか。 ・気仙沼の海はなぜ豊かなのか調べよう。 ・三陸沖にある潮目とはどのようなものか。 ・漁船に外国人が乗船しているのはなぜか。また気仙沼はどのような国とどのようなつながりをもっているのか。	ガイダンス【第2次】（探究課題カテゴリーの吟味） 1学期を振り返ろう（1）時間 ○一学期の学習を振り返る（1時間） ・一学期の第一次課題について振り返り、第二次課題を設定する。 課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個）	課題探究【発展】（グループ・個） 海洋サミットを振り返って（2）時間 ○課題を修正する（1時間） ・海洋サミットで他地域、他校の発表を聞き、自分の探求課題を振り返って修正・発展・補充を行う。 ○海とつながる産業と私たちの生活（1時間） ・海とつながる産業と私たちの生活について考える。 ・パリ協定に基づいて環境保護活動に取り組んでいる人たちの活動から、地球温暖化を防ぐために何をすればよいかについて考える。 ・造船業の課題（後継者問題等）について考える。 ・多文化理解と私たちの町の変容について考える。 ・これからの産業の在り方と自分たちの生活について考える。	行動・発信・振り返り（グループ・個） 海のフォーラムin鹿折（6）時間 ○調べたことをまとめよう（4時間） ・ポスター発表の準備をする。 ・ポスターの他にCMやパンフレット等を作成する。 ○調べたことや実践したことをポスターにまとめ発表する（2時間） ・個人探究課題について調べたことを発表する。（動機・課題・方法・内容・結果・課題） ・友達の発表を聞き、意見交換を行う。（ハナレティスカッション）
探究内容エッセンス	【生命】 生態系多様性 水産資源 食文化 健康 歴史民俗 国際協調	【環境】 気候変動 大気循環 地形地質 海洋資源 海洋汚染 観光居住	【安全】 防災減災 領土領海 海上輸送 法規条約		
【生命】	一年間の見通しをもう（1）時間 ・4年生での学習を振り返る。 ・意見の確認をする。 ・意見と理由を区別して、正しく聞き取ることを学ぶ。	課題探究【第1次】（一斉・グループ） 探究課題を設定しよう（1）時間 ○第一次探究課題を設定する（1時間） 【予想される課題】 ・なぜ、気仙沼にカツオなどの魚が多く水揚げされるのか。 ・漁船はどのように漁をするのか。 ・漁船はどのように建造されるのか。 ・水産加工品の製造工程を調べよう。 ・漁船にはなぜ外国人が乗船しているのか。 ・気仙沼の海はなぜ豊かなのか調べよう。 ・三陸沖にある潮目とはどのようなものか。 ・漁船に外国人が乗船しているのはなぜか。また気仙沼はどのような国とどのようなつながりをもっているのか。	ガイダンス【第2次】（探究課題カテゴリーの吟味） 1学期を振り返ろう（1）時間 ○一学期の学習を振り返る（1時間） ・一学期の第一次課題について振り返り、第二次課題を設定する。 課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個）	課題探究【発展】（グループ・個） 海洋サミットを振り返って（2）時間 ○課題を修正する（1時間） ・海洋サミットで他地域、他校の発表を聞き、自分の探求課題を振り返って修正・発展・補充を行う。 ○海とつながる産業と私たちの生活（1時間） ・海とつながる産業と私たちの生活について考える。 ・パリ協定に基づいて環境保護活動に取り組んでいる人たちの活動から、地球温暖化を防ぐために何をすればよいかについて考える。 ・造船業の課題（後継者問題等）について考える。 ・多文化理解と私たちの町の変容について考える。 ・これからの産業の在り方と自分たちの生活について考える。	行動・発信・振り返り（グループ・個） 海のフォーラムin鹿折（6）時間 ○調べたことをまとめよう（4時間） ・ポスター発表の準備をする。 ・ポスターの他にCMやパンフレット等を作成する。 ○調べたことや実践したことをポスターにまとめ発表する（2時間） ・個人探究課題について調べたことを発表する。（動機・課題・方法・内容・結果・課題） ・友達の発表を聞き、意見交換を行う。（ハナレティスカッション）
【環境】	気仙沼の水産業を調べよう①（11）時間 気仙沼と海をつなぐを調べよう。 ○魚市場を見学しよう（4時間） ・魚市場見学を通して、気仙沼市に水揚げされる魚種、漁船、水揚げ量について知る。 ・海の中で販売される魚種、加工品、多様な販路について知る。 ○水産加工場を見学しよう（3時間） ・鹿折水産加工組合、ほてい工場見学を通して、魚（サメ、カツオ）の加工方法、魚や加工品の流通経路、外国人研修生について知る。 ○漁船について調べよう（4時間） ・みらい造船所見学を通して、船の建造工程を理解する。 ・マクロ延縄船に乗り船して船の造りやマクロ漁法・漁場について理解する。	課題探究【第1次】（一斉・グループ） 探究課題を設定しよう（1）時間 ○第一次探究課題を設定する（1時間） 【予想される課題】 ・なぜ、気仙沼にカツオなどの魚が多く水揚げされるのか。 ・漁船はどのように漁をするのか。 ・漁船はどのように建造されるのか。 ・水産加工品の製造工程を調べよう。 ・漁船にはなぜ外国人が乗船しているのか。 ・気仙沼の海はなぜ豊かなのか調べよう。 ・三陸沖にある潮目とはどのようなものか。 ・漁船に外国人が乗船しているのはなぜか。また気仙沼はどのような国とどのようなつながりをもっているのか。	ガイダンス【第2次】（探究課題カテゴリーの吟味） 1学期を振り返ろう（1）時間 ○一学期の学習を振り返る（1時間） ・一学期の第一次課題について振り返り、第二次課題を設定する。 課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個）	課題探究【発展】（グループ・個） 海洋サミットを振り返って（2）時間 ○課題を修正する（1時間） ・海洋サミットで他地域、他校の発表を聞き、自分の探求課題を振り返って修正・発展・補充を行う。 ○海とつながる産業と私たちの生活（1時間） ・海とつながる産業と私たちの生活について考える。 ・パリ協定に基づいて環境保護活動に取り組んでいる人たちの活動から、地球温暖化を防ぐために何をすればよいかについて考える。 ・造船業の課題（後継者問題等）について考える。 ・多文化理解と私たちの町の変容について考える。 ・これからの産業の在り方と自分たちの生活について考える。	行動・発信・振り返り（グループ・個） 海のフォーラムin鹿折（6）時間 ○調べたことをまとめよう（4時間） ・ポスター発表の準備をする。 ・ポスターの他にCMやパンフレット等を作成する。 ○調べたことや実践したことをポスターにまとめ発表する（2時間） ・個人探究課題について調べたことを発表する。（動機・課題・方法・内容・結果・課題） ・友達の発表を聞き、意見交換を行う。（ハナレティスカッション）
【安全】	気仙沼の水産業を調べよう②（25）時間 ※他教科の時間も含む（社8・国3） 対話・発表・共有 海洋サミットで発信しよう（10）時間 ○調べたことを整理しよう（5時間） ・議論に対して2つの立場に別れ、互いの主張とその理由を明確にしながらいずれかの討議をする。 ・資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して、文章を書いたり選択したりすることができる。 ○調べたことをポスターにまとめ発信しよう（5時間） ・個人探究課題について調べたことを発表する。（動機・課題・方法・内容・結果・課題） ・発表したことを振り返り、疑問に思ったことや、さらに調べたいことをまとめる。	課題探究【第1次】（一斉・グループ） 探究課題を設定しよう（1）時間 ○第一次探究課題を設定する（1時間） 【予想される課題】 ・なぜ、気仙沼にカツオなどの魚が多く水揚げされるのか。 ・漁船はどのように漁をするのか。 ・漁船はどのように建造されるのか。 ・水産加工品の製造工程を調べよう。 ・漁船にはなぜ外国人が乗船しているのか。 ・気仙沼の海はなぜ豊かなのか調べよう。 ・三陸沖にある潮目とはどのようなものか。 ・漁船に外国人が乗船しているのはなぜか。また気仙沼はどのような国とどのようなつながりをもっているのか。	ガイダンス【第2次】（探究課題カテゴリーの吟味） 1学期を振り返ろう（1）時間 ○一学期の学習を振り返る（1時間） ・一学期の第一次課題について振り返り、第二次課題を設定する。 課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個）	課題探究【発展】（グループ・個） 海洋サミットを振り返って（2）時間 ○課題を修正する（1時間） ・海洋サミットで他地域、他校の発表を聞き、自分の探求課題を振り返って修正・発展・補充を行う。 ○海とつながる産業と私たちの生活（1時間） ・海とつながる産業と私たちの生活について考える。 ・パリ協定に基づいて環境保護活動に取り組んでいる人たちの活動から、地球温暖化を防ぐために何をすればよいかについて考える。 ・造船業の課題（後継者問題等）について考える。 ・多文化理解と私たちの町の変容について考える。 ・これからの産業の在り方と自分たちの生活について考える。	行動・発信・振り返り（グループ・個） 海のフォーラムin鹿折（6）時間 ○調べたことをまとめよう（4時間） ・ポスター発表の準備をする。 ・ポスターの他にCMやパンフレット等を作成する。 ○調べたことや実践したことをポスターにまとめ発表する（2時間） ・個人探究課題について調べたことを発表する。（動機・課題・方法・内容・結果・課題） ・友達の発表を聞き、意見交換を行う。（ハナレティスカッション）
【安全】	気仙沼の水産業を調べよう③（11）時間 気仙沼と海をつなぐを調べよう。 ○魚市場を見学しよう（4時間） ・魚市場見学を通して、気仙沼市に水揚げされる魚種、漁船、水揚げ量について知る。 ・海の中で販売される魚種、加工品、多様な販路について知る。 ○水産加工場を見学しよう（3時間） ・鹿折水産加工組合、ほてい工場見学を通して、魚（サメ、カツオ）の加工方法、魚や加工品の流通経路、外国人研修生について知る。 ○漁船について調べよう（4時間） ・みらい造船所見学を通して、船の建造工程を理解する。 ・マクロ延縄船に乗り船して船の造りやマクロ漁法・漁場について理解する。	課題探究【第1次】（一斉・グループ） 探究課題を設定しよう（1）時間 ○第一次探究課題を設定する（1時間） 【予想される課題】 ・なぜ、気仙沼にカツオなどの魚が多く水揚げされるのか。 ・漁船はどのように漁をするのか。 ・漁船はどのように建造されるのか。 ・水産加工品の製造工程を調べよう。 ・漁船にはなぜ外国人が乗船しているのか。 ・気仙沼の海はなぜ豊かなのか調べよう。 ・三陸沖にある潮目とはどのようなものか。 ・漁船に外国人が乗船しているのはなぜか。また気仙沼はどのような国とどのようなつながりをもっているのか。	ガイダンス【第2次】（探究課題カテゴリーの吟味） 1学期を振り返ろう（1）時間 ○一学期の学習を振り返る（1時間） ・一学期の第一次課題について振り返り、第二次課題を設定する。 課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個）	課題探究【発展】（グループ・個） 海洋サミットを振り返って（2）時間 ○課題を修正する（1時間） ・海洋サミットで他地域、他校の発表を聞き、自分の探求課題を振り返って修正・発展・補充を行う。 ○海とつながる産業と私たちの生活（1時間） ・海とつながる産業と私たちの生活について考える。 ・パリ協定に基づいて環境保護活動に取り組んでいる人たちの活動から、地球温暖化を防ぐために何をすればよいかについて考える。 ・造船業の課題（後継者問題等）について考える。 ・多文化理解と私たちの町の変容について考える。 ・これからの産業の在り方と自分たちの生活について考える。	行動・発信・振り返り（グループ・個） 海のフォーラムin鹿折（6）時間 ○調べたことをまとめよう（4時間） ・ポスター発表の準備をする。 ・ポスターの他にCMやパンフレット等を作成する。 ○調べたことや実践したことをポスターにまとめ発表する（2時間） ・個人探究課題について調べたことを発表する。（動機・課題・方法・内容・結果・課題） ・友達の発表を聞き、意見交換を行う。（ハナレティスカッション）

【5】学年 海と生きる探究活動年間指導計画

活動名「海と生きる産業～未来につながるぼくらの海郷学～」全【60】時間

総括目標		関連するSDGs					
<p>震災で壊滅的な被害を受けた造船業、水産加工業を中心、ふるさとの復興と創造に向けた地域の人々の熱い思いと水産業を通じて世界とつながる気仙沼の水産業の現状を探究することで、「海と生きる」気仙沼とは何かを考え、自分たちに行っていることを実践する。水産業を通して世界とつながっている鹿折のよさを「ひと・もの・こと」の視点からみつめ、「海と生きる」ふるさと気仙沼について自分の考えをもち行動できる児童を育む。</p>		     					
育てたい資質・能力							
<p>○ 生きて働く「知識及び技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼市や鹿折地区が抱える諸課題が身の回りの地域のみにならず、地球規模での自然・社会環境の変化から起因していることを理解することができる。 ・ 探究課題の解決に必要な情報を体系的に収集し、それらを整理・分析する技能を身に付けることができる。 <p>○ 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼市や鹿折地区が抱える課題を解決するために何が必要なのかを、学んだことを多角的・多面的に考え、表現することができる。 ・ 自分やグループで設定した探究課題についての考えを、学校内外の人々に広く分かりやすく情報発信することができる。 <p>○ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究課題解決のために学校内外の他者と協働し、対話的に考えを深めようとする。 ・ 探究課題解決に主体的に取り組み、学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。 	<p>① ねらい 指導のねらいを関連付ける</p> <p>② 内容 学習内容を関連付ける</p> <p>③ 資質・能力 資質・能力を関連付ける</p> <p>ア 強化 指導のねらいや資質・能力を強化する</p> <p>イ 付加 学習内容を付加する</p> <p>ウ 補完 ねらいや学習内容、資質・能力を補完する</p>	<p>教科・領域を関連させる意図・効果</p>					
月	時数【移行】	段階	児童の探究的な学習内容	探究方法・資料	形態	教科・領域との関連【移行内容】（関連内容）	評価と指導者の支援
4	1【総1】	問いをもつ 第一次	<p>「一年間の見通しをもとう」</p> <p>○ オリエンテーション【1時間（総1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生までの学習を振り返る。 町探検・カモメ通り（2年生） わかめ養殖、小々汐太鼓、浪板虎舞（3年生） 鹿折川生き物調査、田植え体験（4年生） 津波の被災地（1～4年 防災学習） ・ ウェビングマップで海や産業に関する知識を可 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウェビングマップ ・ 児童の学習履歴や生活経験等を把握するために初発のウェビングを 	一斉	<p>他教科（領域）でもウェビングマップを活用し、考えていることを可視化し、整理することができるようにする。</p> <p>【総合1・③-ア】</p>	<p>自分が興味をもったことを、さらに探究課題や目標へとつなげようとしている。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p>

5	1 1 【総2】 【国2】 【社7】		<p>視化する。</p> <p>〈予想される児童の反応〉 魚 船 きれい さんま 貝 砂浜 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学び方の確認をする。 ・ 一年間の活動の見直しをもつ。 <p>「気仙沼の水産業を調べよう①」</p> <p>○ 魚市場を見学しよう【4時間（社2・国2）】</p> <p>①気仙沼の水産業を調べるための質問や課題を考え、プリントやノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の探究テーマを設定する。 <p>〈予想される課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼に一番多く水揚げされるのはどんな魚で、それはなぜか？ ・ どうやって魚をとっているのか調べよう。 ・ 缶詰はどうやってできるのか調べよう。 ・ 魚市場にはどのような魚が水揚げされているのか調べよう。 <p>②魚市場見学を通して、気仙沼市に水揚げされる魚種や漁船、水揚げ量について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海の中で販売される魚種、加工品、多様な販路について知る。 <p>〈児童に気付かせたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼でよく水揚げされる魚種 ・ どのような方法で魚を水揚げするのか ・ どの場所で漁を行うのか ・ 漁に携わる人の思い（喜び・苦労） ・ どのような船で漁をするのか ・ 海産物がどのような形で販売されているのか <p>○ 水産加工場を見学しよう【3時間（社2・総1）】</p> <p>①鹿折水産加工組合とミヤカン見学の準備を行う。</p> <p>②鹿折水産加工組合、ミヤカン見学を通して、魚（サメ・カツオ）の加工方法、魚や加工品の流通経路について知る。</p>	<p>行う。</p> <p>○探究テーマを決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたい探究テーマを設定する。 <p>○魚市場・海の市見学を行う。</p> <p>【気仙沼観光コンベンション協会に連絡】</p> <p>○水産加工場見学をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿折水産加工組合、ミヤカ 	<p>『知りたいたいことを聞きだそう』</p> <p>複数の発言について、意見と理由を区別して、それぞれ共通点を考えながら正しく聞き取ることができよう。</p> <p>【国語2・③-A】</p>	<p>校外学習の際にどのようなことを質問するか考えよう。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>話を聞くときの要点を理解できる。</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>魚市場及び海の市の生学を通して、自分の生活経験と関連付けながら、問題を見つけ、進んで調べようとしている。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <p>水産加工場見学を通して、自分の生活経験と関連付けながら、問題を見つけ、進んで調べようとしている。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p>
---	-----------------------------	--	---	---	---	---

		<p>情報 の 収 集 ・ 整 理 分 析</p>	<p>ン、気仙沼 ほていの3 社の見学を 行う。 【鹿折水産加 工協同組合 に連絡】</p> <p>○みらい造船 で造船所見 学を行う。 【みらい造船 に連絡】</p> <p>○マダロ延縄 船乗船体験 を行い、マ ダロ漁の仕 方や漁師の 生活などに ついて調べ る。 【北部鱈鮪漁 業協同組合 に連絡】 ※ 海洋大学</p>	<p>【社会2・②-I】 【総合1】</p> <p>『自動車を作る工業』 自動車の完成までの工 程と造船との違いを比 較して考える。 【社会1・②-I】 『工業生産を支える輸 送と貿易』 原料や資料の多くを輸 入している日本ではど のような取組が進んで いるか調べる。 【社会1・②-I】 『世界の国と日本の位 置』 マダロ延縄船見学を通 して、世界の主な大陸や 海洋、主な国の名称と位 置について学ぶ。 【社会1・②-I】 【総合1】</p>	<p>造船所やマダロ延縄 船見学を通して、自分 の生活経験と関連付 けながら、問題を見つ け、進んで調べようと している。 【学びに向かう力・人間性】 自動車製造と造船建 造の特徴を比較し、違 いを比較しながらから 工業生産のよさ等 の理解を深めること ができる。 【知識及び技能】 マダロ延縄船見学を 通して、遠洋漁業の特 徴や問題点を捉えな がら理解を深めるこ とができる。 【知識及び技能】</p>
<p>〈児童に気付けたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような製品を製造しているのか。それはなぜか ・ どのような工程で製品が製造されるのか ・ どのような工夫をしているのか ・ 日本人たちが製造に携わっているのか（外国人労働者問題に気付けさせる） ・ 製品はどのような場所に運ばれ販売されるのか ・ 東日本震災の時の様子 ・ 環境を守る取り組み ・ 抱える課題等 	<p>○ 漁船について調べよう【4時間（社3・総1）】</p> <p>①みらい造船とマダロ延縄船の見学を通して調べたいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船の建造工程等を理解する。 <p>②マダロ延縄船に乗船して船の造りとマダロ漁法・漁場について理解する。</p>	<p>〈児童に気付けたいこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁船の建造工程 ・ どのような人が船の建造に携わり、どのような苦勞や働きがあるのか（外国人労働者問題に気付けさせる） ・ 抱える課題（日本人労働者不足・外国人労働者） ・ 造船所での仕事の内容（修理・新造船） ・ マダロ漁の漁場はどこか ・ 船の中の構造はどのようなになっているか ・ 環境汚染や地球温暖化が漁にどのような影響を及ぼしているか 			

6	1 【総1】	三陸サテライトも同施設内にあり、手伝ってもらえる。	一斉	校外学習を通して学んだことや気付いたことを整理し、探究課題を設定することができる。 【思考力・判断力・表現力】
7	3 【総1】 【国2】	「探究課題を設定しよう」 ○ 第一次探究課題を設定する【1時間（総1）】 ・年間の探究課題を設定する。（個人ごと） ・決定した探究課題を発表する。 ※決定した課題は、変更しても良いことを確認する。 (予想される課題) ・なぜ、気仙沼にカツオなどの魚が多く水揚げされるのか。 ・漁船はどのように漁をするのか。 ・漁船はどのように建造されるのか。 ・水産加工品の製造工程を調べよう。 ・漁船にはなぜ外国人が乗船しているのか。 ・気仙沼の海は、なぜ豊かなのか調べよう。	個人	地域の事柄や市の水産業の様子などについてまとめ、環境・産業・文化等の特色や関係性、問題点に気付くことができる。 【思考力・判断力・表現力】 相手に伝わるように意識して、要点を明確にし、言葉遣いや話し方に気を付けながら
		○探究テーマを決めよう ・調べたい探究テーマを設定する。 ※校外学習で体験したことや気付いたことから探究課題を設定する。	個人	『環境問題について報告しよう』 資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して、文章を書いたり選択したりすることが出来る。 【国語2・③-A】 【総合1】
		○校外学習で見学した際に、配付された資料 ○インターネット等で検索した資料も活用しても良いこととするが、できるだけ、自分で、自分が	個人	『環境問題について報告しよう』 資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して、文章を書いたり選択したりすることが出来る。 【国語2・③-A】 【総合1】
		「調べたことを発表しよう」 ○ 第一次探究課題についてまとめる【2時間（国2）】 ・テーマをもとに調べたことを、構成を考えながらポスター（模造紙の半分のサイズ）にまとめる。 ・資料や写真などの効果を考えながらまとめる。 ・発表原稿も作成し、模造紙を活用して発表できるように準備する。 ○ 発表会をしよう【1時間（総1）】 ・学級の中でポスター発表会をする。 ・グループに分かれて発表会を行い、感想を伝えよう。	個人	○校外学習で見学した際に、配付された資料 ○インターネット等で検索した資料も活用しても良いこととするが、できるだけ、自分で、自分が
		まとめ	個人	地域の事柄や市の水産業の様子などについてまとめ、環境・産業・文化等の特色や関係性、問題点に気付くことができる。 【思考力・判断力・表現力】 相手に伝わるように意識して、要点を明確にし、言葉遣いや話し方に気を付けながら
		表現 ・振り返り ・考えの更新	個人	地域の事柄や市の水産業の様子などについてまとめ、環境・産業・文化等の特色や関係性、問題点に気付くことができる。 【思考力・判断力・表現力】 相手に伝わるように意識して、要点を明確にし、言葉遣いや話し方に気を付けながら

8	1 【総1】	第二次	問いをもつ・課題の設定	<p>【期待する効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験・見学しながら自分の課題に沿った資料を収集する力の育成と、それを活用しながら分かりやすく意見を伝える力 <p>「1学期を振り返ろう」</p> <p>○ ガイダンス【1時間（総1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学習を振り返り、自分が探究課題として設定したテーマを確認する。 ・2学期の校外学習の見通しをもつ。 ・探究活動を通して、まとめた市・県・国や世界の課題、環境・産業・文化等の問題点を想起する。 ・自分のテーマを再設定する。 ・校外学習で調べたいことや質問を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の探究課題から探究領域を設定する。 (予想される探究領域) <p>環境</p> <p>課題：マイクロプラスチック、海洋ゴミ 地球温暖化、海面上昇、生物多様性</p> <p>国際</p> <p>課題：外国人労働者、漁業の高齢化との関連 労働者不足、感染症、加工品の流通</p> <p>漁</p> <p>課題：労働者不足、高齢化問題、漁獲量の変容 温暖化の影響、大漁旗等の伝統</p> <p>食・加工</p> <p>課題：水産加工品の生産工程や魅力調べ 魚食の推進、海産物の魅力調べ 郷土料理、震災時の加工場</p> </div>	見学してきた資料やメモからポスターを作成させる。	一斉	<p>表現することができ る。 【思考力・判断力・表現力】 【知識及び技能】</p>
				<p>見学してきた資料やメモからポスターを作成させる。</p> <p>○ 探究テーマを決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたい探究テーマを設定する。 <p>※校外学習で体験したことや気付いたことから探究課題を再設定する。</p>		<p>1学期に学んだことを振り返りながら、自分が興味をもったことをさらに深めようとしている。探究課題を設定し、調べる見通しをもつことができる。 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>※探究課題が調査活動で気付いた問題点や課題に基づくと妥当なものか、そして、調査可能な探究課題なのかに留意する。 また、探究活動の目的や調査後の行動の見通しをもたせ課題設定を行うように指導する。</p>	

9	25 【総14】 【社6】 【国3】 【理2】	情報の収集・整理分析	<p>船 課題：漁業を支える造船業，漁船の仕組み マグロ延縄漁の仕方，遠洋漁業の航路 漁業と海洋汚染</p> <p>※ 複数の領域を選択してもよい。（興味がある領域が複数の場合や，探究課題が複数の領域にまたがる場合）</p> <p>「気仙沼の水産業を調べよう②」 ○ グループに分かれて調査活動を行う。 【27時間（社6・理2・国3・総合14）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の探究課題に合わせて，活動を行う。 ・自分のテーマが複数の領域に当てはまる場合は他領域の校外学習で見学した内容もメモし，情報の整理を行う。 <p>グループ例 環境【社会2＋理科2＋総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼（三陸）の海が，なぜ「豊かな海」と呼ばれるのか，また，プランクトンとはどのような生き物かを聞いたり，顕微鏡を用いて調べたりする。 <p>海面上昇等の温暖化が原因となり海洋生物に与える影響について講話をいただく。【校外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒流と暖流の違いについて調べる。また，魚が集まる潮目（三陸の海）には，どのようなことが起きているか海流実験を通して考える。また，温暖化の影響について考える。 <p>【講話・実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ，寒流と暖流の流れが起こるのかを知る。また，地球温暖化の影響について考える。（海水温の上昇，海が熱を吸収していること，海洋ゴミ） <p>【講話】</p>	<p>※児童の探究課題に合わせた，資料や講師を選択する。</p> <p>○舞根森里海 研究所の畠山重篤・信さん を講師とした学習</p> <p>○東京大学海洋アライアンス 丹羽教授による講話と実験</p> <p>○東北大学の須賀教授の講話</p>	一斉	<p>『台風と天気の変化』 わたしたちのくらしに台風が及ぼす影響について学ぶ。また，日常的にどのような準備をすれば良いか考える。</p> <p>【理科2・①②】 『環境を守るわたしたち』 環境保護活動に取り組んでいる人たちの活動から，地球温暖化を防ぐことについて考える。</p> <p>【社会1・①②】 『国土の地形と特色』 日本の気候とその特色</p>	<p>地域と外国のつながりについて考えながら，調査対象を深く調べ，進んで調べることで【学びに向かう力・人間性】 地域の事柄や市・県・国や世界の様子などについて，環境・産業・文化等の事象の特色や関係性，問題点に気付くことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p>
---	-------------------------------------	------------	---	--	----	--	--

	情報の収集・整理分析・表現・行動	<p>国際【国語2＋総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカル延縄船や水産加工場の外国人労働者について調べる。海の街気仙沼を支える外国人労働者と後継者不足に悩む水産関連企業を調べる。 ・発展途上国の産業基盤形成に向けた気仙沼企業の取り組みを調べる。(SDGsとの関連) ・気仙沼市に研修生として働く東南アジアの人々について調べる。 <p>【校外学習・インタビュー・講話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリバスの子供たちと交流し、探究活動で学習したことを伝え合う。 <p>【リモート学習】</p> <p>漁【社会3＋総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダガスカル延縄船の船内見学を通して、どのような仕組みで魚をとっているのかを調べる。漁業の大変さや苦勞を調べてまとめる。 ・外国人労働者が多く乗船していることを知り、気仙沼市の漁業が抱える後継者問題について考える。 <p>【校外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第58八幡丸との交流（出船送り等）を通して、漁を行う船がどのような準備を行っているのか、また、漁業を支える企業がいることを知る。（製氷屋、電気工事、機械整備、飼料屋等） <p>【校外学習】</p> <p>食・加工【社会1＋総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工場見学（気仙沼ほてい・ミヤカン）を通して気仙沼市の加工業について調べる。 <p>【校外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で取れる食材の魅力について調べ、魚市場にあるクッキングスタジオで海の食材を使った料理を作る。 	<p>○北部カズオ マダガスカル漁業協同組合の菊田さんと鹿折加工協同組合の村松さん（事務局長）</p> <p>○ケンタロウ・オノさん</p> <p>○北部カズオ マダガスカル漁業協同組合の菊田さん</p> <p>○北部カズオ マダガスカル漁業協同組合の菊田さん</p> <p>○鹿折加工協同組合の村松さん（事務局長）</p> <p>○北部カズオ マダガスカル漁業協同組合の菊田さん</p>	<p>班 (一斉)</p> <p>一斉</p> <p>班 (一斉)</p> <p>一斉</p> <p>班 (一斉)</p> <p>班 (一斉)</p>	<p>について理解する。また、環境汚染などの影響による気候変動とその影響について考える。</p> <p>【社会1・②-I】</p> <p>『反対の立場を考えて意見文を書こう』</p> <p>校外学習を通して気付いた課題についてみんなで話し合う。反対意見を予想し、その対応を考ええる。</p> <p>【国語2・③-U】</p> <p>『水産業の盛んな地域』</p> <p>日本の水産業について関心を持ち、自然環境を生かして営まれ国民の食生活を支えている水産業に興味を持ち、その発展について考えることができる。</p> <p>【社会3・①②】</p> <p>『まかせてね今日の食事』</p> <p>楽しく食事をするため工夫を考えよう。</p> <p>(家庭科・②-I)</p> <p>『これからの食糧生産とわたしたち』</p> <p>食糧生産には、食料自給率の低下や食の安全性などの問題があることを理解し、食糧生産の在り方について考えよう</p> <p>地域と外国のつながりについて考えながら、調査対象を深く調べ、進んで調べることができ</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <p>地域の事柄や市・県・国や世界の様子などについて、環境・産業・文化等の事象の特色や関係性、問題点に気付くことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>探究活動を通して考えたことをもとに、友達と協力しながら、課題解決のための行動につなげることが出来る。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p>
--	------------------	--	--	---	---

10	10 【総3】 【国7】			<p>船【国語1＋総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダロ延縄船の船内見学を通して、漁船がどのような仕組みなのか調べる。【校外学習】 ・みらい造船所見学を通して、漁船の建造工程を知る。また、気仙沼市の水産業を支える産業で働く人の思いを考える。【校外学習】 	<ul style="list-style-type: none"> ○北部カオツオマダロ漁業協同組合の菊田さん ○みらい造船所の中居さん、三浦さん 	一斉 班 (一斉)	<p>としている。 【社会1・②-イ】 『事実と考えを区別しよう』 グラフから読み取り、分かかったことから考えを書く。 【国語1・③-ウ】</p>	
11		<p>まとめ ・表現 ・行動</p>	<p>表現 ・振り返り</p>	<p>「発信しよう」（海洋こどもサミット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを整理しよう【5時間（国5）】 ・調べたことを発表資料（横造紙の半分のサイズ）にまとめる。 ・調べた探究課題と課題の設定理由、調べて行動したことで、調べた自分が考えたことを整理し、横造紙に書く。 ・発表会の準備を行う。発表資料を使って調べたことを発表できるように発表メモを作成する。 ・調査した課題や問題点などを学級で話し合い、深める。 (まとめること) ①探究課題 ②課題設定の理由 ③調べたこと（2～3点） 調べて行動したこと ④探究活動を通して自分が考えたこと <p>○調べたことや実践したことをポスターにまとめて発信しよう【5時間（国2・総3）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人でまとめた探究課題について調べたことを3・4グループに分かれ、ポスターセッション形式で発表する。 ・発表したこと、聞いたことを振り返り、疑問に思っ 	<ul style="list-style-type: none"> ○校外学習で見学した際に、収集した資料 ○インターネットで収集した資料 	個人	<p>『環境問題について報告しよう』 資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して、文章を書いたり選択したりする。 【国語2・③-ア】 『書き手の意図を考えよう』 資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して、文章を書いたり選択したりすることができ。</p> <p>【国語1・③-ア】 『問題を解決するために話し合おう』 テーマをもとに調べたことを、構成を考えながえらまとめる。 【国語2・③-ア】 『資料を見て考えたことを話そう』</p>	<p>読み取った情報を活用して、文章を書いたり選択したりすることができ。 【知識及び技能】 ※インターネット等で検索した資料を使用しても良いが、できるだけ、自分が見学してきた資料やメモの中で発表資料を作成させる。</p> <p>相手に伝わるように意識して、要点を明確にし、言葉遣いや話し方、情報の取り上げ方に気を付けながら表現することができ。 【知識及び技能】 探究活動を通して調べたことを、構成を考えながえらまと</p>







1	2 【総1】 【社1】	第三次	考えの更新	<p>たことや、さらに調べたいことをまとめ。 ※ 学級で発表した児童の中から、「海洋サミット」「公民館まつり」の代表を決定する。</p> <p>「海洋サミットを振り返って」 ○ 課題を修正する【1時間（総1）】 ・自分の探究課題や自分の発表を振り返って修正・発展・補充の見直しをもつ。 ○ 海とつながる産業と私たちの生活【1時間（社1）】 ・これまでの学習を振り返り，補充的な活動を行う。 ・電話やメール等で企業の方に質問をする。 ・海とつながる産業と私たちの生活との関連について考える。 ・これからの産業の在り方と自分たちの生活とのかわりにについて考える。</p>		一斉 個人	<p>自分の考えが明確に伝わるように、構成を考えた資料などと関連付けて話す。 【国語2・③-A】</p> <p>『わたしたちの生活と森林』 森林と自分たちの生活との関わりについて考え、自分たちにできるところを話し合う。 【社会1・②-I】</p>	<p>め、自分の考えが聞き手に分かりやすいうに伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力】</p> <p>2学期に学んだことを振り返りながら、自分が興味をもったことをさらに深めようとしている。 【学びに向かう力・人間性】</p>
2	4 【総4】		まとめ・表現・行動・振り返り	<p>「海フォーラム in 鹿折」 ○ 調べたことをまとめよう【2時間（総2）】 ・ポスター発表の準備をする。 ・ポスターの他にCMやパンフレット等を作成する。</p> <p>○ 調べたことや実践したことをポスターにまとめ発信する【2時間（総2）】 ・「海洋フォーラム」を開いて、地域の方々や講師の方を招き，学習したことを伝える。 <実施内容> ①ポスター発表 ②活動の振り返り ③パネルディスカッション ④講師の先生から ・個人探究課題について調べたことを発表する。 ・友達の発表を聞き，意見交換を行う。</p>		一斉	<p>『問題を解決するため話し合おう』 テーマをもとに調べたことを、構成を考えながえらまとめ。 (国語・③-A) 『資料を見て考えたことを話そう』 自分の考えが明確に伝わるように、構成を考えた資料などと関連付けて話す。 (国語・③-A)</p>	<p>複数の領域（環境・国際・漁・食・船）を関連させながら調べ、それぞれの共通点を考えながら、課題を解決しようとしている。 【学びに向かう力・人間性】 探究活動を通して調べたことを、構成を考えながらまとめ、自分の考えが聞き手に分かりやすいうに伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力】</p>

6年『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート（プログラムチャート）

単元名	海で復興「気仙沼の魅力」発信プロジェクト【60時間】	テーマ	生態系・多様性・食文化・気候変動・海洋汚染・防災減災	関連教科等	国語、社会、理科、音楽、道徳、学級活動、学校行事
総括目標	震災で大きな被害を受けた気仙沼市及び鹿折地区の復興と魅力について調べる活動を通して、自分たちと自然環境、海とのつながりについて考えを深め、鹿折・気仙沼のまちをよりよくしていくために自分たちができることを進んで実践していこうとする心情を育てる。	SDGs 関連	15 陸の生態系 13 気候変動 14 海洋資源 11 持続可能な消費と生産	気仙沼市 2次総合計画関連	自然・環境・食
身に付けたい資質能力	【知識及び技能】・・・気仙沼が抱える問題を知り、よりよい気仙沼（鹿折）にするために、どのようなことが必要か、実践を通して理解することができ、【思考力・判断力・表現力等】・・・探究活動を通して、問題につながる解決策を、適切な方法で情報収集や整理・分析を行いながら見つけたり、分かりやすくまとめて発信したり【学びに向かう力・人間性等】・・・地球規模で起こる課題を気仙沼・鹿折に当てはめながら、自分のこととしてとらえ、実践を通してよりよい気仙沼（鹿折）について考えることができる。	3学期（1～3月）			
学 期	1学期（4～7月）	2学期（8～12月）	3学期（1～3月）		
探究過程	課題設定（問題・理由）	課題探究（体験・見学・観察・実験・実証・情報収集・分析・根拠・整理）	発信（発表・提言・行動）		
育みたい資質能力（学力）	知識及び技能 とらえる【F】 ～情報の読解力～	判断する【I】 ～科学的に思考・吟味する力～	切り拓く【S】 ～能動的に学ぶ姿勢、価値を生み出す感性、探究力～	学びに向かう力・人間性等 つなぐ【H】 ～対話力・志～	
探究活動（海探）	オリエンテーション 1年間の見通しをもとう （1）時間 ・5年生で学習した気仙沼市・鹿折の海の学習を想起する。 ・今年度は、まちづくりがテーマになり、個人探究を進めることを知る。	ガイダンス【第2次】（探究課題カテゴリーの吟味） 2学期の学習の見直しをもとう（1）時間 ・これまでの学習を振り返り、第二次探究課題を設定する。 課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個） 気仙沼市の魅力について調べよう②（22）時間 対話・発表・共有 地域や他地域に向けて発信しよう （11）時間 ○調べたことを整理しよう ・調べて分かったこととや、実際に自分が活動してみ分かったことをまとめる。 ○実践したことをポスターにまとめ発信しよう ・個人探究について調べたことを発表する ・発表したことを振り返り、更に疑問に思った事をまとめる。 ※海洋教育子どもセッションに参加し、学習したことを発表する。	課題探究【発展】（グループ・個） 発表会を振り返って（4）時間 海と生きる気仙沼、海との共生について考えを整理する。 ○課題を修正・整理する。 ・これまでの学習を踏まえて、海との共生について話し合う。 ・学んだことを個人でレポートにまとめ、卒業論文として集約する。 行動・発信・振り返り（グループ・） 海のフォーラム in 鹿折（6）時間 「海とのつながり」について考える ○調べたことをまとめよう ・ポスター、スライドの修正をする。 ・発表の形態を工夫しながら資料を作成する。 ○実践したことを発信する ・個人探究について調べたことを発表する。 ・発表を聞き合い、意見交流をする。		
探究内容エッセンス	【生命】生態系多様性水産資源食文化健康歴史民俗国際協調	【環境】気候変動大気循環地形地質海洋資源海洋汚染観光居住	【安全】防災減災領土領海海上輸送法規条約		
【未来に携わりたい気仙沼の魅力とは何だろうか？】	○気仙沼のまちづくりの魅力を調べよう。 ・市役所の復興企画課、気仙沼商工会議所の方々に話を聞き、まちの特色や課題、「スロワー運動」について知る。 ○気仙沼の食について調べよう。 ・魚市場・海の市・スロワーロード都市宣言をした背景を知る。 ・食を通してどのような「つながる」をもっていかれるか考える。	課題探究【第1次】（一斉・グループ） 探究課題を設定しよう（1）時間 ○第1次探究課題を設定する 〈予想される探究課題〉 ・「スロワーロード運動」とはどのようなものだろうか。 ・豊かな自然に育まれた新鮮な食材やそれを生かした料理を調べよう。 ・海のまち「気仙沼」と山間部のまちを比較して違いを考えよう。 行動・発信・振り返り【第1次】 気仙沼のスロワーロードを調べよう（2）時間 ○気仙沼の食の魅力を発信している人から話を聞く。 ・気仙沼商工会議所の菅原昭彦さんの話を聞き「スロワーロード運動」について知る。 課題探究（課題探究別グループ）オリジナルレシジビを作り 気仙沼の魅力をまとめて発信しよう（3）時間 ○気仙沼の魅力がまったオリジナルレシジビを作成しよう ・気仙沼市の海の幸（カツオ、ツナ缶、フカヒレ）を使ったレシジビを家庭で作作り、気仙沼の食の豊かさについて考える。 ○オリジナルレシジビを発信しよう ・会津若松市で食育に携わる山際博美さんに自分たちが考えたオリジナルメニューを発表しアドバイスをいただく。 探究旅行（課題探究別グループ） ○オリジナル弁当試食会を開催 ・気仙沼の海の幸と会津若松の山の幸を使ったオリジナル弁当を頂く。 ・猪苗代町立徳島小学校の6年生と交流会を開催。 一学期の学びを振り返ろう（1）時間 ○調べたことを整理しよう ・第1次探究課題についてまとめる	課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個） A 食・郷土料理（班・個） ・食の観光資源（カツオ、フカヒレ） ・食文化（メカジキブランドینگ、スロワーロード） B 産業【水産業クラスター】（班・個） ・造船業（みらい造船所） ・出船送り ・気仙沼市の基幹産業を支える人の思い C 国際・他地域（班・個） ・マグロ延縄船や水産加工場の外国人労働者 ・外国人交流会 ・外国とのつながり ・日本語教室参加 ・キリバス共和国 D 環境（班・個） ・丹羽教授の温暖化実験 ・須賀教授の講話 ・資源の有効利用（kesemo） ・エネルギー循環（地域エネルギー開発） E 漁（班・個） ・北部延縄漁業組合・マグロ延縄船の労働者不足 ・気仙沼市の漁業（産業・文化・伝統）を守るために自分たちができること		

【6】学年 海と生きる探究活動年間指導計画

活動名「海と生きる自分・未来～海と生きる気仙沼の魅力発信プロジェクト～」全【60】時間

総括目標		関連するSDGs					
震災復興と発展に向かう気仙沼の将来像について、水産業の魅力と課題の視点から探究する学習を通して、自分たちと産業、地球環境、国際協調での関係性、互恵性を多面的・多重的に捉え、自分たちにできることを個またはグループで提案し、実践行動につなげる。震災で大きな被害を受けた鹿折地区の復興と魅力について調べ活動を通して、自分たちと自然環境、社会とのつながりについて考えを深め、森川海がながる鹿折のまちをよりよくしていくために自分たちができていることを進んで実践していくことを育む。		     					
育てたい資質・能力		教科・領域を関連させる意図・効果					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生きて働く「知識及び技能」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼市や鹿折地区の復興・発展に関連する諸課題が身の回りの地域のみならず、地球規模での自然・社会環境の変化に起因していることを理解することができる。 ・ 探究課題の解決に必要な情報を体験的に収集すると共に、ICT機器を活用しながら資料を収集・整理・分析する技能を身に付けることができる。 ○ 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼市や鹿折地区が抱える問題を順序立てて整理し、解決するために何が必要なのか多角的・多面的に考え、実践行動につなげることができる。 ・ 自分やグループで設定した探究課題についての考えを、ICT機器を活用しながら学校内外の人々に広くわかりやすく発信することができる。 ○ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決のために学校内外の他者と協働し、対話的に考えを深めようとする。 ・ 気仙沼市や鹿折地区の課題を自分ごととして捉え、体験を通して深めた考えを活用して実践行動につなげながら生活に生かそうとする。 	① ねらい	指導のねらいを関連付ける					
	② 内容	学習内容を関連付ける					
	③ 資質・能力	資質・能力を関連付ける					
	ア 強化	指導のねらいや資質・能力を強化する					
	イ 付加	学習内容を付加する					
ウ 補完	ねらいや学習内容、資質・能力を補完する						
月	時数【移行】	段階	児童の探究的な学習内容	探究方法・資料	形態	教科・領域との関連【移行内容】（関連内容）	評価と指導者の支援
4	1【総1】	第一回	<p>「一年間の見通しをもとう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション【1時間（総1）】 ① 海と生きる探究活動で学んだことを振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生の時に学んだ気仙沼や鹿折に伝わる「浪板虎舞」「白山小唄」等の郷土文化、4年生の時に学んだ鹿折川の水が育む様々な命や豊かな環境、5年生の時に学んだ気仙沼市の水産業について想起する。 ② 気仙沼のまちづくりのイメージを広げる <ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域にはない気仙沼市の魅力について考える。 ③ 1年間の学習の見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウェビングマップ ・ これまでの学習を想起させることや、全体気付き等を共有するためにウェビ 	一斉	他教科（領域）でも、思考ツール（ウェビング）を活用しながら、気付きを可視化したり、つながりを共有したりしながら、考えを整理する。【総合1・③-ア】	3年生からの総合的な学習及び海と生きる探究活動で学んだことを振り返り、今後の学習の見通しをもつことができる。【学びに向かう力・人間性】

【総1】	考えの更新	<p>①自分が調べたい探究課題を再設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼の魅力や課題を受けて、自分たちができるところについて考える。 ・調べ学習や講話、校外学習を通して、自分が調べたいと思ったことを探究課題として再設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈予想される課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼市の魅力についてさらに調べたい。 ・「スローフード運動」を取り入れて、自分たちに行えることは何か考えたい。 ・豊かな自然に育まれた新鮮な食材やそれを生かした料理を調べよう。 </div>	個人	<p>とめることができる。</p> <p>【国語1・②-A, 総合1】</p> <p>『友達の意見を聞いて考えよう』</p> <p>共通点や相違点を整理しながら、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>【国語1・②-A】</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>これまでの学習を想起し、探究課題を再設定し探究活動の見直しをもつことができる。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p>
2 【総2】		<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夢の舎 石田さん ○北かつまぐろ屋 ○ゆう寿司 	グループ		<p>「スローフード運動」や料理に込める思いを理解し、自分にできることや、オリジナルレシピづくりに考えを生かすことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p>

6 ・ 7	3 【総2】 【国1】	まとめ表現・振り返り・	「調べたことを発表しよう」 ○ 気仙沼市の魅力をまとめて発信しよう 【3時間（国1・総2）】 ① 気仙沼市の魅力が詰まったオリジナルレシピを作成しよう ・気仙沼市の郷土料理や食材を使ってオリジナルレシピを考える。3年生から5年生まで学習したこと（伝統・環境・産業等）を生かしながらオリジナルレシピを作成する。 ※オリジナルレシピを考案後、家庭で実際に作成してみる。 ②オリジナルレシピを発信しよう ・福島県山際食彩工房山際博美シェフと猪苗代町立翁島小学校と交流会を行う。 ・気仙沼市の海の幸と内陸の山の幸の双方の魅力を伝え合う。交流後は山際博美シェフから講評をいただく。 ※オリジナルレシピは、山際博美シェフが評価し、翁島小学校の児童のアイデアと併せて、海と山のコラボ弁当として、探究旅行で試食する。気仙沼の海の魅力を発信するだけでなく、内陸の食材のよさを、五感を使って体感し、多様性の大切さに気付かせる。 ○ 一学期の学びを振り返ろう【1時間（総1）】 ①1学期学んだことを振り返ろう ・第一次探究活動の中で学んだことや2学期に取り組みたい事を考える。 ・自分の探究課題の更新を行う。	※オリジナルレシピは、保護者の協力を得て、家庭で調理し、さらにレシピに工夫を加えられるようにする。 ○福島県山際食彩工房山際博美シェフ猪苗代町立翁島小学校6年生	一斉	『友達の意見を聞いて考えよう』 共通点や相違点を整理しながら、自分の考えをまとめることができる。 【国語1・②-ア、総合1】 タブレットを活用してオリジナルレシピの交流会の発表原稿やスライドを作成する。他教科でもタブレットを活用して考えを発信したり、整理したりする活動に取り組む。 【総合1③-ア】	これまで学んだことを生かして、様々なオリジナルレシピを考えられる。 【思考力・判断力・表現力】 相手に伝わるように話の内容を整理しながら、考えを相手に伝えることができる。相手の話を聞きながら相違点を考えて情報整理しながら聞くことができる。 【思考力・判断力・表現力】 1学期に学んだことを振り返りながら、今後の学習の見直しをもつことができる。 【学びに向かう力・人間性】
8	1 【総1】	問いをもつ・	「1学期を振り返ろう」 ○ ガイダンス【1時間（総1）】 ・1学期の学習を振り返り、自分が探究課題として設定したテーマを確認する。 ・2学期の校外学習の見直しをもつ。	○探究テーマを決めよう① ・調べたい探	一斉	1学期に学んだことを振り返りながら、自分が興味をもったことをさらに深めようとして	

9	22 【総15】 【社1】	情報の	<p>・探究活動を通して、まとめた市・県・国や世界の課題、環境・産業・文化等の問題点を想起する。</p> <p>・自分のテーマを再設定する。</p> <p>・校外学習で調べたいことや質問を考える。</p> <p>・児童の探究課題から探究領域を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈予想される探究領域〉</p> <p>食・郷土料理 課題：食を生かしたまちづくり</p> <p>国際 課題：外国人が安心して住めるまちづくり 気仙沼市の水産業を支える外国人に気仙沼の魅力伝えよう</p> <p>漁・水産業 課題：労働者不足や高齢化問題を解決するためにはどうすればよいか 気仙沼市の水産業を守るためにはどうすればよいか</p> <p>造船業・漁業関連産業 課題：労働者不足や高齢化問題を解決するためにはどうすればよいか 気仙沼市の基幹産業を支える造船業の魅力を他地域に発信するためにはどうすればよいか</p> <p>環境 課題：地球温暖化を防ぎ、海などの自然を守る 気仙沼のまちづくり 海洋ゴミなどを出さない、海と生きる気仙沼を目指すにはどうすればよいか</p> </div> <p>※ 複数の領域を選択してもよい。(興味がある領域が複数の場合や、探究課題が複数の領域にまたがる場合)</p> <p>「気仙沼市のまちづくりについて調べよう②」 ○ 第二次探究課題を設定しよう【1時間(総1)】</p>	<p>マ 一 定 学 習 し や た ら 題 定 を 再 設 定 す る。</p> <p>※ 校外学習や体験活動の充実を図る。</p>		<p>いる。探究課題を設定し、調べる見直しをもつことができる。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <p>※ 探究課題が調査活動で気付いた問題点や課題に基づいて、適切なものか、そして、調査可能な探究課題なのかに留意する。</p> <p>また、探究活動の目的や調査後の行動の見直しをもたせ課題設定を行うように指導する。</p>
---	---------------------	-----	---	---	--	---

10	【国4】 【理2】	収集・整理分析	<p>① 第二次探究課題を設定し、探究活動の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域毎にグループに分かれ活動の計画を立てる。 ・どのような人から話を聞か、どのようなゴールを設定するのかを確認する。 <p>② 5グループに分かれて調査活動を行う。</p> <p>【19時間（社1・国4・総合12・理2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の探究課題に合わせて、活動を実施する。 ・探究課題が複数の領域と関連する児童は、多領域の校外学習や体験に参加し、情報を整理する。 	<p>※児童の探究課題に合わせて、資料や講師を選択する。</p> <p>○北部カツオマダロ漁業協同組合の菊田氏と鹿折加工協同組合の村松氏（事務局長）</p> <p>○北部カツオマダロ漁業協同組合、鹿折加工協同組合</p> <p>○気仙沼市役所小さな大使館</p>	<p>班</p> <p>個人</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>班（一斉）</p> <p>一斉</p>	<p>地域と外国のつながりについて考えながら、調査対象を深く調べ、進んで調べることできる。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <p>地域の事柄や市・県・国や世界の様子などについて、環境・産業・文化等の事象の特色や関係性、問題点に気付くことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>楽しく食事をするため の工夫を考えよう。 (家庭科・②-イ)</p> <p>『日本とつながりの深い国々』国際 中国やインドネシアなど、日本とつながりのある国の特色などについてまとめ、発表したことを振り返る。</p> <p>【社会1・②-イ】 【総合2】</p> <p>地域と外国のつながりについて考えながら、調査対象を深く調べ、進んで調べることで</p>
情報の収集・整理分析・表現			<p>食・郷土料理【総合1】（家庭科※他教科との関連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミヤカンさん、鹿折加工組合に缶詰を使用したレシピを提案する。また、気仙沼市の魚市場で水揚げされる新鮮な食材が詰まった缶詰の魅力が伝わるようなポスター・CMを考える。 <p>【校外学習・班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プチシェフコンテストに参加し、気仙沼市の新鮮な食材を使用したレシピを考案する。 <p>【体験・個別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部鯉鮪漁業組合の方から、気仙沼市を代表するカツオやサンマ等の魅力を教えてもらう。 <p>【講話・実習・調理】</p> <p>国際【社会1＋総合2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マダロ延縄船や水産加工場の外国人労働者について調べ、外国人労働者が安心して生活できるような方法を提案する。 <p>【校外学習・班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の産業基盤形成に向けた気仙沼企業の取り組みを調べ、外国とのつながりを気仙沼や他地域へ発信する。（SDGsとの関連） <p>【校外学習・班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人交流会を開催または日本語教室に参加し、外国人との交流を深める。 <p>【校外学習・インタビュー・講話】</p>			

	<p>・行動</p>	<p>漁【総合2＋国語3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部鯉鮪漁業組合の方から、マグロ延縄船の労働者不足を聞き、水産業を守る取組について考える。【講話】 ・気仙沼市の漁業を守るために自分たちができることを話し合う。【ダイベート】 <p>造船業・漁業関連産業【総合4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みらい造船所見学を通して、漁船の建造工程を知る。また、気仙沼市の水産業を支える産業で働く人の思いを考え、造船所の魅力を発信する。【校外学習・班】 ・出船送りに参加し、気仙沼市の基幹産業を支える人の思いを知り、発信する。【校外学習・班】 <p>環境【国語1＋理科2＋総合3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学海洋アライアンス丹羽教授の講話と実験を通して、海面上昇について知る。【講話・実験】 ・東北大学の須賀教授の講話から、温暖化の影響について知る。また、どのような対策や方策が有効課アドバイザーをいただく。【講話】 ・気仙沼市の環境を守るためにプラスチックをなるべく使用しないように呼びかけるポスターを作成する。【校外学習・班】 <p>○ 学んだことを整理しよう。【2時間（総合2）】</p> <p>①気仙沼市のまちづくりについて、学んだことを整理しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の探究課題に沿って調べたり、行動したことパンフレットにまとめる。 ・学んだことをリーフレットにまとめ、探究旅行で活用できるようにする。 	<p>○北部カツオマグロ漁業協同組合</p> <p>○みらい造船所の中居氏，三浦氏</p> <p>○北部カツオマグロ漁業協同組合</p> <p>○東京大学海洋アライアンス</p> <p>丹羽教授の講話と実験</p> <p>○東北大学の須賀教授の講話</p>	<p>『話し合って考えを深めよう』</p> <p>話し合いの計画を立て、相手の意見から、共感したり納得したりできる内容かどうかを考え、互いの意見を整理したり分類したり話し合う。【国語3・③-U】</p> <p>『物語を読んで考えたことを伝え合おう（海のいのち）』環境</p> <p>学習や体験を振り返り考え方等の成長を確かめ次の取組や学習への意欲を高める。【国語1・②-A】</p> <p>『水溶液の性質と働き』</p> <p>違いについて予想し、確かめる方法を考える。性質やはたらきについてまとめる。【理科2・②-I】</p>	<p>きる。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <p>地域の事柄や市・県・国や世界の様子などについて、環境・産業・文化等の事象の特色や関係性、問題点に気付くことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>探究活動を通して考えたことをもとに、友達と協力しながら、課題解決につながる行動につなげることができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>相手が分かりやすいように要点を整理しながら表現すること</p>
--	------------	--	--	---	---

10	1 1 【社2】 【国9】	まとめ ・表現 ・行動	<p>「地域や他地域に向けて発信しよう」</p> <p>○ 調べたことを整理しよう【5時間（国5）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことをポスター（模造紙の半分のサイズ）にまとめ。 調べた探究課題と課題の設定理由，調べて行動したことで，調べた自分が考えたことを整理し，模造紙に書く。 発表会の準備を行う。ポスターを使って調べたことを発表できるように発表メモを作成する。 調査した課題や問題点などを学級で話し合い深める。（まとめること） <p>①探究課題 ②課題設定の理由</p>	<p>○ 校外学習 で見学し た際に，収 集した資 料 ○ インター ネットで収 集した資料</p>	個人	『防災ポスターを作ろう』 読み手の興味関心を引き出すように，必要な情報を整理し，自分の考えをまとめ，呼びかけることができるように表現していく。 【国語3・③-ア】 『世界に目を向けて意見文を書こう』	<p>『会津若松市のまちづくり』 気仙沼市と会津若松市のまちづくりを比較しよう。 【総合4・②-ア】</p>	<p>ができる。 【思考力・判断力・表現力】 【知識及び技能】</p> <p>資料の情報を整理しながら，探究的な活動の計画を立てることができる。 【思考力・判断力・表現力】</p>
			<p>②探究旅行の準備をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究旅行で自分が深めたい課題を整理する。 領域毎にグループをつくり，調べたいことをまとめる。 気仙沼市と会津若松市のまちの特徴を比較し，「どのようなまちづくりがなされているかを調査する」という目的を確認する。 <p>○ 会津若松のまちづくりについて調べよう。 【5時間（総合5）】</p> <p>①会津若松と気仙沼市のまちづくりを5つの領域から調べる。</p> <p>「会津若松のまちづくりについて調べよう」</p> <p>○ 5グループに分かれて調査活動を行う。 【16時間（総合16）】※時数は総合から計上</p> <ul style="list-style-type: none"> 気仙沼市のまちづくりと比較して探究活動を進める。 領域毎にグループを分け探究活動を行う。（グループ） <p>① 食・郷土料理 ② 産業 ③ 環境 ④ 国際 ⑤ 工業・ものづくり</p>					

11			表現 ・ 振り返り ・ 考えの更新	<p>③調べたこと (2～3点) 調べて行動したこと</p> <p>④探究活動を通して自分が考えたこと</p> <p>○ 調べたことや実践したことをポスターにまとめ発信しよう【6時間(国4・社2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人でまとめた探究課題について調べたことを3・4グループに分かれ、ポスターセッション形式で発表する。 ・発表したこと、聞いたことを振り返り、疑問に思ったことや、さらに調べたいことをまとめる。 <p>※ 学級で発表した児童の中から、「海洋サミット」公民館まつり」の代表を決定する。</p>		<p>主張を考え、効果的な資料の活用方法や構成を意識して構成メモを書く。</p> <p>【国語3・③-ウ】 『世界の未来と日本の役割』 環境問題について話し合う。また、環境保全についての取り組みについて自分たちができることを考える。 【社会2・②-ウ】</p> <p>『町の未来を考えよう』 町づくりについて調べ提案を考える。プレゼンテーションを作成し発表し合い意見の交流を図る。 【国語3・③-ウ】</p>	<p>する。</p> <p>相手に伝わるように意識して、要点を明確に言葉遣いや話し方に情報の取り上げ方に気を付けながら表現することができる。</p> <p>【知識及び技能】 探究活動を通して調べたことを、構成を考えながらまとめ、自分の考えが聞き手に分かりやすいように伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力】</p>
1	6 【国1】 【理5】	第三次	振り返り ・ 分析 ・ 行動	<p>「発表会を振り返って」</p> <p>○ 課題を修正する【1時間(国1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の探究課題や自分の発表を振り返って修正・発展・補充の見直しをもつ。 <p>○ 海と生きる私・未来について考える【5時間(理5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、補充的な活動を行う。 ・電話やメール等で企業の方に質問を聞く。 ・海とつながる気仙沼市のあり方について考える。 ・私たちの生活について考える。 	<p>一斉 個人</p>	<p>『未来に向かって』 自分の考えを広めたり深めたりし、伝え合う。 【国語1・②-ウ】 『地球に生きる』 人間のくらしと環境の関わりに興味をもち、環境を保全するためにどのような取り組みや工夫をしているか話し合う。</p>	<p>2学期に学んだことを振り返りながら、自分が興味をもったことをさらに深めようとしている。 【学びに向かう力・人間性】</p>

2	4 【総4】	4 【総4】	「海のフォーラム in 鹿折」 ○ 調べたことをまとめよう【2時間（総2）】 ・ポスター発表の準備をする。 ・ポスターの他にCMやパンフレット等を作成する。 ○ 調べたことや実践したことをポスターにまとめ発信する【2時間（総2）】 ・「海洋フォーラム」を開き、地域の方々、講師の方を招き、学習したことを発信する。 〈実施内容〉 ①ポスター発表 ②活動の振り返り ③パネルディスカッション ④講師の先生から ・個人探究課題について調べたことを発表する。 ・友達の発表を聞き、意見交換を行う。		【理科5・②-U】	海と生きる気仙沼市のまちづくりについて、自分なりの考えをもち、行動を通して課題を解決しようとしている。 【学びに向かう力・人間性】 探究活動を通して調べたことを、構成を考えながらまとめ、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力】
---	-----------	-----------	--	--	-----------	--

第3学年1組 海と生きる探究活動学習指導案

日 時：令和3年9月15日（水）5校時

場 所：3年1組教室（2階）

指導者：教諭 三上 拓郎

1 大単元名 「鹿折の宝～人・自然・ものを見つけよう～」

- 鹿折地区の人が守り続けてきた自然・伝統・産業などを体験的に学び、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることに気付く。また、活動を通して自然や伝統、産業を大切にしようとする態度を育む。

2 小単元名 「鹿折・気仙沼の宝を見つけよう②～浪板虎舞～」

3 小単元のねらい

- 気仙沼・鹿折地区に伝わる「浪板虎舞」を体験的に調べ、まとめたり、実際に演技したりすることを通じて、それに携わっている人々の思い等を理解し、地域に対する自分の考えや思いをもつことができる。

【知識及び技能】

- ・ 気仙沼市や鹿折地区に、古くから伝わっている「浪板虎舞」を知り、それに携わっている人々の思い等を理解することができる。
- ・ 探究課題の解決に必要な情報を体験的に収集し、それらを整理・分析する技能を身に付けることができる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・ 「浪板虎舞」について、体験的・探究的に情報を収集し、それを基に自分の考えや思いをもつことができる。
- ・ 自分やグループで設定した探究課題についての考えを、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。

【学びに向かう力・人間性等】

- ・ 自分たちの地域の伝統文化について興味・関心・疑問をもち、進んで活動しようとする。
- ・ 他者と進んでかかわり、共に考えようとするすることができる。

4 指導にあたって

(1) 単元観

鹿折地区に伝わる「浪板虎舞」は、江戸時代中期（1718年頃）から伝わる郷土芸能で、平成18年より気仙沼市無形民族文化財に指定されている。笛と大小の太鼓による打囃子に合わせて、3人立ちの大きな虎が、虎バカシ（虎の先導役）に導かれて舞い、約15メートルの大梯子によじ登って舞う勇壮な姿が特徴の虎舞である。

その由来としては、江戸時代に江戸通いの地元船が消息を立ち、その家人が大島亀山の山頂に松を植え供養したところ、そこにトラネコが現れて舞い、突如、消息を立っていた船が地平線に現れたというところに由来している。「虎は千里行って千里帰る」という故事にも由来し、悪魔祓いや厄除けとともに、大漁祈願や航海安全の願いも込めて、浪板地区にある飯綱神社に古くから奉納されてきた。

この郷土芸能が伝わる浪板地区では、昭和8年に保存会を設立し、浪板虎舞の保存と継承に努めてきている。浪板一区、二区の全戸で構成し、浪板一区、二区以外には入会が認められない

「門外不出」の郷土芸能にもなっている。地区の子供たちは小学生になると保存会への自動入会となり、保護者や地域住民と共に練習に励む。虎舞の演技は仙台や関東などで披露することもあり、全国的な活動の展開も行なっている。

「浪板虎舞保存会」の活動の様子を実際に見てみると、小学生やその保護者、地域住民だけでなく、中学生や高校生などの若い世代も、毎日のように練習に参加している。その中では、世代を越えて声を掛け合い、練習に取り組む姿が伺え、「虎舞」を通して地域コミュニティが維持されていることが伺える。保存会の方にお話を聞くと、「一度、浪板地区を離れた若い世代も地元に戻ってくると保存会の練習に参加してくれる人がたくさんいる。地元で子供を産んで、その子が保存会に入会して、一緒に練習できるのが嬉しい」などという話も聞く。浪板地区では、現代社会において失われがちな「世代を超えた交流」が郷土芸能を通して行われてきており、その中で地域や人が豊かに育ってきていることが想像つく。

現代は、地域コミュニティが衰退していることが多く、地域における人々の交流が少なくなっている。このため、子供たちが、地域の人々から世代を超えて地域に対する思いや願いを感じ取る機会は少ない。

このため、世代を超えた交流がある鹿折・浪板地区の「浪板虎舞」を体験的に調べ、追究する中で、子供たちに、それに関わる人々の思いや願いについて気づかせたいと考え、本単元を設定した。浪板虎舞の講話を聞いて、体験活動を行い、それを基に虎舞の由来をまとめて、劇化する活動や、自分たちが実際に浪板虎舞を練習し、保存会の方々と演じ切る過程の中で、「どのような思いで保存会の方が活動をしているのか」「なぜ、浪板虎舞は300年間継承されてきているのか」「浪板虎舞について、今の自分が思うこと」などを深く掘り下げていき、自分たちの住む地域を大切に思っている人々がいることや、地域に対して自分たちはどのようにしていきたいのかについて考えさせ、海と生きる探究活動の上学年の活動にもつなげていきたい。

(2) 児童観（男子9名、女子15名、計24名）

本学級の児童は、自ら進んで考え、意欲的に活動する児童が多い。学習規律を守りながら、集中して学習に取り組み、話し合い活動の中でも自分の意見をしっかり持って、相手に伝えることができる。しかし、相手の意見をよく聞いて、グループの中で意見を調整することを苦手とする児童も多い。

児童はこれまでに「鹿折・気仙沼の宝を見つけよう①～天旗祭り～」において、気仙沼の伝統文化である天旗について学習してきた。初めは、天旗について何も知らない児童がほとんどだったが、凧の会の方々の講話や連凧制作・試し上げを通じた体験活動を通して、天旗の魅力を知り、天旗が「気仙沼の地形や自然と結びついた大切な伝統文化である」ということに気づく児童が多くいた。しかし、天旗の学習では、それに携わる人々の思いについてはなかなか迫ることが難しかった。そこで、本単元では、天旗の学習ではなかなか気付くことができなかった「伝統文化に携わる人々の思い」について迫るようにしていきたい。

児童の実態を把握し、活動の充実を図るために、意識調査を行なった。

質 問	回 答			
(1) 気仙沼や鹿折地区は好きですか？	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
	21人 (88%)	2人 (8%)	0人 (0%)	1人 (4%)
(2) その理由を書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・魚が美味しい。 ・自然がたくさんある。 ・人が優しい。 など 		<ul style="list-style-type: none"> ・あまり詳しくないから。 	

(3) 気仙沼や鹿折地区の伝統文化で知っているものはありますか？	・はまらいや ・みなと祭り ・浪板虎舞 ・天旗	
(4) 浪板虎舞を実際に見たことはありますか？	はい	いいえ
	12人 (50%)	12% (50%)
(5) 浪板虎舞について知っていることはありますか？	・太鼓に合わせて、虎が舞う。 ・お祭りの時にやることが多い。	
(6) 浪板虎舞について調べてみたいことはありますか？	・なぜ、虎舞をするのか？ ・どうやって虎を作るのか？ ・どのような動きをするのか？ など	

気仙沼・鹿折地区を好きな児童がほとんどで（23人：96%）、その理由としては、自然や人、食について書いている児童が多く見られた。嫌いな児童が1名いるため、海と生きる探究活動の学習を通して、地域を好きになっていくように指導していきたい。

浪板虎舞については、これまで実際に見たことのある児童がいるものの（12人：50%）、まだ実際に見たことのない児童も多く（12人：50%）、また、見たことのある児童も、浪板虎舞の様子や姿については捉えているが、虎舞の由来や歴史、それに携わる人々の思いや願いについては気付いていない。このため、本単元の学習においては、児童がまだ捉えられていない虎舞の由来や歴史、それに携わる人々の思いや願いについて気付かせていくようにしたい。

また、学び方についての調査も行った。

質 問	回 答			
(1) 自分で調べたいことを見つけることは得意ですか？	得意	まあまあ得意	あまり得意ではない	得意ではない
	10人 (42%)	9人 (36%)	3人 (13%)	2人 (8%)
(2) 自分で調べたいことを調べることは得意ですか？	得意	まあまあ得意	あまり得意ではない	得意ではない
	9人 (36%)	10人 (42%)	4人 (17%)	1人 (4%)
(3) 自分で調べたことをまとめるのは得意ですか？	得意	まあまあ得意	あまり得意ではない	得意ではない
	6人 (25%)	6人 (25%)	11人 (46%)	1人 (4%)
(4) まとめたことから、次に調べたいことを見つけることは得意ですか？	得意	まあまあ得意	あまり得意ではない	得意ではない
	8人 (33%)	8人 (33%)	8人 (33%)	0人 (0%)
(5) グループの話し合いで、自分の意見を伝えることは得意ですか？	得意	まあまあ得意	あまり得意ではない	得意ではない
	13人 (54%)	8人 (33%)	3人 (13%)	0人 (0%)
(6) グループの話し合いで、相手の意見を聞い	得意	まあまあ得意	あまり得意ではない	得意ではない

て、グループとしての意見をまとめるのは得意ですか？	8人 (33%)	7人 (29%)	7人 (29%)	2人 (8%)
---------------------------	-------------	-------------	-------------	------------

調べたいことを見つけて、調べることは得意としている（19人：79%）が、調べたことをまとめることを苦手としている児童が多い（12人：50%）。また、グループでの話し合いも、自分の意見を伝えることは得意としている（21人：87%）が、相手の意見を聞いて、グループとしての意見をまとめることは苦手としている児童もいる（9人：38%）。このため、本単元の学習においては、グループで調べたり、まとめたりすることによって、相手と意見を調整し、グループとして意見をまとめる力も身に付けさせたい。

以上の結果から、本単元の学習においては、浪板虎舞の由来や保存会の歴史を調べたり、まとめていく中で、次に調べてみたいことやまだ明らかになっていないことが、児童の中で明確になるような指導の工夫を行い、新たな課題を発見する力を身に付けさせていきたい。一連の学習活動を通じて、浪板虎舞を継承してきた人々の思いや願いに気付かせ、この地域で暮らす一員としての誇りや自覚を持たせるようにしていきたい。

（3）指導観

以上のことから、次のことに留意して指導を行っていく。

- 虎舞の映像から、「疑問に思ったこと」「調べてみたいこと」を挙げ、クラスで分類して、共有を図り、解決への意欲を高める。また、保存会の方に聞いてみたいことを事前に整理し、講話・体験活動の中で質問を行う。講話の中では、主に、虎舞の由来や保存会の歴史について資料を基にお話しいただく。
- 講話・体験活動のまとめの際には、「わかったこと」と「考えられること」を明確に分け、調べた事実とそうでないことを分かるようにさせる。「考えられること」については、次の追究活動へ向かう際の手掛かりになることを意識させ、新たな課題を発見する力が身に付くようにしていきたい。
- 国語科の「グループの合い言葉を決めよう」と関連させて、講話・体験活動で得た情報を基に、グループで、場面毎に浪板虎舞の由来や保存会の歴史をペープサートで劇化してまとめる活動を行わせ、グループで情報を整理し、表現する力を身に付けさせたい。また、この活動中に、より詳しく調べたいことが出た場合、保存会の方へ追加質問することも行い、深く追究する力も身に付けさせたい。
- 学芸会と関連させて、ペープサートでまとめたものを劇として演じさせ、浪板虎舞の由来や保存会の歴史をより深く体感的に深く学習させる。また、浪板虎舞の小太鼓の打ち囃子と、虎や虎バカシの演じ方も練習し、保存会の方々と浪板虎舞を演じ切ることで、保存会の方々の思いにも触れさせたい。この場合、学芸会へ向けては、学活「学芸会を成功させよう」と関連させ、虎舞の練習については、音楽科「ちいきにつたわる音楽でつながろう」、体育科「虎や虎バカシを工夫して表現しよう」（表現）と関連させて行う。
- 学習のまとめとして、国語科「想ぞうを広げて物語を書こう」と関連させて、浪板虎舞の由来や保存会の歴史から、場面や人物の行動、会話、気持ちを想像して、個人で物語をまとめさせる。その場合、浪板虎舞の物語だけでなく、保存会の方々の思いや、学芸会を通しての自分の思いも文章に表現できるようにさせていく。
- 単元中においては、「なぜ、虎舞は300年継承されてきたのか」「なぜ、保存会の方々は、今も虎舞を継承させようとしているのか」等について考えさせるようにしていき、郷土芸能の大切さや地域における人々の交流の大切さに気付かせるようにしていく。また、その上で、自

分たちが今後この地域をどうしていきたいかについても考えるようにさせ、地域の一員としての自覚を持たせるようにしたい。

- 各活動が行われた際には、感想を書かせ、その時の自分の思いが記録に残るようにする。また、自分が書いた感想の振り返りを行いながら、自分の思いも少しずつ変化し、それが自身の成長へつながっていることにも気付かせていきたい。

(4) 校内研究との関連

① 校内研究の主題と副題

「問い」をもち、主体的に学び続ける児童の育成
～海と生きる探究活動・生活科を中心とした横断的・探究的なカリキュラムの活用を通して～

本単元では以下の手立てを講じて、目指す児童の姿に迫っていく。

② 視点について

本単元では、研究の視点に沿って以下の手立てを工夫し、指導にあたりたい。

【視点1】 児童の考えを深め、多様に表現させる工夫

ア 体験活動と実物と接する活動の設定

- ・ 浪板虎舞保存会の方から、浪板虎舞の由来と保存会の歴史についての講話をいただく機会を設け、虎舞に携わっている方の思いを読み取らせる。また、同時に、浪板虎舞の体験も行い、実際に小太鼓を叩いたり、虎に触れたり、虎バカシを演じたりすることで、虎舞に対する関心を高める。
- ・ 学芸会と関連させて、学芸会に向けて虎舞の練習を行うことで、浪板虎舞が継承されてきている良さを感じ取らせる。また、浪板虎舞の由来や保存会の歴史をペープサートで劇化し、学芸会で演じ切ることで、当時の人々の思いや継承してきた人々の思いを体感的に感じ取らせる。

イ 探究的・協働的な学びを支える力の育成

- ・ 調べ学習を行う際は、「疑問に思ったこと」、「わかったこと」、「考えられること」のように色分けして情報の整理をさせる。また、その情報から「さらに疑問に思ったこと」があれば追加して、追究させていく。これらを日常的に共有し、児童の探究への意欲を高める。
- ・ 虎舞の由来や保存会の歴史について、グループによるまとめ活動をペープサートで劇化させながら行わせ、グループの友達の視点も加えながら、多様な表現で追究させる。

【視点2】 振り返りと評価の工夫

ア 児童が自分の学びを実感できる振り返り

- ・ 活動毎に感想を書かせ、感想を交流したり、蓄積させていくことで、後で見返した時に、自分の学びをフィードバックできるようにする。その場合、感想の変化が自身の成長につながっていることを意識させる。
- ・ 虎舞の劇や演技を保存会の方から評価していただくことによって、劇や演技を創り上げてきた喜びを感じ取らせる。

イ 新しい「問い」や疑問を引き出す評価と振り返り

- ・ 講話やインタビューから聞いたことを基に、「わかったこと」と「考えられること」をまとめ、「考えられること」は、新しい「問い」の手がかりになることを意識させ、「さらに疑問に思ったこと」を追加し、追加質問させたりする。
- ・ 各学習の振り返りにノートやワークシートを用い、虎舞について改めて疑問に思ったことや感じたことがあれば、適宜、記録するようにしていく。場合によっては、保存会に追加質問させたりする。

5 単元指導計画（年間指導計画参照から変更分を記載） ※年間指導計画は別紙参照

○「鹿折・気仙沼の宝を見つけよう②～浪板虎舞～」 全24時間（他：音3，体6，学2，行10）

月	海と生きる探究活動【時数】	学習活動	<海探への移行単元> [他教科との関連]
8	○浪板虎舞について調べてみたいことを見つけよう。【2】	浪板虎舞の動画を見て、調べてみたいことを挙げる。	
		講話・体験，インタビューに向けて調べてみたいことを整理する。	
9	○虎舞保存会の方のお話を聞いて、虎舞の由来や保存会の歴史を知ろう。【4】 ・講話，体験（2） ・まとめ（2）	浪板虎舞保存会の方の講話を聞き、虎舞の由来や保存会の歴史を知る。また、虎舞を体験する。	
		講話で聞いたことや体験して感じたことをまとめる。	
	○浪板虎舞の物語を作ろう。【3】	講話で聞いたことや体験したことを基に、場面毎にグループで話し合いながら虎舞の物語を作る。 ①グループで話し合い，登場人物や場面を考えて，あらすじを作る。（1） ②グループで話し合い，台詞や場面の様子を言葉や文で表し，物語の台本を作る。（2）	<国海>「グループの合い言葉をきめよう」（3／7）
	○浪板虎舞の物語を発表しよう。【5】 ・準備（2） ・練習，収録（2） ・鑑賞会（1）<本時>	グループで作った物語をペーパーサートで表し，発表会を行う。	
	○学芸会を成功させよう。（学1）	学芸会に向けて，学芸会で伝えたい思いを話し合う。また，学芸会演目タイトルを決める。	[学]「学芸会を成功させよう」（1）
	○ちいきにつわたる音楽でつながろう（音3）	祭り囃子に親しみ，「通り」「運連舞」を練習する。	[音]「ちいきにつわたる音楽でつながろう」（3）
	○虎や虎バカシを工夫して，表	太鼓のリズムに合わせて，虎や虎	[体]「表現」（6）

	現しよう。(体6)	バカシの表現を工夫する。	
10	○保存会の方に演技を見てもらおう。【2】	浪板虎舞保存会の方に虎舞の演技を見ていただく。(2回予定)	
	○学芸会の練習をしよう。(行5)	学芸会で行う劇の練習をする。	[行] 学芸会練習
	学芸会児童公開 (行4)	※笛, 大太鼓の音はCDで流しながら行う。	[行] 学芸会児童公開
	○保存会の方々とリハーサルをしよう。【1】	学芸会に向けて浪板虎舞保存会(笛, 大太鼓)とリハーサルをする。	
	学芸会 (行1)	※虎舞の演技は浪板虎舞保存会(笛, 大太鼓)と共演。	[行] 学芸会一般公開
	○学芸会の振り返りをしよう。(学1)	学芸会の取り組みの振り返りを行う。	[学]「学芸会を振り返ろう」(1)
	○これまでの学習の振り返りをしよう。【1】	浪板虎舞の学習について振り返りを行う。	
	○虎舞の物語を書こう。【6】	浪板虎舞の物語から, 場面や人物の行動, 会話, 気持ちを想像して物語をまとめる。	<国海>「想ぞうを広げて物語を書こう」(6/8)
※9月上旬より中央虎舞保存会より小太鼓を借用し, 小太鼓打ち囃子「通り」「運連舞」の2曲を練習予定。また, 浪板虎舞保存会より虎頭を借用し, 虎及び虎バカシの演技も練習予定。			

6 本時の指導 (12/24時間)

(1) 本時のねらい

浪板虎舞の由来と保存会の歴史をペープサートで表現する活動を通して, 浪板虎舞についての理解を深め, 虎舞を演じる際の自分の思いをもつことができる。

知識及び技能等

- 浪板虎舞の由来と保存会の歴史をペープサートで表現し合うことによって, それらについて理解を深めることができる。

思考力・判断力・表現力等

- 浪板虎舞の由来や保存会の歴史について, 体験的・探究的に収集した情報を, 相手や目的に応じて分かりやすくまとめ, 人々の思いを想像しながら表現することができる。

学びに向かう力, 人間性等

- 浪板虎舞について関心をもち, 虎舞を演じる際の自分の思いをもつことができる。

(2) 手立て

- グループ毎に, 浪板虎舞の由来や保存会の歴史をペープサートで表現し合うことで, 当時の人々の思いや継承してきた人々の思いを感じ取らせる。 【視点1-ア】
- 発表を聞く視点を持たせ, その視点を基に, 感じたことを伝え合わせ, 児童の学習を深める。また, 最後に, 自分たちが虎舞を実際に演じるときの思いについても書かせ, 全体で交流し, 深め合う。 【視点2-アイ】

(3) 準備物

教師：タブレット，スクリーン，スピーカー

児童：タブレット，ノート

(4) 指導過程

段階	・主な学習内容	教師の○発問 □指示 ・予想される児童の活動	・教師の働きかけ ※研究の視点に基づく手立て	【評価】 (方法)
導入 5分	1 これまでの活動の様子を振り返る。	○これまでどのような活動をしてきましたか。 ・保存会の方からお話を聞いて，虎舞を体験した。 ・虎舞の由来や保存会の歴史をペープサートでまとめてきた。	・これまでの活動を振り返らせ，学習の道筋を確認させる。	
展開 3分 5分	2 本時の課題を確認する。	□ペープサートでまとめた劇の鑑賞会をしましょう。		
	㊦ ペープサートげきを見て，とらまいにかかわる人の思いを感じ取ろう。			
	3 グループ毎のペープサート劇を鑑賞し合う。	□虎舞に関わってきた人の思いを感じ取りながら，ペープサート劇を見ましょう。 ・①から④の場面のペープサート劇を見ましょう。 ①江戸時代の気仙沼～海との暮らし～	※鑑賞の視点を持たせ，感じたことを交流することを伝える。 視点2 アイ ・各グループの劇は2分程度となる。 ※劇の鑑賞が終わったら，感じたことを伝え合わせる。 視点2 アイ ※当時の人々や継承してきた人々の思いを改めて感じ取らせる。 視点1 ア ・300年前の江戸時代の気仙沼も海とともに	【知・技】 ・劇を見て，改めて分かったことや感じたことがあるか。また，虎舞に関わる人々の思いを想像できたか。(発表・ノート)

		<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の気仙沼の様子 ・海を中心とした生活 <p>②江戸通い船の消息と悲しみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸通い船が消息する ・海の怖さ、人々の悲しみ <p>③大島亀山の松と虎猫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大島亀山に松を植える供養 ・虎猫が現れ、踊り、消息船が水平線に現れる <p>④虎舞の始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虎舞を始める人々 ・虎舞に込めた意味 ・神社への奉納 <p>□①～④の場面を通して、感じ取ったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑤～⑥の場面のペープサート劇を見ましょう。 <p>⑤保存会の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存会成立の経緯，歴史 ・保存会の喜び，苦勞 <p>⑥現在の保存会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災と現在の保存会の活動 <p>□⑤～⑥の場面を通して、</p>	<p>生きていたことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の人々がとても悲しんだであろうことを想像させる。 ・海は危険であることも確認する。 ・松を植えた時の気持ちと虎猫が現れ、消息船が現れた気持ちの対比をさせる。 ・なぜ、虎舞を始めたかや神社へ奉納する意味を考えさせる。 ・江戸時代に虎舞に関わってきた人々の思いを感じ取らせる。 ・保存会を設立した人々や継承させてきた人々の思いを考えさせる。 ・震災当時の保存会の活動について考えさせ、現在の保存会の人々の思いを考えさせる。 ・昭和，平成時代に虎舞 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表することを通して、当時の人々の思いや継承してきた人々の思いを感じ取り、表現することができたか。（発表）
--	--	---	---	--

	<p>4 これから虎舞を演じる際にあたっての自分の思いを考え、ノートに書く。</p>	<p>感じ取ったことを発表しましょう。</p> <p>□これから、実際に虎舞を演じるにあたって、どのような思いを持って、虎舞を演じたらいいと思いますか。ノートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・300年前の家族の虎猫への感謝を忘れないで演じるのがよいと思う。 ・家族が助かった奇跡や喜びを忘れないで演じたらいいと思う。 ・300年前からみんなで大切にしてきた虎舞を大事にして演じたらいいと思う。 ・保存会のように虎舞を盛り上げながら、演じたらいいと思う。 ・震災の時のように、みんなを元気づけるような虎舞を演じたらいいと思う。 ・300年分の思いを大切にしながら、演じたらいいと思う。 	<p>に関わってきた人々の思いを感じ取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えが出てこない場合は、補助発問として、児童が作ったペープサートを持ちながら、発問し、虎舞に関わってきた人物の思いを読み取らせる。 <p>①300年前に虎舞を作った家族や人々からの思い</p> <p>②保存会を設立した人々からの思い</p> <p>③震災後や現在の保存会の方々からの思い</p> <p>④虎猫からの思い</p>	
<p>終末5分</p>	<p>5 これから虎舞を演じる際の自分の思いについて交流する。</p>	<p>○ノートに書いた自分の思いを交流しましょう。</p>	<p>※全体での交流はロイロノートにて行う。</p> <p>視点2 アイ</p>	<p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虎舞に関わってきた人物の思いも考えながら、虎舞を演じる際の自分の思いを書き表すことができたか。(ノート)

(5) 本時の評価

評価規準（評価方法）	評価基準	
	十分満足できる（A）	支援を要する児童（C）への手立て
<p>・学んだことをペープサートで表現する活動を通して、浪板虎舞の由来や保存会の歴史についての理解を深めることができる。（発表，ノート）</p>	<p>・浪板虎舞の由来や保存会の歴史について，収集した情報を，相手や目的に応じて分かりやすくまとめ，人々の思いを想像しながら表現することができる。 （発表，ノート）</p>	<p>・体験活動の時の写真や資料を活用し，浪板虎舞保存会の方々の思いを想起できるようにする。 （発表，ノート）</p>

(6) 板書計画

⑦ ペープサートげきを見て，とらまいにかかわる人の思いを感じ取ろう。

①えど時代の気仙沼 ④とらまいの始まり

・

・

②船のしょうそくと悲しみ ⑤保ぞん会のせつ立

・

・

③大島かめ山のとらねこ ⑥現ざいのほぞん会

・

・

☆どのような思いをもって，とらまいをえんじるか？

スクリーン

第4学年 海と生きる探究活動学習指導案

日時：令和3年10月28日（木）5校時

場所：4年1組教室

指導者：教諭 菅野 恒成

1 大単元名 「山・川・里・海の生命をつなぐ鹿折川」

2 小単元名 「鹿折川から環境を考えよう」

3 小単元のねらい

- 鹿折川の生物調査や鹿折川の水を利用した稲作体験等を通して気付いたことから課題を設定して調べることで、地域の環境保全・改善に関わろうとする態度を養う。
- 地域社会の一員として、よりよい生活環境を考え、環境を守る一員としての自己の役割について深く考え、表現することができる。

【生きて働く「知識及び技能」】

- ・地域の環境保全に向けて必要な情報を集め、整理・比較・関連付けて考えている。
- ・探究課題の解決に必要な情報を収集し、それらを整理・分析する技能を身に付けることができる。

【未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」】

- ・環境保全・改善のために、自分たちができることを考えることができる。
- ・自分やグループの考えを、レポートに表現して分かりやすく発表することができる。

【学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」】

- ・探究課題解決のために、友達と協力し合いながら情報収集したり、集めた資料を整理・分析したりしてまとめようとする。
- ・学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。

4 指導にあたって

(1) 単元観

東日本大震災から10年が経過し、気仙沼市は復興が進み、市の基幹産業といえる水産業も震災以前の姿を取り戻しつつある。気仙沼市は、古くから海と深いつながりを持ち、これまで多大な恩恵を海から得てきた。牡蠣やワカメの養殖業を営む人々も多く、市に住む私たちは豊かな自然に生まれ、長い年月をかけて海と関わりの深い文化や伝統を築いてきた。

しかし、近年、地球温暖化の影響による海水温上昇や海面の上昇によって、生態系のバランスが崩れ始めている。気仙沼市を代表する秋の味覚であるサンマも、温暖化の影響から漁獲量が減り、水産業は深刻な影響を受けている。また、水質汚染の問題も大きい。気仙沼湾で行われる養殖業は、赤潮や貧酸素水の発生による水質の悪化によって打撃を受けてきた歴史があり、1970年頃には、本校の学区を流れる鹿折川の河口付近でも、生活排水や工業用水による水の汚染が深刻になっていた。

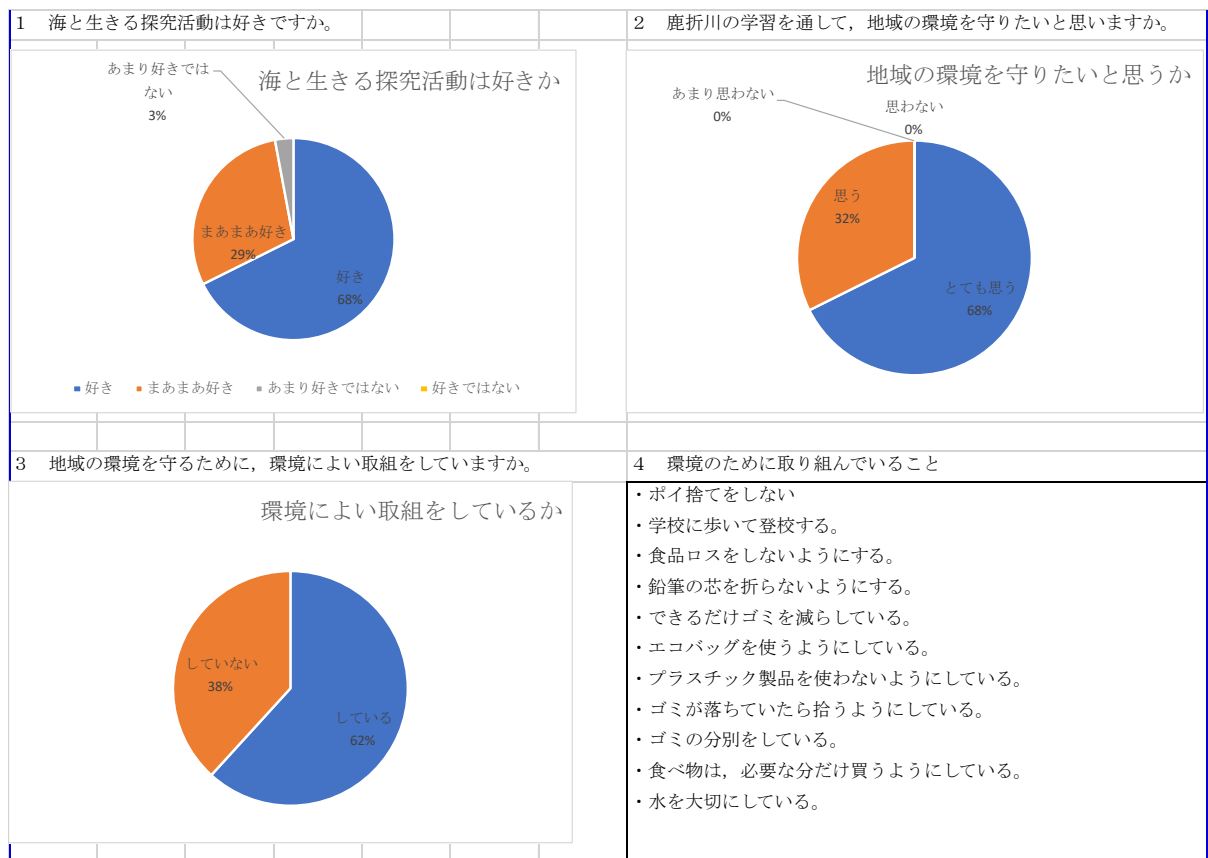
このような問題を解決するためには、「海との共生」の実現を目指すことが喫緊の課題である。しかし、平成30年度の本市の汚水処理人口普及率は、宮城県全体の91.222%に対して49.190%に留まっており、依然として生活排水による河川や海の水質汚染が危惧される状況にある。だからこそ、私たちの生活を見直し、個人レベルで水質汚染を防ぐために工夫していくことが必要である。

以上の状況を受けて、これからの気仙沼市に生きる児童が地域の環境に目を向ける時間を設定し、地球環境を改善していこうとする意識を高めることが重要であると考えた。そこで、児童の身近にある鹿折川の水が育む自然の豊かさを考え、5学年以降の海の学習につなげていけるような学習の流れを計画した。学びを通して、探究する力を向上させるとともに、震災復興スローガン「海と生きる」を掲げる気仙沼市民として、水質汚染の課題を自分事として捉え、解決しようとする思いを育んでいきたい。

(2) 児童観（男子16名、女子19名、計35名）

本学級は、落ち着いた態度で学習に臨める児童が多い一方で、中には、友達の話聞くよりも自分の思いを伝えることを優先してしまったり、学習に集中して取り組めなかったりする児童もいる。探究的に学習を行い、学びを深めるためには、友達の話をしっかり聞き、考えを練り合う重要性を実感させる必要がある。

本単元の学習を行うにあたって、鹿折川を含む地域の環境を保全するための自身の行動についてアンケートを行った。その結果、全ての児童が、「鹿折川の環境を保全する必要がある」と答えた。一方で、「環境を守るための取組を行っている」と答えた児童の割合は60%に留まっている。



以上のことから、学校田での稲作体験や鹿折川の水生生物調査をとおして、地域の環境を保全する必要性は感じているが、環境悪化の問題を自分の事として捉え、生活の中で改善に向けて実践しようとしている児童は少ないことが分かる。「誰かがやってくれるだろう」という人任せの意識が感じられるので、自分の将来に関わる現実的な問題として考えさせていく必要がある。

(3) 指導観

児童はこれまでの水生生物調査を通して、鹿折川上流・中流には水がきれいな川に棲む指標生物が多いことを知り、稲作体験を通して、鹿折川は農業用水としての役割など、地域の人々と密接な関わりがあることを学んだ。また、今年度行っているキリバス共和国との交流を通して、海洋汚染問題や地球温暖化問題への関心も高まっている。他教科との関連では、社会科の「水はどこから」の学習で、水は限りある資源であり、私たちは循環した水を使っていることを知り、大切さや環境を守る重要性について学んできている。

しかし、児童観に記したアンケート結果のとおり、児童は環境に関する知識を得ても、その保全に主体的に取り組もうとする意識は低い。そこで本単元では、児童の体験を基に学習を進め、きれいに保全された鹿折川を未来へ残すために自分にできることを考えさせていきたい。地域の環境問題を自分の事として捉えさせ、地域社会の一員として自分にできる現実的な方法を考えて環境保全に関わろうとする意欲を高めるように、指導を工夫したい。また、鹿折川の学習から、第5学年の学習テーマである気仙沼の海や水産業との関わりや、第6学年の気仙沼への思いや考えを深める活動に繋がられるようにしたい。

(4) 校内研究との関連

① 校内研究の主題と副題

研究主題 「問い」をもち、主体的に学び続ける児童の育成

副題 ～海と生きる探究活動・生活科を中心とした横断的・

探究的なカリキュラムデザインを通して～

② 視点について

本単元では、研究の視点に沿って以下の手立てを工夫し、指導にあたりたい。

【視点1】 児童の考えを深め、多様に表現させる工夫

ア 体験活動や実物と接する活動の設定

- ・ 鹿折川の調査や学校田での米作り体験を通して感じたことや分かったことから、水の恩恵を受けていることを実感させ、地域の環境について当事者意識をもたせる。

イ 探究的・共同的な学びを支える力の育成

- ・ タブレットを活用し、調べたことや分かったことの共有化を図る。

【視点2】 振り返りと評価の工夫

ア 児童が自分の学びを実感できる振り返り

- ・ 振り返りの時間を確保するとともに、書く活動を通して自分の学びを再確認できるようにする。

イ 新しい「問い」や疑問を引き出す評価と振り返り

- ・ グループで調べたことを整理し、地域の課題や鹿折川の良さを共有することで、新たな問いに繋がられるようにする。

5 単元指導計画（別紙）

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ① 地域社会の一員として、鹿折川を改善するために、自分にできることを考えることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ② 学んだことを検討し、よりよい方法を考え、進んで日常生活に生かそうとする。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 手立て

- ・ 鹿折川を守ろうという意欲を高めさせるため、他地域の課題を提示する。
- ・ 環境のためになる取組と自分にとっての利点を整理できるようにワークシートを工夫する。

(3) 指導にあたって

児童はこれまで、鹿折川の水質調査を通して、豊かな水を利用して稲作りを営む人々や水が育む多様な生き物について学んできた。学習を進める中で、鹿折川の上流、中流がきれいに保たれた川であることを知ることができた。一方で、未来にきれいな鹿折川を残したいという意欲はあるが、実際に川を守る取組を実践している児童は多くない。そこで、他地域の環境課題を提示することで、自分たちの手で川を守ろうとする意欲を高めさせるとともに、当事者意識をもたせるようにしたい。本時では、鹿折川を守るためには、どのような取組ができて、それが自分にもどのような利点があるのかを考えさせていきたい。

(4) 準備物

- ① タブレット ② テレビモニター ③ グループ毎に整理したまとめ ④ ワークシート ⑤ 付箋

(5) 指導過程

段階	・ 主な学習内容	形態	教師の○発問 □指示 ・ 予想される児童の活動	・ 教師の働きかけ ※研究の視点に基づく手立て	【評価】 (方法)
導入 1 0 分	1 これまでの学習を振り返り、鹿折川の課題を整理する。	一斉	○唱歌「春の小川」のモデルになった川はどんな川だと思いますか。 ・ きれいなところだと思おう。 ○鹿折川が汚染されたら、どんな影響があると思いますか。 ・ 海の魚が食べられなくなる。 ○みんなは鹿折川をどんな川として未来に残し	・ 他地域の川の問題を提示し、鹿折川を保全しようとする意欲を高めさせる。 ・ クイズや写真を提示し、鹿折川を保全しようという意欲を高めさせるようにする。 ・ 児童の言葉から課題につなげるよう	

(5) 本時の評価

評価規準（評価方法）	評価基準	
	十分満足できる（A）	支援を要する児童（C）への手立て
・鹿折川を守るために、自分ができる取組を考えることができる。 （発言・発表，行動，ワークシート）	・鹿折川を守るために自分たちができることを考えることができる。 （ワークシート・行動・発言）	・自分の生活を振り返ったり，これまで学習したことや収集した資料を参考にしたりしながら改善案について考えることができる。 （ワークシート）

(6) 板書計画

10 / 28

学校 地域，その他

⑧ 鹿折川を守るために「エコカレンダー」を作ろう

自分

家

スライド

第5学年1組 海と生きる探究活動学習指導案

日時：令和3年11月17日（水）3校時

場所：5年1組教室

指導者：教諭 高橋 美也子

1 大単元名 「海と生きる産業～未来につながるぼくらの海郷学～」

2 小単元名 「気仙沼の水産業を調べよう」

3 小単元のねらい

- 気仙沼の水産業に興味をもち、海とつながる多様な産業、企業等について意欲的に調べることができる。
- 潮目で豊富な魚が獲れるという自然環境、リアス式海岸を生かし漁港が栄えてきた地形の良さや造船業、水産加工業等、気仙沼の水産業の発展に関わる事柄に気づき、そのつながりについて考えることができる。

【生きて働く「知識及び技能」】

- ・探究課題の解決に必要な情報を収集し、それらを整理・分析する技能を身に付けることができる。

【未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」】

- ・自分やグループで設定した探究課題についての考えを、地域の方等、学校内外の人に広く分かりやすく発信することができる。

【学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」】

- ・探究課題解決のために、地域の方等の学校内外の他者と協働し、対話的に考えを深めようとする。

4 指導にあたって

(1) 単元観

児童はこれまで、魚市場を見学したり、鹿折加工組合に行って冷蔵庫の中を見学したりしてきた。また、マグロ延縄船への乗船体験を行い、漁師の方から延縄漁についての話を聞き、水産業について学習してきた。

社会科「わたしたちの国土」や海と生きる探究活動の授業で、日本の周りの海流や地形について学習したり、東京大学の丹羽准教授や東北大学の須賀教授に講話をしていただき、親潮と黒潮がぶつかる潮目で豊富な魚が獲れることについて考えたりしてきた。ミヤカンの缶詰工場の見学では、缶詰の製造工程を見ながら、製造・販売する上での様々な工夫について話を聞き、水産加工業の分野でも学習を進めてきた。

安波山や復興祈念公園に行った際には、気仙沼の入り組んだ海岸線や美しい景観を見て、社会科で学習した「リアス式海岸」を実際に目にすることができた。そして、震災から復興してきた気仙沼市の街並みを眺め、地域の人々の努力や想いについて考えることができた。

他の教科との関連においては、国語科の資料からデータを読み取る活動や、理科の気象の学習にも関連している。理科では台風などの気象条件が漁船に与える影響について考えたり、漁業において天気の情報を得ることの重要性について考えたりしてきた。

本単元では、これまでに学習してきた、自然環境・漁港・漁業・水産加工業・造船業等の一つ一つが大きく関わり合い気仙沼の水産業の発展につながっていることに気付かせたい。

昨年度、児童は、鹿折川を対象にして探究活動を進めてきた。山・川・海のつながりをとらえ学んできたことを本単元の自然や地形の分野で生かし発展させる。そして、海と生きる多くの人々の支えや願いに気付かせることで、次年度の町づくりや食文化についての探究学習へとつなげていく。

(2) 児童観（男子18名、女子21名、計39名）

本学級は、活発な児童が多く、男女の仲が良い。授業中は真剣に教師や友達の話に耳を傾ける児童は多いが、中には真面目に話を聞くことができず、おしゃべりをしてしまう児童もいる。また、進んで自分の考えを発表したり、疑問に思ったことを質問したりする児童は多くはなく、偏りが見られる。海と生きる探究活動においては、水産業について興味・関心はあるものの、積極的に挙手や発言をする児童は少なく、児童の主体性を育むことが課題である。また、水産加工や漁業、水揚げされる魚の種類や魚食等、個人で設定している課題については各々が意欲的に探究しているが、それらの相互の関わりに気付いている児童は少ない。自然環境や漁船、水産加工等、それぞれの分野が深く関わり合い全体として気仙沼市の水産業を支えてきたことについて考えさせていきたい。

(3) 指導観

気仙沼市はリアス式海岸を特徴とした、景観の美しい景勝地、観光地としても有名であることや、川沿いに平地が広がっていることで住宅地や商業施設、水産加工場、冷蔵・冷凍施設等が建ち、人が多く集まる場所であることについて気付かせる。

また、リアス式海岸の地形を生かし、大きな船が停泊する港があること、造船所には県内外から多くの船の修繕や新造船の注文が入り、漁獲した魚を水揚げする市場もあることで、日本有数の漁港に発展してきたことについて考えさせたい。

本時では、海岸線の入り組んだリアス式海岸の特徴をとらえさせ、他の遠浅の海岸と比較することで、港を作る上で重要な地形であることに気付かせる。入り江や岬が多いという利点を生かし港が栄え、水産業が発展してきたことに目を向けさせたい。

そして、自然環境、漁港、漁船、造船業、水産加工業等の全てが大きく関わり、気仙沼の水産業の発展につながっていることに気付くことができるよう指導していく。

(4) 校内研究との関連

① 校内研究の主題と副題

研究主題 「問い」をもち、主体的に学び続ける児童の育成
副題 ～海と生きる探究活動・生活科を中心とした横断的・
探究的なカリキュラムの活用を通して～

② 視点について

本単元では、研究の視点に沿って以下の手立てを工夫し、指導にあたりたい。

【視点1】児童の考えを深め、多様に表現させる工夫

ア 体験活動や実物と接する活動の設定

- ・安波山に登り実際に海岸線を眺めることで、リアス式海岸の特徴を視覚的にとらえさせる。

- ・魚市場，海流や潮目についての講話，マグロ延縄船の乗船体験，ミヤカン缶詰工場の見学等を通して，実感の伴った探究活動にさせる。

イ 探究的・協働的な学びを支える力の育成

- ・様々な教科の教科書や社会科資料集，地図帳やノート等，海と生きる探究活動に関わる項目に付箋を付けさせ，教科・領域間で横断的に自分の考えを整理したり，物事のつながりを考えたりできるようにする。また，プレゼンテーションをする際等にタブレットを活用させる。
- ・校外学習で見学した箇所の写真を用意し，児童がこれまでに学習した内容を想起し，関連させながら考えられるようにする。

【視点2】 振り返りと評価の工夫

ア 児童が自分の学びを実感できる振り返り

- ・海探ノートに，自分の言葉で分かったことや感想等を書くことで，学習の積み重ねを自分で振り返ることができるようにさせる。

イ 新しい「問い」や疑問を引き出す評価と振り返り

- ・タブレットのロイロノートの機能を使い，課題との関連を確認したり新たな問いを書かせたりすることで，探究学習の更新・蓄積を図る。

5 単元指導計画（別紙）

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ①リアス式海岸の地形を生かし，気仙沼の水産業がどのように発展してきたかについて考えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ② 水産業の発展の背景には，多くの人々の様々な関わりがあることに気付くことができる。

【学びに向かう力，人間性等】

(2) 手立て

- ・遠浅の海岸の写真とリアス式海岸の写真を提示し，地形と港の関連について考えさせる。
- ・課題解決につながるよう，校外学習で乗船体験をしたマグロ延縄船の写真や魚市場の写真を，児童の発言に応じて提示する。

【視点1-ア】

(3) 準備物

- ① 写真 ② タブレット ③ 宮城県や気仙沼の立体地図 ④ 海探ノート

(4) 指導過程

段階	・主な学習内容	形態	教師の○発問 □指示 ・予想される児童の活動	・教師の働きかけ ※研究の視点に基づく手立て	【評価】 (方法)
導入 5分	<p>1 気仙沼の海の特徴について考える。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>④ リアス式海岸について調べ、気仙沼の漁港の発展について考えよう。</p>	一斉 個人	<p>○気仙沼の海によさについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアス式海岸で漁業が盛ん。 ・大きな漁船が停泊できる。 ・養殖もできる。 <p>○気仙沼の漁港が発展してきた理由について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮目がある。 ・大きな船がたくさん泊まれる港がある。 ・リアス式海岸なので、港がたくさんある。 ・平地が広がっているので、水産業に関わる施設をたくさん作れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼の漁港の写真を提示する。 <p>【視点1ーア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用し、ロイロノートで共有する。 ・児童の言葉から課題につなげるようにする。 ・校外学習で行った魚市場や遠洋延縄漁船等の写真を、児童の発言に合わせて提示する。 <p>【視点1ーア】</p>	【観察】 (発言)
展開 30分	<p>3 自然の地形について触れ、リアス式海岸の特性について考える。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>気仙沼は、リアス式海岸という自然の地形を生かした漁港があり、人々の思いによって水産業が発展してきた。</p>	個人 全体 個人	<p>○リアス式海岸の特徴、水産業が発展してきた理由を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入り江が多く、波がおだやかで船が停泊しやすい。 ・岬と入り江が多く港が作りやすい。 ・海底が深く大きな船が停泊できる。 <p>○海探ノートに振り返りを書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立体地図を提示し、港が作りやすい地形であることを確認する。 ・他のリアス式海岸の土地について触れ、港が多く漁業が盛んなことについて考えさせる。 ・タブレットで考えさせ、ロイロノートで共有する。 ・自分の考えをまとめとして海探ノートに記入させる。 	【観察】 (発言)

				・意図的指名をし、 数名の児童に発表 させる。	
終 末 5 分	5 次時の学習内容を知る。	一斉	○次の学習では、気仙沼の 水産業がどのように発展 してきたのかについて考 えます。	・次時への期待をも たせる。	

(5) 本時の評価

評価規準（評価方法）	評価基準	
	十分満足できる（A）	支援を要する児童（C）への手立て
・リアス式海岸の地形を生かし、気仙沼市の水産業がどのように発展してきたかについて考えることができる。 （発言・発表、ノート）	・気仙沼市の水産業は、自然の地形を生かし漁港が栄え、地域の人々の思いや願いによって発展してきたのかを考えることができる。（ノート、発言・発表）	・校外学習で実際に海岸線を眺めたことや写真を参考にしながら考えることができる。 （ノート）

(6) 板書計画

11 / 17（水）

気仙沼の水産業の発展に調
べ、気仙沼の漁港の発展につ
いて考えよう。

（立体地図）

（写真）

（写真）

<リアス式海岸>

- ・海岸線が複雑。
- ・漁港がさかん。
- ・入り江と岬がたくさんある。

第6学年1組 海と生きる探究活動学習指導案

日 時：令和3年12月8日（水）5校時

場 所：6年1組教室（3階）

指導者：教諭 千田 康太

1 大単元名 「海と生きる自分・未来～海と生きる気仙沼の魅力発信プロジェクト～」

- 震災で大きな被害を受けた鹿折地区の復興と魅力について調べる活動を通して、自分たちと自然環境、社会とのつながりについて考えを深め、森川海がつながる鹿折のまちをよりよくしていくために自分たちができることを進んで実践していこうとする心情を育む。

2 小単元名 「気仙沼のまちづくりについて調べよう②」

3 小単元のねらい

- 気仙沼市の水産業やスローフード運動、地球規模で大きな問題となっている地球温暖化の問題について学んだことを想起し、様々な地域や外国と気仙沼のつながりを考える活動を通して、自己の在り方や多様な他者との共生について考え行動することができる。

【知識・技能】

- ・ 気仙沼の水産業の特色や抱える課題、「スローフード運動」が根付く人々の暮らし、地球規模で大きな問題となっている地球温暖化等の環境問題の因果関係について正しく理解することができる。
- ・ 探究課題の解決に必要な情報を体験的に収集するとともに、ICT機器を活用しながら資料を収集・整理・分析・発信する技能を身に付けることができる。

【思考・判断・表現】

- ・ 気仙沼市の水産業や「スローフード運動」、地球温暖化等の環境問題を学ぶことで、食と環境・産業・文化等、様々なつながりを理解するとともに、海のまち気仙沼を大切に守るために、自分たちができることを考え行動することができる。
- ・ 探究活動を通して、収集した資料や情報を整理・分析し、自分が伝えたいことに合わせながら活用することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 自分たちの故郷である気仙沼の課題を地球規模の視点で考え、その考えを深めながら、持続可能な社会の実現のために自分ができることを進んで行おうとする。
- ・ 他者と協働的・対話的に考えを深めながら、学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。

4 指導にあたって

(1) 単元観

気仙沼は、古くから漁業のまちとして栄えてきた。世界三大漁場の一つとして有名な三陸の海が近くにあり、漁港や養殖業に適したリアス式海岸の地形など、恵まれた自然環境を生かしながら、海とのつながりを大切にしてきた。全国的にも有名な秋刀魚やフカヒレ、24年連続日本一

を誇る生鮮カツオ等でにぎわう水産都市は、多くの漁師や水産関連企業が長い年月を掛けて築き上げてきたものであり、気仙沼市民の誇りといえる。水産業が本市の経済的な柱であるものの、「海と生きる」人々の思いや願いは、産業だけにとどまらず、市民性や伝統文化にも色濃く表れ、これまで大切に受け継がれてきた。

しかし、近年、世界的な課題となっている地球温暖化の影響が気仙沼でも見られるようになってきた。気仙沼市を代表する秋刀魚が水揚げされなかったり、南の海で見られる太刀魚が市場に並んだり、温暖化がもたらす海水温の上昇や海流の変化等が海の生き物に甚大な影響を与え始めている。そのような変化がこのまま進んでしまうと、海の生態系のバランスを壊すだけでなく、海と生きる気仙沼の人々の営みや暮らしに不可逆的な変化をもたらしてしまう。

海との共生を目指す気仙沼の姿や魅力をこれからも大切に受け継いでいくために、前单元では、「気仙沼のまちづくり」をテーマに気仙沼の特色や抱える課題について理解を深めてきた。カリキュラムの前半では、気仙沼市が日本で初めて行った「スローフード都市宣言」を取り上げ、気仙沼や日本で広く活躍する気仙沼商工会議所会頭の菅原昭彦さんから話を聞くことで、気仙沼市が大切にしている食への考えを掘り下げながら、食でつながるものについて考えを深めていった。「あざら」「めかぶ」など、気仙沼の食文化には、食材を余すところなく使用し、海の恵みに感謝する文化が古くから根付いていることを学ぶことができた。また、「地産地消」「食品ロスの削減」という海と共生するための大切なキーワードを知ることができた。生活の中で溢れる多様な食材が流通することで温暖化の原因になる二酸化炭素が排出されることを学び、地域の食材を食べたり、食材を余すところなく調理したりすることが、自分たちにもできる温暖化対策であることを理解することができた。单元の後半には、環境や他地域から見た視点等、考えを深化させる活動に取り組ませていく。東京大学の丹羽准教授や東北大学の須賀教授から地球温暖化の仕組みやその影響について学び、専門的な知識を身に付けた上で、地球規模の視点を身に付けさせるために、海面上昇で国が海に沈む危険に晒されているキリバス共和国の War Memorial primary School との交流会を設定し、地球規模の視点で自分たちの生活や行動を振り返らせていきたい。

以上のように気仙沼のまちづくりをテーマに、食と関連する様々なつながりを理解していくことを大切にしながら、個人学習と一斉学習を单元の中に設定しながら、探究学習を進めていく。一人一人が設定した探究課題についての協働的な学び合いを通して、身の回りの課題を地球規模の視点で見つめ、自分とのつながりや行動の価値を考えることは、児童の考えを深めていくことにつながる大変有意義なことだと考える。

(2) 児童観（男子21名、女子12名、計33名）

本学級は、素直で活発な児童が多く、進んで課題に取り組むことができる児童がいる一方で、板書を正しく視写したり、話をしっかりと聞いたり等、学習習慣の定着が課題となる児童や、学びの教室（通級）に通いながら、ワーキングメモリを増やす課題に取り組む児童が、全体の3割程度おり、学力が二極化している。

11月に行った意識調査では、「自ら関心のある課題を見付けることはできますか」という質問に対して、「時々見付けている」「見付けることができない」と回答した児童は18名（54%）と、前回より意欲的に課題を見つけ取り組むことができる児童が増えた傾向にあった。また、学習意欲の向上だけでなく、友達と協力しながら探究的に学びを深めることを楽しみながら取り組んで

いる様子が見られるようになってきたが、「地球温暖化」と「海洋プラスチック」を混同して調べ
る児童がいる等、物事のつながりを正しく理解することができていない様子も見られている。

児童はこれまで、気仙沼市の伝統・文化や自然環境、水産業について学んできた。3年生の時
には、鹿折地区に伝わる「浪板虎舞」と「白山小唄」を学び、4年生の時には、生き物調査を通
して学区を流れる鹿折川の水が多様な命を育んでいることに気付き、考えを深めることができた。
5年生の時には、マグロ延縄船の乗船体験や造船所見学を通して、気仙沼市の水産業を支える人
の思いや願いを学ぶことができた。昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で校外学習が制限
された部分もあるが、今年度、魚市場等の見学を行い、気仙沼の水産業について知る授業を補填
しながら主体的に探究する姿を目指してきた。

一人一人の探究課題を見ると、「食品ロスの削減で地球温暖化から気仙沼を守ろう」といった、
食と温暖化対策を関連させて考えることができていない児童もいるが、「地球温暖化の影響につい
て考えよう」といった、地球温暖化の影響について具体的に考えることができていない児童も見
られている。児童の実態に応じた支援をする中で、因果関係や系統性を考慮した手立てを講じて
いく必要がある。

(3) 指導観

以上のことから、次のことに留意して指導を行っていく。

- 5年生まで学んで来た気仙沼や鹿折の魅力（伝統文化・鹿折川の豊かな命を育む自然環境・
水産業）を想起させるとともに、発表会（子どもサミット、鹿折フォーラム等）を通して、そ
れぞれのつながりを整理させ考えを深めさせる。
- 国語科から「海と生きる探究活動」に移行し、海を題材として学習する内容について、体験
活動の中で資質・能力を育んでいく。移行した単元「原因と結果に着目しよう」「気持ちよく対
話を進めよう」「友達の意見を聞いて考えよう」で育みたい資質・能力を整理し、本単元だけ
なく教科・領域を往還的に活用させながら高めていくことを目指す。
- 教科、領域を横断的に学ぶ際に、タブレットのアプリ「ロイロノート」を活用する。デー
タの共有・保存・発信で活用させるとともに、児童が思考ツール（ベン図、クラゲチャート、ピ
ラミット図、同心円チャート等）を使用して考えを整理し、話し合いで共有するなど主体的な学
びに生きるようにする。また、児童の実態に応じて、ホワイトボードを活用し、意見を可視化
させ、共有・整理することができるようにする。
- 個人探究型の学習と一斉型の学習を単元の中に設定し、関連させながら一人一人の学びを深
めていく。一人一人が探究課題を設定し、自分の関心があるものを体験活動、協働的な学び、
発信活動を通して深めることができるようにする。

(4) 校内研究との関連

① 校内研究の主題と副題

「問い」をもち、主体的に学び続ける児童の育成 ～ 海と生きる探究活動・生活科を中心とした横断的・探究的なカリキュラムの活用を通して ～
--

② 視点について

本単元では、研究の視点に沿って下記の手立てを工夫し、指導にあたりたい。

【視点1】 児童の考えを深め、多様に表現させる工夫

ア 体験活動や実物と接する活動の設定

- ・ 東京大学の丹羽准教授及び東北大学の須賀教授から地球温暖化の仕組みやその影響について教えてもらう活動を設定することで、気仙沼の水産業が抱える水産資源の減少問題、これまで学習を進めてきた「スローフード運動」等から見られる「海と生きる」気仙沼の人々の暮らしと環境問題のつながりについて理解を深める。
- ・ 日本キリバス協会のケンタロ・オノさん及び、キリバス共和国の小学生との交流会等、自分の探究課題をより地球規模で考える機会を設定することで、相手意識をもった行動や多面的に物事を考えさせる。

イ 探究的・協働的な学びを支える力の育成

- ・ 思考ツール（ベン図・ピラミッドチャート・クラゲチャート）やホワイトボード、付箋等を教科横断的に活用しながら学んだことを分析及び整理することで、他者と協働して課題を解決しようとする力を育む。
- ・ 学んだことを分析したり整理したりする活動の際には、これまで学習してきたことを想起し、それぞれのつながりや関係性に気付かせるために、人や伝統（3年）、環境（4年）、産業（5年）などのカテゴリに分けて整理させる。

【視点2】 振り返りと評価の工夫

ア 児童が自分の学びを実感できる振り返り

- ・ 自分たちが考えたことやまとめたことを、福島県のスローフードに携わる山際食彩工房の山際博美シェフや参観日、気仙沼スローフェスタ、海洋教育子どもサミット in 東北等で発表する場面を設定することで、一人一人の課題と良さを再認識できるようにし、主体的に活動に取り組む態度を高める。
- ・ タブレットで自分たちの発表する様子を動画で記録し段階的にフィードバックすることで、国語科で学習したことや話し合いの際に必要な資質・能力をさらに補完・強化できるようにする。また、年間で自分の力の変容が確認できるようにするために、タブレットに撮影した様子を累積しておく。

イ 新しい「問い」や疑問を引き出す評価と振り返り

- ・ 授業の中で、自分の考えや振り返りをノートに整理する時間を設定する。また、振り返り際には、「本時の中で新しく分かったこと」「次時で生かしたいこと」という視点を設けて振り返りをさせることで、新しい疑問を引き出し、学びの連続性を持たせる。
- ・ タブレットを活用したポートフォリオ評価を行い、新しい「問い」や疑問に気付かせる。

5 単元指導計画（別紙）

6 本時の指導（4 / 1 1 時間）

(1) 本時のねらい

- ① 気仙沼の水産業が抱える課題（産業・人・自然環境・伝統等）を整理することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 手立て

- ・ ホワイトボードと付箋を活用して、同心円チャート（思考ツール）に水産業や食・環境のつ

ながらについて整理する活動を通して、様々な事象の関係性について理解を深める。

【視点1-I】

- ・ 児童の考えを具体化・深化させるために、児童の考えを揺さぶるような発問を行い、ノートに自分の考えを書く時間を設定する。

【視点

2-I】

(3) 準備物

- ① ホワイトボード・付箋 ② タブレット ③ プロジェクター

(4) 指導過程

段階	・主な学習内容	形態	教師の○発問 □指示 ・予想される児童の活動	・教師の働きかけ ※研究の視点に基づく手立て	【評価】 (方法)
とらえる (5)	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>④ 気仙沼の水産業が抱える課題について整理しよう。</p> </div>	一斉	<p>○気仙沼の魅力や課題を皆で調べてきました。</p> <p>○どのような課題がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化 ・水産資源の減少 ・海洋プラスチック <p>○今日はなぜそのような課題が起こるのか、またどんな解決策があるのか皆で考えていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大学・須賀教授、東京大学・丹羽准教授、キリバス・ケンタロ・オノさん等の写真を提示しながら学んだことを想起させる。 ・グループ、個人探究課題を設定し、調べてきたことを振り返りながら、発表会で伝えたいことを整理し、正しくつながりをとらえることを確認する。 	
判断する I (10)	<p>3 これまで見つけた課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で出会った課題を想起し、本時の中で深める課題を確認する。 <p>4 課題の背景や原因と解決策についてノートに考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書き終わったら、 【課題】青色の付箋 【原因】赤色の付箋 	一斉 個	<p>○みんなの探究課題で多かった課題を確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産資源の減少 ・地産地消 ・海洋プラスチック <p>◎これらの課題の原因はなんだろう。解決するために私たちはどのようなことができるだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源（牡蠣やわかめ・秋刀魚）の捉えを確認する。水産資源の種類で原因が異なることを抑える。 ・ノートに課題の背景・原因を書き、キーワードに線を引きグループ活動で伝えたいことを整 	

<p>判断するⅡ (15)</p>	<p>【解決策・その他】黄色の付箋に整理する。</p> <p>5 班に分かれ、課題の原因と背景を確認していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの中で自分たちができることを考え、解決策を貼っていく。 	<p>人 班</p>	<p>□グループで意見を整理しましょう。</p> <p>【課題】①魚・貝の小型化 ②秋刀魚の減少</p> <p>【原因】①海の栄養不足 ②海流の変化 海水温の上昇</p> <p>【解決策】①植樹活動 ②二酸化炭素の排出を抑える ②食品ロスの削減</p>	<p>理しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーワードを付箋に書く。 ホワイトボードを活用して、同心円チャート（思考ツール）に課題、背景・原因の関係性を整理していく。 <p>【視点1-イ】</p>	
<p>切り拓く (12)</p>	<p>6 全体でグループの意見を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同心円チャートを活用して、グループの考えを発表する。 <p>7 気仙沼の水産資源を守ることが、気仙沼や自分たちにどのように関連するのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをノートに書く。 	<p>一 斉 全 体</p>	<p>□グループで話し合った考えを発表しましょう。</p> <p>○なぜ気仙沼の水産資源を大切にしなければいけないのだろう。気仙沼や自分にとってどのような意味があるのだろう。</p>	<p>※ホワイトボードをタブレットで撮影し、提出箱に送信する。</p> <p>※スローフードと環境・産業のつながり、地球温暖化を防ぐことが自分たちや気仙沼にとってどのような関係があるのか考えを揺さぶり、ノートに整理させる。</p> <p>【視点2-イ】</p>	<p>【観察】 (発言) (ノート)</p>
<p>つなぐ (3)</p>	<p>8 次時の予告をする。</p>	<p>一 斉</p>	<p>○本時の話し合いを通して、探究課題をさらに練り上げていきましょう。</p>	<p>・次時以降の学びにつなげる。</p>	

(5) 本時の評価

評価規準（評価方法）	評価基準	
	十分満足できる（A）	支援を要する児童（C）への手立て
<p>・気仙沼の水産業が抱える課題や魅力を整理することができる。 （発言・発表，ノート）</p>	<p>・気仙沼の魅力について調べてきたこと（産業・人・自然環境・伝統等）の関係性を理解し，海のまち気仙沼を守るために，自分たちにできることを考えることができる。 （ワークシート・行動・発言）</p>	<p>・体験活動や出会った人の写真や資料を活用し，様々な事柄のつながりを考えさせる。 （ワークシート）</p>

(6) 板書計画

12/8

④ 気仙沼の水産業が抱える課題について整理しよう。

写真

写真

水産資源の減少

地球温暖化

※プロジェクター

```

graph TD
    A[原因] --> B[課題]
    B --> C[解決策]
    D[地球温暖化] --> A
    E[水産資源の減少] --> B
    F[海水温の上昇] --> D
    G[3R] --> H[ゴミを削減]
    H --> I[食品ロスの削減]
    
```

自ら課題を見だし、身に付けた知識を活用して 解決しようとする児童の育成

～「海と生きる探究活動」における探究的な学びの充実を通して～

1 海洋教育全体計画

令和3年度海洋教育全体計画

国連海洋協約 海洋憲法 日本国憲法 総合海洋政策本部 海洋基本計画

学校教育法 教育基本法 学習指導要領 宮城県教育基本方針 教育振興基本計画 志趣教育市の基本方針

児童の実態

- 明るく活発な児童が多い。
- 児童の多くは、海とふれあふ体験が少ない。
- 確かな学習を希しむのが見られるようになってきた。
- 想像のよさを発揮している児童は少ない。
- 海と陸との関わりや環境が弱まっけられている。
- 人前でも発表することが苦手とする児童が多い。

学校教育目標

志をもち、かしこくやさしくたくましく伸びる児童の育成

海洋教育に関する指導目標

- 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海に対する、豊かな感受性や海に対する興味関心を培い、海の自然に親しみ、海に逢い合う機会をもち、海の自然を知る。
- 海の自然や資源、人との深い関わりについて関心を持ち、逢いで調べようとする児童を育てる。(海を知る)
- 海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通して、海の環境保全に主体的に関わりようとする児童を育成する。(海を守る)
- 水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を越えた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童を育成する。(海を利用する)

海と生きる探究活動・総合的な学習の時間・生活科を柱とした各学年の海に関する指導

○海探や総合、生活科を中心に体験活動を実施しながら、課題解決的な学習サイクルに沿って主体的な学習活動を進める。

低学年 (生活)		中学年 (海探・総合)		高学年 (海探・総合)		
1年	「いきものなごよし」 ・海の生きもの探し ・海藻押し紙作り	3年 「漁師の家を知らう」 「ワカメのひみつを探らう」 ・ワカメの生態調べ ・聞き取り調査 ・メカブ観察体験 ・ワカメ工場見学 ・課題探究学習、展	5年 「世界とつながる海の「今」を知らう」 「カキが育つ環境を考えよう」 ・カキの耳つり ・プランクトン調査 ・細野川の環境調べ ・植樹体験 ・定置網漁体験 ・他校との交流	2年	4年 「漁師の海の豊かさを探らう」 「カキのひみつを探らう」 ・カキの種はさみ ・カキの解剖 ・漁漁地理見学 ・カキ漁の周りの生きもの調べ	6年 「自分たちの未来を考えよう」 「豊かな海を復活しよう」 ・カキ刺き ・カキの水揚げ見学 ・植樹体験 ・他校との交流 ・漁師さんの思いや工夫

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
知識	・いろいろな魚	・たんぽぽ ・ヒーローの木工事 ・夏休みの思い出	・夏休みの思い出の思い出 ・パラリンピックについて ・夏の思い出 ・自分の考えを伝えること	・学校について知ることが出来ること ・聞いて知ることが出来ること ・自分の考えを伝えること ・ふるさとを伝えること	・海探について知ることが出来ること ・聞いて知ることが出来ること ・自分の考えを伝えること ・ふるさとを伝えること	・町の歴史を伝えること ・秋の収穫祭を伝えること ・聞いて知ることが出来ること ・自分の考えを伝えること ・ふるさとを伝えること
社会性			・仲の良い友達と遊ぶこと	・仲の良い友達と遊ぶこと	・仲の良い友達と遊ぶこと	・仲の良い友達と遊ぶこと
環境		・自然と関わり	・自然と関わり	・自然と関わり	・自然と関わり	・自然と関わり
生活		・生活科の学習	・生活科の学習	・生活科の学習	・生活科の学習	・生活科の学習
学習		・自分の考えを伝えること	・自分の考えを伝えること	・自分の考えを伝えること	・自分の考えを伝えること	・自分の考えを伝えること
その他		・自分の考えを伝えること	・自分の考えを伝えること	・自分の考えを伝えること	・自分の考えを伝えること	・自分の考えを伝えること

うちの児童 保護者の皆さんに いただきます

特別	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
行事	入学式 運動会			野月祭 運動会	学年行事 運動会			卒業式 修了式			
ふるさと学習	・ふるさと学習(1・2年)・ふるさと学習(3・4年)		・ふるさと学習(5・6年)		・ふるさと学習(1・2年)		・ふるさと学習(3・4年)		・ふるさと学習(5・6年)		
家庭連携	・ふるさと学習(1・2年)・ふるさと学習(3・4年)・ふるさと学習(5・6年)										
地域連携	・ふるさと学習(1・2年)・ふるさと学習(3・4年)・ふるさと学習(5・6年)										
専門機関連携	・ふるさと学習(1・2年)・ふるさと学習(3・4年)・ふるさと学習(5・6年)										

2 特別の教育課程「海と生きる探究活動」の取組（1年目）
 (1) デザインシート（6年例）

6年 『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート

単元名	自分たちの未来を考えよう	テーマ	産業、環境、生命、伝統	指導時間	5・5時間 (総合的な学習の時間、教科30分程度)	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科
総務目標	「産業と海の環境を見つめ直し豊かで思っていることや問題となっていることなどについて調べることを通して、自分たちと自然環境との関連性を知り、自分自身の未来をもちよき未来をもち、世界に目を向け自分のできることややるべきことを提案し、発信しようとする心構えを育む。					SDGs関連	
身に付けたい資質・能力	【知識及び技能】 「産業（気仙沼）や世界の課題を知り、よりよいまちにするために、どんなことが必要なのかを探究することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 「解決に向けて情報収集、整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ、発信することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 「課題を自分事として捉え、主体的に探究活動に取り組もうとする。 【よりよい産業（気仙沼）にするため、自分たちができることを考え、実践することができる。					【主な関連機関等（内容）】 ・気仙沼市立総合資料館 ・森田海研ラボ ・気仙沼市産業振興課 ・気仙沼市観光協会 ・探究学習コーディネーター ・産業公民館 ・リアスアーク美浜館 ・南三陸・海のビジターセンター ・水産試験場 ・宮城教育大学 ・学校支援委員会	
4月	オリエンテーション 一年間の経過をしよう（1時間） ・5年時に学習したことを中心に、これまでの学習内容を振り返る。 ・自分が知りたいことや更に追究してみたいことを課題に設定することを知る。 ・探究学習を通して「産業の未来」について考えていくことを知る。	オリエンテーション 一年間の経過をしよう（1時間） ・5年時に学習したことを中心に、これまでの学習内容を振り返る。 ・自分が知りたいことや更に追究してみたいことを課題に設定することを知る。 ・探究学習を通して「産業の未来」について考えていくことを知る。					
5月	課題設定【第一】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○自分の興味、関心についてマップで整理する。(1) ○課題の吟味をする。(2) ・それを解くことにはどんな意味があるか ・具体的な行動につながるテーマについて方法は自分や仲間できることか、など	課題設定【第一】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○自分の興味、関心についてマップで整理する。(1) ○課題の吟味をする。(2) ・それを解くことにはどんな意味があるか ・具体的な行動につながるテーマについて方法は自分や仲間できることか、など					
6月	課題設定【第二】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第二】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
7月	課題設定【第三】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第三】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
8月	課題設定【第四】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第四】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
9月	課題設定【第五】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第五】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
10月	課題設定【第六】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第六】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
11月	課題設定【第七】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第七】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
12月	課題設定【第八】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第八】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
1月	課題設定【第九】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第九】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
2月	課題設定【第十】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第十】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					
3月	課題設定【第十一】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会	課題設定【第十一】（個人） 探究課題を設定しよう（3時間） ○中間発表しよう ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 【テーマについての思い、手段、探究方法、まとめ方等、そこから見えてきたことなどを報告して話す】 ・意見交換を行い、それぞれのグループの活動について反響を行う。 【注】「東三陸復興の輪」を実施する教育委員会					

(2) 年間指導計画（6年例一部抜粋）

6年 『海と生きる探究活動』年間指導計画

単元名	自分たちの未来を考えよう	テーマ	ふるさとへの思いを形に	指導時間	5・5時間 (総合的な学習の時間、教科30分程度)	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科
総務目標	「産業と海の環境を見つめ直し豊かで思っていることや問題となっていることなどについて調べることを通して、自分たちと自然環境との関連性を知り、自分自身の未来をもちよき未来をもち、世界に目を向け自分のできることややるべきことを提案し、発信しようとする心構えを育む。					SDGs関連	
身に付けたい資質・能力	【知識及び技能】 「産業（気仙沼）や世界の課題を知り、よりよいまちにするために、どんなことが必要なのかを探究することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 「解決に向けて情報収集、整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ、発信することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 「課題を自分事として捉え、主体的に探究活動に取り組もうとする。 【よりよい産業（気仙沼）にするため、自分たちができることを考え、実践することができる。					【主な関連機関等（内容）】 ・気仙沼市立総合資料館 ・森田海研ラボ ・気仙沼市産業振興課 ・気仙沼市観光協会 ・探究学習コーディネーター ・産業公民館 ・リアスアーク美浜館 ・南三陸・海のビジターセンター ・水産試験場 ・宮城教育大学 ・学校支援委員会	

月	取組	主な学習活動	時数	目 標	海洋調査本との関連	評 価
4	オリエンテーション	一年間の経過をしよう（1時間） ・ガイダンスを行う。 ・5年時に学習したことを中心に、これまでの学習内容を振り返る。 ・自分が知りたいことや更に追究してみたいことを課題に設定することを知る。 ・探究学習を通して「産業の未来」について考えていくことを知る。	(1) 総合1	・学習内容を理解し、1年間の学習の流れについて見直しをもつ。 ・5年生での海洋の学習を振り返り、6年生でさらに探究してみたいことを具体的に考えることができる。 ・「産業の未来」についてどんなものになってほしいか考え、実践することができる。	「学びの導入」A第24～海と出会う、ながよくなる	【学び・人間性】1年間の経過をしようとして、探究課題や目標へとつながるようになっている。
5	課題設定	探究課題を設定しよう（3時間） 「自分たちの未来を考えよう」 ・自分の興味・関心についてマップで整理する。(1) ・課題の吟味をする。(2) ・例に興味があるか ・それを解くことにはどんな意味があるか	(3) 総合3	A 産業（生産、加工、流通） B 生態系（環境、生命） C 環境（汚染、資源、循環化） D 生活・文化（継承） 以上の4つの課題の中から興味がある探究課題について具体的な探究活動のイメージをもつ	B第25～海の恵みを知る C第26～海の仕組みを知る D第24～海をいかに	【知・理】自分が興味をもったことを、探究課題にしようとしている。

(3) 成果と課題

① 成果

ア 探究活動を意識したデザインシートを軸として、共通体験を基にした探究活動を意識した単元を構想して実践することにより、児童一人一人の課題意識が向上し、個人またはグループでの課題追究を充実させることができた。

【共通体験】

学年	学校支援委員会 等	ふるさと学習会（唐桑公民館）
1年	・海に親しむ会（幼小交流） ・ワロックづくり体験	・サケの稚魚放流体験
2年	・サケの稚魚飼育・観察	・サケの稚魚放流体験
3年	・宮城県子ども環境教育出前講座 ・海藻押し葉づくり体験 ・メカブ削ぎ体験	・魚市場見学 ・リアスアー美術館見学 ・リアスアー美術館学芸員講話
4年	・カキ養殖体験 ・カキ温湯処理見学	・公共施設（クリーンヒルセンター）見学
5年	・カキ養殖体験 ・サケ料理教室	・海辺の自然と生物の調査 ・定置網起こし体験
6年	・カキ養殖体験 ・カキ水揚げ、カキむき体験	・唐桑の歴史探訪



【個人及びグループ課題】

3年 「唐桑の宝を知ろう」	4年 「唐桑の海の豊かさを探ろう」	5年 『世界につながる海の「今」を知ろう』
<ul style="list-style-type: none"> ・ 神社の不思議 ・ リアス海岸の不思議 ・ 郷土料理の不思議 ・ 漁業の不思議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 唐桑の養殖 ・ 唐桑の食べ物 ・ 唐桑の水質調査 ・ 唐桑の歴史 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋ごみを減らしてきれいにしよう ・ 川の生物と川の環境の関係 ・ 海の生き物の環境を守ろう ・ 森と川と海のつながり

6年 「自分たちの未来を考えよう」		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林とCO₂の関係 ・ 森林破壊 ・ 磯焼け問題について ・ 唐桑の人口減少対策とまちづくり ・ 漁師さんのイメージアップ大作戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋ごみと自然 ・ 海洋ごみを減らす ・ 海洋ごみ ・ 海洋ごみについて ・ 地球温暖化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 唐桑の海と自然 ・ 唐桑御殿について ・ 唐桑の食文化 ・ 唐桑のまちづくりと津波

イ 地域人材を活用し、地域と連携・協働する学びの場を設定することにより、学習内容や方法等に対する児童一人一人の関心・意欲が向上し、その後の探究活動の充実につなげることができた。



4年探究学習コーディネーターによる
パネルディスカッション



5年学校支援委員(県漁協唐桑支所青年部)
による講話

ウ 校内研究として、協働での授業づくりを推進したことにより、児童一人一人の関心・意欲に応じた指導の充実を図り、学習のまとめや学びの成果を、リアスサミット in 唐桑で、他の学年や保護者(今年度は6学年保護者のみ)、お世話になった地域の方々(学校支援委員・海友会・唐桑公民館等)に、堂々と発信することができた。

研究主題

自ら課題を見だし、身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成
～「海と生きる探究活動」における探究的な学びの充実を通して～

1 研究目標

特別の教育課程「海と生きる探究活動」の授業実践を通して、児童が自ら課題を見だし、身に付けた知識を活用して解決しようとする指導の在り方を明らかにする。

2 研究の視点

視点1 課題意識をもたせるための工夫

- ア 児童自身が解決しなければと感じる課題提示や設定の工夫
- イ 自分で課題を発見させるための工夫

視点2 多様な考えを生かし、学び合える場の設定

- ア 自力解決の中で自分の表現を見直し、修正させる工夫
- イ 互いに教え合い、自分で解決、または集団で解決させるための工夫

視点3 学びを生かす評価の工夫

- ア 学びの成果を実感でき、次の課題を見付け、自身の行動につなげる探究型学習法の工夫
- イ 自己チェックシートによる評価・ポートフォリオ評価

3 育てたい力

- 課題を自分事として捉える力
- 学んだ知識や技能を生かし、自分で解決できる力
- 新たな課題を見付け、行動できる力

4 目指す児童像

低学年部 ○身の回りの事象について興味をもち、知ろうと取り組む子ども
○分かったこと、できたことを他の学習で生かそうとする子ども
○振り返ったことを基に、もっと頑張ろうとする子ども

中学年部 ○自分の身近なところに興味をもって課題を見付ける子ども
○課題の解決のために既習の知識を活用できる子ども
○学んだことを見直し、そこから新たに課題を見付けられる子ども

高学年部 ○唐桑(気仙沼)のよりよい未来のために、何が問題なのか、どんなことが必要なのかを真剣に考え、課題を見出す子ども

- 自分の学習テーマについて自ら動いて情報収集をし、整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ、発信しようとする子ども
- 分かったことで終わらず、考え続け、学び続けていこうとする姿勢を持ち、考えたことを実践しようとする子ども

5 実践の成果

視点1： 児童は、課題に対して意欲を持ち、示された活動に対して主体的に取り組んでいた。また、リアスサミット in 唐桑では、各学年の発達段階に応じて工夫した発表ができた。



3年課題設定の様子



5年リアスサミットでの発表

視点2： どの学年でも、学び合いの場として児童が意見を述べ合う活動を重視した。中間発表等で、互いに質問したり、助言し合ったりする活動を取り入れることで、より良くまとめ直したり、新たな探究活動につなげたりすることができた。



5年課題の吟味



4年中間発表会

視点3： 次の単元の学習に入る前に、記録を振り返らせたり、探究チェックシートを作成して使用し、授業改善の視点を活動に反映させられるようにした。今後、更に効果的な活用を図るために、小單元ごとに振り返る等、短時間で記入できるようにすると良い。

年 海探自己チェックシート (名前 <u>佐藤 心</u>)	
単元名 自分たちの未来を考えよう ☆めあて	
5 月 11 日	<input type="checkbox"/> 海探の学習課題を解決しようと進んで取り組みましたか <input type="checkbox"/> 調べたことを分かりやすく表現することができましたか <input type="checkbox"/> 新しい疑問を見つけることができましたか 感想 もっとしらべたいからよくがんばりたい
5 月 11 日	<input type="checkbox"/> 海探の学習課題を解決しようと進んで取り組みましたか <input type="checkbox"/> 調べたことを分かりやすく表現することができましたか <input type="checkbox"/> 新しい疑問を見つけることができましたか 感想 多郎土オオカができたからいい思いました。

3年チェックシート



3年記録 (担任の朱書きを含む) を振り返る児童

②課題

ア 校内研究のまとめから

視点1：① 課題提示や体験活動の設定時期などをより計画的に推進するために、年間指導計画やデザインシートの内容の読み合わせや確認が必要であった。また、課題探究する内容によっては、個別の体験・見学が必要になる。その場合に指導者の確保が重要になるので、早めの計画で対応したい。

② TTの指導が生きる実践にすするため、T1・T2の役割を一層吟味する必要がある。実際の指導では、T1とT2のコミュニケーション不足が見られたことから、事前の打ち合わせを必要に応じて実施し、効果的な指導・支援につなげたい。

視点2：互いに教え合う場の工夫について、リアスサミット以外の場でも、同じ学年部で中間発表会を見せ合う等の機会を設定することにより、学年間のつながりを意識したり、疑問や改善点に気付いたりするきっかけになると感じた。次年度の活動に積極的に取り入れたい。

視点3：探究活動の進め方について、教師の認識に個人差があったことは否めない。指導と評価の一体化を十分に考慮し、誰がどの学年を担当しても、探究活動の充実を図ることができるように、協働による研究・実践を一層推進したい。

イ 児童・教職員・地域の変容から

今年度から特別の教育課程「海と生きる探究活動」としての取組となり、当初は探究の内容や方法で戸惑うこともあった。しかし、本校は、多くの地域の方々の支援に恵まれているので、児童の関心・意欲に沿った主体的な活動を開拓する可能性が十分にある。児童によっては自主的に地域の清掃活動（クリーンオルレ）に参加したり、収集した海洋ゴミを使ってペンケースを作ったり、夏休みの自由研究で海のことを取り上げたり、探究活動で構築した地域の未来への思いや願いを気仙沼スローフェスタで発信したりと、これまで以上に、海に関心を持って活動する児童が増えてきていると感じる。教職員については、特別の教育課程というカリキュラムを作成する上で、戸惑うこともある様子である。しかし、ピンチをチャンスと捉え、お互いに声を掛け、助け合う機会になっているので、本校の恵まれた環境を十分に生かせるよう、計画的な取組を推進していきたい。地域については、学校支援委員会（県漁協青年部・海友会・唐桑公民館）を中心に変わらぬ御支援を頂いている。更に充実した教育活動になるように、事前の打合せや振り返りを十分に行っていききたい。



6年クリーンオルレへの参加



6年気仙沼スローフェスタでの発信

(4) 次年度以降の取組について

今年度、特別の教育課程「海と生きる探究活動」実践特例校1年目として、昨年度に作成した「海と生きる探究活動デザインシート」を基に、研究授業をはじめとした日々の実践を重ねてきた。今年度の取組の成果と課題を踏まえ、令和4年度以降は以下の視点で研究実践の見直し・改善を図りたい。

- ① 気仙沼市教育大綱に掲げる「気仙沼・未来想像力」を踏まえた、唐桑小学校スタイルの「海洋教育」「海と生きる探究活動」の構築
- ② 学校・保護者・地域を基盤とする海洋教育支援体制の拡充
- ③ 海洋教育副読本を効果的に活用し、「地域に根差し、地域の未来を考え、発信・行動する児童の育成」を目指す体系的なカリキュラムの編成
- ④ 市内海洋教育推進校等とのネットワークづくり・交流活動の推進

3年 『海と生きる探究活動』年間指導計画

単元名	唐桑の宝を知ろう	テーマ	伝統文化	自然	歴史民俗	指導時数	45時間 (総合25時間 教科20時間)	探究の スライル	関連 科目等	総合的な学習の時間	国語	社会
総括目標	<ul style="list-style-type: none"> 唐桑地区の人が守り続けてきた自然・伝統・産業などを体験的に学び、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることに気付く。 学習を通して、唐桑の人たちの温かさやつながりの強さについて実感し、自分たちも地域の一員として受け継いでいこうとする態度を育む。 											
身に付けたい 資質・能力	<p>【知識及び理解】 ・唐桑の宝を、有形のよさ（自然や住居など）のみではなく、無形のよさ（伝統や継承など）をも理解する ・唐桑の宝を、有形のよさ（自然や住居など）のみではなく、無形のよさ（伝統や継承など）をも理解する</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 ・思考力・判断力・表現力や手順を考え、必要な情報を収集・整理することができる。</p> <p>【学習力・課題解決力・人間性等】 ・学習力・課題解決力・人間性等 ・学習目標を設定し、課題解決に向けて行動しようとする心情を育む。</p>											

月	段階	主な学習活動	時数	目標	形態	探究の スライル	教科との 関連	地域連携	海洋副読本 との関連	評価
4	オリエンテーション	一年間の見通しをもとう 1 一年間の学習の流れをつかむ。 2 唐桑の伝統や自然など、地域のことについて話を聞く。	(2) 総合2	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を理解し、学習の流れについて見通しをもつ。 	全体			<ul style="list-style-type: none"> 鈴木実夫さん 吉田恵観さん 伊豆の会さん 川村さん 		
5	課題設定	探究課題を設定しよう 「唐桑の宝を調べよう」 1 唐桑の良さについて、知るところを出し合う。 2 家族にインタビューする。 3 唐桑の宝は何か考えよう。 ・自然（巨釜半造、大理石海岸など） ・食（ワカメ、カキ、魚など） ・伝統文化（ヘンヨニー、早馬神社神幸祭、えびす講など） ・人 ・「結」の文化	(4) 総合4	<ul style="list-style-type: none"> 唐桑の良さをについて、知っていることや、家族へのインタビューなどから、唐桑の宝について考えられることができる。 	個人	課題の設定			<ul style="list-style-type: none"> 探究学習コーナー 探究学習コーナー 	【知・理】 ・唐桑の良さをについて理解する。
6	課題探究（第一次）	探究課題を考えよう 1 第一次探究課題を設定する。 2 探究する方法を考えよう。 課題を探究しよう 1 計画に沿って調べ学習を進める。	(6) 国語1 社会5	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を設定して探究する方法的に探究する。 	個人	情報の収集	国語「調べて書こうわたり」 社会「市の様子」	<ul style="list-style-type: none"> 早馬神社 御崎神社 唐桑御殿 打ち会 海友会 唐桑漁学協会 唐桑探究学習コーナー 唐桑市民館保存会 	D章 いかす海をいかに E章 P24～P34 生き重なる海と化える資料編	【思・判・表】 ・唐桑の良さを調べたためについてとる方法を考える。
7	行動・発信・振り返り	調べたことを発表しよう 1 第一次探究課題についてまとめ。 ○テーマを基に調べたことを、ま新聞やリーフレットなどにとめる。	(5) 国語1 総合2	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを、自分なりに分かりやすくまとめる。 	全体	整理・分析	国語「調べて書こうわたり」			【思・判・表】 ・分かたつたことを自分で表現する。

8・9	<p>2 中間発表会をする。質問を見付ける。</p> <p>①発表を聞き合い、新たな課題を見付ける。</p> <p>②友達の発表から、唐桑の宝は海(安全祈願、大漁祈願、海への敬意)とながりがあることに気付く。</p>	総合2	<p>・調べたところや、質問などについて、授業で自分の言葉で相手に伝える方法を述べていく。</p>	個人グループ	<p>【まとめ・表現】</p>	<p>・調べる方法を述べていく。</p>	<p>・調べる方法を述べていく。</p>	<p>【学】 ・人間性 ・発工 ・表のり ・つや ・問を ・ス。</p>
10	<p>1 学期を振り返ろう (第一次) を振り返り、第二次課題を設定する。と詳しく調べる計画を立てる。</p> <p>課題を探究しよう</p> <p>A 行事 ・海と関係がある年中行事について調べる。</p> <p>B 住居 ・唐桑御殿について調べる。</p> <p>C 食生活 ・唐桑で育てているものについて調べる</p> <p>D 自然(環境) ・唐桑の自然について調べる</p>	(10) 総合2 国語8 総合4	<p>・1学期の活動を振り返って、新たに詳しく調べたいことや、新しく探究したい課題について考える。</p> <p>・グループで協力し合い、計画に沿って主体的に探究する。</p>	個人グループ	<p>【課題の設定】</p> <p>【情報の収集】</p>	<p>国語 「バラリテンピ調 「クベによつて」 「自分の考えを 伝えよう」</p>	<p>・早馬神社 ・各地区 ・鈴木実夫 ・吉田恵吉 ・石浜さん ・寺から ・大桑裁縫会 ・好唐観 ・唐光観 ・会</p>	<p>【思】 ・判 ・表 ・の良 ・さい ・をい ・たい ・ため ・で協 ・調考 ・をる</p>
1	<p>リアスサミットで発表しよう</p> <p>1 調べる。発表の計画を立てる。</p> <p>2 発表の計画を立てる。</p> <p>3 まとめる。</p> <p>4 練習する。</p> <p>5 リアスサミットで発表する。</p> <p>6 リアスサミットを振り返る。</p>	(12) 国語1 国語1 国語1 国語2 総合1 総合2 総合1	<p>・調べたところや、質問などについて、授業で自分の言葉で相手に伝える方法を述べていく。</p>	全体グループ	<p>【整理・分析】</p> <p>【まとめ・表現】</p>	<p>国語 「外国のことう 紹介しよう」</p>	<p>・おた月 ・世方立 ・京小大 ・東大教 ・宮城育 ・市教育 ・宮教大 ・探学一 ・アイネ ・デコタ ・保者</p>	<p>【思】 ・判 ・表 ・の良 ・さい ・をい ・たい ・ため ・で協 ・調考 ・をる</p>
2	<p>1 年間の活動を振り返ろう</p> <p>○伝統文化を大切にしよう 意味や、温かさや、地域の方たちの温かさや、生活していることなどを、どう伝えるか考える。</p> <p>唐桑の宝について伝えよう</p> <p>1 調べたことを発表する。</p> <p>2 1年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見付けたりする。</p>	総合2 (3) 総合2 総合1	<p>・1年間の活動を振り返って、新たに詳しく調べたいことや、新しく探究したい課題について考える。</p>	全体グループ	<p>【課題の設定】</p>	<p>・2年生児童 ・探究学習 ・アイデア ・ネコ ・タ</p>	<p>【学】 ・人間性 ・発工 ・表のり ・つや ・問を ・ス。</p>	

4年 『海と生きる探究活動』 年間指導計画デザインシート

単元名	唐桑の海の豊かさを探ろう	テーマ	自然 (環境), 多様性, 産業, 食文化	指導時数	4 5 時間 (総合 2 5 時間, 教科 2 0 時間)	関連教科等	総合的な学習の時間, 国語, 社会				
総括目標	唐桑の海の豊かさを盛んなわけを調べることができ、自分たちと自然環境、社会とのつながりについて理解し、森・川・海がながる唐桑の町や気仙沼の環境をよりよくしていくために自分たちができていることを考え、実践していくこととすることを育む。					SDGs 関連					
身に付けたい資質・能力	【知識及び理解】・・・唐桑の海での体験活動を通し、森とのつながりや海の豊かさを知るとともに、課題となる事象について理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・唐桑の海の良い点のみでなく、課題となる点にも目を向けて多面的に探究し、自分たちの生活と関連づけて考えることができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・探究課題の解決のために、情報収集したり、集めた資料を整理・分析したりし、自分の考えを伝えることができる。						【主な関連機関 (内容)】 ・漁協 ・学校支援委員会 ・海友会 ・森里海研究所 ・ピジターセンター ・からくわフードセクター ・石渡商店 ・お魚市場				
時期	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習活動	オリエンテーション 一年間の見直しをもとに ○唐桑のよさについて知っていることを整理する。 ・KJ法, ウェビングマップ等 ○唐桑のよさが海と関連のあることから、唐桑の海の豊かさや地域の人と海との関わりについて学習するという課題を捉え、一年間の学習の見直しをもつ。 総合 2	課題探究【第一次】(個人) (6時間) 探究方法を考えよう (1) ○個人課題をもとにグループを作り、共通の探究課題と探究方法について話し合う。 探究しよう (5) ○森川海つながりを調べる。 【予想される課題】 ・なぜ唐桑ではカキの養殖がさかんなのか。 ・なぜカキの成長に川や森(山)が関係しているのだろうか。 ・カキ筏周辺にはどんな生きものがあるのだろうか。 ・植物プランクトンと森川の関係はどうなっているのだろうか。 総合 6	課題探究【第二次】(探究課題別グループ・個人) 1学期を振り返ろう (2時間) ・課題探究 (第一次) を振り返り、二次課題を設定する。 ・唐桑の海の豊かさややすらしさについて、今までの活動を通してもっと詳しく調べる計画を立てる。 総合 2	A 自然 (環境) 課題探究 (グループ・個人) ○唐桑の海にはどんな特徴があるのか調べる。 ・内湾と外洋ではどんなことが違うのか、磯焼けや貝毒の問題、原因について調べる。 ・リアス海岸について調べる。 ・植物プランクトンとカキとのつながりについて調べる。 B 産業 課題探究 (グループ・個人) ○カキ養殖などに携わる人たちの思いについて調べる。 ・漁業に携わる方はどんな思いをもって仕事をしているのか、誇りや喜び、苦労について調べる。 ・課題 (海の厳しさ, 後継者問題等) について調べる。 C 食文化 課題探究 (グループ・個人) ○カキやカキの加工品 (オイスターソースなど) を使った料理について調べる。 ・地域の方や家族に、どんな料理があるか、教えてもらう。 ・実際に調理し、試食してみる。 ・カキの栄養、調理方法、旬、注意点などについて調べる。 D 流通 課題探究 (グループ・個人) ○カキが生産されてから売られるまでの、カキの行方を調べる。 ・カキやカキの加工品などを売っている店を調べる。 ・どんな商品が、どこに、どのように売られているのか、どんな人が買うのかなど、流通の経路を調べる。 国 4 : 聞いてほしいな心に残っている出来事 国 6 : 「ふるさとの食」を伝えよう 総合 2	対話・発表・共有 【第二次】 リアスサミットで発表しよう (10時間) ○探究して分かったことをまとめ、保護者や地域の人に発表する。 ・分かったことを整理し、発表の計画を立てる。(1) ・ポスター、写真、実物、模型などにまとめる。(5) ・発表練習をし、他のグループの発表を聞き合う。(3) ・リアスサミット (2) ・リアスサミットの振り返りをする。(1) 社 7 : 残したいもの 伝えたいもの 総合 3	課題探究【発展】(グループ・個人) 学習の成果と課題をまとめよう (2時間) ○これまでの活動を通して分かったことを整理し、唐桑の海の豊かさや、課題となることをまとめ、(2) ・唐桑の海の周りには、様々な生きものが生息している。 ・漁業に関係する仕事をしている人が多く、海と深く関わっている。 ・海産物を使ったおいしい料理がたくさんある。 ・海で囲まれたすばらしい景観があり、森川海つながりがある。 ・漁業を継続するには、様々な課題があり、解決していかなくてはならない。 総合 2	探究活動を通して学んだこと (3時間) ○学んだ唐桑の海の豊かさや魅力についてまとめ、身近な人に発信する。 ・計画を立てる。 ・ポスター、パンフレット、リーフレットなどにまとめる。 ・学校支援委員会や海友会などのお世話になったところへ届ける。 総合 3				
教科・領域との関連	課題設定【第一次】(個人) 探究課題を設定しよう (3時間) ○カキ養殖に関わりの深い人たちから話を聞き、唐桑の海の豊かさや地域の人たちがどんな関わりをしているのかを知る。(2) ・昔からの唐桑について詳しい方 (海友会会長) ・海の資源の管理を行う人 (漁協) ・漁業に携わる方 ・探究コーディネーター ○地域の方の話を振り返り、唐桑の海に関する探究課題を考える。 総合 3	行動・発信・振り返り【第一次】 調べたことを発表しよう (5時間) ○唐桑 (気仙沼) の海の豊かさについて分かったことをまとめ、(3) ・唐桑はリアス海岸で海に面しており、自然が豊かである。 ・唐桑の人たちは、昔から海に関わるいろいろな仕事をしている人が多い。 ・苦労しながらも、工夫して海の仕事を続けている。 ・植物プランクトンと海の栄養との関わりをまとめる。 ○中間発表会をする。(2) ・互いの発表を聞き合い質問をすることで、新たな課題に気付く。 国 3 : 学校についてしようかいいことを考えよう 総合 2									

4年 『海と生きる探究活動』年間指導計画

単元名	唐桑の海の豊かさを探ろう		テーマ		自然(環境), 多様性, 産業, 食文化		指導 45時間 時数 (総合25時間 教科20時間)		総合的な学習の時間 国語 社会	
	唐桑湾でカキ養殖が盛んな町や気仙沼の環境をよりよくしていくために自分たちができていることを考え、実践していきましょうとす	川・海がながる唐桑の町や気仙沼の環境をよりよくしていくために自分たちができていることを考え、実践していきましょうとす	唐桑湾でカキ養殖が盛んな町や気仙沼の環境をよりよくしていくために自分たちができていることを考え、実践していきましょうとす	川・海がながる唐桑の町や気仙沼の環境をよりよくしていくために自分たちができていることを考え、実践していきましょうとす	11 海の豊かさをめざそう	14 海の豊かさをめざそう	15 海の豊かさをめざそう	関連教科等	総合的な学習の時間	国語 社会
総括目標	<ul style="list-style-type: none"> 唐桑湾でカキ養殖が盛んな町や気仙沼の環境をよりよくしていくために自分たちができていることを考え、実践していきましょうとす 川・海がながる唐桑の町や気仙沼の環境をよりよくしていくために自分たちができていることを考え、実践していきましょうとす 									
身に付けた い資質・能力	<p>【知識及び理解】・・・唐桑の海での体験活動を通して、森とのつながりや海の豊かさを知るとともに、課題となる事象について理解することができる。」</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・・・唐桑の海の良い点のみでなく、課題となる点にも目を向けて多面的に探究し、自分たちの生活と関連付けて考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力・人間性等】・・・探究課題の解決のために、情報収集したり、集めた資料を整理・分析したりし、自分の考えを伝えようとする態度を育む。</p>									

月	段階	主な学習活動	時数	目標	形態	探究の スバイラル	教科との 関連	地域連携	海洋副読本 との関連	評価
4	オリエンテーション	<p>一年間の見通しをもとう</p> <p>1 一年間の学習の流れをつかむ。</p> <p>2 唐桑の海の良さについて知って知っていることを整理する</p> <p>○唐桑のよさが海と関連のあることから、唐桑の海の豊かさや地域の人と海との関わりについて学習することという課題を捉え、一年間の学習の見通しをもつ。</p>	(2) 総合2	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を理解し、学習の流れについて見通しをもつ。 	全体		<ul style="list-style-type: none"> 総合「カキ養殖オリエンテーション」 		A章 P6～海と出合い、なかよくなる	
5	課題設定 【第1次】	<p>探究課題を設定しよう</p> <p>「唐桑の海の豊かさを探ろう」</p> <p>○カキ養殖や唐桑の海に関わりの深い人たちの話を聞き、唐桑の海の豊かさや地域の人たちがどんな関わりをしているのかを知る。</p> <p>○地域の方の話を振り返り、唐桑の海に関する探究課題を考える。</p> <p>課題探究を考えよう</p> <p>○個人課題をもとにグループを作り、共通の探究課題と探究方法について話し合う。</p> <p>課題を探究しよう</p> <p>○計画に沿って調べ活動を開始する。</p>	(3) 総合3 (6) 総合6	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方の話を振り返り、唐桑の海に関する探究課題を考える。 課題を設定して探究する方法を考え、それを基に調べ活動を行う。 	個人 全体 グループ	<ul style="list-style-type: none"> 総合「唐桑の海のかさを知ろう」(パネルセッション) 総合「カキ養殖の耳吊り体験」「カキ温湯処理体験」 	<ul style="list-style-type: none"> 昔からの唐桑について詳しい方(海友会長)の海の資源の管理を行う人(漁師)・漁業に携わる方・カキ漁師 探究コーディネーター 加藤さん 	<ul style="list-style-type: none"> B章 P8～海の恵みを知る C章 P16～海の仕組みを知る D章 P24～海をいかす 	<p>【知・理】</p> <p>唐桑の海について話を聞いたたり調べて、豊かさについて理解しようとする</p>	
6	課題探究 【第1次】	<p>調べたことを相手にわかりやすいようにまとめ、中間発表会で自分の新たな課題に気付く。</p>	(5) 国語3 総合2	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを相手にわかりやすいようにまとめ、中間発表会で自分の新たな課題に気付く。 	全体 グループ	<p>【整理・分析】</p> <p>【まとめ・表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国語「学校についてしよとを考えよう」 			<p>【思・判・表】</p> <p>と分よ、養す、現しよと</p>

5年 『海と生きる探究活動』 年間指導計画デザインシート

単元名	世界につながる海の「今」を探ろう	テーマ	循環（自然環境）	指導時数	55時間 (総合25時間, 教科30時間)	関連教科等	総合的な学習の時間, 国語, 社会, 理科				
総括目標	<p>・唐桑（気仙沼）と世界の海の現状を探究し、自分たちと自然環境、社会とのつながりについて理解を深め、唐桑（気仙沼）とつながる環境をよりよくしていくために自分たちができることを進んで実践していきこうとする心情を育む。</p>					SDGs 関連					
身に付けたい資質・能力	<p>【知識及び理解】・・・唐桑や気仙沼が抱える諸課題が、身の回りの地域のみならず、地球規模での自然・社会環境から起因していることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・地域（気仙沼）が抱える課題を解決するために何か必要かを、多面的・多角的に考え、表現することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・探究課題解決に主体的に取り組む、学んだことを生活に生かそうとする心情を育む。</p>						【主な関連機関（内容）】・森里海研究所 ・唐桑公民館 ・学校支援委員会 ・唐桑漁協 ・宮城教育大学				
時期	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習活動	<p>オリエンテーション</p> <p>一年間の見通しをもと。 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生までの学習を振り返る。(カキの養殖体験) ・海を取り巻く環境に関して、自分が知りたいことやさらに追究してみたいことを課題に設定する。 <p>総合1</p>	<p>課題設定【第一次】(個人)</p> <p>探究課題を設定しよう(4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の興味・関心から課題を絞る。(1) ○課題吟味し、設定する。(3) ・それを知ることにはどんな意味があり、具体的な行動につながる課題か。 <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山と海にはどのような関係があるのか。 ・カキの成長に欠かせないプランクトンとはどのような生物なのか。 ・海を汚すゴミは海洋生物にどのような問題を引き起こすのだろうか。 ・地球の温暖化が進むとどのような問題が発生するのか。 <p>総合4</p>	<p>課題探究【第一次】(一斉・グループ) (8時間)</p> <p>探究方法を考えよう(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人課題を整理してグループを作り、グループの共通課題を決定する。 ○それぞれの課題を追究できるような計画、見通しを立てる。 ・課外活動やゲストティーチャーの活用など課題探究に必要な活動について話し合う。 <p>探究しよう(6時間)→グループ毎</p> <p>＜計画に沿って調べ学習を進める。＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山と川、海の関係調べ、豊かな海の定義をまとめる。 ○水生生物であるプランクトンの種類を調べる。 ○地球温暖化が及ぼす影響の事例を調べる。 ○海洋汚染の現状とその原因を調べる。 <p>国2：知りたいことを聞き出そう 総合6</p>	<p>行動・発信・振り返り【第一次】</p> <p>調べたことを発表しよう(5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中間発表をしよう。 ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 (テーマについての思い、予想、探究方法、集めた情報、そこから見えてきたことなどを発表する。) ○意見交換をしよう。 ・意見交換を行い、それぞれのグループのさらなる探究活動を促す。出された意見を基に、さらなる探究課題を明確にする。 <p>国5：環境問題について報告しよう</p>	<p>課題探究【第二次】(探究課題別グループ・個人)</p> <p>課題への追究を深めよう(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題探究(第一次)を振り返り、二次課題を設定する。(2) ・課題の確認と解決方法を改めて見直す。 <p>総合2</p>	<p>A 山川海関係 課題探究(グループ・個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山、川と豊かな海の関係について、より深く調べる。 ・サケなどが回遊してくる豊かな海を探る。 ・唐桑湾の水質と生態系を保護するために、自分たちができていることを考え、活動計画を立てる。 <p>B プランクトン 課題探究(グループ・個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな海に関する海の生物プランクトンについて、より深く調べる。 ・川が山の養分を運び、海が豊かになる事や養殖業に携わる人々の思いを知る。 ・豊かな海づくりにするために自分たちができていることを考え、活動計画を立てる。 <p>C 気候変動 課題探究(グループ・個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化の影響を、より深く調べる。 ・海と大気とのつながりを考え、人間の生活が地球環境へ影響していることを探る。 ・地球温暖化を防ぐために、自分たちができていることを考え、活動計画を立てる。 <p>D 海洋汚染 課題探究(グループ・個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海洋汚染について、より深く調べる。 ・プラスチックゴミなどの種類を調べる。 ・自然環境の保護や海洋汚染を防止するため、自分たちができていることを考え、活動計画を立てる。 <p>国5：和の文化について調べよう 国3：伝えたい、心に残ることば 社5：水産業のさかんな地域 理4：流れる水のはたらき</p>	<p>対話・発表・共有【第二次】</p> <p>リアスサミットで発表しよう(10時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○探究して分かったことをまとめ、発表する。 ・調べた動機・課題・方法を内容・成果と課題をまとめる。 ・発表の計画を立てる。 ・発表資料を準備する。 (模造紙、イラスト、写真、具体物等) ・発表原稿を準備する。(制限時間に収まるように考える。) ・発表の練習をする。 ・模擬発表会をする。 ・発表会。 <p>国3：資料を見て考えたことを話そう 総合7</p>	<p>課題探究【発展】(グループ・個人)</p> <p>学習の成果と課題をまとめよう(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人で課題を振り返る。(1) ・リアスサミットでいただいた意見等を参考にし、自分の探究課題を振り返り、修正・発展・補充を行う。 ○グループでテーマを検討する。(2) ・個人の成果と課題を持ち寄りグループで設定したテーマの成果と課題について考える。 ・環境に配慮した生活の仕方を考え、各自家庭や学校で実践したいことに取り組む。 <p>総合3</p>	<p>探究活動を通して学んだこと(5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことや実践したことをパンフレットにまとめる。(3) ○保護者や身近な人々に伝える。(1) ○一年間の学習を振り返り、自分たちの生活で取り組んだことをまとめ、新たな課題意識を持つ。6年生で追究したい課題に付いても考える。(1) <p>社3：環境を守るわたしたち 総合2</p>		

5年 『海と生きる探究活動』年間指導計画

単元名	世界につながる海の今を探ろう	テーマ	循環（自然環境）	指導時数 （総合25時間 教科30時間）	総合的な学習の時間	国語	社会
総括目標	唐桑（気仙沼）と世界の海の現状を探究し、自分たちと自然環境，社会とのつながりについて理解を深め，唐桑（気仙沼）とつながる環境をよりよくしていくために自分たちができることを進んで実践していこうとする心情を育む。						
身に付けた資質・能力	【知識及び理解】 唐桑や気仙沼が抱える諸課題が，身の回りの地域のみにならず，地球規模での自然・社会環境から起因していることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 地域（気仙沼）が抱える課題を解決するためには何が必要かを，多面的・多角的に考え，表現することができる。 【学びに向かう力・人間性等】 探究課題解決に主体的に取り組み，学んだことを生活に生かそうとする心情を育む。						
関連教科等	【主な関連機関等（内容）】 ・森里海民研究所 ・唐桑公民館 ・学校支援委員会 ・唐桑漁協 ・宮城教育大学 ・気仙沼市役所 水産課						
SDG S 関連	11 住み続けられるまちづくりを 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう						

月	段階	主な学習活動	時数	目標	形態	探究のスパイラル	教科等との関連	地域連携	海洋副読本との関連	評価
4	オリエンテーション	一年間の見通しをもと 1 一年間の学習の流れをつかむ。 ・4年生での学習を振り返り，5年生で学習することを知る。 2 海を取り巻く環境に関して，自分が知りたいことや，さらに追及してみたいことを課題に設定する。	(1) 総合1	・学習内容を理解し，学習の流れについて見通しをもつ。 ・4年生での海探の学習を振り返り，5年生でさらに探究し，振り返りたいことを具体的に考えることができる。 ・海を取り巻く環境について，自分が知りたいことを課題に設定することができる。	全体	総合1	・学校支援委員会 佐々木さん ・気仙沼市役所 水産課の方	学びの導入 学ぼう P.6～ 海の仲間と出会う	【学び・人間性】 1 年間の見通しや目標を立てている。	
5	課題設定	探究課題を設定しよう 「世界につながる海の今を探ろう」 1 自分の興味・関心から課題を絞る。(1) 2 課題吟味し，設定する。(3) それを知ることにはどんな意味がある課題か。 ・山と海にはどのような関係があるのか。 ・カキの成長に欠かせないプランクトンとはどのような生物なのか。 ・海を汚すゴミは海洋生物にどのような問題を引き起こすのだろうか。 ・地球の温暖化が進むとどのような問題が発生するのだろうか。	(4) 総合4	・唐桑や気仙沼の地域の自然・社会環境から起因していることに気付くことが出来る。 A 山川海の関係 B プランクトン C 気候変動 D 海洋汚染 以上の4つの課題の中から興味のある探究活動のイメージをもつことができる。	個人	総合4 ふるさと学習 「海辺の自然と生物の調査～森・川・海の関わりを学ぼう～」	・唐桑漁協 気仙沼市役所 水産課	B 学ぼう P.8～ 海の恵みを知る C 学ぼう P.16～ 海の仕組みを知る	【知・理】 唐桑や諸課題の地域・社会環境から起因していることとよ	
6										

6年 『海と生きる探究活動』 年間指導計画デザインシート

単元名	自分たちの未来を考えよう	テーマ	産業、環境、生命、伝統	指導時数	5.5時間 (総合2.5時間、教科3.0時間)	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科
総括目標	・唐桑と海の環境を見つめ直し豊かで恵まれていたり豊かでないことなどについて調べ、自分たちと自然環境との関連性に気づき、自分の住む唐桑のよりよい未来はもたらさず、世界に目を向けて自分のできることをやろうとすることを提案し、発信しようとする心情を育む。					SDGs 関連	総合的な学習の時間、国語、社会、理科
身に付けたい資質・能力	【知識及び理解】・・・唐桑(気仙沼)や世界の課題を知り、よりよい未来にするために、どんなことが必要なのかを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・解決に向けて情報収集、整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ、発信することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・課題を自分事として捉え、主体的に探究活動に取り組みようとする。 ・・・よりよい唐桑(気仙沼)にするため、自分たちができていることを考え、実践することができる。						【主な関連機関と内容】・森里海研究所 ・気仙沼市役所水産課 ・唐桑漁協 ・探究学習コーディネーター ・唐桑公民館 ・南三陸・海のビジターセンター ・水産試験場

4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オリエンテーション 一年間の見通しをもと (1時間) ・5年時に学習したことを中心に、これまでの学習内容を振り返る。 ・自分が知りたいことや更に追究してみたいことを課題に設定することを知らせる。「唐桑の未来」について考えていくことを知る。 総合1	課題設定【第一次】(個人) 探究課題を設定しよう(3時間) ○自分の興味・関心についてマップで整理する。(1) ○課題の吟味をする。(2) ・何に興味があるか。 ・それを知ることにはどんな意味があるか。 ・具体的な行動につながるテーマか。 ・調べていく方法は自分で体験できることか。など 【予想される課題】 ・唐桑や世界の漁業は現在どんな問題を抱えているか。 ・唐桑が誇る自然をもっと大切にしたいか。 ・海洋ゴミについて唐桑や気仙沼はどう取り組んでいるか。 ・唐桑の文化をもっと広く発信するにはどんなことができるか。 総合3	課題探究【第一次】(一斉・グループ) (11時間) 探究方法を考えよう(2) ○個人課題の整理とグループ作りを行い、グループの共通のテーマを決定する。 ○それぞれの課題を追究できるような計画、見直しを立てる。 ・課題に関する基本的知識について調べる。 ・校外活動、ゲストティーチャーの活用など どんな活動が必要か話し合う。 探究しよう(6) ○課題に対して予想仮説を持つ。 ○計画に沿って調べ学習を進める。 産業、生態系、環境、生活・文化等 ・森里海研究所 ・気仙沼市役所水産課 ・唐桑漁協 ・探究学習コーディネーター ・唐桑公民館 ・リアスアーク美術館 ・南三陸・海のビジターセンター ・水産試験場 ・宮城教育大学 ・学校支援委員会 情報を整理しよう(3) ○集めた情報をテーマに照らし合わせて整理する。 ・分類する。 ・関連づける。 ・比較する。 ・不足している情報を確認する。 ○探究する内容や方法の見直しを行う。 総合1.1	課題探究【第二次】(探究課題別グループ・個人) (18時間) 課題を深めよう(2時間) ○課題探究(第一次)を振り返り、二次課題を再設定する。 ・中間発表で明らかになったことを確認し、課題の確認と解決するための方法を改めて見直す。 総合2	対話・発表・共有【第二次】 リアスアミットで発表しよう(10時間) ○探究学習を通して得た思いを発信する。 ・唐桑の自然、産業、人、文化と自分との関係をとらえ、自分自身に何ができているかを考え、共に生きる方法を提案する。(効果的なポスター制作、対話を重視した発表方法) ○発表を通して学んだことをまとめ、ポスターセッションで得た手応えや新たに提出された疑問や課題をまとめ、発表・発表・共有【第二次】 リアスアミットで発表しよう(10時間) ○探究学習を通して得た思いを発信する。 ・唐桑の自然、産業、人、文化と自分との関係をとらえ、自分自身に何ができているかを考え、共に生きる方法を提案する。(効果的なポスター制作、対話を重視した発表方法) ○発表を通して学んだことをまとめ、ポスターセッションで得た手応えや新たに提出された疑問や課題をまとめ、	課題探究【発展】(グループ・個人) 学習の成果と課題をまとめよう(2時間) ○リアスアミットで明らかになった成果と課題を振り返り、課題をまとめ、 ・成果の検証を行う。 ・新たな課題に対し、今後どのような探究ができるのかを考える。 総合2	探究活動を通して学んだこと(5時間) ○「海と生きる探究活動」を通して学んだことを論文に書く。 ・グループの課題のまとめをもとに個人の課題を振り返る。 ・小学校生活の中で、これまで行ってきた海洋に関する活動や探究学習について振り返る。 ・自分の学習と海との共生、自分たちの未来を関連付けて考える。 国5：世界に目を向けて意見文を書こう				
学習活動	教科・領域との関連									

6年『海と生きる探究活動』年間指導計画

単元名	自分たちの未来を 考えよう	テーマ	ふるさとへの思いを形に	指導時数 (総合25時間 教科30時間)	探究の スパイラル	関連 科等	総合的な学習の時間 国語 社会 理科
総括目標	○ 唐桑と海の世界を見つめ直し豊かで恵まれていたり、問題となつていたりすることなどについて調べることや問題を自分たちと自然環境との関連性に気付き、自分の住む唐桑のよりよい未来はもろろん、世界に目を向けて自分のできることややることが提案し、発信しようとする心情を育む。				11 生かす力を まっすぐ伝える	SDG S 関連	14 魚の恵みを守る 15 海の豊かさを守る 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 12 つくば責任 つかう責任
身に付けたい 資質・能力	【知識及び技能】 ○ 唐桑(気仙沼)や世界の問題を知り、よりよいまちにすするために、どんなことが必要なのかを理解することができ 【思考力・判断力・表現力等】 ○ 思考力に方向け情報収集、整理・分析して探究したことや分りやすくとめ、発信することができる 【学びの力・人間性等】 ○ 学びに向かう力、人間性等 ○ 課題を自分事として捉え、主体的に探究活動に取り組もうとすること ○ よりよい唐桑(気仙沼)にするため、自分たちが取り組むことができること、実践することができ						【主な関連機関等(内容)】 【主な関連機関と内容】・森里海研究所 ・気仙沼市役所水産課 ・唐桑漁協 ・探究学習コーディネーター 唐総合支所 ・唐桑公民館 ・リニアアーツセンター美術館 ・南三陸・海のビジターセンター ・水産試験場 ・宮城教育大学 ・学校支援委員会 ・つなかん

月	段階	主な学習活動	時数	目標	形態	探究の スパイラル	地域連携	海洋副読本 との関連	評価
4	オリエンテーション	一年間の見通しをもとう (1時間) ・ ガイダンスを行う。 ・ 5年時に学習したことを中心に、これまでの学習内容を振り返る。 ・ 自分たちが知りたいことや更に追究してみたいことを課題に設定することを知る。 ・ 探究学習を通して「唐桑の未来」について考えていくことを知る。	(1) 総合1	・ 学習内容を理解し、1年間の学習の流れについて見直しをもつ。 ・ 5年生での海探の学習を振り返り、6年生でさらに探究し、振り返り、たいことを具体的に考えてみる。 ・ 「唐桑の未来」についていかに考えることができる。	全体	課題の設定		学びの導入 A章 P6～ 海と出かい、ななる	【学び・人間性】 1年間の見通しを持ち、探究課題をや目標としてしている。
5	課題設定	探究課題を設定しよう(3時間) 「自分たちの未来を考えよう」 ・ 自分の興味・関心についてマップで整理する。(1) ・ 課題の吟味をする。(2) ・ 何に興味があるか。 ・ それを知ることにはどんな意味があるか。 ・ 具体的な行動につながるテーマか。 ・ 調べていく方法は自分で体験できるところか。など 【予想される課題】 ・ 唐桑や世界の漁業は現在どんな問題を抱えているか。と大切に唐桑が誇る自然をどうしたらよいか。 ・ 唐桑の文化をどう伝えていくか。 ・ 唐桑の文化をどう伝えていくか。	(3) 総合3	A 産業(生産、加工、流通) B 生態系(循環、生命) C 環境(汚染、資源、温暖化) D 生活・文化(継承) 以上の4つの課題の中から興味がある探究課題について具体的な探究活動のイメージをもつことができる。	個人	情報の収集	探究学習コーディネーター イネ	B章 P.8～ 海の恵みを知る C章 P.16～ 海を知る D章 P.24～ 海をいかす E章 P.34～ 海と生き重なる F章 P.40～ 海と生きる	【知・理】 自分ごととして問題を解いていく。
6	課題探究(第一次)	探究課題に合わせた探究方法を考えよう 探究方法を考えよう(2)	(1.1) 総合11	以下の課題の中から自分の設定課題を決定することができる。 ・ 磯焼け、貝毒	個人	整理・分析	唐桑漁協 探究学習コーディネーター イネ		【思・判・表】 ・ 地域の特徴や産業・環境・生態

<p>7 行動・発信・振り返り</p>	<p>個人課題の整理とグループ作りを決める。それぞれの課題を追及できるように計画を立てる。課題に関する基本的知識について調べ、校外活動、ゲストティーチャーの活用など必要な活動が必要か話し合う。</p> <p>課題を探究しよう(6)</p> <p>○ 課題に対して予想仮説を持つ。</p> <p>○ 計画に沿って調べ学習を進める。</p> <p>産業，生態系，環境，生活・文化</p> <p>情報を整理しよう(3)</p> <p>○ 集めた情報をテーマに照らし合わせ整理する。</p> <p>・ 分類する。 ・ 関連づける。</p> <p>・ 比較する。</p> <p>・ 不足している情報を確認する。</p> <p>○ 探究する内容や方法の見直しを行う。</p> <p>【予想される課題】</p> <p>・ 唐桑や世界の漁業は現在どんな問題を抱えているか。</p> <p>・ 唐桑が誇る自然をもっと大切にしたいか。</p> <p>・ 海洋ゴミについて唐桑や気仙沼はどう取り組んでいるか。</p> <p>・ 唐桑の文化をもっと広く発信するにはどんなことができるか。</p>	<p>後継者問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 唐桑独自の工夫と努力(養殖の方法・流通) ・ 漁業者(学校支援委員会)の思い ・ 森や川と海の関係(日本の比較) ・ 舞根川の自然環境 ・ サケの回遊と栄養の循環 ・ 海洋ゴミの現状と対策(唐桑・気仙沼・日本) ・ マイクロプラスチックと海洋との関係 ・ 海を取り巻く環境 ・ 自然保護に向けての提案 ・ 伝えていきたい文化，伝統，歴史 ・ 唐桑の自然 ・ 食文化 ・ 地域の特性を生かした町づくり <p>課題に応じた探究活動を具体的に考える，調べることができる。</p> <p>探究して得た情報を整理したり，分類したり，自分としたり，ことごとく行うことができる。</p> <p>個人グループ</p>	<p>ふる学 森は海の恋人 植樹祭参加</p> <p style="text-align: center;">総合1 1</p>	<p>学校支援委員会 唐桑総合センター 海友会</p> <p>学校支援委員会 つなかん</p> <p>資料編 P52～P53 調べ先</p>	<p>系柄や関係性にき</p> <p>生活などの特題が</p>
<p>9 課題探究(第二次)</p> <p>10 課題探究(発展)</p>	<p>調べたことを発表しよう(3時間)</p> <p>○ 中間発表をしよう。</p> <p>・ テーマについて調べたことをグループ毎に発表し，聞き合う。(テーマについての思い，予想，探究方法集めた情報，そこから見えてきたことなどを視点にして話す。)</p> <p>・ 意見交換の活動を行い，それぞれのグループの活動について見直しを行う。</p> <p>1 学期を振り返ろう(2)</p> <p>・ ガイダンスを行い，1 学期の学習を振り返り，2 学期の学習の見直しをもつ。</p> <p>・ 1 学期の反省を踏まえて新たな探究活動の計画を立てる</p> <p>課題を探究しよう</p> <p>○ 課題を深めよう(8時間)</p> <p>○ 課題探究(第一次)を振り返り，</p>	<p>(3) 総合1 社会2</p> <p>1 学期の探究活動の結果をまとめ，中間発表会を行う。</p> <p>中間発表会を見せ合い，互いに助言や活動に気付き，2 学期からの探究への目標をもつ。</p> <p>1 学期を振り返り，2 学期の活動計画を具体的に練ることができる。</p> <p>グループ個人</p> <p>グループ個人</p>	<p style="text-align: center;">総合 2</p> <p>国 5：町の未 来をえがこう 社 4：日本と つなぐ い国々 理 4：地球に 生きる 総合 5</p>	<p>【学・判・表】 やき言まわしと 【思・判・表】 情報でを伝識こ 【学・判・表】 資手意に 【思・判・表】 資手意に 【学・判・表】 資手意に 【思・判・表】 資手意に</p> <p>資料編 P52～P53 調べ先</p>	<p>【学・判・表】 やき言まわしと 【思・判・表】 情報でを伝識こ 【学・判・表】 資手意に 【思・判・表】 資手意に 【学・判・表】 資手意に 【思・判・表】 資手意に</p> <p>資料編 P52～P53 調べ先</p>

まとめ・表現

<p>対話・発表・共有</p>	<p>二次課題を再設定する。 ・中間発表で明らかになったことを更に探 究活動をする。</p> <p>リアスサミットで発表しよう 1 発表の計画を立てる。 2 発表の計画を立てる。 3 発表の計画を立てる。 4 リアスサミットで発表する。 5 リアスサミットを振り返る。 6 リアスサミットを振り返る。</p> <p>リアスサミットで発表しよう (10時間) ○探究学習を通して得た思いを発信する。 ・唐桑の自然、産業、人、文化と自分自身との関係を考え、共に生きることが出来るかを考え、共生的方法を提案する。 (効果的なポスター制作、対話を重視した発表方法) ○発表を通して学んだことをまとめ ・ポスターセッションで得た手応えや新たな疑問や課題をまとめ、模造紙や写真などの効果を考えながら発表する。 ・発表原稿も作成し、模造紙を活用して発表できるように準備する。 ①探究課題の理由 ②課題設定のための体験活動・調べたこと ③探究の(2～3点) ④調べて行動したこと ⑤探究活動を通して自分が考えたこと とまとめ～唐桑の未来のために～</p>	<p>(2時間) ○リアスサミットで明らかになった成果と課題を振り返り、課題をまとめ、成果の検証を行う。 ・新たな課題に対し、今後どのよう探究ができるのかを考察する。 ○「海と生きる探究活動」を通して学んだことを論文に書く。 ・グループの課題のまとめをもとに個人の課題を振り返る。 ・小学校生活の中で、これまで行ってきたことや探求活動や探求活動について振り返る。 ・自分の学習と海との共生、私たちの未来を関連付けて考える。</p>
<p>社会4 理科4 総合5</p>	<p>(10) 国語10</p>	<p>(2) 総合2 (5) 国語5</p>
<p>調べたことを自分の言葉で発表し、質問やアドバイスを述べたりする。 ・手帳に記入する。 ・発表の準備をする。 ・発表の準備をする。 ・発表の準備をする。</p>	<p>調べたことを自分の言葉で発表し、質問やアドバイスを述べたりする。 ・手帳に記入する。 ・発表の準備をする。 ・発表の準備をする。 ・発表の準備をする。</p>	<p>調べたことを自分の言葉で発表し、質問やアドバイスを述べたりする。 ・手帳に記入する。 ・発表の準備をする。 ・発表の準備をする。 ・発表の準備をする。</p>
<p>課題の設定</p>	<p>情報の収集 整理・分析</p>	<p>まとめ・表現 まとめ・表現</p>
<p>国5 防災ポスター作り 国3 聞いてほしいこの思い 国2 さままな生さき方について考えよう</p>	<p>おた月立京東宮市宮探デ保 世方立京東宮市宮探デ保 話々小大京東宮市宮探デ保 になっ ・おた月立京東宮市宮探デ保 ・世方立京東宮市宮探デ保 ・話々小大京東宮市宮探デ保 ・になっ</p>	<p>まとめ P46～ 海未来を描こう？</p>
<p>【学び・人間性】 中間発表で内容を掘り下げ、自分なりに考えたことを発表し、お互いに学びを深め、成長を促す。 【発表】 発表の準備をする。発表の準備をする。発表の準備をする。</p>	<p>まとめ P46～ 海未来を描こう？</p>	<p>まとめ P46～ 海未来を描こう？</p>

第3学年特別の教育課程「海と生きる探究活動」学習指導案

令和3年11月19日（金）5校時

指導者 T1 教諭 及川 麗子

T2 主幹 鈴木 英喜

場 所 3年1教室

1 単元名 唐桑の宝を知ろう

2 単元について

(1) 単元観

本校では、文部科学省および気仙沼市の指定を受け、特別の教育課程『海と生きる探究活動』を新設し、今年度より小学校3年生から6年生において総合的な学習の時間を国語、社会、理科の一部を組み替えて教育課程を編成した。地域の漁業従事者や事業者、生産者等との交流及び体験の機会を活用し、森・川・海などの環境や生態系、産業、生活、文化などを関連付け、生きて働く「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」を育成するとともに学びを自分の人生や日常に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等の涵養」を図ることをねらいとしている。「海と生きる」という気仙沼市の施策や教育の理念に基づいた教育の展開を進めていくため、海を中心とした地域の自然や人々に親しみながら地域を知り、地域から日本さらには世界にまで目を向け、資源を守り、上手に活用して社会に貢献することを学ばせたい。

本校の海洋教育の全体的計画は、自分の住む唐桑を見つめ直すことから始まり、唐桑を象徴する海の豊かさについて学ぶ。それを基にして海を取り巻く現在の状況を考え、学んだことを基に自分たちの未来について考え実行していくというものである。4年間を通して、見つけた課題に対し自分事として探究し、解決に向けて実行していく力を身に付けさせることがねらいである。

3年生のテーマは、「唐桑の宝を知ろう」である。児童はこれまで浜遊びやサケの稚魚飼育・放流などの体験を通して海と関連した学習を行っている。それらの体験に加えて、地域の文化や自然に課題を求め、探

究することで、唐桑についてより深く知ることがねらいである。そのために、始めから単元のテーマである

「唐桑の宝」を目指すのではなく、最終的に、自分たちが探究してきた「唐桑の不思議」は他地域にはない

「唐桑の宝」であるという気持ちを持たせたい。学習を終えるとき、地元唐桑のすばらしさを「宝物」と感

じることで、次の探究学習である「唐桑の海の豊かさ」が自分事として捉えることができると考える。

また、探究学習を始めるにあたり、まず自分に身近な地域である「唐桑」について課題を見付け探究する

ことは、探究学習自体を学んでいく3年生にとって適切と考え、この単元を設定した。

(2) 児童観（男11名 女6名 計17名）

本学級の児童は、学習に対して、まじめに取り組み、最後まで粘り強くやり遂げようとする事ができる。課題に対して主体的に、工夫を凝らして解決しようとする児童も多い。一方で、周囲のことにあまり関心を持たず、課題の設定や探究活動に消極的な児童もあり、物事に疑問を持つことの訓練が必要である。また、言葉の意味理解が不十分な児童もいるため、学習を深めるためには語句の意味を補う必要がある。

事前の意識調査の結果は以下の通りである。（6月実施）

A:とても当てはまる B:当てはまる C:あまり当てはまらない D:まったく当てはまらない

設 問	A	B	C	D
1 自分で計画していく学習は好きですか。	7人	10人	0人	0人
2 簡単に解決できない学習や運動に粘り強く取り組みますか。	10人	7人	0人	0人
3 これまで学習したことを生かして課題に取り組んでいますか。	10人	7人	0人	0人
4 自ら関心のある課題を見付けることができますか。	3人	11人	3人	0人

以上のことから、ほとんどの児童は主体的に課題を解決していこうとしている。しかし、自ら課題を見付けることに関しては、やや消極的な傾向がみられる。また、調査や情報の整理・分析を行った経験が少なく、本学習がこれからの基礎を築くものになる。児童は自分の住んでいる唐桑について考える機会があまりなく、改めて見つめ直すことになる。

(3) 指導観

以上のことを踏まえ、以下の点に留意しながら、本単元の指導に当たりたい。

- ① 1年間を通して探究していく意欲を持続できる課題を持たせるために、全体でのオリエンテーションにおいて、「唐桑の不思議を見つけよう」と題して話し合いを行い、たくさんの考えを共有させる。課題の設定に十分に時間を取り、自分自身が不思議だと思うことやもっと知りたいと思うことを考えさせる。
- ② 個人の興味・関心を基にグループを編成し、探究活動させる。
- ③ 情報の収集はインターネットや文献だけでなく、実際に地域のことに詳しい方に話を聞いたり、見学したり、体験したりして行わせる。
- ④ 収集した情報の中で分からない言葉を明確にし、意味理解を図る。
- ⑤ 調査を簡易に行わせるため、タブレット端末を活用し、写真や図、絵を収集させる。
- ⑥ 活動全体を見通して探究活動の経緯を確認したり、行った調査からわかることを考えさせたりするために、ポスター等にまとめさせる。

(4) 校内研究との関連

研究主題「自ら課題を見いだし、身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成」に関連して、本単元では以下のような取組を行う。

視点1 課題意識をもたせるための工夫

ア 児童自身が解決しなければと感じる課題提示や設定の工夫

- ① 自分が「唐桑について知っていること」を挙げさせ、知らないことも多いことに気付かせ、課題設定を行わせる。
- ② 学習に取り組む意欲を高めるために、学級全体の疑問や考えを共有させる。
- ③ 解決すべき次の課題を見付けさせるために、話し合い活動を充実させる。

イ 自分で課題を発見させるための工夫

- ① 家族と対話する中から疑問や興味を引き出させるために、「唐桑について知っていること」としてインタビューをさせる。
- ② 調査しながら次の課題を見付けさせるために、地域のことに詳しい方へのインタビューを行うなど、人との対話がある活動を推奨する。

視点2 多様な考えを生かし、学び合える探究型学習法の構築

イ 互いに教え合い、自分で探究、または集団で探究させるための工夫

- ① 他教科で学習した、話合いの仕方や資料の使い方など既習事項を活用させる。

視点3 学びを生かす評価の工夫

ア 学びの成果を実感でき、次の課題を見付け、自身の行動につなげる探究型学習法の工夫

- ① 発表会後の振り返りを充実させる。
- ② 活動の経過を記録させることで、全体を通して学習の流れと成果を確認させる。

イ 自己チェックシートによる評価、海探3年2月ポスター評価

- ① 調査したレポートをファイルさせ、評価を行う。
- ② 小單元ごとに自己チェックシートに記入をさせる。

3 単元の目標と評価基準

(1) 単元の目標

- 唐桑地区の人が守り続けてきた自然・伝承・産業などを体験的に学び、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることに気付く。
- 学習を通して、唐桑の人たちの温かさやつながりの強さについて実感し、自分たちも地域の一員として受け継いでいこうとする態度を育む。

(2) 評価規準

【知識及び理解】

- 唐桑の宝を有形の良さ（自然や住居など）のみでなく、無形の良さ（伝統や継承など）をも理解することができる

【思考力・判断力・表現力等】

- 課題解決の方法や手順を考え、必要な情報を収集・整理することができる。

【学びに向かう力・人間性等】

- 目標を設定し、課題解決に向けて行動しようとする心情を育む。

4 指導計画 リアスサミットで発表しよう 12時間扱い (本時1/12)

月	時数	児童の探究的な学習内容	探究方法・資料	形態	評価の観点
11	2 本時 1/2	<p>調べて分かったことを整理する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの調査をまとめたポスターを基に、プレ発表会を行う。 ○発表に対して寄せられた質問や助言を基に、調査を見直す。 ・より良い内容にするために必要なことを追加して調査したり、集めた情報の整理を行ったりする。 <p>発表の計画を立てる(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとにポスター、資料 ○発表を聞くための観点カード ○記録用紙 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決の方法や手順を考え、必要な情報を収集・整理しようとしている。 【思・判・表】 ○目標を設定し、課題解決に向けて行動しようとしている。

		○プレ発表会の話し合いを基に、リアスサミットまでの計画を立てる。	○記録用紙 ○計画表	グループ	【学・人間性】
12	4	<p>まとめる(4)</p> <p>○計画を基に、追加した情報や資料を整理・分析しポスターにまとめる。</p> <p>○自分たちが探究してきたものは「唐桑」や自分たちにとってどんなものであるかを考える。</p> <p>○より見やすく伝わりやすい発表のために、ポスターのレイアウトや発表の方法を考え準備する。</p> <p>・レイアウトや色での協調などを見直す。</p> <p>・タブレットや模型など補助資料の提示方法を工夫する。</p> <p>リアスサミットの発表練習</p>	○計画表 ○不足している情報を調べて追加する(グループ毎) ○発表用の資料や作成物を作る。	グループ	○唐桑の宝を有形の良さ(自然や住居など)のみでなく、無形の良さ(伝統や継承など)をも理解しようとしている。 【知・理】
1	6	<p>を(3)</p> <p>○準備した発表の方法を使い練習を行う。</p> <p>・声の大きさや立ち位置などより伝わりやすい方法を工夫する。</p> <p>リアスサミット(2)</p> <p>○探究してきた成果を発表する。</p> <p>リアスサミットを振り返る(1)</p> <p>○これまでの探究の成果を十分に発信できたか振り返りを行う。</p>	○リアスサミットの動画 ○振り返り用紙	グループ グループ グループ 個人	○調べて分かったことを整理し、発表の計画を立ててリアスサミットで発表しようとしている。 【思考力・判断力・表現力等】

5 本時の指導

(1) 本時の目標

【思考力・判断力・表現力等】

○課題解決の方法や手順を考え、必要な情報を収集・整理しようとしている。(発表、発言内容)

【学びに向かう力・人間性等】

○目標を設定し、課題解決に向けて行動しようとしている。(発表、発言内容)

(2) 指導に当たって

【視点2-イ】

① 発表者には、それまでの調査を分かりやすく発表項目を吟味させた発表ができるようさせる。ま

た、発表者側からも聞き手に質問や助言を求めさせる。

② 内容に合った質問や助言ができるように、聞く側、話す側に観点を与える。

(3) 準備物

教師：発表者カード、聞き方カード、記録用紙

児童：発表用ポスター、補助資料

海探-3年-4

(4) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・児童の反応	指導上の留意点【校内研究との関連】		【評価】 (評価方法) ・準備物
		T1	T2	
導入 (5分)	<p>1 活動内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;">プレ発表会をしよう</div> <p>○リアスサミットに向けて、これまでまとめたポスターを基に発表して、みんなから疑問やアドバイスをもらいましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問が出ないように頑張って発表しよう。 ・上手に説明できるかな。 <p>○「聞き方カード」を基にして、発表をよく聞き、そのグループがもっといい発表ができるように分かりにくいところを質問したり、アドバイスをしたりしてください。</p> <p>○「発表者カード」を基に聞いている人にどんどん質問してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をよく聞いて、いい質問がしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問やアドバイスを重視することを意識付ける。 ・この発表会を受けて最後のまとめに向かうことを強調し、意欲を持たせる。 <p>【視点2-イ-②】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">T1 と T2 で質疑応答のモデルを示す。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・リアスサミットに向けてより良い発表内容になるように活発に活動できるように励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター ・発表用資料 ・記録用紙 ・発表者カード ・聞き方カード
展	<p>2 発表を行う。</p> <p>○ 発表は2チームに分かれて行います。お互いに調べてきたことが関係しているかもしれません。</p> <p>たくさん質問や助言をし合って、もっと良い発表ができるようにしましょう。</p> <p>【神社チーム】</p>	<p>【視点2-イ-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神社チーム ・リアスチーム <p><神社チーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐桑にはなぜ神社がたくさんあるかをしっかりと話させる。 ・唐桑に入江が多いことに疑問を持たせる。 ・地域の人が、神社に対し 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理チーム ・漁業チーム <p><郷土料理チーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理とはどんなものかを確認させる。 ・郷土料理の成り立ちには、伝統や文化等が関係していることを確認させる。 	<p>【思】</p> <p>課題解決の方法や手順を考え、必要な情報を収集・整理しようとしている。</p> <p>(発表・発言内容)</p>

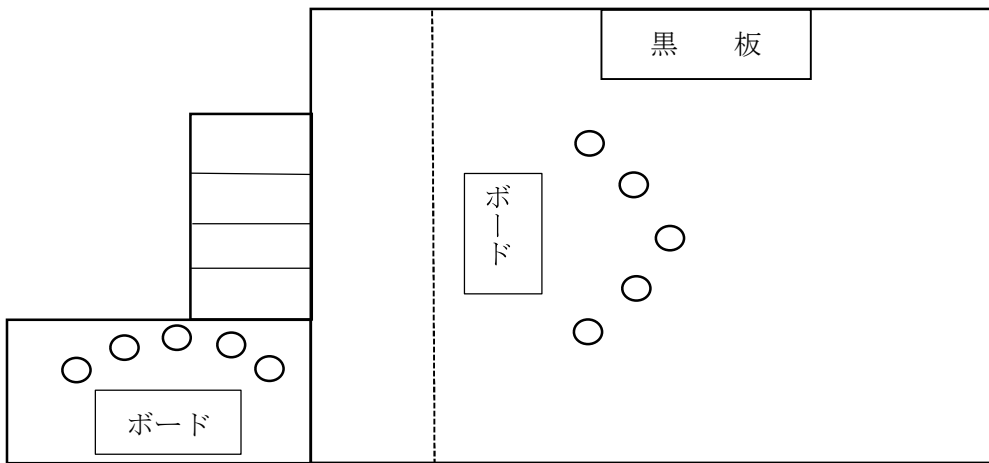
海探-3年-5

<p>終末(20分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の理由 ・唐桑にある神社の名前 ・神社に祭られている神様の名前、由来 ・鳥居の名前の由来 <p>【リアスチーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の理由 ・リアス海岸の成り立ち ・リアス海岸のメリットとデメリット <p>【郷土料理チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の理由 ・唐桑の郷土料理の種類とその作り方 ・唐桑の新しい郷土料理 <p>【漁業チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の理由 ・様々な漁法 ・唐桑で捕れる魚の紹介 <p>3 チームごとに発表を振り返り、発表に対して寄せられた質問や助言を基に、調査を見直す。</p> <p>○発表会を振り返って、よく伝わったところや足りなかったところを確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神社がたくさんある理由をもっとはっきりと伝えなければいけないね。 ・神社がたくさんあることは地形と関係があることも発表に入れよう。 ・自然が作った地形と神社が関係あることが分かったね。 ・唐桑は漁業が盛んだから魚料理が多いんだ。 ・郷土料理の由来と唐桑の文化が関係していることをもっとしっかり伝えよう。 ・捕れる魚が郷土料理になっているんだね。 ・唐桑には魚を捕る方法だけでなく、おいしく食べる工夫があるんだね。 <p>4 振り返った内容を発表する。</p> <p>○振り返ってまとめたことを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神社チーム 	<p>てどんな思いを持っているかに意識を向けさせる。</p> <p><リアスチーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアス海岸のでき方と多くの入り江がある唐桑の特徴を、神社チームの発表との関連に気付かせる。 ・神社に津波の記録の石碑があることに気付かせる。 ・リアス海岸に囲まれた唐桑に住んでいて、どう思うかを問い掛ける。 ・質疑応答の中から、必要なことだけを確認できるようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の中で気付いたことも共有させる。 ・記録を取らせ、次時に活用させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の中でよかった質問や発言を取り上げ、補助する。 ・発表内容の修正だけでなく、気付いたことを大切にまとめて向かうことを確認させる。 <p>・要点を発表できるように声掛けする。</p> <p>・今後の活動を具体的にイメージできるように助言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が郷土料理に対してどう思うかを考えさせる。 <p><漁業チーム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は漁師という仕事に対してどう思っているかを問い掛ける。 ・漁師の方は、自分の仕事に対してどんな考えを持っているかを問い掛ける。 ・地元で捕れる食材(魚)が郷土料理に関係していることに気付かせる。 ・質疑応答の中から、必要なことだけを確認できるようにさせる。 ・質疑応答の中で気付いたことも共有させる。 ・記録を取らせ、次時に活用させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の中でよかった質問や発言等を取り上げ、賞賛や助言を与える。 	<p>【学】</p> <p>目標を設定し、課題解決に向けて行動しようとしている。</p> <p>(発表・発言内容)</p>
----------------	--	--	---	---

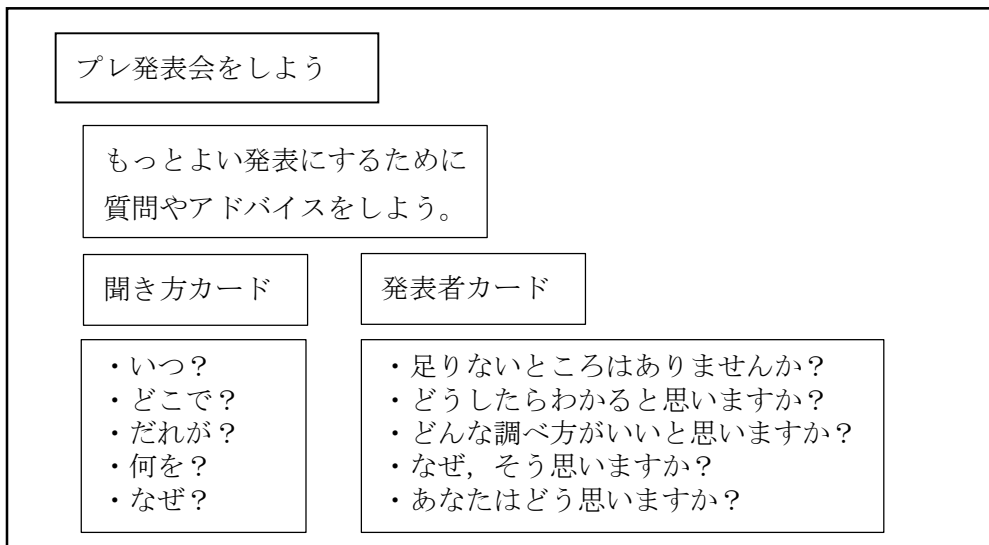
	<ul style="list-style-type: none"> ・リアスチーム ・郷土料理チーム ・漁業チーム <p>5 本時の活動を振り返り, 次の活動内容を知る。 ○リアスサミットに向けて, よりよくまとめていきましょう。</p>	<p>する。</p>		
--	---	------------	--	--

海探-3年-6

(5) 場の設定



(6) 板書計画



海探-3年-7

『海と生きる探究活動』学習指導案

令和3年10月6日(水) 5校時

指導者 教諭 T1 佐藤 政宗

指導者 教諭 T2 伊藤 英樹

場 所 4年1組 教室

1 単元名 唐桑の海の豊かさを探ろう

2 単元について

(1) 単元観

本校では、今年度気仙沼市の指定を受け、特別の教育課程『海と生きる探究活動』(以上「海探」とする)を新設し、小学校3年生から6年生において総合的な学習の時間と国語、社会、理科の一部を組み替え教育課程を編成した。

本領域は、地域の漁業従事者や事業者、生産者等との交流及び体験の機会を活用し、森・川・海などの環境や生態系、産業、生活、文化などと関連付け、生きて働く「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」を育成するとともに学びを自分の人生や日常に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等の涵養」を図ることをねらいとしている。「海と生きる」という気仙沼市の施策や教育の理念に基づいた教育の展開を進めていくため、海を中心とした地域の自然や人々に親しみながら地域を知り、地域から日本さらには世界にまで目を向け、資源を守り、上手に活用して社会に貢献することを学ばせたい。

3年時では、唐桑の海の宝を考える活動を通して、探究活動の方法について学ぶとともに、唐桑に親しみを持つという、地域社会と一体化した探究活動の第一歩となる。4年生では唐桑の海の豊かさを知る活動を通して唐桑の海について深く知る活動が中心となる。5年生からは3・4年生で探究してきた唐桑の現状から、環境問題や課題を考え、発信していく。6年生では、探究学習の集大成として、唐桑の現状を捉えたうえで自分たちが今や将来できることを考え、様々な方面に発信していく。

4年生のテーマは「唐桑の海の豊かさを探ろう」である。唐桑では様々な養殖が盛んであったり、多種多様な海の生き物が存在したりしている。その理由を調べることで、森・川・海がつながる唐桑の海の豊かさについて理解し、自分たちと自然環境、社会とのつながりを考えるのが目標である。まず、唐桑の海の豊かさとは何かを考え、自分たちが思う「唐桑の海の豊かさ」をそれぞれのグループでテーマ設定し、調べ学習を行う。中間発表会で自分たちが探究してきたことを整理するとともに、学級の友達から意見やアドバイスをもらうことで、課題をより深められるような方法を考えたり、新たな課題を設定したりして、調べ学習を行う。課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめを繰り返しながら学びを深めていく。その後、自分たちが探究してわかったことを「リアスサミット in 唐桑」で発表する発表を行った後、学習の成果と課題をまとめ「唐桑の海の豊かさ」を再確認することで、5・6年生での学習につなげていく。

唐桑の海の豊かさとして、「唐桑では山・川・海がつながっており、栄養や生物が豊富なため、海の生き物が育ちやすい環境であること」や、「海の生き物が豊富な生態環境や、地形を利用した特色ある養殖業があること」、「唐桑の漁業には、カキ養殖の発展やカツオの一本釣りなど、歴史があること」など、沢山の魅力がある。児童から聞いた際も「唐桑の海の豊かさ」について、担任と同様の意見が出た。各グループが「海の豊かさ」に関してテーマを設定し、自分たちが自信を持って唐桑の海が豊かであることを、様々な人たちに伝えられるような学習を進めていく。海と生きる探究活動では担任も初めての指導となるため、児童と共に課題を設定し、調べ学習を進めて、唐桑の海について深く知っていききたい。

(2) 児童観 (男11名 女7名 計18名)

本学級の児童は、明るく活発な児童が多く、初めてのことに興味、関心を持ち、意欲的に取り組むことがで

きる。また、ペアやグループ学習、ミニ先生など、教え合ったり伝え合ったりすることに意欲的な児童が多い。一方で、全体的に集中できる時間が短く、相手の話を最後まで聞くことが難しい児童が多い。話を聞いて内容を理解する学習では、どこが重要な部分なのかを聞き取ることが難しい児童も多い。また、難しい課題に対して取り組みが消極的になったり、放りだしてしまったりすることがある。

本学級の児童は、3年時の総合的な学習の時間にて、ワカメの探究活動に意欲的に取り組んでおり、今年度の探究活動に関しても高い興味を示し、積極的に活動している。

以上のことから、本単元を通して、彼らの長所であるペア学習やグループ学習などを取り入れ、お互いに教え合ったり、アドバイスをし合ったりすることなどを通して、学びを深め合える児童を育成していきたい。

生活科や総合的な学習の時間等の探究活動に関して、事前調査の結果は以下のとおりである。(6月実施)

	とてもあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
自分で計画していく学習は好きですか。	4	13	0	1
工夫しながら取り組むのは好きですか。	6	11	0	1
本やテレビで知ったことに対して「本当かな。」と考えることがありますか。	6	8	2	2
簡単に解決できない学習や運動に粘り強く取り組んでいますか。	8	7	1	1
「1つのやり方だけでなく、他のやり方もないかな」と考えることが得意ですか。	3	8	4	2
これまで学習してきたことを生かして課題に取り組んでいますか。	8	7	1	2
自ら関心のある課題を見付けることができますか。	3	11	4	0
環境や社会に関心を持って自ら課題に取り組むことができますか。	5	9	4	0
立てた計画に沿って調査などの活動を行うことができますか。	8	8	1	1
分かったことや自分の考えを他の人に伝えることができますか。	9	6	3	0
学習したことをもとに自分でできることを何か実践していますか。	4	11	3	0
地域や社会の活動に参加することがありますか。	9	5	3	1

その他、「生活科や総合的な学習の時間で印象に残っていることや楽しかったことについて、その内容や場所、どんな人とどんな話をしたのかななどを、具体的に書いてください」という質問には、以下のような回答が得られた。

「粘土でオーレ君を作ったのが印象に残っている」

「友達の家折石を見に行ったこと」

「ワカメの漁師さんがきてくれてうれしかった」

「リアスサミットが印象に残っている」

「ワカメをとることがとても印象に残っている」

このような結果から、児童は探究活動を好意的に受けとめ、積極的に学習に取り組もうとしていることがわかる。一方で、自ら課題を考えることが苦手な児童や、自分事として学習に取り組むことが難しい児童もいる。

(3) 指導観

以上のことを踏まえ、以下の点に留意して指導に当たりたい。

- ① 児童に自ら課題を見い出させ、主体的に活動に取り組ませるために、担任や海洋教育担当がアドバイスをしながらテーマを何度も確認し、各グループに課題解決に向けた今後の活動の見通しや方針を細かく持たせる。
- ② 本単元にてグループで話し合い、学びを深められるように、国語や社会などの授業で話し合いから意見を交流する活動を取り入れる。
- ③ グループでの話し合いにおいてホワイトボードや表などを使用させることで、自分たちの意見を整理しグループ内で共有させ、今後の活動の見通しを立てやすくする。
- ④ 探究課題を自分事とするために、地元の海を知る漁師の方々から直接話を聞いたり質問したりする機会を設け、自分たちの生活と関連付けながら、唐桑の海の良い点や課題となる点に気付かせる。
- ⑤ T2 と連携し、ロールプレイングや聞き方の例などの工夫を見せることで、学級の話し合いの際に疑問やアドバイスをさせやすくし、学び合いを深めさせる。

(4) 校内研究との関連

研究主題「自ら課題を見出し、身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成」に関連して、本単元では以下のような取組を行う。

視点1 課題意識を持たせるための工夫

ア 児童自身が解決しなければと感じる課題提示や設定の工夫

児童に自分事として問いを持たせるために、地元の方の話を聞く場を設けることで、唐桑の海の魅力や課題を実感させ、課題を意識付けられるようにする。また、これまでの学びを導入時に振り返ることで、自分たちの課題を再確認するとともに、探究活動を行えるようにする。

視点2 多様な考えを生かし、学び合える探究型学習法の構築

ア グループでの活動で自分たちの情報や表現を振り返らせ、修正させる工夫

自分たちが調べたことを iPad・紙でまとめ、グループで振り返って見直したり修正したりすることで、表現や探究する内容をよりよくしようとする意識を持たせる。

イ 『学び合い』おたがいに教え合って、自分で解決、または集団で解決させるための工夫

学級内で、グループで調べてきたことを聞き合い、疑問に思ったことやアドバイスなどをお互いに伝え合う活動を通して、多様な考えを持たせる。その際、T2 との連携で疑問やアドバイスをする例をロールプレイングで示したり、聞き方名人シートから聞き方のコツを把握させたりすることで、疑問やアドバイスを出させやすくする。

視点3 学びを生かす評価の工夫

ア 学びの成果を実感でき、次の課題を見付け、自身の行動につなげる探究型学習法の中での評価の工夫
グループで自分たちが探究したことの反省点や課題を授業の最後に振り返らせる。中間発表後の振り返りでは、教師が机間指導にて、なぜその課題を設定するのかを問いたり、これまでの学びから課題例を示したりすることで、次の課題につなげられるようにする。

3 単元の目標と評価基準

(1) 単元の目標

○森・川・海がつながる唐桑の海の豊かさについて理解し、自分たちと自然環境、社会とのつながりを考える。

(2) 評価基準

【知識及び技能】

○唐桑の海での体験活動を通し、森とのつながりや海の豊かさを知るとともに、課題となる事象について理解することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

○唐桑の海のよい点のみでなく、課題となる点にも目を向けて多面的に探究したり、自分たちの生活と関連付けて考えたりすることができる。

【学びに向かう力・人間性等】

○探究課題解決のために、情報収集したり、集めた資料を整理・分析したりし、自分の考えを伝えようとする態度を育む。

4 指導計画 後半29時間扱い (本時6/29時間扱い)

月	時数	児童の探究的な学習内容	探究方法・資料	形態	評価の観点
9	2	1学期を振り返ろう(2時間) ○1学期の課題探究を振り返り、2学期以降の課題を設定する。 ○唐桑の海の豊かさについて、今までの活動を通してより詳しく調べる計画を立てる。	○昨年度のリアスサミットの様子を振り返る。 ○唐桑の海の豊かさについてテーマに沿って調べてきたことを振り返り、今後の活動に活かす。	一斉 グループ	【知識及び技能】 ○唐桑の海での体験活動を通し、森とのつながりや海の豊かさを知るとともに、課題となる事象について理解することができる。
10	5	課題を探究しよう①(3時間) ・課題を基に、調べ活動を進める。 ◎唐桑の海の水質 ◎唐桑の海と食 ◎唐桑の養殖 ◎唐桑の海の歴史 探究する内容や方法を見直そう(2時間)本時1/2 ・各グループ中間発表を行い、調べてわかったこと	○課題から探究活動を進める。本やインターネットで調べたり、アンケートを実施したり、インタビュー	グループ 一斉 グループ 一斉	【学びに向かう力・人間性等】 ○探究課題解決のために、情報収集したり、集めた資料を整理・分析したりし、自分の考えを伝えようとする態度を育む。

		とこれから調べたいこと、その方法を整理する。	一、見学などに向いたりする。		
	7	<p>課題を探究しよう②（7時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会の結果を基に、探究活動を進める。 ・森里海研究所 ・気仙沼市役所水産課 ・唐桑漁協 ・探究学習コーディネーター ・唐桑公民館 ・リアスアーク美術館 ・水産試験場 ・宮城教育大学 ・学校支援委員会 	<p>○課題から探究活動を進める。本やインターネットで調べたり、アンケートを実施したり、インタビュー、見学などに向いたりする</p> <p>○不足している情報を調べて追加する。</p>	グループ	<p>【知識及び技能】</p> <p>○唐桑の海での体験活動を通し、森とのつながりや海の豊かさを知るとともに、課題となる事象について理解することができる。</p>
11 12	10	<p>リアスサミットで発表しよう（10時間）</p> <p>○分かったことを整理して、発表の計画を立てたり仕方を考えたりする。</p> <p>○発表の練習を行う。</p> <p>○リアスサミット</p>	<p>○ポスター、写真、模型などを準備する。</p>	グループ 一斉	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>○唐桑の海のよい点のみでなく、課題となる点にも目を向けて多面的に探究したり、自分たちの生活と関連付けて考えたりすることができる。</p>
1					
2	5	<p>学習の成果と課題をまとめよう（2時間）</p> <p>○これまでの活動を通して分かったことを整理し、課題をまとめる。</p>	<p>○これまでのデータ（iPadやファイルなど）を整理する。</p>	グループ 一斉	<p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>○唐桑の海のよい点のみでなく、課題となる点にも目を向けて多面的に探究したり、自分たちの生活と関連付けて考えたりすることができる。</p>
3		<p>探究活動を通して学んだことをまとめよう（3時間）</p> <p>○学んだ唐桑の海の豊かさや魅力についてまとめ身近な人に発信する。（海友会、漁業協同組合や漁師の方々等）</p>	<p>○ポスター、パンフレット、リーフレットなどにまとめて発信する。</p>		

5 本時の指導

(1) 本時の目標

【思考力・判断力・表現力等】

各グループで調べたことを発表し、自分たちの成果や課題、不足している情報に気付くことができる。

(発言・発表内容)

●指導に当たって

- 児童間の報告は、2つのグループのみとし、計2時間で報告会を行わせる。本時は1回目で、2回目は、終末でグループごとに分かれて今後の方針、見通しを持たせる。
- 報告グループに対して、疑問や不足している情報、調べ方のアドバイスなどの助言をし合えるように、聞き方の例を提示し、多様な考えを生かして学び合わせる。
- T2との連携で疑問やアドバイスをする例をロールプレイングで示したり、聞き方名人シートから聞き方のコツを把握させたりすることで、質問やアドバイスを出させやすくする。

準備物 教師：ワークシート 大型テレビ iPad 提示例 : 児童 発表資料 ホワイトボード

(2) 指導過程 (本時6 / 29)

段階	学習活動 ○主な発言・児童の反応	・指導上の留意点		○役割 T2	【評価】 ・準備物
		T1			
導入 1 5 分	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>中間発表会を行い、これから調べることを確認しよう。</p> </div> <p>2つのグループが報告シートを基に「調べたこと」「わかったこと」「これから調べること」「方法」を発表する。</p> <p>○各グループが、これまで調べてきたことをまとめて発表し、聞いている人は質問やアドバイスをします。</p> <p>◎なんのために質問やアドバイスをするのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループが質問を聞いてさらに調べられるようにするため。 ・アドバイスを聞いて、もっと良い方法で調べられるようにするため。 ・自分たちがより深く探究するため <p>2 聞き方の確認をする</p> <p>○聞き方名人シートを見て、参考</p>	<p>○これまでの活動を振り返らせることで、海の豊かさについて学習していることを再確認させる。 (視点1ーア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の発表は、「唐桑の海と歴史」グループと、「唐桑の養殖」グループとする。 ・時間や話の仕方など、発表する側のルールを確認することで、聞き手が話の内容を把握しやすくする。 ・中間発表の後に質問やアドバイスをもらう意味を考えさせることで、新たな課題を設定する重要性を意識させる。 <p>○聞き方名人シートを</p>	<p>○役割 T2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2グループ分の聞き取りシートを事前に配布することで、唐桑の海の豊かさについて各グループが調べてきたことを把握しやすくする。 ・質問やアドバイスを受け取る側の心構えについて説明する。 <p>○質問やアドバイスをすることの難</p>	<p>聞き取りシート (2グループ)</p> <p>聞き方名人シート</p>	

	にしながら発表を聞きましょう。	認を行うことで、児童が発表を聞いて質問やアドバイスを出させやすくする。 ○T1が例となる発表をし、T2とロールプレイングを行う。	しさを伝える。T2がT1の発表の質問やアドバイスをロールプレイングで見せる。	
展開 2 5 分	3 発表会をする。 例：「唐桑の海の歴史」 ●調べたこと →貝塚について。 ●分かったこと →貝塚からは貝や土器が出る。 唐桑には貝塚が多くある。 ●これから調べたいこと →唐桑の貝塚で出た物を知りたい 貝塚についてくわしく調べる ●方法 →大船渡博物館へ行き聞いてみる 4 グループの発表から、聞いている側が質問やアドバイスを発表する。 (2つのグループ分、3-4を繰り返して行う。)	・発表するグループはiPadや模造紙など、補足資料を使用させる。 ・聞いている側は、聞き取りシートを見ながら発表を聞くことで、調べたこと・わかったこと・これから調べたいこと・方法をわかりやすく捉えられるようにする。 (視点2-イ) ○質問やアドバイスが出ない場合は、「調べたこと」と「これから調べたいこと」から考えるように助言を行う。	○iPadのセットや模造紙などの補足資料の掲示を手伝う。 ・聞いている側に、テーマと調べていることがあっているのかを確認するよう助言を行う。 ○質問やアドバイスが出ない際、例を示す。 ○出てきた質問やアドバイスから今後の見通しを持てるように助言を行う。	【知】各グループで調べたこと、わかったことを報告し合い、唐桑の海の豊かさを理解することができる。 【思】発表を振り返り、自分たちの課題や不足している情報に気付くことができる。
終末 5 分	5 本時の活動を振り返る。	○今回の活動を評価し、次回の活動内容を確認することで、今後の見通しを持たせ、意欲的に活動に取り組めるようにする。	○今後の活動をメモし、各グループの今後の動きを把握する。	【学】探究課題の解決のための今後の追求活動の見通しを考えることができる。

(3) 評価

【思考力・判断力・表現力等】

各グループで調べたことを発表し、自分たちの成果や課題、不足している情報に気付くことができたか。

(発言・発表内容)

「海と生きる探究活動」学習指導略案

日 時：令和3年7月14日（水）3校時

指導者：教諭 小野寺 香織

1 単元名 「世界につながる海の「今」を探ろう」

2 本時の指導（2 / 5時間）

(1) 本時のねらい

【知】調べたことや体験したことをまとめ、内容を自分なりに理解することができる。

【思】中間発表を振り返り、成果や課題、今後の活動について具体的に考えることができる。

【学】1学期活動してきたことを振り返り、自分にできることを考えることができる。

(2) 準備物 児童の作成した新聞やカード タブレット ワークシート

(3) 指導過程

段階	主な学習活動 ☆発問	○主な働きかけ・指導上の留意点※評価	準備物
導入 5分	1 グループごとの発表会について振り返る。 ☆中間発表会のチームごとに発表したことを振り返り、良かったこと、改善点について振り返りましょう。	○事前に、中間発表会を実施してみて、成果と課題について事前に付箋に書き出させ、今までの活動を見直し、今後の活動へつなげるようにさせる。 ・付箋については、成果はピンク、課題は水色と色分けしておくことで、視覚的に分類しやすくする。	
展開 35分	2 中間発表会を実施してみた成果と課題を話し合う。 ☆中間発表会をやってみて、良かったこと、またはもっとこうの方が良かったと思うことをグループで話し合いましたよう。 ☆グループの中で、良かった点、今後直していきたい点を話し合いましたよう。 3 グループで話し合ったことを発表する。 ☆グループで出た意見を発表しましょう。 4 今後の活動について考える。 ☆唐桑とつながる環境をよりよくしていくために自分たちでできることを考えましょう。 ☆夏休みに実行したいことや、調べたいことなど、海探計画を立てましょう	○話し方やプレゼンの色など、技能面だけではなく、内容面でさらに深まりある内容になるように、分類するカードを準備し、内容と発表の仕方で分けて話し合わせることで、出された意見を整理しやすくする。 ○課題点について、今後改善していくこと、もっとこうの方がよいということについて意見を出し合わせることで見通しを持たせる。 ※中間発表を振り返り、成果や課題、今後の活動について具体的に考えることができる。(発言内容) ○それぞれのグループの成果と課題について報告を聞き合うことで、今後の活動に生かす。 ○夏休みに実行していきたいことなど具体的に考えさせ、ワークシートに記入させることで、自分事として考えさせるようにする。 ※自分にできることを具体的に考えることができる。(ワークシート)	分類するカード 新聞カード ワークシート
終末 5分	5 本時の活動を振り返り 2 学期以降の海探の活動とのつながりを考えさせ、意欲を持たせる。	○「自分自身ができること」「継続していけること」などの視点を与えて、自分が何をしていきたいのかを明確にさせる。	

(4) 評価

【知】調べたことや体験したことをまとめ、内容を自分なりに理解することができたか。

【思】中間発表を振り返り、成果や課題、今後の活動について具体的に考えることができたか。(発言)

【学】1学期活動してきたことを振り返り、自分にできることを考えることができたか。(ワークシート)

『海と生きる探究活動』学習指導案

令和3年7月2日(金) 5校時

指導者 教諭 澤井 ゆうこ

場所 6年1組 教室

1 単元名 自分たちの未来を考えよう

2 単元について

(1) 単元観

本校では、今年度気仙沼市の指定を受け、特別的教育課程『海と生きる探究活動』(以上「海探」とする)を新設し、小学校3年生から6年生において総合的な学習の時間と国語、社会、理科の一部を組み替え教育課程を編成した。地域の漁業従事者や事業者、生産者等との交流及び体験の機会を活用し、森・川・海などの環境や生態系、産業、生活、文化などと関連付け、生きて働く「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」を育成するとともに学びを自分の人生や日常に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等の涵養」を図ることをねらいとしている。「海と生きる」という気仙沼市の施策や教育の理念に基づいた教育の展開を進めていくため、海を中心とした地域の自然や人々に親しみながら地域を知り、地域から日本さらには世界にまで目を向け、資源を守り、上手に活用して社会に貢献することを学ばせたい。

6年生のテーマは「自分たちの未来を考えよう」である。このテーマを踏まえ、5年生までの体験や学習を生かし、まずは、地域の自然、環境や産業、良さを生かしたまちづくりの特性などを調べ、それらが抱える問題に目を向けさせ、探究する課題や計画を立てさせる。情報を収集して整理させた後で、後半には、未来の唐桑のために自分ができる行動を考える協働的な学びを通して、「リアスサミット in 唐桑」等で地域に向けて発信していく活動を進めていく。体験・表現・発表だけで終わらせず、主体的(自分事として捉える)・対話的(共に学び合う)・探究的(深い学び)を意識した授業づくりを構築していくことが重要となる。それらの課題に教師も児童も正面から真剣に取り組み、考え続けていく。これらのことが、今後の地域の一員として社会に参画する意欲の育成につながると考えて、本単元を設定した。

(2) 児童観(男5名 女9名 計14名)

本学級の児童は、学習に対しては、落ち着いて真面目に取り組み、指示されたことはきちんと取り組む。しかし、自分で考えて行動し、意見を積極的に述べようとする意欲がやや低い。

事前の意識調査の結果は以下の通りである。(6月2日実施)

A: 当てはまる B: どちらかといえばあてはまる C: どちらかといえばあてはまらない D: 当てはならない

	A	B	C	D
海探の学習に進んで取り組んでいるか	9人	2人	2人	1人
唐桑の課題や問題を解決したいと思うか	11人	2人		1人
これまでに学習したことを生かしているか	8人	5人	1人	
地域の人と話したり交流したりすることは好きか	10人	3人	1人	
地域の行事に進んで参加しているか	5人	6人	1人	2人
海探で学習していることは他の教科や将来の自分の生活に生かされると思うか	11人	2人	1人	

以上の結果から、ほとんどの児童らは自分たちが住む地域に愛着をもち、課題を解決していきたいと感じており、新しく始まった「海探」の授業にも進んで取り組んでいるが、若干名、進め方に戸惑う児童や地域の行事にはあまり参加していない児童もいた。地域の行事を知らない児童もおり、そういった児童らは、地元を知る体験や活動が不足していると思われる。

(3) 指導観

以上のことを踏まえ、以下の点に留意しながら指導に当たりたい。

- ① 「課題を明確にする」「探究する（情報を集め・選択・まとめる）」「表現する・発表する」「振り返る・新たな課題を見出す」「さらに探究していく」という探究型学習方法を重視しつつ、考えられる可能性を多面的に予想し、児童が主体的に課題設定、課題探究していけるように担任一人が指導するのではなく、教職員全員、地域の支援者を講師として招き、助言したり指導したりして、各段階での働きかけを工夫する。
- ② 本校では、探究型学習方法として、1単位時間の中で、「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現する場を、授業内に設けることを重視する。
- ③ 児童に身近に感じる実社会や実生活から問いを見出させるために、地元の人に出会わせ、「人・物・事」が抱える問題に触れ合わせるようにし、課題を立てさせるようにする。
- ④ 情報収集の方法は、インターネットや文献に偏らせず、実際に地域のことに詳しい方に話を聞いたり、見学したり、体験したりして得た結果等を組み入れるようにさせ、考えを深めさせる。
- ⑤ 個人研究としての記録も残るように、タブレット端末を活用しまとめさせ、下学年や保護者にも発信していく機会を設ける。

(4) 校内研究との関連

研究主題「自ら課題を見だし、身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成」に関連して、本単元では以下のような取組を行う。

視点1 課題意識をもたせるための工夫

ア 児童自身が解決しなければと感じる課題提示や設定の工夫

児童に「問い」を持たせるために、探究コーディネーターの加藤拓馬さんや地元の方の話を聞く場を設けることで、唐桑の魅力や課題を実感させ、自らの課題として意識付けるようにする。

5年生までの学びを振り返らせ、できるようになったことだけでなく、十分にできていない点にも目を向けさせ、子供であっても社会の一員として課題に向き合い、思いや考えを表現していくことの重要性を導入時に確認する。

イ 自分で課題を発見させるための工夫

5年生までの学びを振り返らせ、唐桑や地域の魅力や課題に対して社会の一員として向き合い、よさや不十分だと感じる点に目を向けさせ、思いや考えを発信していく。

視点2 多様な考えを生かし、学び合える探究型学習法の構築

ア 自力解決の中で自分の表現を見直し、修正させる工夫

自分の発表を iPad で動画に撮り、発表の様子などを自分自身で見直すことで表現を修正しようとする意識を持たせる。

イ 互いに教え合い、自分で探究、または集団で探究させるための工夫

6年生同士だけでなく、他のチームや下学年、先生方、地域の方々など自分の発表内容を多くの人に聞いてもらうことで、表現方法の見直しや修正をする必要感を持たせる。

視点3 学びを生かす評価の工夫

ア 学びの成果を実感でき、次の課題を見付け、自身の行動につなげる探究型学習法の工夫

毎回、最後に今日の成果について今日の成果や反省についてとできなかったこと、次回の活動で何をしていくかなど活動内容の報告を全員に輪番で行わせることで次の活動へつなげるようにする。

イ 自己チェックシートによる評価・ポートフォリオ評価

iPadを活用し、レポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、多面的・多角的な評価を行っていく。

3 単元の目標と評価基準

(1) 単元の目標

○唐桑と海の環境を見つめ直し豊かで恵まれていることや問題となっていることなどについて調べることを通して、自分たちと自然環境との関連性に気付き、自分の住む唐桑のよりよい未来はもちろん、世界に目を向けて自分のできることややるべきことを提案し、発信しようとする心情を育む。

(2) 評価規準

【知識及び技能】

○唐桑(気仙沼)や世界の課題を知り、よりよいまちにするために、どんなことが必要なのかを理解することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

○解決に向けて情報収集、整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ、発信することができる

【学びに向かう力・人間性等】

○課題を自分事として捉え、主体的に探究活動に取り組もうとする。

○よりよい唐桑(気仙沼)にするため、自分たちができることを考え、実践することができる。

4 指導計画 1 1時間扱い (本時 9/11 時間扱い)

月	時数	児童の探究的な学習内容	探究方法・資料	形態	評価の観点
6	1 1	<p>探究方法を考えよう (2)</p> <p>○個人課題の整理とグループ作りを行い、グループの共通のテーマを決定する。</p> <p>○それぞれの課題を追究できるような計画、見通しを立てる。</p> <p>・課題に関する基本的知識について調べる。</p> <p>・校外活動、ゲストティーチャーの活用など</p> <p>どんな活動が必要か話し合う。</p> <p>探究しよう (6)</p> <p>○課題に対して予想仮説を持つ。</p> <p>○計画に沿って調べ学習を進める。</p> <p>産業、生態系、環境、生活・文化等</p> <p>・森里海研究所</p> <p>・気仙沼市役所水産課</p> <p>・唐桑漁協</p> <p>・探究学習コーディネーター</p> <p>・唐桑公民館</p> <p>・リアスアーク美術館</p> <p>・南三陸海のビジターセンター</p> <p>・水産試験場</p> <p>・宮城教育大学</p> <p>・学校支援委員会</p> <p>情報を整理しよう (3)</p>	<p>昨年度のリアスサミットの様子を振り返る。</p> <p>○探究コーディネーター加藤拓馬さんの話を聞く。</p> <p>○課題を調べる探究活動を進める。</p> <p>アンケートの実施やインタビュー、見学などに出向く。</p> <p>○アンケート結果</p>	<p>一斉</p> <p>一斉・グループ</p> <p>グループ</p> <p>個人</p> <p>個人</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>○唐桑(気仙沼)や世界の課題を知り、よりよいまちにするために、どんなことが必要なのかを理解し、課題を立てようとしている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>○解決に向けて情報収集、整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ、発信しようとしている。</p> <p>【学・人間性】</p> <p>○課題を自分事として捉え、主体的に探究活動に取り組もうとし</p>

	○集めた情報をテーマに照らし合わせて整理する。 ・分類する。 ・関連付ける。 ・比較する。 ・不足している情報を確認する。 ○探究する内容や方法の見直しを行う。(本時)	を集約・グラフ等にまとめる。 ○発表用の資料や作成物を作る。 ○不足している情報を調べて追加する。	個人	ている。 ○よりよい唐桑(気仙沼)にするため、自分たちができることを考え、実践しようとしている。
--	---	---	----	---

5 本時の指導

(1) 本時の目標

個人で集めた調べ学習の結果を互いに報告し合い、不足している情報を見付け、自分に何ができるかを考えることができる。

【知識及び技能】

自分たちの探究課題から自分に何ができるかを考えることができる。(ワークシート)

【思考力・判断力・表現力等】

個人で集めた調べ学習の結果を互いに報告し合い、チームのテーマと照らし合わせ、不足している情報を見付けることができる。(発言内容・発表)

【学びに向かう力・人間性等】

報告し合った結果から自分の新たな探究課題を見付け、次回に備えようとしている。(まとめの記述)

(2) 指導に当たって

- 各チームで対話の時間をしっかり確保させるため、児童の発表や報告は、教室と児童会室の2つを使用させ、4つのブースでの一斉に行うワークショップ形式で行わせる。
- 個人テーマの探究内容を見直し、今後の活動へ意欲を継続させられるよう、グループでの発表ではなく、一人ずつ経過報告をさせる。
- 表現方法の見直しや修正をする必要感を持たせるために、互いに不足している点やより分かりやすく発信するための助言をし合う。

準備物 教師：ワークシートミニ 大型テレビ iPad：児童 発表資料 iPad

(3) 指導過程

段階	学習活動	指導上の留意点	【評価】(評価方法) ・準備物
導入 10分	○主な発問・児童の反応 1 課題を追究していく中で今後自分は何をしていくのかキャッチコピーを考える。 ・私たちは、唐桑の未来のためにこれから()をしていきます。 2 今日の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">集めた課題追究の経過報告をし、中間発表会の準備をしよう！</div> ○中間発表会へ向けて本時は、チームごとの話し合いをしましょう。一人一人が集めた情報を発表した後で、アドバイスをし合いたいしょう。	・これまでの活動で個人でどんなことを調べたのか振り返らせる。 ・A5判のミニワークシートを配り、宣言文を短時間で考えさせる。 ・中間発表会を行うための必要な作業や練習、作成物について話し合いたいしょう。	【知】自分たちの探究課題から自分に何ができるかを考えている。 (ワークシート) ① 町づくり ② 唐桑の未来 ③ 環境 ④ 海洋ゴミ

<p>展開 2 5 分</p>	<p>3 今日の活動で行う手順や注意点を確認する。</p> <p>① 個人で作った ipad プレゼンや資料、アンケートの集計結果などを見せ合う。</p> <p>② チームで個人のプレゼンを見合い、探究結果や内容を紹介し合い、助言をし合う。</p> <p>③ 意見交換したのち今後の探究している内容の方法の見直しを行う。</p> <p>4 チームごとに発表を聞き合い、報告の準備をする。</p> <p>① 町づくり (夢彩・幸生・登志)</p> <p>② 唐桑の未来 (莉桜・香奈・颯太・莉子)</p> <p>③ 環境 (空羽・琉夏・玲海)</p> <p>④ 海洋ゴミ (聖女・希・百々・理仁)</p> <p>5 今日の活動内容の報告をする。 代表児童が前で報告する。</p> <p>① 今日の成果について</p> <p>② 今日のできなかったことは何か</p> <p>③ 次回の活動で何をしていくか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究結果や内容について助言をする。 ・先生方に質問をしていただく際、質問に答えられなかったら、そのことを必ず、記録し、次は答えられるように備えさせる。 ・密にならないように、教室と児童会室の二カ所で行わせる。 ・チーム内で事前にファシリテーターと発表の順序、活動報告などの役割分担をさせておく。 ・全員の発表が終わらなくても、時間になったら話し合いを止めて報告の準備を行うように指示しておく ・リアスサミットの第2部を意識し、グループで話し合った際には、結果を要約して話す役目を輪番で担当させ、原稿を見ずに発表ができるようにする。 	<p>【思】個人で集めた調べ学習の結果を互いに報告し合い、チームのテーマと照らし合わせ、不足している情報を見付けることができる。</p> <p>(発言内容・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビ4台 ・iPad (各自)
<p>終 末 10 分</p>	<p>6 教師の話を聞く ○次回は、探究している内容の見直しと発表が途中のチームは、続きを行いましょう。</p> <p>7 本時の活動を振り返り、次の活動内容を知る。</p>		<p>【学】報告し合った結果から自分の新たな探究課題を見付け、次の活動への見通しをもつことができる (記述)</p>

(4) 評価

【思考力・判断力・表現力等】

自分たちの探究課題から自分に何ができるかを考えることができたか。(ワークシート)

【思考力・判断力・表現力等】

個人で集めた調べ学習の結果を互いに報告し合い、チームのテーマと照らし合わせ、不足している情報を見付けることができたか。(発言内容・発表)

【学びに向かう力・人間性等】

報告し合った結果から自分の新たな探究課題を見付け、次回に備えていたか。(まとめの記述)

海と
生かす

海洋教育 2021 実践事例



1	唐桑幼稚園	もっと知りたい！ 気仙沼の海
2	松圃幼稚園	気仙沼・唐桑だあいすき！ ～「うみって おもしろい！」を育む海洋教育
3	小泉幼稚園	わくわくうみのたんけいたい ～海のお仕事を見てみよう～
4	大谷幼稚園	おおやっこおたからハンター！大谷のお宝を探そう ～地域での体験とそこから広がる遊びを通して～
5	気仙沼小学校	主体的・対話的に深く学び合う児童の育成 ～探究的な見方, 考え方を働かせて課題解決する海洋教育の授業を目指して～
6	松岩小学校	海洋リテラシーを育む海洋教育の在り方 ～課題を自分ごとと捉え, 価値の行動化を目指す授業作りを通して～
7	階上小学校	「豊かな海, 気仙沼」見つめよう, 考えよう, 気仙沼の水産業 ～学校・地域教材の特性を生かした海洋教育の実践～
8	大島小学校	見つめよう大島 考えようわたしたちの海 ～緑の真珠プロジェクト～
9	面瀬小学校	自分の考えをもち, 行動する子供の育成 ～「調べたい・伝えたい・やってみたい」を大切に授業づくりを通して～
10	中井小学校	ふるさとの豊かな海を未来へ ～唐桑の海に学ぶ～
11	小泉小学校	小泉のことを知ろう ～海とつながる～
12	大谷小学校	海とともにマナンボウ
13	鹿折中学校	震災体験を聞く・学ぶ・共有する ～津波死ゼロを目指して～
14	階上中学校	地域・社会とのつながりを考える ～防災・減災を軸とした個人探究を通して～
15	大島中学校	30年後の大島に伝えよう ～大島の良さを未来に伝えるために, 今の自分にできることを考えよう～
16	面瀬中学校	「海と生きる」気仙沼 ～未来のために私たちにできること～
17	唐桑中学校	「海のまち」唐桑の未来を考える ～まちを知り, どのようなまちを目指し, そのためにどうしていけばいいのか～
18	大谷中学校	海と生きる大谷地区がより活気づくためのプロジェクトを提案し, 行動しよう

もっと知りたい！気仙沼の海

◎はじめに

今年度はこれまで行ってきた唐桑の海での活動を通して、いろいろな生き物に触れたり海での遊びを楽しんだりしながら、改めて海の魅力に気付いたり海で発見した不思議なことを友達同士で教え合ったり、気付きや感動を共有できる活動に取り組んできた。また、地域の幼稚園や保育所の友達との浜遊びや市内4園の幼稚園の友達との磯遊びなど、唐桑だけでなく気仙沼の海にも視野を広げた活動を計画し取り組んできた。

◎年間計画

・ねらい

様々な視点から海に親しみ海の魅力に気付いたり、海の秘密を発見したりする活動を工夫していくことで、幼児の興味や関心を広げ、好奇心を育てる。

めざす幼児像は以下の二点である。

- ・自分の思いや感動を声に出し伝えられる幼児
- ・体験したことを生かしながら遊びを存分に楽しむ幼児

	活動名	内容
5月 ～6月	○馬場の浜遊び ○生き物観察・飼育 ○海の宝物制作 ○海洋幼稚園こどもサミット in 沼尻海岸(唐桑本吉の4園) ○漁協見学・赤皿貝スープ試食	○貝殻やシーグラス探し、海の生き物との触れ合い、水遊びなど海ならではの遊びを楽しむ。 ○海で見つけた生き物を観察したり、飼育したりする。 ○海で拾った物を使い制作したり、遊んだりする。 ○年長児が沼尻海岸にて交流し、馬場の浜との違いに気付く。 ○海の仕事について学んだり、生き物との触れ合いを楽しんだりする。
7月	○天草の実験・寒天ゼリー遊び ○メカカレーの試食 ○唐桑保育所と馬場の浜交流 ○夏のお楽しみ会	○天草を煮て冷やす実験や寒天ゼリーの感触を楽しむ。 ○メカジキを使った気仙沼カレーの試食。 ○年長児同士の交流で馬場の浜の魅力を教える。 ○漁協見学などで学んだことを生かし魚釣りの店を開く。
8月	○馬場の浜遊び ○巨大迷路制作	○水着を着て海に入り真水(プール)と海水の違いを感じる。 ○馬場の浜で見つけた貝殻や流木を使い迷路を制作。
10月	○松園幼稚園と馬場の浜交流会	○馬場の浜の魅力を教える。
11月	○幼稚園ウィーク ○サンマのつみれ汁クッキング	○海の宝物を使った制作 ○つみれ作りに挑戦し味わう。
12月	○海の市見学	○海の仕事や旬の海産物に触れる。
1月	○気仙沼ほてい見学 ○海洋教室 ○かまぼこ作り	○地元産の海産物を使った水産加工に関心をもつ。 ○海上保安署職員から海のゴミについて学ぶ。 ○かまぼこ作りに挑戦し味わう。
2月	○海の幸恵方巻パーティー	○海の食材を使った恵方巻を味わう。

◎活動内容

(1) 唐桑保育所、松園幼稚園との交流や唐桑本吉4園での交流

今年度は新しくできた唐桑保育所の年長児や、松園幼稚園の友達と馬場の浜遊びを存分に楽しみ、馬場の浜の魅力を教えることができた。また、海洋幼稚園こどもサミット in 沼尻海岸が開催され、市内の4園の年長児が集まり磯遊びや潮だまりでの生き物探しなどを行い、唐桑の海との違いを知ることができた。年少・年中児は年長児が見つめてきたカニや魚などに興味をもち、観察したり触ったりするなどし、海の生き物への関心が高まった。



生き物探しや波の行き来を楽しむ姿



大谷の海での生き物探しの様子

(2) 市内の施設見学

今年度は毎年行っている唐桑の漁協見学の他に、海の市見学や気仙沼ほてい工場の見学に行き、店頭には並ぶ魚介類や加工する工場など、もっと広い範囲での気仙沼の海を知る機会となった。自分たちの住む地域でどんな仕事があるのか、どんな特産物があるのかなど、実際に見ることで幼児なりにたくさんの発見と学びがあり、“あれはどうなっているんだろう”“自分もやってみたい”と仕事に対する興味や関心、憧れの気持ちにつながった。



年長児がホタテの殻剥きに挑戦



魚介類の販売風景を見学



従業員さんに質問している様子

(3) 海の幸を味わおう

メカカレーやシャクナゲットなど気仙沼の特産物を使った料理を食す機会を多く取り入れた。また、サンマのつみれ汁やかまぼこを作り自分たちで実際にクッキングしたことで、「どんな味がするんだろう?」「食べてみたい!」と食への意欲が高まった。幼児は海の生き物を調理する過程を見たり、作ったり食べたりし、自分たちの食事に海の恵みが日常的に取り入れられていることを改めて感じる事ができた。



メカカレーを食べる様子



かまぼこを作る過程を見学



サンマのつみれ汁を作る様子

◎成果と課題

(1) 成果

- ・地域の人たちと関わる経験を増やすことで、改めて気仙沼の魅力に気付いたり、海や仕事への興味・関心が増えたりするとともに、疑問に思ったことを質問したり、話し掛けたりするなど、幼児自ら地域の人と関わろうとする姿が見られた。
- ・海の市見学や気仙沼ほてい工場の見学などから、気仙沼の海や魚に関する施設を知り実際見ることで、生き物だけでなく働く様子などの違う視点から、海に関心をもったりその後の遊びに繋がったりする姿が見られた。

(2) 課題

今年度も、新型コロナウイルスの影響で園外での活動が思うように展開できなかった。特に鮭漁の不漁により鮭漁業組合の見学は実施の見通しが立たず、当初の計画を変更し予定外の体験活動を実施せざるをえなかった。幼児の興味が沸く体験活動を職員間で話し合いながら計画を立てたり、変更を行ったりしてきたが、体験した後の振り返りなどから幼児たちの遊びに発展することが少なく経験しただけで終わってしまい、ねらいとしていたところまで達成できなかったと感じた。振り返りの時点でどんなところに魅力を感じたのかなど、教師の問い掛けを工夫し幼児の“こんなことをしてみたい”、“作ってみたい”などの気持ちを引き出し、遊びに繋がられるようにしていきたい。

気仙沼・唐桑だあいすき！

～「うみって おもしろい！」を育む海洋教育～

◎はじめに

本園は唐桑半島南東部の自然豊かな地域に位置している。園周辺には宮城オルレ・気仙沼唐桑コースがあり、唐桑半島の自然の美しさや、海とともに生きてきた人々の生活や文化に触れることができる。

昨年までは、滝浜や御崎観光港などの身近な海に足を運び、散策などを中心とした活動を進めてきた。海までの道のりの中で目にする漁船や海で働く人、波打ち際で見つけた貝殻や小さな生き物などに興味をもち、関わろうとする姿が見られていた。

今年度、海洋教育パイオニアスクールの指定を受け、身近にある海などの自然環境に改めて目を向け、様々な海と出会い、心を解放しながら夢中で遊んだり、自分の身近な「ひと・もの・こと・ばしょ」とのつながりのおもしろさを感じたりしながら、「気仙沼・唐桑だあいすき！」という思いを育んでいきたいと考える。

◎年間計画

・ねらい

身近な場所にある海との出会いをきっかけに、遊びや生活の中で興味や関心を広げ、海に親しむ心や海の恵みに感謝する心を育む。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
であう	【海にまつわる“ひと・もの・こと・ばしょ”と出会う】 <滝浜に行こう> <馬場の浜に行こう> <タラの観察> (唐桑幼との交流) <幼稚園・海洋こどもサミット in 沼尻海岸> <漁船・海のお仕事見学をしよう> (唐桑幼・小泉幼・大谷幼との交流) <亀山・小田の浜に行こう> <海洋生物の観察> <ウニの観察> <エゾイソアイナメ(どんこ)の観察> <松園虎舞を見よう> <ホタテの観察> <沖縄の海ってどんな海？> <ホヤの観察> (石垣島・八重山支援学校とのオンライン交流) <ワカメ種はさみ> <ワカメ刈り取り>											
あそぶ	【海をイメージした遊びや感触遊びを楽しむ】 ～心を解放して遊ぶ中で、海を表現したり海のイメージをふくらませたりする。～ <イロイロ遊び> <ジュース屋さん> <お店屋さんごっこ> <水遊び・プール遊び> <海の探検ごっこ> <漁船・釣りごっこ> <シャボンアート> <えのぐ遊び・デカルコマニー> <貝殻などを活用した作品制作> <住んでみたいな、こんな町> (海に囲まれたまちづくりごっこ…描画)											
たべる	【海の恵みをいただく】 <蒸しウニ> <海の恵みカレー> <海の恵みピザ> <タラフライ> <コンブ佃煮> <どんこのつみれ汁> <ベビーホタテ> <タラムニエル> <蒸しホヤ> <たこ焼き> <シャークナゲット> <タラ白子汁> <カニぱっとう> <カニクリームパスタ>											

◎活動内容

【であう】～海にまつわる「ひと・もの・こと・ばしょ」との出会い～



他園の友達と海の生き物を見ている様子

観察した魚を図鑑で探す様子

本園の幼児にとって身近な海である滝浜への散策を実施し、海との出会いを丁寧に見取る。浜に落ちている様々なものや、海までの道のりで目にした漁船や浜仕事をしている人などに気付いた幼児のつぶやきを受け止めながら、興味や関心をふくらませていくような援助をしてきた。幼児の興味や関心の広がりにより、出会いながら、出会わせる「ひと・もの・こと・ばしょ」を吟味し、幼児の心の動きに応じた出会いとなるような援助や環境構成を行った。

【あそぶ】～海をイメージした遊びや感触遊びを楽しむ～

・【体験⇔遊び】のサイクルを意識し、体験時に幼児が興味や関心を寄せている事柄について丁寧に見取り、遊びに発展させられるような素材を見つけ、職員間で共有してきた。体験を遊びで体現することで体験したことをより深く味わったり、表現遊びから海へのイメージを広げ体験を豊かにしたりすることができた。また、体験を振り返りながら未来の町へ思いを馳せ、〈住んでみたいな、こんな町〉という共同画を楽しみながら描き上げた。



海の探検ごっこを楽しむ様子



海で見た漁船をモデルに作った船で遊ぶ様子



年長による共同画〈住んでみたいな、こんな町〉

【たべる】～海の恵みをいただく～



海の幸や栽培野菜をトッピングしてピザを作る様子



鮮魚店からやってきたタラを興味深く観察する様子



タラフライを喜んで頬張る様子

観察した海の生き物は、大切に命をいただき、海の恵みに感謝する気持ちをもてるような場を設ける。

はじめは見たことのない魚に恐る恐る手を伸ばす姿が見られたが、見たり触れたりする体験を通して親しみをもち、「残さず食べるからね」「命を大事にいただくからね」と声をかけながら大切に食べる姿が見られた。ウニが昆布を食べることや、自分が口にしている魚が海のどんなところに住んでいるのかななどについての興味も出てきている。

◎成果と課題

(1) 成果

- ・【であう】【あそぶ】【たべる】の3つを視点とし、幼児の興味や関心に寄り添いながら、つぶやきや気付きを丁寧に見取り、「やってみたい」という幼児の思いを共に形にしていくような活動を重ねてきた。そのことにより「もっと知りたい」という知的欲求の高まりが見られ、自ら調べたり納得するまで確かめたりなど物事に主体的に関わりようとする姿が見られるようになった。
- ・地域人材の活用を通して、幼児が自分の住む地域の好きなどを感じ、幼児なりに未来の気仙沼・唐桑に思いを巡らせながら伝え合ったり表現したりする姿が見られた。次年度も幼児の変容について、より具体的な見取りの在り方を探っていきたい。

(2) 課題

- ・コロナ禍での園外活動や交流活動などは、普段の計画にプラスした準備や配慮が多く、計画通りに進められない部分もあった。次年度の活動計画の作成時は「どうすればできるか」を念頭に計画したい。

わくわくうみのたんけんたい

～海のお仕事を見てみよう！～

◎はじめに

本園は気仙沼市小泉地区の高台にあり、園庭からは小泉海岸や小泉川、田東山が見渡せる自然豊かな環境にある。今年度は様々な海に関わる仕事見学を中心に、五感を活用させた体験活動を行った。ここでは、様々な出会いを基に地域の海への関心を深め、気付きや発見を楽しみながら海の豊かさやよさを知るとともに、働く人への親しみの気持ちと憧れの気持ちをもてるよう実践を積み重ねた。更には、幼児の「もっと知りたい」「やってみよう」という思いを基に再現遊びを展開し、五感を通して感じた思いを自分たちの遊びの中で表現することで学びがより深まるよう取り組んできた。

◎ねらい

- ・地域の海に関わる体験活動を通し、五感を活用して存分に遊びを楽しみながら好奇心や探究心を高め、地域の海への親しみの気持ちをもつ。
- ・様々な発見や気付きを日々の遊びに生かすことで地域の海によさに気付き、地域を大切に思う気持ちをもつ。
- ・海で働く人との関わりや海の幸を食する機会を通して海の豊かさを知るとともに、働く人への親しみと憧れの気持ちをもつ。

◎海洋教育 年間指導計画

○今年度の実践計画

日時	活動名	ねらい	内容
6月	「いろいろな海で遊ぼう！」 ・沼尻海岸（岩場） 海洋教育子どもサミット in 沼尻（年長児） ・小泉海岸（砂浜） 海に親しむ集い（全園児）	・遊びを通していろいろな友達との触れ合いを楽しむとともに、小泉の海と大谷の海との違いを知る。 ・友達と一緒に、五感を感じながら夢中になって遊ぶ楽しさを味わう。 ・気仙沼の海や海の生き物に触れ、様々な気付きや発見を楽しみながら海への親しみの気持ちをもつ。 ・海での活動を楽しみながら、地域の海への親しみの気持ちと大切にしようとする気持ちをもつ。 ・五感を活用しながら、グループの友達や小学生と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	・いろいろなお友達と一緒に、磯遊びを楽しむ。 ・小泉の海にはない発見や気付きを楽しみながら、友達と夢中になって生き物探しをする。 ・見つけたこと、不思議に思ったことを発表し合う。 ・小泉小学校と交流する。 ・縦割りグループ毎に清掃活動を行う。 ・砂の感触を楽しみながら、小学生と一緒に砂を固めたり、必要なものを集めたりして、造形大会を楽しむ。
10月上旬 ・ 1月	「海の仕事を見に行こう！」 ・南三陸卸売市場見学 ・気仙沼内湾、商業施設見学 「ワカメの不思議に触れてみよう！」 ・蔵内之芽組（園内体験）	・水揚げや競りの様子を見たり、話を聞いたりしながら、旬の魚介類や海の仕事について知る。 ・卸売市場で働く人と関わり、海の仕事への関心を深めるとともに、働く人へ親しみの気持ちをもつ。 ・気仙沼の海やそこで働く人への親しみの気持ちと愛着心をもつ。（全園児） （各学年のねらい…略） ・小泉の浜で育つ旬の養殖ワカメについて話を聞いたり、見たり触れたりしながら食への関心を高める。 ・小泉の海や、そこで働く人への親しみの気持ちと愛着心をもつ。	・水揚げされた魚や市場内の機械などを見学する。 ・競りの準備、競りの様子を見学する。 ・見学しての感想を伝えたり、質問をしたりする。 ・気仙沼内湾や、商業施設「ウマレル」内を見学する。 ・各学年のねらいに合わせた活動を行う。 ・蔵内で養殖されているワカメについて話を聞いたり、実際にワカメを見たり触れたり、匂いを嗅いだりする。 ・熟を通す前と後の色の変化の不思議さにふれる。
10月 ・ 11月 ・ 1月	「海の幸を味わおう！」 （全園児） ・タコ蒲鉾 ・タコ唐揚げ ＊南三陸卸売市場 ・はらこ飯 ＊公民館プラットフォーム事業（鮭解体ショー） ・揚げ蒲鉾 ＊気仙沼商業施設等 ・ワカメご飯・ワカメのサラダ ＊蔵内之芽組（園内）	・身近な海の食べ物への関心を深め、自分たちの生活や普段の食事とのつながりを知る。 ・地域の海で採れる食べ物のおいしさを感じ、感謝の気持ちをもつ。 ・調理する過程を見たり味わったりする。 ・旬の魚や海藻類について見たり聞いたりしながら食への関心を高め、色々な食べ方があることを知る。	・市場でみたり触れたりしたタコの加工品を食べる。 ・鮭の一生についての紙芝居を見たり、解体の様子を見学したりする。 ・解体した鮭の地元料理を食べる。 ・気仙沼に水揚げされるサメや、店頭に並んでいる魚を使った加工品を食べる。 ・地元産の旬のワカメを食べる。

6月	「海ごっこ遊び」	・・・・園庭やホールに海や潮溜りを再現し、水の感触を楽しんだり、作った生き物探しをしたりする。	＊体験での気付きの再現遊び
10月	「わくわく卸売市場ごっこ」	・・・・市場で見た魚介類を作って遊ぶ。	
11月	「お店屋さんごっこ」	・・・・試食した海の食べ物を作り、美味しいもの屋さんになって遊ぶ。	
	「祖父母参観日」	・・・・祖父母と一緒に、卸売市場ごっこの準備をする。	
	「幼稚園ウィーク活動」	・・・・保護者を対象に競りを行ったり、美味しいもの屋さんを展開したりする。	
1月	「魚の先生ごっこ」	・・・・作った魚を捌いたり、調理したりしてお店屋さんごっこを展開する。	

◎主な保育実践

【海ってたのしいね】（海に出向く体験活動）

沼尻海岸では、小泉の海との違いに気付いたり、各幼稚園の年長児と一緒に夢中になって磯の生き物探しを楽しんだりする姿が見られた。また、地域の海である小泉海岸では、小学生と交流しゴミ拾いをしたり、砂や貝殻、海藻などを使い砂の造形を楽しんだりした。

6月 子どもサミット in 沼尻海岸（年長児：大谷、唐桑、松園幼稚園の年長児との交流）

小泉海岸で遊ぼう！（全園児：小泉小学校児童との縦割り交流）

1月 気仙沼内湾見学（全園児）



自分が見つけた海の生き物を
みんなに発表している様子



砂の造形をしている様子



内湾を眺める様子

【海のおしごとをみてみよう！】（海の仕事にふれる体験活動）

南三陸卸売市場では競りの様子を見たり、話を聞いたりすることで、競りの仕事や出荷の様子への関心が高まり、じっくりと見たりそこから生まれる疑問について質問する姿が見られた。

10月 南三陸卸売市場（全園児）

1月 気仙沼内湾・商業施設見学（全園児）

1月 ワカメの不思議に触れてみよう！（園内全園児）



水揚げされた魚を見ている様子



店に並んだ魚の話聞く様子



生ワカメの感触を味わう様子

【小泉卸売市場をつくろう！】（体験活動を生かしたごっこ遊びや活動）

市場見学での体験活動から競り人や漁師になりきった海ごっこが展開された。その後、それぞれの学年が興味をもった遊びへと広がっていき、「たこ焼き屋さん」「はらこ飯屋さん」「こいずみおろしうりいちば」などの“卸売市場ごっこ”へと展開した。

10月 わくわく卸売市場をつくろう！

11月 こいずみおろしうりいちばオープン！～幼稚園ウィーク～

（年少：おいしいもの屋さん、年中：漁師・はらこ飯屋さん、年長：こいずみおろしうりいちば）



競りを始める様子



魚を釣っている様子



たこ焼きなどを売っている様子

◎成果と課題

（1）成果

- 今年度は昨年までの経験を生かし、発達段階に応じたねらいや内容を設定し体験活動に取り組んだ。これにより、発達年齢に沿った興味や関心の違いからの気づきや発見が見られ、幼児の好奇心や探究心を高めることにつながった。
- 五感を活用して存分に体験を楽しんだことで、それぞれの興味や関心に合ったごっこ遊びを展開することができた。
- 様々な海の違いを知ることや気付いたことや疑問に思ったことを聞いたりするなど、海やそこで働く人との関わりをもったことで、地域のよさに気づき、海への親しみの気持ちをもつことができた。

（2）課題

- これまでの体験活動や地域とのつながりを基に、各学年のねらいに合わせたねらいを定めて体験活動を展開してきた。今後は、学びの連続性を意識した3年間を見通しての計画を立案していきたい。

おおやっこおたからハンター！大谷のお宝を探そう

～地域での体験とそこから広がる遊びを通して～

◎はじめに

本園は海洋教育に取り組み始めて4年目となる。これまで地域の海に親しむ活動や大切に食べる活動、体験から得た気付きを生かした遊びを繰り返してきた。今年度は海を含めた「大谷」の地域のよさを味わえるように、園庭という身近な環境から徐々に範囲を広げて探検し、様々な発見を楽しんでいる。

◎海洋教育 年間指導計画

●ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで海に関わろうとし、海に対する親しみの気持ちをもつ。 ・海での体験から得た気付きを遊びに生かし、好奇心や探究心を高める。 		
●育てたい 幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の海を愛し、進んで関わろうとする幼児 ・海での体験から得た気付きを表現しながら、遊びを発展させていこうとする幼児 		
おおやっこおたからハンターのミッション！ 【海に親しむ】【海を知る】【海を生かす】			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #90EE90; padding: 5px; border: 1px solid black; border-radius: 10px;"> ミッション1 大谷探検をせよ！ </div> <div style="background-color: #66B3FF; padding: 5px; border: 1px solid black; border-radius: 10px;"> ミッション2 ごっこ遊びや行事で遊びつくせ！ </div> <div style="background-color: #FFFF00; padding: 5px; border: 1px solid black; border-radius: 10px;"> ミッション3 海のおいしいものを探せ！ </div> </div>			
月	活動名	ねらい	内容
4月～	大谷探検をしよう！ (年間を通して)	・身近な地域に出掛け、様々な発見を楽しむ。	幼稚園周辺の野原などに出掛け、地域に様々な場所があることを知る。
6月～	海の生き物を見よう！	・地域の海で獲れる生き物を知り、興味をもつ。	地域の海で獲れる魚を見たり、触れたりする。
6月	海洋幼稚園こどもサミット in 沼尻海岸	<ul style="list-style-type: none"> ・他園にいる同年代の友達との関わりを楽しむ。 ・地域の海への興味や関心を高める。 	他園の友達と一緒に沼尻海岸の散策を楽しんだり、見つけたことを共有したりする。
6月	日門漁港見学	<ul style="list-style-type: none"> ・大谷地域の水産業に触れ、興味や関心をもつ。 ・海に関連する道具や仕事場等を見学し、興味や関心をもつ。 	船に乗り、定置網で獲れた魚を見せてもらったり、マンボウの引き揚げ体験を行ったりする。
7月	ごっこ遊び (沼尻海岸ごっこ、日門ごっこ)	・共通体験を基にイメージを膨らませ、見つけたことや気付いたことを取り入れながら、友達と一緒にごっこ遊びを楽しむ。	体験活動で気付いたことを自分なりに表現したり、友達と一緒に工夫したりする。 →夏まつりでのごっこ遊びにつながる。
7月	とろろん作りをしよう！ 寒天で遊ぼう！	・身近な食べ物の中に海の食材があることに気付く。	寒天について調べ、感触の違いを感じながら調理を行う。 寒天遊びを行い、感触を楽しむ。
10月	うみのようちえん in 沼尻海岸	・地域の海に興味や関心をもち、親しみを感じる。	全園児で沼尻海岸の散策や生き物観察を行う。
10月	道の駅ごっこ	・道の駅について知り、地域や海に対する関心を高める。	道の駅大谷海岸の紹介動画を見る。 園内に開かれた道の駅で買い物ごっこを楽しんだり、日門網で獲れた魚を観察したりする。
10月	ドリームキャッチャー制作研修	・海との様々な関わり方について知り、幼児の興味や関心を引き出す一助とする。(教員)	向洋高校でドリームキャッチャーの作り方等を教えていただく。(教員)
11月	おおやっこの道の駅ごっこ(あきまつり)	・体験したことを基に、イメージを広げながら遊びを作り上げていくことを楽しむ。	道の駅ごっこを通して興味をもった各クラスのお店(ハンバーガー屋、カフェ、おみやげ屋、魚屋)の準備を行い、全園児でごっこ遊びを楽しむ。
11月	道の駅大谷海岸見学	・道の駅の仕事に触れ、地域の良さや海と日常生活とのつながりを感じる。	道の駅大谷海岸を見学する。 大谷海岸散策を行う。
11月	うみのお兄さん・お姉さんと遊ぼう (向洋高校と交流)	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣地域で水産業について学ぶ高校生との関わりを通して、親しみや憧れの気持ちをもつ。 ・海への興味や関心を高めるとともに、海を取り巻く環境について知る。 	宝探しミッションとして、高校生と一緒に貝殻やペットボトルキャップなどを採集する。 ドリームキャッチャーをいただく。
12月	うみのようちえん in 海の市	・他地域の海に関する施設を知り、地域で獲れる魚や特産品について興味をもつ。	鮮魚店、氷の水族館、シャークミュージアムの見学を行う。
1月	かまぼこ・はんぺん作りをしよう！	・海の食材が変化し、身近な食べ物になっていることに気付く。	鱈の切り身を使ってかまぼこ調理を行う。
2月	海の思い出缶を作ろう！	・思い出缶作りを通して、海への様々な関わり方に興味や関心をもつ。	制作したキーホルダーを向洋高校で缶詰にしてもらう。

★歌「おたからハンターおおやっこ」を作成 → 普段の生活や行事の

◎主な保育実践

(1) 【ミッション1 大谷探検をせよ!】

・日門漁港見学 (6月)

今年度も「日門網」の皆さんのご協力のもと、定置網で獲れた魚を船上で見学させていただいた。また、マンボウの引き揚げ体験も行い、引っ張ってもなかなか上がらないマンボウを最後は日門網の方が引き上げると「こんなに重いのにすごい」と話す姿も見られた。

・道の駅ごっこ (10月)

当初、新しくオープンした道の駅を全園児で見学することを予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止せざるを得なかった。そこで教師が道の駅を取材して作成した紹介動画を見せ、園内で買い物ごっこができるように準備を進めた。当日は日門網の皆さんにご協力をいただき、地域の海で獲れた魚を見たり、触れたりする体験も行った。みんなで道の駅に行くことはできなかったが、「道の駅に行ってみよう」と興味をもつきっかけになった

(2) 【ミッション2 ごっこ遊びや行事で遊びつくせ!】

・おおやっこの道の駅ごっこ (11月)

園内での道の駅ごっこを経験し、「今度は自分達でお店をやりたい」という声が幼児から上がった。そこで、各クラスで相談し、年少組は「サメカツバーガー屋さん」と「カフェ」、年中組は「おみやげ屋さん」、年長組は「魚屋さん」の準備を行った。道の駅の紹介動画や写真を何度も見たり、友達と相談してイメージを合わせたりしながら準備する姿が印象的だった。おおやっこの道の駅が開店すると、イメージに浸りながらごっこ遊びを楽しむ様子が見られた。

(3) 【ミッション3 海のおいしいものを探せ!】

・ところてん作り (7月)

「海のおいしいものを探せ」というミッションから本で調べ、ところてん作りが始まった。棒寒天を見たり、触れたりして、これが海藻だということを知ると、不思議そうに見つめている姿が見られた。棒寒天を煮詰めて次の日、固まったものを天突きで突いた。「難しいね」「力が必要だ」などとつぶやきながらも、喜んで調理する様子が印象的だった。

◎成果と課題

(1) 成果

- ・年間を通して「おたからハンター」「ミッション」という合言葉を使って活動の軸を設定し、取り組んできた。「あきまつり」などではクラス毎に活動していても、「ミッション」とい言葉があることで同じ目的に向かっていることを感じやすく、幼児も教師も共通理解を図りながら進めることができた。
- ・園庭や地域で見つけたことを「お宝」としたことで、採集物を大切に扱ったり、「大谷にはお宝がいっぱいだね」などという発言が聞かれたりした。このような姿が地域への愛着心や地域の海を大切にする気持ちにつながっていくものと考えられる。
- ・新型コロナウイルスの影響で当初予定していた活動ができなかったり、内容を変更したりすることが多かった。しかし、その度に教師間で話し合い、どのようにしたらよいか考え、工夫しながら取り組んできた。その機会があったことで、教師自身も海のことさらに興味をもち、考えるきっかけとなった。

(2) 課題

- ・毎年継続している体験が型通りにならないように、幼児の興味や関心を見取りながら、進め方を教師間で練っていききたい。
- ・海洋幼稚園こどもサミットなど、他園との交流を通して大谷の海と他の地域の海の違いを知ったり、互いに伝え合ったりできるような活動も進めていきたい。



いけすの中のタコを触る様子



マンボウの引き揚げ体験の様子



買い物ごっこを楽しむ様子



サメカツバーガーを食べる様子



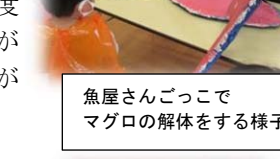
日門網で獲れたサメを触る様子



魚屋さんごっこでマグロの解体をする様子



魚を配送する様子



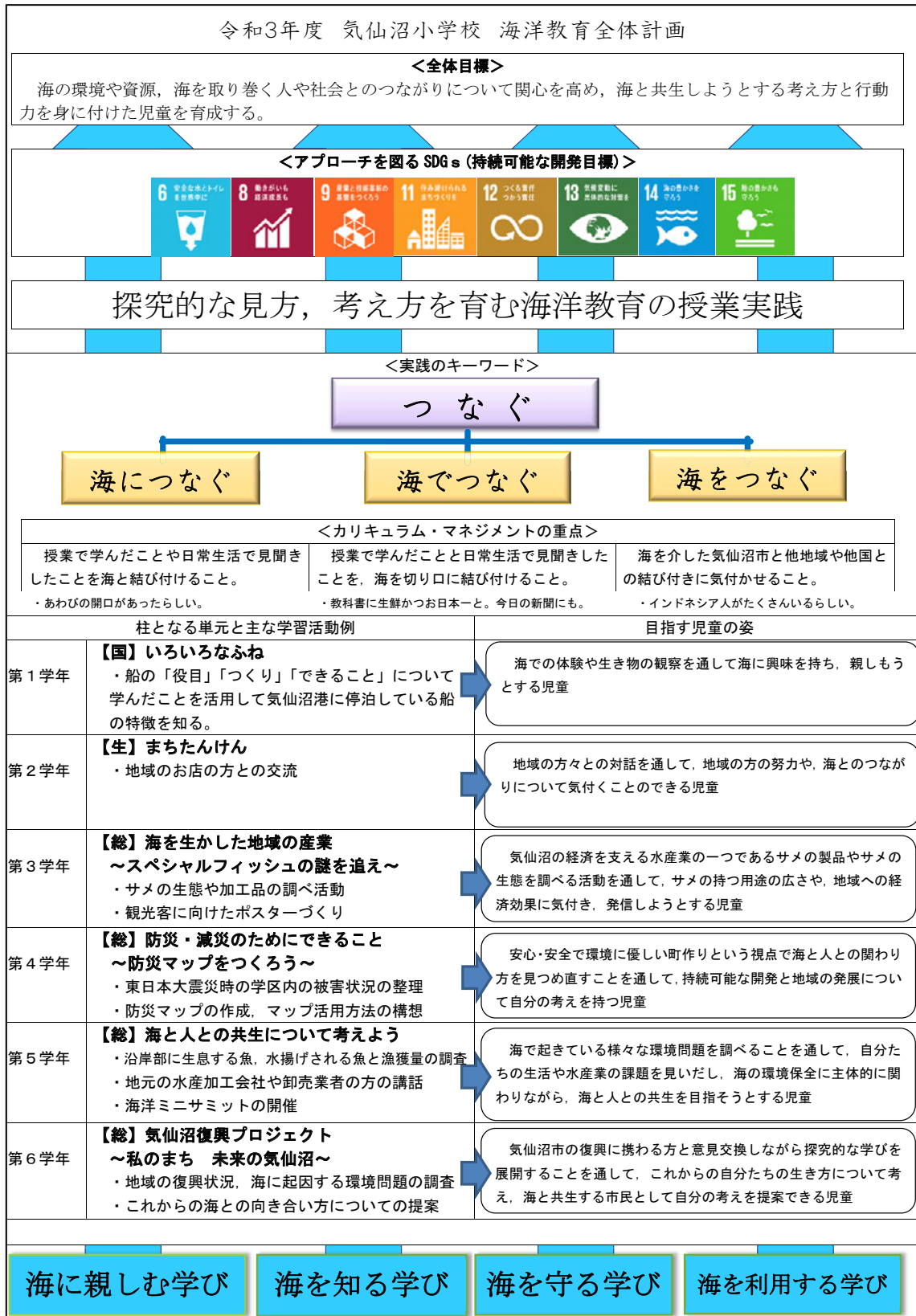
ところてん作りの様子



ところてんを食べる様子

主体的・対話的に深く学び合う児童の育成

～探究的な見方，考え方を働かせて課題解決する海洋教育の授業を目指して～



学校教育目標

志に生きる
～夢と誇りを持って未来を切り拓く～

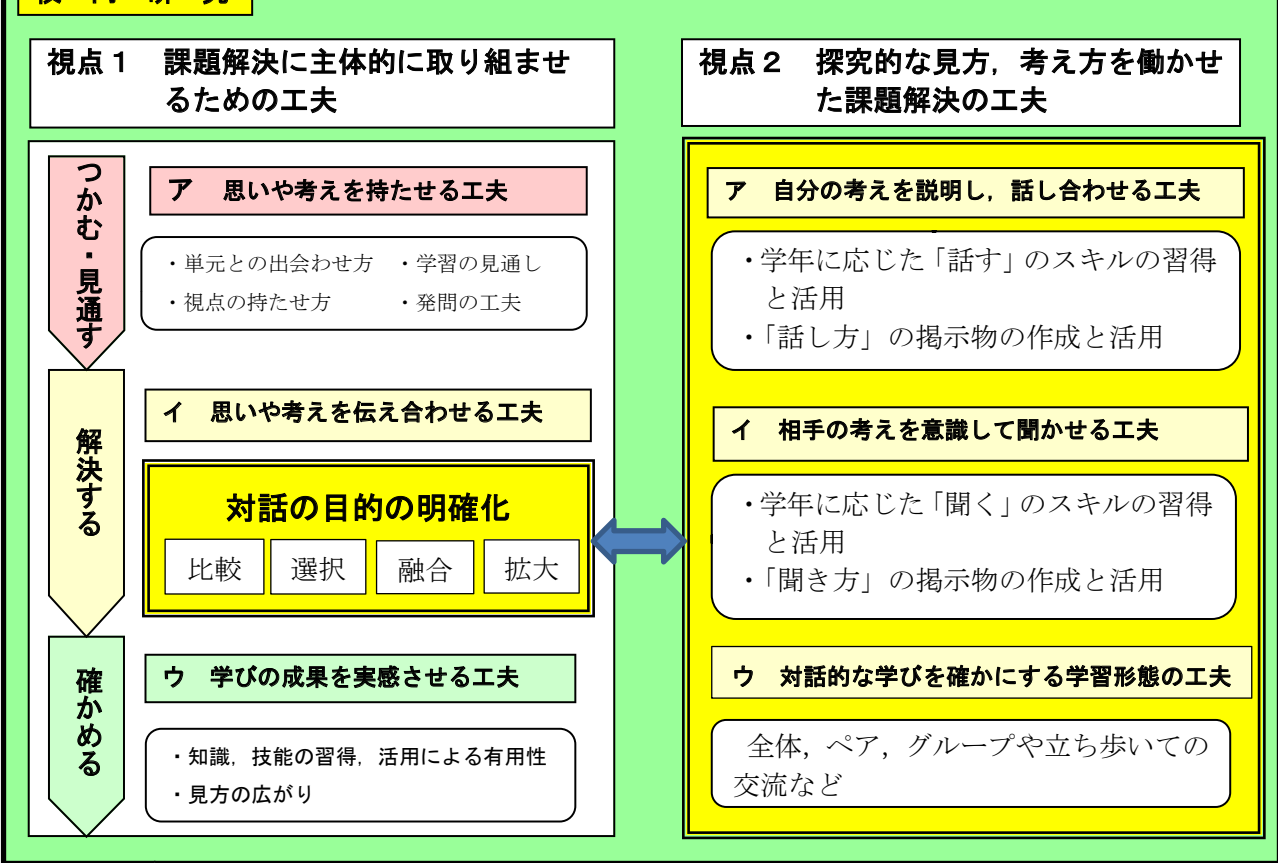
研究主題・副題

主体的・対話的に深く学び合う児童の育成
～探究的な見方，考え方を働かせて課題解決する海洋教育の授業を目指して～

目指す児童の姿

学習活動や日常生活における疑問や関心から課題を見付け，問題解決的な活動に発展的に繰り返し取り組むことのできる児童

校内研究



<協働的な授業づくり>

- 「学習過程のイメージ図」の作成と活用
- 専門部，学年部ごとの調査分析と授業づくり

<対話スキルの育成>

- 「対話的な学びのモデル図」の作成と活用
- 「話し方，聞き方」の教室掲示の作成と活用

<中学校との連携>

- 授業参観及び情報交換会
- 「自主学習のすすめ」の共同制作と活用

<家庭との連携>

- 気小っちはなまるカード（家庭学習の記録）の活用
- 個の課題に応じた指導の充実（放課後学習）

学力向上に向けた土台づくり

① 授業の概要

単元名 「海を生かした地域の産業」～スペシャルフィッシュのひみつを追え～

目標 足利本店で収集してきた情報をグループで見合い、比較したり分類したりして情報を整理し、気仙沼港で水揚げされるサメについてより詳しく知るための新たな課題を見付けることができる。

手立て ① 情報の整理の仕方を振り返らせながら、付箋紙を活用し、情報の比較・分類・選別ができるようにする。 【視点1ーア】

② 自分の思いや考えを伝え合わせることで、集めた情報に対する見方や考え方を広げ深めさせる。 【視点1ーイ】

③ 見学して経験したことや、分類化した情報を振り返らせることで本時の成果を実感させ、今後の活動に見通しを持たせるようにする。 【視点1ーウ】

② 事後検討会から

成果

- Xチャートや付箋紙を使用したことで、効率よく情報の整理をすることができた。
- 児童が書いた付箋紙の量で必要な情報を判断するのではなく、グループで更に知りたい情報に目を向けられることで、次時の課題設定の際に役立てられるようにした。
- 次回の課題を発表させる際、なぜそう思ったのかを、自分の考えを基に発表させることができた。
- 情報の分類の仕方や、今までの授業の流れを想起させたことで、次回からの学習の見通しを持たせることができた。

課題

- 個人で集めた情報をグループで整理する際、教師が指示した分類に応じて色の付箋紙の色を分けて記入させたため、書かれた内容を確認せずに、色だけで分類してしまう児童が多く見られた。付箋紙の色は分けずに、書かれた内容をグループ内で確認しながら分類させるようにすればよかった。付箋紙のより効果的な付箋紙の活用法を工夫する必要がある。
- 付箋紙に書く内容について、具体的な指示を行わなかったために、内容が長過ぎたり、大事なことが抜け落ちていたりした。書いた内容にキーワードを付けさせたり、大切な語句にアンダーラインを引かせたりすることが必要だった。
- 振り返りは、グループで行わせるのではなく、個人で行わせ、個々の取組を評価することも必要であった。

続けていきたいこと

- ・ 集めた情報を整理させる際は、目的を明らかにして、効率良く行わせていきたい。
- ・ 授業で分かったことや振り返りを発表させる際は、理由も付け加えて発表する習慣を身に付けさせていきたい。



【ボードに見学場所での気づきを掲示した】



【Xチャートで気づきを分類する様子】

①授業の概要

単元名 「気仙沼復興プロジェクト わたしたちの町 未来の気仙沼」

目標

- ・調べてきたことを整理し、課題解決に向けた自分の考えをまとめることができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・気仙沼の魅力を伝えるために友達の考えを生かし、対話を通して課題解決に向けて取り組むことができる。（主体的に学習に取り組む態度）

手立て

- ① 対話的な学びを確かなものにするために、チームごとに「気仙沼の魅力」を発信する方法という観点で話し合わせたり、全体で共有させたりする。【視点2ーウ】
- ② 学びの深まりや考えの変容を実感させるために、友達のアドバイスや話合いで気付いたことについて振り返りをさせる。【視点1ーウ】
- ③ 調べたことを基に自分の考えの共通点や差異点を出し合いながら、課題解決の方法を話し合う観点を持たせる。【視点1ーイ】

②事後検討会から

成果

- 話し合わせる前に、調べたことをまとめたノートのキーワードにアンダーラインを引かせたことで発表する内容を整理することができた。
- ホワイトボードやタブレットを使うことが、自分たちの考えや思いを伝えるのに有効だった。

課題

- 「何を発信するのか」を子どもたち自身が焦点化できていなかった。
- 時間内に考えをまとめさせることができなかった。話合いの目的を明確にし、活発な話し合いになるような指示の工夫が必要であった。
- 自分の思いや考えに自信を持って発表することができない児童がいた。
- 一部の考えに流されがちになり、グループの考えの検討が不十分なグループが見られた。
- 本時の活動内容が多く、振り返りを行う時間が足りなかった。

続けていきたいこと

- ・ 調べたことを整理する力を育てていきたい。
- ・ 全員が話し合いに参加できる手立てを工夫していきたい。
- ・ 話し方、聞き方の指導を教科横断的に継続して行っていきたい。
- ・ 話し合いの中で、意見を1つにまとめていく活動を様々な場面で取り入れていきたい。



【発表資料の構成について意見交換する様子】



【メモしたノートの情報を整理する様子】

第5学年1組 総合的な学習の時間（海洋教育）学習指導案

場 所 5年1組 教室

指導者 教諭 島山 三弘

1 単元名 「海と人の共生について考えよう」

2 単元について

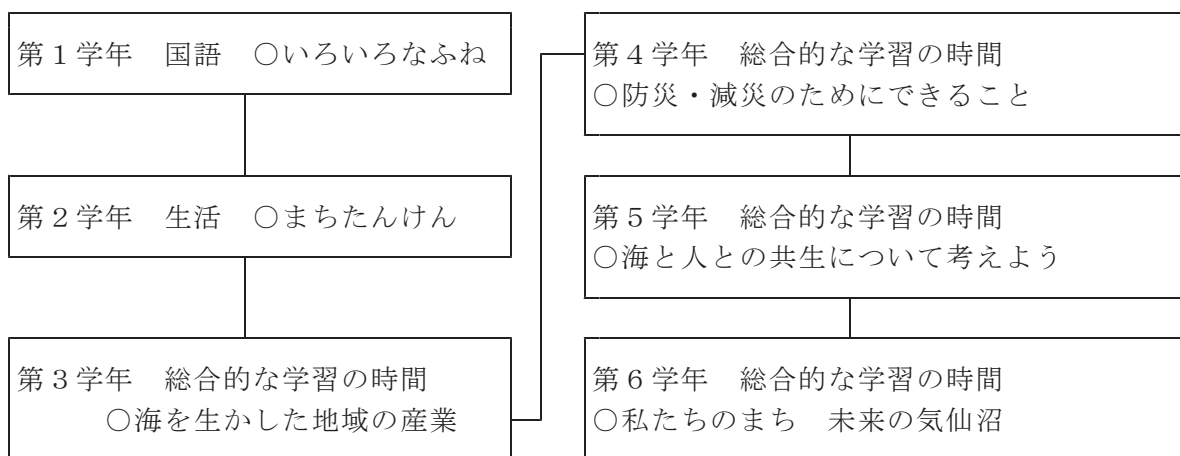
(1) 探究課題について

小学校学習指導要領では、総合的な学習の時間の目標として、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。」とあり、本校では、この目標を受けて、「主体的・対話的に深く学び合う児童の育成～探究的な見方、考え方を働かせて課題解決する海洋教育の授業を目指して～」を主題として研究を進めている。

児童はこれまでに、第2学年の「どきどきわくわく町探検」では、直接お店に行つて、インタビューをすることを通して、町探検で見つけた店の中には海に関係する店が多いことに気づき、気仙沼の人々と海のつながりについての関心を高めてきた。第3学年の「海を生かした地域の産業 ～シャークナゲットを追って～」では、商品開発をする方へのインタビュー活動や観光客に向けたポスターづくりを行った。第4学年の「防災・減災のためにできること」では、海の自然災害として津波を取り上げ、防災マップづくりを行った。

第5学年では、これまでの海洋教育を受けて、「海と人との共生について考えよう」というテーマで気仙沼に住む人々と海との関係を深く考えさせていく。児童が自分自身の興味や関心から学習課題を設定し、探究活動を行っていく中で、海と人とのつながりについて深く理解させていきたい。似ている学習課題を設定している児童でグループを作り、自分たちができることを考えて、実践させていきたいと考えている。第5学年の学習活動を通して、課題を解決するために必要なことを考えて行動し、その成果を形に残すことで、第6学年の「私たちのまち 未来の気仙沼」に「つなげていきたい」。

(2) 単元の系統（海洋教育）



(3) 児童の実態 (男子12名 女子15名 計27名)

本学級の児童は、自分の興味があるものに関しては意欲的に取り組む児童が多い。また、自分の苦手なものに対しても諦めず頑張っており取り組もうとする姿も見られる。一方、失敗を恐れ、自分の考えを主張することができない児童が多い。算数科の問題のように答えが明確なものに対しては発言することができるが、理由を説明したり、答えを文章でまとめたりする問いに対しては自分の考えを述べる児童は少ない。また、他者の話を上手に聞くことができないため、新たな考えを生み出すことができない児童が多い。そこで5年生の総合的な学習の時間では、自分の考えを持たせる経験や、思考を整理する経験をさせたいと考えている。また、自分の考えと比べながら他者の意見を聞かせることで自分自身の考えが広がったり、他者との意見交換を通して第三の案を思い浮かべたりする経験等を味わわせたい。そのために、学習内容に沿った思考ツールを計画的に活用していく。

休日の過ごし方を日記等で確認すると、海へ行って家族と釣りを楽しむという家庭が複数いる。夏には大島小田の浜海水浴場に行ったり、日々の食事に魚が当たり前のように出たりと児童は海と様々な場面で関わっている。しかし海が気仙沼市にとってどれだけ重要なものであるのかをじっくりと考えた経験は少ないように思われる。「海と生きる」気仙沼に住む児童にとって、海を知ることは町を知ることにつながり、気仙沼の町を愛する心へとつながっていく。本単元を通して気仙沼と海のつながりを深く味わわせていきたい。

(4) 指導に当たって

以上のことを踏まえ、本単元では研究の視点に沿って次のような手立てを工夫し、指導に当たりたい。

【視点1】課題解決に主体的に取り組ませるための工夫

- ア 学習の目的に応じた思考ツールを活用することで、児童に自分の考えを持たせる。
- イ 話し合いの際に、対話の目的を明確にして思いや考えを伝え合わせる。
- ウ 学習感想一覧表を作成し、自身の学びの深まりや考えの変容を実感させる。

【視点2】探究的な見方、考え方を働かせた課題解決の工夫

- ア 自分の考えをどの順序で伝えればよいのか計画させてから話をさせる。
- イ 自分が知っていること、知りたいことを明確に持って海に関わる仕事をしている方々の話を聞かせる。
- ウ 対話的な学びを行う際、対話の目的にあった学習形態を工夫する。

1 目標

観 点	目 標
知識・技能	・気仙沼市の様々な仕事が海と関係があることを理解する。
思考・判断・表現	・持続可能な視点から、海と人との共生について考える。
主体的に学習に取り組む態度	・人や地域との関わりの中で自分にできることを見付けようとする。

【単元の目標】

気仙沼市の漁業や市内の色々な仕事について調べる学習を行うことを通して、気仙沼市の様々な仕事が海と関係していることを理解し、持続可能な視点から海と人との共生について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

4 指導計画（26時間扱い 本時 9 / 26時間）

次	主な学習活動	時	評価規準	活用する思考ツール
1	習得 ・ウェビングマップを作成し，気仙沼に関する知識を可視化する。	1	【知】気仙沼といて思い浮かぶ物や施設の多くが海に関係していることが分かる。	「ウェビングマップ」 (広げてみる)
	習得 ・ウェビングマップで出てきた言葉を「海」との関係で考える。	1		「ウェビングマップ」 (広げてみる)
	習得 ・大島から気仙沼市を眺め，気仙沼と海の関係について考える。	3	【知】気仙沼市と海の関係について，地形や内湾，外湾の様子の違いが分かる。	「KWL」 (見通す)
	習得 ・マグロ船の内部を見せてもらい，遠洋漁業中の漁師の生活について考える。	3	【知】マグロ船で働く漁師がどのように魚を獲り，どのような生活をしているのかが分かる。	「KWL」 (見通す)
2	探究 ・これまでの活動を振り返り，自分で追究したい課題を設定する。	2 本時	【思】自分で追究する課題を設定することができる。	
	探究 ・自分の課題について調べ活動を行う。 ○水揚げされる魚 ○遠洋漁業で働く人 ○海の汚れ ○気仙沼の観光	5	【思】追究する課題の解決に向けて計画を基に調査活動を行っている。	「ステップチャート」 (順序立てる)
	習得 ・調べた内容を基に更に関係者から聞きたい内容をまとめる	1	【思】思考ツール「KWL」にこれまで調べて分かったことや，聞きたいことをまとめている。	「KWL」 (見通す)
	習得 ・関係者のもとを訪れ，聞き取りを行う。	1	【思】「KWL」に学んだことをまとめている。	「KWL」 (見通す)
	探究 ・自分の課題について調べ活動を行う。	3	【思】追究する課題の解決に向けて計画を基に調査活動を行っている。	「ステップチャート」 (順序立てる)

活用	・自分の課題を調べて分かったことをスライドにまとめる。	3	【思】調査をして分かったことを聞き手が分かりやすいように順序立ててスライドにまとめている。	「ステップチャート」 (順序立てる)
活用	・自分の課題を調べて分かったことを発表する。	2	【思】調査をして分かったことを聞き手が分かりやすいように順序立てて発表している。	「プロット図」 (順序立てる)
習得	・学習を振り返る	1	【学】学習を振り返り、新たに生じた課題をまとめる。	

5 本時の指導

(1) 本時の目標

自分で追究する課題を設定する。

【思考・判断・表現】

(2) 指導の手立て

【視点1】課題解決に主体的に取り組ませるための工夫

イ 話し合いの際に、対話の目的を明確にして思いや考えを伝え合わせる。

ウ 学習感想一覧表を作成し、自身の学びの深まりや考えの変容を実感させる。

【視点2】探求的な見方、考え方を働かせた課題解決の工夫

ウ 対話的な学びを行う際、対話の目的に合った学習形態を工夫する。

(3) 準備物（教師）

前時までに学習した内容が書かれた模造紙

短冊

(4) 学習過程（別紙1）

(5) 評価

観 点	おおむね満足できる（B）
思考・判断・表現	・自分で追究する課題を設定することができる。

(6) 板書計画（別紙2）

(7) 活用する思考ツール（別紙3）

(4) 学習過程

段階	主な学習内容	学習形態	教師の発問 (◎) 指示 (□) 予想される児童の反応 (○, ●)	◇研究の視点に基づく手立て ・教師の働き掛け	【評価】(方法) ・準備物等
つかむ・見通す 10分	1 これまでの海洋教育を振り返る。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">調べたいテーマを考えよう。</div>	一斉	□ 5年生の総合的な学習の時間で見学に行った場所を振り返りましょう。 ○ 大島の亀山から気仙沼の町を見て、気仙沼にはたくさんさんの建物があることが分かりました。 ○ マグロ漁船の中を見て、漁師の方が生活する場所があることが分かりました。 □ マインドマップを作成して分かかった通り、気仙沼は「海と共に生きる」町でしたね。5年生の総合的な学習の時間は「海と人との共生について考えよう」というテーマで学習を進めていきます。 □ 今日、自分が総合的な学習の時間で調べたいことを決めていきます。	◇ 気仙沼と言って思い浮かぶことをまとめたマインドマップ、見学してきた亀山やマグロ漁船、大島公民館長に聞いてきた大島の特産や津波記念碑等についてまとめた模造紙を掲示しておく。 ・ 5年生の総合的な学習の時間のテーマを再確認することで、調べたいテーマを考える前に、海と人との共生を再度意識させる。	・ 気仙沼についてのマインドマップ、亀山からの景色、大島公民館長やマグロ漁船の中についてまとめた模造紙
解決する 30分	3 自分が調べたいと思ったことを短冊に書き、友達と意見交換をする。	個別	□ 自分でくわしく調べたいことを単語でノートに書きましょう。その中で最も調べたいと思ったこと1つに○をつけ、短冊に書きましょう。 ○ お土産 ○ 養殖	・ 自分の考えを持つことができるように、最初は自分が調べたいことを単語で書かせるようにする。 ◇ 話し合いの際に、対話の目的を明確にしたいや考えを伝え合わせる。 【視点1ーイ】	・ 短冊

(6) 別紙2 (板書計画)

六月十七日 木曜日
直方

海洋教育

2年 町探検

3年 海を生かした地域の産業

4年 防災・減災のためにできること

5年 海と人との共生について考えよう

調べたいテーマを考えよう

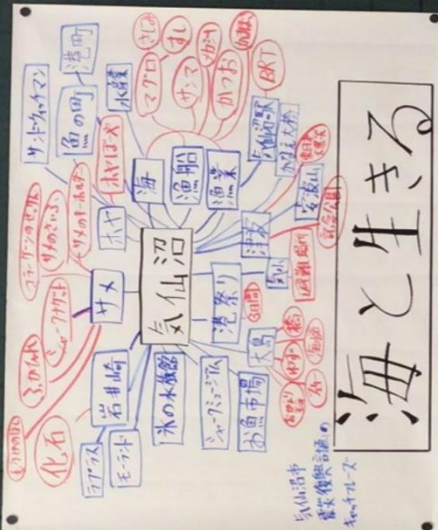
流れ

- ① ノートに調べたい単語を書く
- ② 短冊に一番調べたい単語を書く
- ③ ②の友達に一番調べたい単語を話す
- ④ ③の友達と話し合い、整理する
- ⑤ ④のクラスで調べたい単語を発表する

〈次回の学習〉

気仙沼の(下)〇〇は
 □□だろうか。

〈ふりかえり〉



5-1 調べてたいこと

海水浴
どこ？

宝波山
海と関係あり

魚の町
どこ？

お魚市場
人気のある品物

サメ
おみやげ

サメ
食べ方

港祭り
いつから？

魚の町
誰が？

津波
どうやって？

津波
なぜ？

マグロ
どこで？

漁業
魚の種類

サマ
どこから？

BRT
どこから？

BRT
いつから？

サマ
何？

サマ
どこから？

港祭り
おみやげ

港祭り
いつから？

港祭り
おみやげ

港祭り
いつから？

港祭り
おみやげ

港祭り
いつから？

港祭り
おみやげ

港祭り
いつから？

港祭り
おみやげ

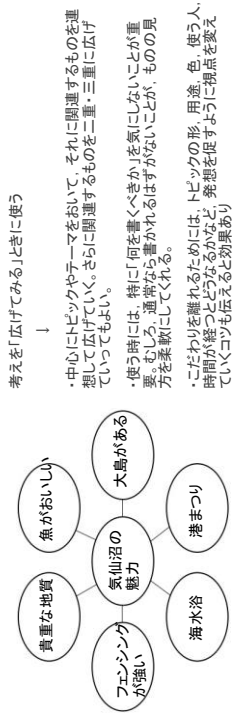
港祭り
いつから？

港祭り
おみやげ

港祭り
いつから？

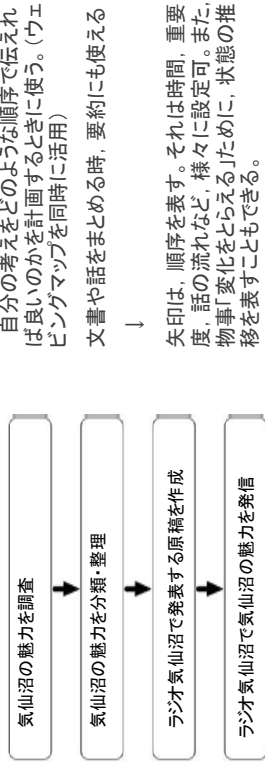
(7) 別紙3 (活用する思考ツール)

ウェビングマップ【広げてみる】



第1時・第2時

ステップチャート【順序立てる】【要約する】



第18時・第23時

KWL【見通す・評価する】

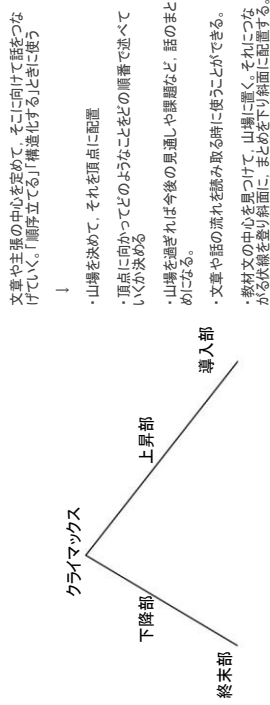
学習に向かふ際に、既習知識・既習事項を自覚させることで、学習効果を高めるとともに、何を学習したかを振り返ることが出来る。

K	W	L
ラジオ局が入っているたきさんの店がある	どんなことを放送しているの？ どんな店があるの？	気仙沼のイベントや祭り、お土産を紹介している。 飲食店やお土産屋、兼業で店が流されたところが多い
「ないわん」は大きい	何に使っているの？	イベントや人が集まる場として利用されている

- ・Kは知っていること(What I know)
- ・Wは知りたいこと(What I want to know)
- ・Lは学んだこと(What I Learned)
- ・学習の始めに最初の二つを記入し、終了時にLを記入
- ・すべては書けないので、その日あるいはそのテーマやトピックに関わる重要事項だけを書く。

第3時～第8時 第16時・第17時

プロット図【順序立てる】



第24時・第25時

1 今年度の研究の目的

昨年度より海洋教育に本格的に取り組み始めた本校では、3つの「重点とする海洋リテラシー」を身に付けさせるために、より児童が学習課題を自分ごとと捉え、価値を行動に移そうとする意識を醸成するための手立てを深めることを目的に、昨年度から実践している学習プログラムの改善・実践・検証という形で研究を進めた。

2 本校の海洋計画全体計画 別紙1参照

本校の海洋教育全体計画は、本校の海洋教育の目標を具現化するために、学区内や市全体、あるいは近隣の地域、または大学等の専門家などの環境・施設・人材の学習資源をピックアップし、各学年の海洋にかかわる学習内容と関連させ、3つの「重点とする海洋リテラシー」を育成するための学習プログラムを作成している。

※現6年生の多くの児童が5学年時に興味・関心を示した「地球温暖化と海洋環境・災害との関係」という課題について、昨年度実践した「食から探る海洋」と差し替え、「地球温暖化と海洋」「津波に関する防災」の二つのプログラムに編成し直した。

3 本校の単元全体構想（プログラムチャート） 別紙2参照

学習指導要領に準拠した児童に身に付けさせる3つの力（知識・理解、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）をねらいとし、この学習と海洋リテラシーの視点を明記した単元構想表を作成している。構想表を作成することで、教科との連携を図り探究学習の見通しをもち、指導を行うことができている。また、1単位時間の学習が明確な内容となるように指導計画を立て、全学年の指導計画を全ての教員に配付し、系統性を意識した指導を高ずるよう意識させている。

4 今年度の海洋教育の成果

(1) 重点とする海洋リテラシー（Ocean Literacy for all）における成果

原則3 海洋は気象と気候に大きな影響を与える

- 6年「地球温暖化と海洋」の単元では、導入で、地球温暖化に起因する海面上昇によって国土の大部分が水没する危機にある太平洋の島国・キリバス共和国の現状とその原因や解決するために必要なことを同国名誉領事のケンタロ・オノ氏から、更に環境会議所東北主任研究員の高藤節生氏からSDGsの概論の講話を受けた。これらの専門家からの課題提示から、児童に自分の未来を想像させ、世界的な問題である「地球温暖化」を自分ごととして考えさせる展開を図った。また、海洋とのつながりを図るために、水産試験場職員の方を招き、現在の三陸沖の温暖化の状況や今後の予測について、データや写真を用いて話していただき、地域課題でもあることの理解を図った。



ケンタロ・オノ氏講話

原則5 海洋が豊かな生物多様性と生態系を支えている

- 5年「森と海とのつながりを考えよう」の単元では、「海洋と森のつながり」を体験活動とテキストを活用した調べ活動をもとに学習した。牡蠣の森を慕う会代表の畠山重篤氏から、気仙沼湾の環境の変遷と湾に流れ出る川の上流に群生する広葉樹との関係を分かりやすく教えていただいた。特にキートセロスという植物プランクトンが海に流れ出ることや、海洋の生物多様性と生態系を支えていることについて強調して教えていただいたことで、児童は、海洋環境の保全のために、自然環境全体を守ることが重要であることを十分に理解することができた。



畠山 重篤氏 講話



プランクトン採集の様子

○ 5年「植林活動をしよう」の学習を行い、松岩愛林公益会の方の援助を受け、学区の山林に自分の手で広葉樹の植林を行った。森林組合の方からも、陸の視点から見た海洋環境についての話をいただき、地球環境保全のための行動であることを意識しながら活動することができた。



長の森山 植林活動

○ 5年および6年生は臼福本店社長臼井壮太郎氏より、MSC 認証を取得し、海洋の生態系を守る活動について、話を伺う機会を得た。その志についても触れることができ、自分自身の一つ一つの行動が未来の地球環境を守ることに通ずるという意識を高めることができた。



海のエコラベル MSC 認証

原則6 海洋と人間は密接に結びついている

○ 4年「守ろう！私たちの海」の單元では、田中浜でのマイクロプラスチック調査、東京海洋大学内田圭一准教授による海洋ゴミの学習、気仙沼市や気仙沼の企業および松岩地区の環境保全の取組について調べた。その中から自分ができる事を決め、夏休みに海を守る活動を実施し、夏休み明けに、取り組んだ事柄の発表会を行った。学習の終末は、海の環境を守るポスターを作成し、学校周辺の大型スーパー等に掲示を依頼し、気仙沼市民に海洋環境保全に関心を抱いてもらえるよう活動した。



マイクロプラスチック調査

(2) 学習プログラム評価システム導入による成果

○ 年2回（夏と冬）今年度実施した学習プログラムについて、全職員で評価会を行っている。評価会の視点は①文脈のある学習展開ができてきているか、②児童の自主性を育み、自分ごととして学習に取り組んでいるか、③学習のねらいに到達するためにさらに改善すべきところはないかの3点を中心としている。2度評価会を行った上で、次年度のプログラムを改訂するPDCAサイクルを組み込んだ評価システムは、担当学年のみが学習プログラムを理解するばかりではなく、全職員が6年間の海洋プログラムを理解することができ、児童の学びの継承ができています。また、多様な視点から、新しい学習展開を考え、児童の思いに準じたより有効な学習プログラムを構成できています。

5 今年度の海洋教育の課題

(1) 「地球温暖化と海洋」プログラムの改善

● 6年「地球温暖化と海洋」の学習プログラムは、具体的構想はあったが、担当教員にそのイメージがうまく伝わらず、児童に深い学びを提供させることができなかった。地球温暖化と海洋の関係については、海洋リテラシー原則6に立ち返り、科学的な要素を盛り込みながら、児童の知的な好奇心を育てつつ、行動変容を意識付ける学習プログラムの再構築を考えている。

(2) 教員自身の学びに向かう姿勢の強化

● 教員自身が、自分ごととして学習テーマを捉え、目の前にいる子供の未来を変える学習を提案しているという思いをもつことが必要である。年度当初に研修会を設け、児童に質の良い学習を提供するために必要な事柄について研修を行っている。今後も教員一人一人と対話をしながら学習のもつ価値について触れながら、自己研鑽意欲を高めることが必要である。

別紙 1 気仙沼市立松岩小学校 海洋教育全体計画

学校教育目標

志をもち、かしこく、やさしく、たくましく生きる児童を育成する。

- かしこい子
 - ・課題を見付ける ・深く考える
 - ・進んで自分の考えを自分の言葉で発表する
- やさしい子
 - ・思いやりの気持ちをもつ ・自然に親しみ、命を大切にする
 - ・進んで挨拶をする
- たくましい子
 - ・自分の健康課題を知る ・進んで鍛える ・健康を意識した生活をする

- 今日的課題
 - ・多様に変化する社会で生きて働く力
 - ・Society5.0社会
- 児童の実態
 - ・素直で明朗
 - ・知識や体験が充分ではなく、自己の意見がもてない。
- 保護者の願い
 - ・思いやりをもち、心身共にたくましく育ってほしい。
 - ・確かな学力を身に付けてほしい。
- 教師の願い
 - ・身近な人や自然との関わりを通して、志や探究心をもち生活してほしい。
 - ・自己の意見をもち、相手と対話ができるようになってほしい。

海洋教育のねらい(持続可能な開発のための海洋科学の10年より)

「海と人との共生」についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする、知識、技能、思考力、判断力、表現力等の海洋リテラシーを有する人材の育成することを目標とする。そのために、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を展開する。

本校の海洋教育の目標

- 海を中心とした自然の在り方や人の営みに興味をもち、自分とのつながりやかかわりに対して課題を主体的に捉えて追究する児童を育成する。
- 自分の問いをもち他者との対話を繰り返しながら問いを更新することで、正しい知見をもつと共に自分の生き方について深く考える児童を育成する。
- 豊富な体験活動や地域の大人との触れ合いを通して、探究の仕方や表現の仕方、より良い生き方について学ぶ機会をつくる。



各学年の生活科・総合的な学習の時間における活動

1・2年	○海と親しもう (親しむ) ・八幡神社で遊ぼう 広い海を見に行こう ・ゴーゴー大島遠足 砂浜で遊ぼう
3年 (23)	○松岩ともっとなかよくなろう。(知る) ・松岩の名人や名勝を知ろう 海博士や環境博士、植林名人の話を知ろう
4年 (70)	○守ろう!海の命 (守る) ・マイクロプラスチック調査をしよう ・気仙沼市海洋プラスチックごみゼロ運動を知ろう ・自分達ができることを考え、行動しよう ○守ろう!自分の命 (守る) ・東日本大震災について知ろう ・震災などの災害時の身の守り方を調べよう ・家族や身の回りの人に伝えよう
5年 (70)	○森と海のつながりを考えよう (守る) ・気仙沼の地理的な特徴を理解しよう ・森と海のつながりを舞根森里海研究所に行き調査しよう ・徳仙丈に木を植えよう ・自然環境の保全について考えをまとめよう ○海と生きる (利用) ・松岩のワカメ養殖を体験しよう ・気仙沼市の水産業について見学調査をしよう ・終末処理場の仕事を理解しよう ・水産業が抱える課題について考え、意見をまとめよう
6年 (50)	○海と私達は地球の仲間 (守る) ・地球温暖化が海洋に与える影響から人間の営みを振り合えよう。 ・津波及び風水害について考え、防災意識を高めよう。 ○未来の松岩を描こう! 紹介しよう! (守る 利用する) ・自然を相手にしている先人達と対話をし、志を立てよう ・海洋を中心とした未来の松岩や気仙沼の在り方を考え、自分の考えを発信しよう

地域・関係機関等との連携

- 地域リソースの開発と効果的活用
 - ・地域のひと・もの・ことのかかわりの中から、児童課題に即する地域教材を発掘・整理する。
- 幅広いステークホルダー(専門性を要する関係施設)の活用
 - ・地域課題ともいえる児童課題の解決過程にあたり、調査・観察・実験・対話等を通して、確かな学びを援助する。
 - (例)
 - ・ACCU
 - ・東京大学
 - ・東京海洋大学
 - ・気仙沼水産試験場
 - ・松岩愛林公益会
 - ・舞根森里海研究所
 - ・松岩浅海漁業研究会
 - ・松岩公民館
 - ・市立図書館 宮城県立図書館
 - ・防災センター
 - ・気仙沼市役所
 - ・白福本店 等
- 他校種連携・他地域学校連携
 - ・小中連携や他地域の小学校との連携を図り、多角的で多様な考えに気付き機会を設ける。
- パイオニアスクールにおける連携

統合的なアプローチによる単元づくり

- 生活科・総合的な学習の時間を通して、ストーリー性のある単元を構成する。
 - <単元構成におけるコンセプト>
 - ・育成すべき資質・能力・態度を明確にする。
 - ・気仙沼 ESD コンピテンシーを生かし、学習の価値を明確にする。
 - ・体験を重視しながら課題解決的で協働的な探究の学びのストーリーをデザインする。
 - ・単元間や学年間で系統的・発展的につながる単元配置とする。
 - ・学習の目的や段階に応じた科学的・専門的知識・情報の支援、交流支援、発信・行動化支援を効果的に位置付ける。
- 教科との横断的な関連を図る。(以下例示)
 - <国語>
 - ・各学年で育成目標とされる言語能力を身に付け、自分の意見を根拠を用いて相手に表現する力を養う。
 - <算数>
 - ・社会事象をデータから知る力を養う。
 - <社会・理科・家庭>
 - ・地域や社会事象や自然環境について歴史的・地理的・科学的観点から理解する力を養う。
 - <図工・音楽>
 - ・海洋を通して感性を育む。

探究型学習の構成要素

- 生きて働く知識及び技能の習得
 - ・思考ツールや思考スキルを活用し、思考を習慣化する授業を展開する。
- 探究のスパイラルを構成する授業プロセス
 - ・自分自身の問いをもつ
 - ・課題を設定する
 - ・課題に沿う情報を収集する
 - ・情報の整理と分析を行う
 - ・課題に対する意見をまとめ、表現すると共に、発信や行動を行う。
 - ・振り返りと考えの更新を行う
 - ・新しい問いに向かう
- 実感を持った道徳性の育成
 - ・先人のたゆまぬ努力、夢や志、自然環境との関わりなど、探究学習を通して人間としての生き方に触れさせる。
- 探究型学習の評価
 - ・ルーブリックを活用し、学び方の評価を行う。
- 探究学習コーディネーターの活用
 - ・学習した内容に一層の深みや広がりをもとめ、気仙沼市探究学習コーディネーターの活用も必要に応じて視野に入れ、常に新しい出会いや考えを模索する。
- ICT機器の活用
 - ・オンラインのメリットを生かし ICTを活用できるよう職員研修を行う。

別紙1 5学年 単元全体構想(プログラムチャート)

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

第5学年で身に付ける力

- ①森と海のつながりがあり豊かな海が育まれていること、そうした環境から気仙沼地域の産業が発展していることを理解すると共に探究的スキルを身に付ける。【知識・理解】
- ②教科等の知識に基づいて、気仙沼の産業の課題や問題を捉え、10年後も持続可能な産業の在り方について考えることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ③活動を通して分かったことや考えたことをまとめ、相手に分かりやすく工夫して伝えることができる。【学びに向かう力・人間性等】

海洋教育の視点

- 【生命】持続可能な水産資源の活用のための生態系保全 <海洋リテラシー5 海は、豊かな生命の多様性や生態系を支える>
- 【環境】地域の山・川・海と産業 <海洋リテラシー6 海と人間は、密接につながっている>

1 森と海のつながりを考えよう (22時間)

通年課題設定
○気仙沼市の地形や風土などの特徴と産業について講話を聞き、知りたいことを話合う。

課題設定 1 森と海のつながりを調べよう
○植樹体験やプランクトン採集活動を通して課題設定する。

課題追求 森と海の間を調べよう
○インターネットや図書を活用し、課題解決のための情報収集を行う。

○大学や各種関係施設にインタビューやFAX、メールでの連絡を取り、課題を追求し地図にまとめ、発信する。

●予想される児童課題
・生態系、植林事業、養殖と生態系、海と環境保全活動等

2 海と生きる(29時間) ~ぼくらは気仙沼の海大使~

課題設定 2 気仙沼市のアピールポイントを考えよう

○「海に生きる気仙沼」を知り、気仙沼のアピールポイントについて話合う。

課題追求

○海の豊かさや気仙沼の立地を、魚市場や工場見学を通して理解する。
○わかめ養殖を体験し、養殖業への理解やその苦勞を知る。
○気仙沼の産業・自然環境を持続させるための課題とその対策について調べる。

3 気仙沼の魅力を伝えよう(19時間)

行動・発信・振り返り ぼくらは海大使 気仙沼の魅力を発信!

○自然環境、地域産業と自分達の生活との関わりや産業や生活を支えている環境の保全について学んだことをリーフレットやプレゼンテーションにまとめ、発信する。

総合的な学習の時間

教科等との関連

【4年社会】水はどこから
○水の循環の経路について理解する。
【国語】事実と考えを区別しよう
○事実と考えを区別しながら文章を書く。

【国語】知りたいことを聞きだそう
○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、質問をして必要な情報を聞き出す。
【国語】環境問題について報告しよう
○テーマに沿って集めた資料から情報を読み取り、分かったことや考えたことを、集めた資料を活用しながら報告する文章にまとめる。
【社会】わたしたちの生活と森林(2月教材)
○森林資源が果たす役割について理解する。

【理科】魚のたんじょう
○卵の誕生から飼育までを経験し、その環境の大切さを理解する。
【社会】水産業のさかんな地域
○水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考える。
【国語】問題を解決するために話し合おう
○思考ツールを使いながら、多くの意見を集めて考えを広げたり、比べてまとめたりする。
【国語】反対の立場を考えて意見文を書こう
○自分の意見とその理由、反対意見への対応を明確にして、文章全体の構成や展開を考え、筋道の通った文章を書くことができる。

【家庭科】食べて元気に
○わかめを利用した栄養を考えた食品の組み合わせを考える。
【社会】情報を生かす産業
○情報通信技術の活用が、水産業も発展させることを理解する。
【国語】資料を見て考えたことを話そう
○自分の考えが明確に伝わるように、構成を考え、必要に応じて資料を関係付けながら話すことができる。

「豊かな海, 気仙沼」見つめよう, 考えよう, 気仙沼の水産業

— 学校・地域教材の特性を生かした海洋教育の実践 —

1. はじめに

本校の海洋教育は、低学年の生活科において地域の自然に触れることで、そのよさに気付くことを土台とし、中・高学年において郷土の豊かな自然環境や生活を営む人々に関わり合うことで、「郷土の環境や食文化・人とのかかわりを見つめ、自分のあり方を考え」、「持続可能な郷土の担い手を育て」ことを、教科横断的な学習を通して実践している。

そこで、地域の主たる産業である水産業と自分たちの暮らしが、豊かな自然環境を生かしながら、人々の工夫や努力によって支えられていることに気づき、海と共に生き、ふるさと気仙沼・階上が持続可能な地域となるために、様々な今日的課題を創造的に考え、探究し、発信しようとする児童の育成が必要であると考えた。

2. ねらい

○豊かな自然環境（海）と海洋生物や水産業との関係に気づき、・地域の水産業と自分たちの暮らしが、豊かな自然環境を生かした人々の工夫や努力によって支えられていることについて考えを深めさせる。

○豊かな海の恩恵に気づき、海的环境を守る工夫や努力と食文化とのつながりを考えさせながら、「海と共に生きる」ふるさと気仙沼・階上が持続可能な地域となるために、様々な課題を総合的に考え、発信していく態度を育てる。

○探究活動の中で、互いの考えや意見を伝え合い、自分なりの考えを工夫して表現させる。

これらを、海洋教育の4つの視点（海に親しむ、海を知る、海を守る、海を利用する）とESDを通して身に付けさせたい具体的な力と関連させ、海洋教育のねらいとして育てていく。

3. 学習活動の概要

【海洋教育に関する主な内容】（副読本の活用）

生活科や総合的な学習の時間を主として、教科指導と関連させながら教科横断的に学習を進める。

(A：海と出会い、なかよくなる B：海の恵みを知る C：海の仕組みを知る D：海をいかす

E：海と生きる文化を重ね、伝える F：海と生きるまちをつくる)

学年	A	B	C	D	E	F
1・2	生活科における「地域探検」や「生き物のお世話」等を通しての土台づくり					
3	岩井崎生物調（総合） 川の生物環境調査 （総合）			アワビ・ウニとり名人に学ぶ階上の養殖 （総合）	伝統文化・虎舞体験 （総合・体育・音楽）	
4					防災マップづくり 震災遺構伝承館見学 （総合）	
5	岩井崎生物環境調査 （総合）	森と海のつながり （特別活動） 気仙沼の水産業 （総合・社会・理科）	世界の海流 （社会・理科） 海洋ごみ調べ （総合・理科・道徳）	ワカメの養殖体験 （総合）	図上訓練 （総合・理科・道徳）	海のフォーラム （総合・国語）
6			動物と環境の関係 （社会・理科）		震災遺構伝承館見学 （総合）	気仙沼の食文化 塩づくり （総合）

【「A：海と出会い，なかよくなる」学習活動】

○岩井崎の秘密を探る

学区内にある気仙沼の観光名所「岩井崎」へ行き，潮だまりで生物調査を行った。今年度は6月に3年生と5年生が活動した。3年生は「海の豊かさ」を体験を通して実感し，5年生は「海の豊かさ」を実感するとともに，社会問題になっている「海洋ごみ」の実際を知る機会となった。岩井崎での調査前には，野外宿泊学習で一関のブナ林を散策したので，関連付けながら考えることができた。

海岸に打ち上げられているごみを収集し，学校で分別をすると，外国から流されてきたごみや生活ごみの多さに驚き，自分たちの生活と深く関わっていることを実感し，探究学習へのつなぐことができた。



〔岩井崎のごみ調査〕

【「B：海の恵みを知る」学習活動】

○「豊かな海」は「豊かな森」から

海の豊かさの秘密を探るために，NPO法人「森は海の恋人」副理事長の畠山信氏から，養殖の牡蠣やホタテが育つためには，エサとなるプランクトンにとって必要な「栄養塩類」が必要であることを教えていただいた。その栄養は，海から遠く離れた森の腐葉土の中で作られることを知った。

さらに，「豊かな海」につながる「豊かな森」を知るために，野外宿泊学習で訪れた一関市のブナの原生林を散策し，森の中の腐葉土の感触を確かめた。また，腐葉土を作り出す土壌生物について，校庭の土と比較しながら調査したことにより，「豊かな森」から栄養分を含んだ水が川となって流れて「豊かな海」に注ぎ，気仙沼・階上の養殖業に大きな恩恵を与えていることへの理解を深めた。



〔土壌生物調査〕

【「D：海をいかす」学習活動】

○ワカメの養殖体験

階上地区漁協青年部千尋会の御協力により，年間を通してワカメの養殖体験活動を行った。この活動を通して，地元の特産品であるワカメの養殖業に携わる人々の思いに直接触れることができた。

ワカメの「種付け」「種ばさみ」「刈り取り」等の作業を体験することで地域を知り，また，海水温の上昇や自然災害などの環境が生育に大きな影響を及ぼすことを知る機会にもなった。



〔ワカメの種付け体験〕

【「E：海と生きる文化を重ね，伝える」学習活動】

○伝統文化・虎舞体験

波路上明戸虎舞保存会の御協力により，「明戸虎舞」の手踊りや太鼓の打ちばやしの体験活動を行った。安全な船の航行や豊漁の願いが込められた伝統文化に触れ，地域の良さや地域の方々の思いに気付くことができた。練習した虎舞は，11月に行われた学習発表会で保護者に披露することで，学習したことを発信することができた。



〔学習発表会の様子〕

4. 今年度の海洋教育の成果と課題

(1) 成果

- ・ 地域の水産業や伝統文化に携わる方々の思いや願いに触れることを通して，児童はふるさとへの親しみや理解を深めたり，身近な海の環境から地球環境へと意識を広げることができるようになってきた。

(2) 課題

- ・ 様々な共通体験活動から課題を見つけ出し，調査方法や表現方法を工夫したりしながら探究学習を進めていくために，年間指導計画の見直しや体験活動の精選をしていく必要がある。
- ・ 各学年や校種間の学習を意識しながら系統立てて指導できるように，教職員間で共通理解しながら指導にあたる必要がある。そのために，年度初めの内容確認や，振り返って検討する機会を設定する。

見つめよう大島 考えようわたしたちの海

～緑の真珠プロジェクト～

1 海洋教育の位置付け

本校では、地域資源である自然、養殖業、それらをつなぐ人材を生かした活動を充実させながら、ふるさと大島の自然や環境を見つめ、自らかかわり、調べ、気付き、大島のよさを発信しようとする児童の育成を目指している。1・2年生は生活科との関連、3年生以上は主に総合的な学習の時間との関連により海洋教育を推進している。また、各教科の中にも、海洋教育の理念を進んで取り入れ、積極的に実践している。

2 ねらい

- 児童が海とかかわり、海を見つめ直す意識と態度を育む。
- 自分たちの住んでいる郷土を知り、誇りと愛着を育む。
- 海の環境や資源、海を取り巻く人や社会との深いつながりについて関心を高め、持続可能な海とかかわり方について進んで考え、行動することのできる児童を育む。

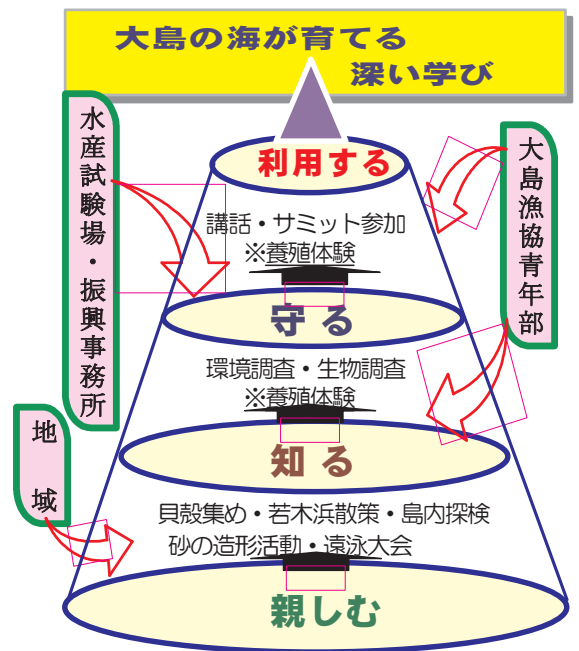
3 海洋教育学習の主な内容

(1) 全体計画

【海洋教育学習の主な内容】

* 1・2年生は生活科との関連、3年生以上は主に総合的な学習の時間との関連による

学年	海に親しむ	体験	海を知る	応用	海を守る	探究	海を利用する	
1年	海に親しむつどい* 砂の造形・ 遊泳・ 遠泳	砂浜での貝殻集め・ 作品作り			大島を支える養殖業の体験から *令和3年度 学年テーマ 4年生「大島の海の豊かさを感じて」 ～ワカメの学習を通して～ 5年生「大島の海を見つめて」 ～カキの学習を通して～ 6年生「大島の海と生きる」 ～ホタテの学習を通して～			
2年			浜探検 (町探検を兼ねて)					
3年		若木浜散策 (生き物調べ)	生き物について調べたことを タブレットを使ってまとめる					
4年		若木浜散策 (生き物調べ)	生き物について調べたことを タブレットを使ってまとめる	十八鳴浜清掃 海環境調べ				〔ワカメ養殖体験〕 種ばさみ・刈取り・発送・発信
5年		駒場小との相互交流 ワカメの発信・砂の造形活動	〔カキ養殖体験〕 カキ養殖顕彰碑から(歴史等)	カキいかだ・養殖場見学 プランクトンの採取と観察				講話 カキむき体験
6年			〔ホタテ養殖体験〕 採苗器づくり 観察 稚貝の分散作業	水産試験場講話 養殖と海との関係(人・環境・つながり) → 中学校の学習へ				



4 今年度の海洋教育の成果と課題

(1) 主な活動から

①「海を知る」活動

4～6年生は、それぞれワカメ、カキ、ホタテの養殖体験を行っている。大島漁協青年部の方々の協力を得て、取組についての講話や体験する作業工程についてお話を聞いた。また、養殖を行っていく中での問題や、それをなんとか解決しながら養殖を行おうとする仕事への工夫や苦労についても、講話の中で学ぶことができた。

今年度の6年生の取組としては、学校行事「海に親しむ集い」でのごみ拾いやホタテの養殖体験を通して興味をもったことをもとに、一人ひとり課題を設定し、探究活動を行った。プラスチックごみがホタテ等の海中生物に与える影響について調べた児童や、同じく海中生物を守るという視点で、プラスチックごみ問題だけでなく、地球温暖化や磯焼けに興味をもった児童もいた。そこで、大島の海でフィールドワークを行っている東京海洋大学の山川先生を講師としてお招きし、お話を聞いた。地球温暖化の影響で、今後気仙沼で見られなくなってしまう魚を教えてください、アラムの遊走子を顕微鏡で観察しながら、大島の磯焼けの現状や解決作について教えてくださいました。大島漁協青年部の方々も、山川先生と共に磯焼け対策の取組を行っていることを聞き、磯焼け問題についてより身近なこととして考えることができた。

大島漁協青年部の方々の協力のもと、4～6年生で養殖体験をさせていただくことで、児童一人一人が海に対する課題をもつことができ、意欲的に探究活動に取り組むことができた。それに加え、水産試験場の方や東京海洋大学の先生よりご講話いただくなど、多くの方々にご協力をいただき、児童が様々な視点から、海の恵みについて考えることもできた。

②「海を守る」活動

全校で行う「海に親しむ集い」で、小田の浜の清掃活動を行った。自分たちが住む大島の美しい海を、きれいになりたいという気持ちが児童から表れ、一生懸命作業に取り組んでいた。今年は海開きもあったため、昨年度とのゴミの量の違いに驚き、そこから探究したい課題を見出していた児童も多くいた。

4年生は、天然記念物に指定されている、十八鳴浜についての学習の一環で、浜の清掃を行った。講師の方に、これまで多くの人々が努力してその環境を守り続けてきたことを教えてください、自分たちも美しい自然を守りたいという思いでごみ拾いを行っていた。



〈4年ワカメについての講話〉



〈5年カキ剥き体験〉



〈6年ホタテの選別体験〉



＜海に親しむ集いで清掃活動の様子＞



＜十八鳴浜でのごみ拾い・4年＞

③「海を利用する」活動

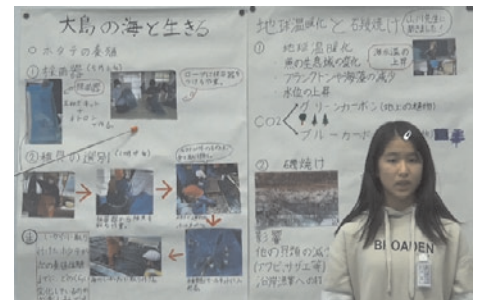
大島の海についてさまざまな体験や学びを重ねてきた児童が、感じ、考えてきたことを発信することにより、海によって大島と様々な地域や国々がつながっていること、人と人とつながっていることを実感していた。

6年生では、「海洋教育サミット in 東北」に参加し、他校の児童と、海洋学習の取組や海への思いを交流したことで、持続可能な海との関わり方について、より理解や考えを深めることができた。また、「みやぎのこども未来博」にも参加し、宮城県内の中・高生に向け、海洋学習の取組を発表した。発表後には、たくさんのコメントをフィードバックしていただいたおかげで、児童のさらなる探究意欲につながった。

さらに、4～6年生の児童は、自校で毎年開催している海洋教育発表会での発表を通して、これまで大島の海を通して学んだことを振り返り、ふるさと大島に誇りと愛着をもつことができた。



＜海洋教育こどもサミットへの参加＞



＜みやぎのこども未来博での発表＞

(2) 成果と課題

○成果

- ・ 地域の漁業に携わる方々からお話を聞いたり、体験をさせていただいたりしたことで、児童は地元の海への理解を深め、これまで以上に愛着をもつことができた。
- ・ 児童の探究したい内容によって、専門機関とつながり、児童それぞれの課題解決につながる専門的な話を聞くことができた。
- ・ 他校の児童と、学習している内容や考えを交流することで、さらなる探究テーマを見出したり、海によって大島と様々な地域がつながっていること、人と人とつながっていることを実感したりすることができた。

○課題

- ・ 児童一人一人に課題を設定させ、主体的に活動に取り組ませることはできたが、問いのもたせ方に課題が残った。養殖体験から課題を見出した児童が多い一方、天候等の都合により体験ができず、なかなか課題を見出せない学年もあった。今後は、気仙沼市海洋教育副読本等も活用し、児童一人一人が、主体的に問いをもてるように指導したい。

(2) 単元計画 (第6学年) ※月は、指導時期の目安

		海に親しむ	月	海を知る	月	海を守る	月	海を利用する	月
教科	国語					【町の未来をえがこう】 大島の未来について、本やインターネットで調べたことをもとに、プレゼンテーションを行う。	10 ・ 11	【話し合って考えを深めよう】 大島の直面する課題(海の仕事の後継者、人口流出、観光客の減少)を解決するために、学級で協議する。	9
	理科			【生き物のくらしと環境】 生き物には「食べる」「食べられる」という関係があることを身近な海の魚介類を通して学ぶ。 【大地のつくり】 若木浜で化石が見つかるという事実を根拠にして、大島の大地のつくりを推論する。	6 ・ 7 9 ・ 10	【水溶液の性質とはたらき】 水溶液には、気体が溶けているものがあることを学び、海の酸性化による影響や海の酸性化がどのようにして起こるかを推論する。	1 ・ 2	【地球と私たちのくらし】 人を含めたいろいろな生き物が地球(海をテーマにした場合)からどのような恩恵を受けて生きているか、私たちの暮らしが地球にどのように影響するかを考える。	4
	社会	【震災復興の願いを実現する政治】 復興に向けた県や市の取組、特に大島のウェルカムターミナルや防潮堤の構造に着目して話し合う。 その中で、大島小としての願いにも触れる。						【日本とつながりの深い国々】 外国から海を介して届くものには、どのようなものがあるかを調べる。 【世界の未来と日本の役割】 環境問題について調べ、持続可能な海の開発について自分の考えをもつ。	2 ・ 3
教科外	総合			【ホタテ養殖体験】 ・採苗ネット作り ・稚貝の選別作業 ・ホタテの分散作業	5 10 2			【未来の大島について考えよう】 未来の大島の海がどのようになってほしいのかを話し合う。	10
	学活			【防災マップを作ろう】 マップ作りの一環として、津波の浸水区域を知る。	10				
	行事	【海に親しむ集い】 砂の造形や遠泳を行い、ふるさとの海を五感で感じ取る。	8	【地震・津波避難訓練】 津波のメカニズムを想起し、安全な避難の仕方を身に付ける。	6	【海洋教育発表会】 これまでの海洋についての取組についてまとめ、自分たちが考えたことについて、保護者や地域の方に発信する。	2	【海洋教育サミット】 【みやぎのこども未来博】 自校での海洋についての取組を発表したり、他校の取組について聞いたりすることで、多様な海への思いについて知り、これからの海について考える。	11

自分の考えをもち、行動する子供の育成

－「調べたい・伝えたい・やってみたい」を大切にしたい授業づくりを通して－

1 海洋教育の目標

- (1) 海の豊かな自然と親しむ活動や、身近な地域社会の中で海とのつながりを感じれるような体験活動、海について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海に対する豊かな感受性を培い海に対する関心を高める。
- (2) 海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結びつきについて理解させ、持続可能な社会の形成者としての、資質、能力、態度を養う。

2 指導の方針

- (1) 生活科や総合的な学習の時間を基盤として、各教科領域と海洋との関連を整理し、教育活動を推進する。
- (2) 面瀬川や面瀬川河口、尾崎漁港を学習フィールドの中核に据え、探究的な学習を進める。
- (3) 地域・大学・専門機関との連携を継続し、学習活動や学習プログラムの質を高める。

3 指導の重点

- (1) 海の豊かな自然にふれる体験活動を通して、海に親しみをもたせる。
- (2) 海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通して、海の環境保全に主体的にかかわろうとする思いをもたせる。
- (3) 水産物や海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解させる。

4 指導の重点

項目	記入欄
1 教育目標の具現に向けて	本校の海洋教育は、学区を流れている「面瀬川」での学習からスタートする。学習を通して、ふるさとの自然や暮らしのよさに気付かせ、環境に対する豊かな感性を磨き、ものの見方や考え方を身に付けることで、学校教育目標である「聴き合い、支え合い、学び合う」児童の具現を目指している。 現在、河口域など震災で被害のあった学習フィールドの復旧を願いながら学習の場を求め、専門機関や地域の方々の協力も得ながら実践を進めている。また、学習の成果を地域内外に向けて積極的に発信している。
2 海洋教育の推進体制	本校では、「面瀬川」での学習がスタートする3年生以上を中心として海洋教育を推進している。面瀬川や面瀬川河口、尾崎漁港、気仙沼湾を学習フィールドの中核に据え、探究的な学習を進めている。本校では5年生が実践の中核を成すが、学校として海洋教育に特化した年間計画はなく、総合的な学習の時間の指導計画の中に海洋教育の要素を取り入れながら指導を展開している。 推進体制としては、学校長の指導のもと、総合的な学習の時間の担当者を中心に、研究主任や学年主任と活動内容の調整や見直しを図りながら実践を進めている。外部連携においては、教頭を窓口にしており、全職員で協力して海洋教育推進に努めている。

＜今年度の海洋教育の成果と課題＞

本校で海洋教育実践の中核を成す第5学年の活動の成果と課題について紹介する。

【第5学年 「ふるさと気仙沼の海」の実践】

手立て1 児童の問いや思い、願いを引き出す学習過程の工夫

○岩井崎での生き物調査（6月）、マグロ船の見学、森里海研究所での牡蠣棚の見学や植物プランクトンの採取（7月）、MSC認証を取得したカツオ船についての講話（9月）を通して、児童一人一人の興味関心に応じた課題設定を行うことができた。

●2学期に入ってから課題設定を行ったので、個人での探究活動の時間を十分に確保することができなかった。そのため週末の課題として、タブレットを活用した個人単位での探究活動を行ったが、その内容や深まりに差が出てしまった。



【岩井崎での生き物調査の様子】



【マグロ船見学の様子】



【牡蠣棚の見学の様子】



【カツオの解体を見学する様子】

- ・1学期中に体験活動、課題設定を行い、夏休み中に個人で探究活動を行うことで、より深まった研究になると感じた。
- ・今年度は魚市場見学（9月）、マグロ親子教室を実施することができなかった（11月）が、実施することができていれば、また違った視点で学習のまとめにつながっていったと思う。課題設定の時期に行うことも検討したい。（社会科での水産業の学習は9月）
- ・海洋子どもサミットに参加することで、他校のこどもたちの学んだことや考え、思いに触れるきっかけとなり、気仙沼の海の豊かさを守っていくことについて、さらに考えようとする意欲が高まった。そこで、冬休みの課題として、気仙沼の海を守るために自分ができることに取り組んだ。

手立て2 児童の思いや考えを深めさせるための学びのコーディネート

○タブレット（ロイロノート）を活用することで、児童同士の考えの共有、記録の蓄積、写真などの資料の活用がスムーズに行うことができた。

●タブレットを活用することでインターネットの情報に頼りやすくなってしまった。発表資料をまとめる際に、自分たちが体験したことやそこで感じたことが少なくなり、十分に生かすことができていなかった。体験したことを効果的に伝えられるとより説得力のある発表になっただろう。



【タブレットを活用して考えを共有する様子①】



【タブレットを活用して考えを共有する様子②】



【中間発表会の様子①】



【中間発表会の様子②】

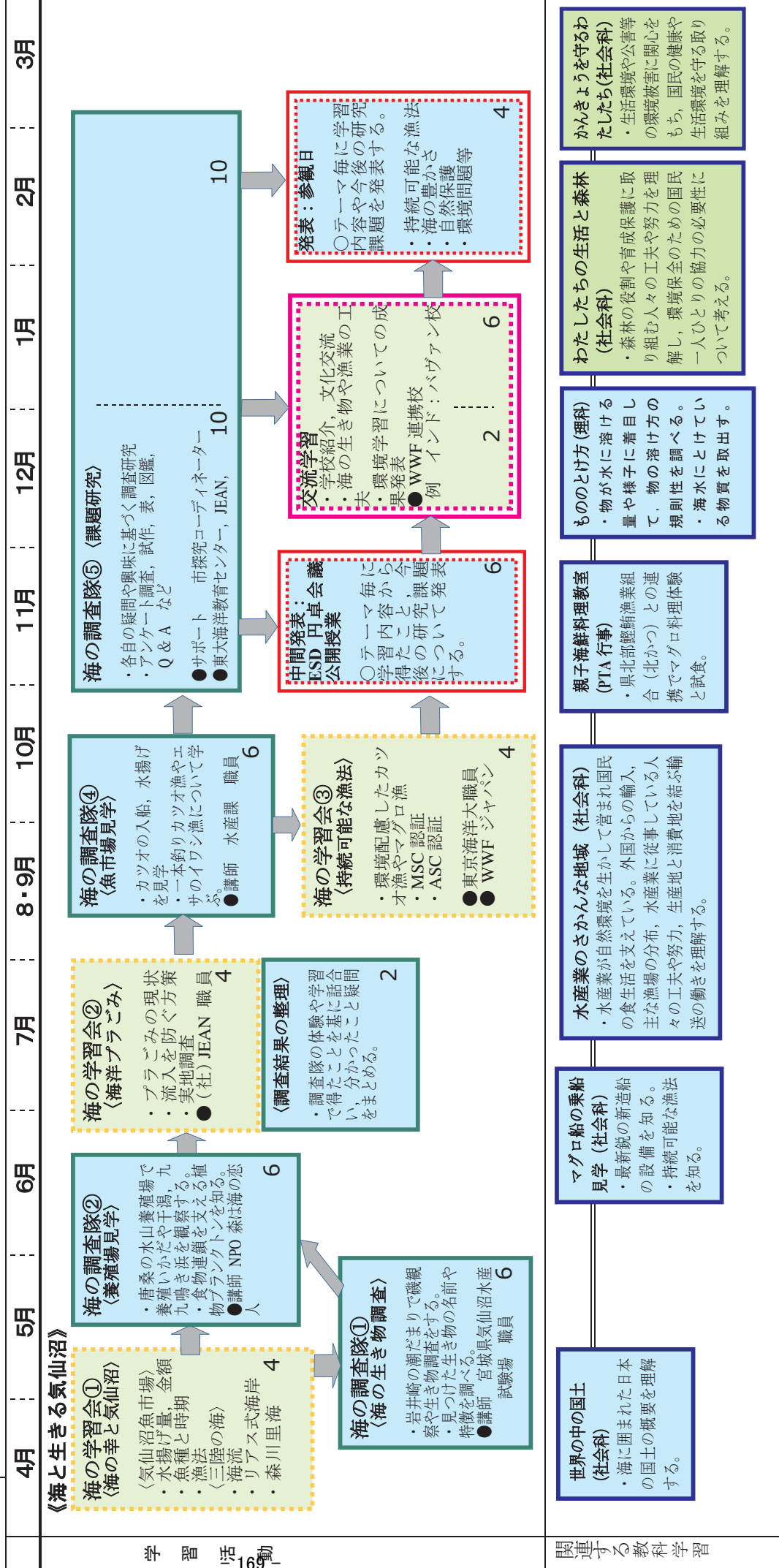
- ・週末にタブレット活用し、まとめてきたものを発表し合うことで、お互いに評価し合うことができた。しかし、そこから次の課題へとつなげ、さらに深めていく手立てが必要であると感じた。
- ・タブレットを活用することで、発表資料を効率よく作成し、動画なども使って効果的に表現することができた。発表の際にはロイロノートで作成したスライドを掲示した。より強調したい部分などは掲示物とは別に作成するとさらに効果的に伝えることができたと思う。
- ・中間発表の際に、事前に相互評価の視点について確認をして臨んだが、他のグループの発表に対し、疑問をもって聞くことがあまりできていなかった。また、出た質問に対しても自分の考えを答えることができなかった。インターネットで得た知識を自分の言葉で伝えることが課題であると感じた。
- ・中間発表で児童から出た疑問をもう一度見学先にメールで質問することで、本発表に向けての課題解決へとつなげた。今後、課題別の班ごとにもう一度見学、調査をしに行くとすると、単学級などで教師の数が少ない場合は難しいだろう。中間発表から本発表までのブラッシュアップの期間に、どうやって深まりをもたせていくのかという点が課題であると感じた。

単元名	「ふるさと気仙沼の海」
総括目標	○ 海や水産業から課題を見出し、探究する。海洋環境について考えたことや漁業復興への思いを発信する。また、海と生きていくために自分たちに何ができているのか考え、実践しようとする態度を育む。
育てたい資質能力	<ul style="list-style-type: none"> 人とのかかわる力 協力して実践する力 自分ごととしてとらえる力 思いや考えを表現する力 挑戦する力 粘り強く取り組む力

磯の生き物や生態系に関心をもち、自然の一部とのかかわりを考える。
 ・気仙沼の魚市場や水産業に学び、多様な魚介類が豊富にある海への関心を高める。
 ・海や水産資源の大切さに気付かせ、海を守るにはどうしたらよいか自分の考えをもつ。
 ・探究したことや自分自身の考えをポスター、研究レポートなどにまとめ、発表を通して考えを深める。
 ・環境や地域のために自分たちができていることを考え、実践しようとする。

主な連携機関と内容

- ・気仙沼水産試験場：磯の生きもの調べ
- ・宮城県北部総合漁業組合：漁船見学、魚調理
- ・水山養殖場：養殖場見学
- 他



ふるさとの豊かな海を未来へ

～唐桑の海に学ぶ～

◎本校の海洋教育の目標

- ・ 「海に親しみ」「海を知り」「海を守り」「海を利用する」という海洋教育の4つの視点を踏まえ、地域と連携・協働した学習を行うことを通して、「持続可能な郷土の未来」を拓く児童を育成する。
- ・ 豊かな漁場となっているふるさとの海を守っていくために、地域の良さに目を向けさせ、自分たちができることを考え、行動させる。

◎本校の海洋教育の位置付け

- ① 総合的な学習の時間を中心とし、各教科等においても海洋教育の4つの視点を意識しながら実践を進める。また、地域の方々と連携しながら、地域の良さに目を向けさせるような活動を取り入れ、知識と実体験に根差した海洋教育を推進する。
- ② 本校では、特に5年生の総合的な学習の時間を中心として海洋教育の活動を進めている。滝浜探索や森里海研究所の海の生き物に触れるなどの体験を通して「海に親しみ」、「海を知った」後、定置網起こしなどの「漁」や鮭親子料理教室などの「食」といったように「海を利用する」方法についても考えさせながら学習活動を展開している。また、様々な海の利用方法があることを知ると共に、海洋ごみ問題や漁師の減少などの課題にも気付き、「海を守る」方法についても考えさせている。また、学校の代表として「海洋教育こどもサミット」にも参加させている。
- ③ 行事「海に親しむ会」や中井公民館と連携したふるさと学習会などの活動には学校全体で取り組み、各学年の実態に合わせながら海洋教育を意識した授業展開をしている。例えば、1・2年生では、サケの稚魚放流などの体験を通して「海に親しむ」活動を、3・4年生では、唐桑の名所や伝統などを地域の人から教えていただく中で、海とのつながりを学ぶなど「海を知る」活動を、6年生の学習では、鯨塚など地域の史跡巡りをする中で、昔から地域の人と海には深いつながりがあるなど歴史の視点から海と人々の関係を取り入れた学習を進めている。

※全体計画は別紙「令和3年度『なかいタイム』学習プログラム一覧」参照

◎海に親しむ会実施計画…「資料1」参照

◎今年度の海洋教育の成果と課題

〈成果〉

- ・ 全校で実施した、「海に親しむ会」の取組により、子供たちは「海って楽しい。」「海にはこんな生き物がいる。」などの思いを深めることができた。また、浜の清掃活動を通して「海にはごみがたくさんある。」などといった感想を持つだけでなく、「どうしてこんなにごみがあるのだろう。」という疑問も持つことができた。さらに、昔から地域の人が行っている「たづぼんこ」という岸

壁から海に飛び込む遊びを行うことで、「そんな遊びもあるんだ。」という発見や「私も夏休み中にやってみたい。」などという思いを持つきっかけにもなり、「漁」や「食」だけでなく「遊び方」としての「海の利用法」についても学ぶことができた。このような気付きから学びを広げ、学年の実態に合わせながら学習につなげていくことができると考える。

また、地域の方々の協力をいただいて教育活動を行うことができ、子供たちが地元の人と触れ合えるよい機会にもなった。



【浜の清掃活動の様子】



【ウニを採取する様子】



【「たづぼんこ」をする様子】

- ・ 「海洋教育こどもサミット in 東北」に参加したことで、他の学校の実践を知るよい機会になった。また、海洋教育こどもサミットの発表動画の撮影では、自分たちでシナリオを考えたり写真や動画の撮影を行ったりと自主的に活動することができた。その結果、動画が完成すると、声を上げて喜び、達成感を味わう児童の姿が多く見られた。

これらの活動を通して、「地元の海の豊かさを知るとともに海洋ごみなどの課題もあることが分かった。」「もっと海のことを知りたい。」などという感想を残し、一人一人が海への思いを深めることができたようだった。



【発表動画の撮影風景】



【「海洋教育こどもサミット in 東北」に参加する様子】



〈課題〉

- ・ 現在は、5年生の活動が中心となっているので、今後は海洋教育の4つの視点と総合的な学習の時間の学習活動を強く結び付けながら、各学年のつながりを考え、学校全体で海洋教育を意識できるような教育課程の見直しが必要である。
- ・ 活動や行事を終えても、定期的に地元の人とのつながりを持てる場を設定していく必要がある。そして、インタビューをしに行くなど、積極的に関わる関係を構築させていきたい。
- ・ 各学年の成果物の発表を、参観日の日だけではなく、他学年や地域の人にも見られるような場の設定をしていく必要がある。

令和3年度「なかいタイム」学習プログラム一覧

学年	3年	4年	5年	6年
ESD テーマ	「ふるさとを見つめながら、未来に生きる子どもを育てる」			
	知りたいな ふるさとの自然	守ろう！ ふるさとのまち・伝統	見つめよう！ふるさとの海 ～私たちを取りまく世界～	共に歩もう！未来に向けて ～地域と未来への貢献～
目標	ふるさとの名所や遊歩道などの自然を見学したり、地域で栽培している「大唐桑」について調べたりすることを通して、ふるさとのよさを再発見し、ふるさとの自然を大切にしたいという思いをもつ。 さらに、発見した唐桑のよさを残していくためにどうすればよいかを考えて発信する。	ふるさとで起きた災害について調べたり、ふるさとの伝統芸能を体験したりする活動を通して、災害から地域を守ろうとする人や伝統芸能を伝承している人の思いを知り、まちや伝統を守ろうとする思いをもつ。 さらに、過去に起きた災害や伝統芸能を未来に伝えるためにどうすればよいかを考えて発信する。	海に関する体験活動や調べ学習を通して、地域の海が豊かであることを実感するとともに、身近な海を保護・育成するには海だけでなく河川や森林の環境が大きく関わっていることを捉える。 さらに、地域や世界の海（環境）を守るために自分たちができることを考えて発信する。	他地域と比較しながらふるさとの歴史を学んだり、地域の福祉施設を訪問したりすることを通して、ふるさとの良さや問題点を見いだす。 さらに、見いだした良さを生かし問題点を解決するために、5年生までに学んだことも生かしながら、ふるさとの未来や、そのために自分たちができることを考えて発信する。
学習 内容	1 ふるさとの名所に行ってみよう【20時間】 ① 観光客になって見てみよう【7】 ・大理石海岸,巨釜半造,九九鳴浜 *ふるさと学習会(4) ② ふるさとの自然のみ力を考えよう【3】 ③ ふるさとの自然のみ力をPRする方法を考えよう【5】 ④ ふるさとの自然のみ力やPRする方法をまとめよう【5】 B 海にかかわる余暇利用	1 ふるさとで起きた災害を知ろう【20時間】 ① かつての地震や津波の被害を調べよう【5】 ② ふるさとの危険個所を調べよう【10】 ・通学路の危険個所 ・地域の危険個所 ・遊歩道の危険個所 など ③ 防災マップを作ろう【5】 A 暮らしと海のかかわり	1 ふるさとの海に親しみ、海を知ろう【22時間】 ① 海的环境を調べよう【10】 ・海辺の調査 ・設定した課題の調べ学習 ② 海と森のつながりを考えよう【7】 ・舞根湾の生物観察*ふる学(4) ・植樹活動,プランクトン ③ 海的环境や海と森のつながりをまとめよう【5】 G 海に生きる生物 H 海の循環や物質の循環システム	1 ふるさとの歴史を調べよう【25時間】 ① 唐桑の歴史に触れよう【10】 ・御崎神社, 鯨塚*ふる学(4) ② 会津若松の歴史を探索しよう【10】 ・自主研修計画(3) *修学旅行(4) ・まとめ(3) ③ 唐桑と会津若松を比べ、唐桑の良さや課題をまとめよう【5】 D 海に関わる歴史
	2 「大唐桑」のひみつを探ろう【25時間】 ① 大唐桑を調べよう【10】 ・「大唐桑」の見学 ・「唐桑」の由来 ・「大唐桑」を使った製品と効能 ② 大唐桑入りの食べ物を作ろう【10】 ・大唐桑茶 ・大唐桑入りホットケーキ など ③ 大唐桑のひみつをまとめよう【5】	2 ふるさとの伝統芸能を体験しよう【25時間】 ① どんな伝統があるのかな【5】 ・松園虎舞, ・崎浜大漁唄い込み ・小鯖神止まり七福神舞 ② 伝統芸能を体験しよう【15】 ・体験 ・保存会の方へのインタビュー ③ ふるさとの伝統芸能について分かったことや体験して感じたことをまとめよう【5】 C 海を題材や舞台にした文化や芸術	2 ふるさとの海を利用する方法を考えよう【22時間】 ① ふるさとの漁業を調べよう【3】 ② 漁を体験しよう【7】 ・網起こし体験*ふる学(6) ③ 水産物を活用する方法を考えよう【7】 ・鮭の調理教室(2) ・ふるさとの特産物を使った料理 ④ 学んだことまとめよう【5】 *海洋教育こどもサミットへの参加 J 海を利用した経済活動	2 ふるさとの施設を訪問しよう【20時間】 ① わたしたちができる身近なボランティアをやってみよう【5】 ・アルミ缶回収 ・浜清掃など ② 地域にある福祉施設や障害について知ろう【5】 ③ 福祉施設の利用者の方と触れ合おう【5】*ふる学(4) ④ ふるさとの施設と現状について学んだことをまとめよう【5】
	3 ふるさとの自然のみ力を考えて発信しよう【19時間】 ① ふるさとの自然のみ力を発信する方法を考えよう【5】 ・ふるさとの自然の魅力(大理石海岸,巨釜半造,九九鳴浜,遊歩道など) ・大唐桑のひみつ ② 自分たちが考えたふるさとの自然のみ力を伝えよう【14】 ・カルタ,ポスター など B 海にかかわる余暇利用	3 ふるさとを災害から守り、伝統を受け継いでいく方法を考えて発信しよう【19時間】 ① ふるさとを災害から守る方法を考えよう【5】 ・防災カルタ など ② 伝統芸能を受け継いでいく方法を考えよう【5】 ・伝統芸能カルタ など ③ それぞれ自分たちが考えた方法を伝えよう【9】 ・防災マップ,カルタ,壁新聞 A 暮らしと海のかかわり C 海を題材や舞台にした文化や芸術	3 ふるさとの海を守る方法を考えて発信しよう【20時間】 ① 豊かな海を守る方法を考えよう ・脱プラスチック ・洗剤などの化学製品の使用量 ・エコバック作り など ② ふるさとの海の豊かさや豊かな海を守る方法を伝えよう【10】 ・ポスター ・チラシ ・リーフレット,パンフレット ・動画 など K 海の持続的な開発のために必要な管理	3 ふるさとの未来を考えて発信しよう【19時間】 ① これまでの学習を振り返ろう【2】 ・ふるさとの良さ ・ふるさとの課題 など ② ふるさとの課題を解決する方法を考えよう【8】 ・自然や観光資源,伝統芸能や水産資源を生かした町づくり ・ふるさとの魅力をPR ③ ふるさとの良さや課題を解決する方法を伝えよう【6】 ・プレゼンテーション など ④ 自分がふるさとにどのように貢献できるか考えよう【3】 *唐桑まちづくり発表会への参加
海洋教育の フィールド	B 海にかかわる余暇利用	A 暮らしと海のかかわり C 海を題材や舞台にした文化や芸術	G 海に生きる生物 H 海の循環や物質の循環システム J 海を利用した経済活動 K 海の持続的な開発のために必要な管理	D 海に関わる歴史 (A, B, C, G, H, K)
SDGs との関連			 	
共通	オリエンテーション(4月)【1時間】			
	中井の遊歩道を歩く会(時期は学年部ごとに設定)【3時間】			
	中井タイム発表会(2月授業参観)【1時間】			
	振り返り(3月)【1時間】			

海に親しむ会実施計画

1 ねらい

- (1) 海で遊んだり、浜を利用したりする際のマナーや注意点を理解し、公共の場での心ない行動や水の事故を防止する態度を育成する
- (2) 身近な海に親しむ活動を通して、地域の自然のよさを体感することで、自然を大切にしようとする態度や心情を養う。
- (3) 浜に打ち上げられる海洋ごみの現状を知り、海を守るために自分にできることは何かなど課題意識をもたせる。

2 日時

令和3年7月9日(金) 全学年 9:30～11:25 (体育2) ※潮位 9:23 5cm
※予備日7月14日(水) ※潮位 12:31 26cm

3 場所

滝浜漁港

4 内容

- (1) 海で遊ぶ際のマナーや注意事項について、体験を通して学ぶ。
- (2) 海の様子や生き物、周囲の自然などを見たり、触れたりする。
- (3) 漂流物(貝殻やシーグラスなど)を見付けたり、打ち上げられたごみを観察したりする。

5 引率者(昨年度)

校長 教頭 各学年担任 養護教諭(救護車) 特別支援教育支援員

地域協力者: JF唐桑支所 千葉支所長様

滝浜に船をお持ちの方々(小山信義様 他(船での監視))

海友会会長 伊藤淳様 (船での監視)

からくわ丸 齊藤泰和様 (堤防のはしご設置, たづぼんこの見守り)

まるオフィス 加藤拓馬様

P.T.A.企画部の皆さん (下学年の海辺の活動の見守り)

学習支援ボランティア 小野祐介様 (活動補助)

6 日程(昨年度例) ※JF唐桑支所, 滝浜浦祭会の方々に相談して内容を決める。

- 9:30 昇降口前集合・整列(校舎に向かって朝会隊形) 全体指揮: 教務
- 9:35 学校出発 ※1年生から順に ※経路は, 体育館脇の坂道を通って目的地へ
- 9:50 滝浜到着・休憩(トイレ・水分補給)
- 10:00 活動1 みんなでビーチクリーン活動() ※マスク・軍手着用
- ・北側(奥)から6, 5, 4, 3, 2, 1年の順で配置
 - ・学年ごとにゴミ袋に入れる(個別にポリ袋は持たない)
 - 燃えるゴミ用×2 燃えないゴミ用×1 ※粗大ゴミは扱わない
 - ・活動中に大まかに分類して, ゴミの傾向を見せる。

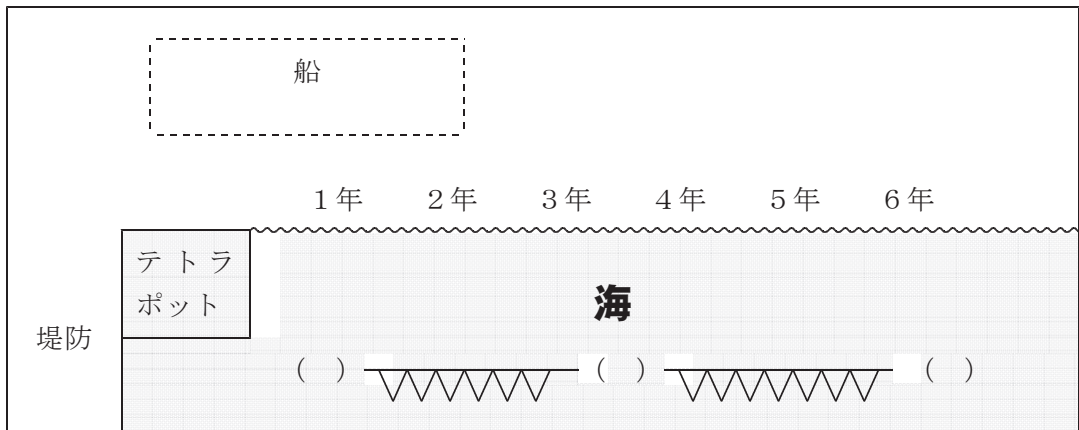




10:15

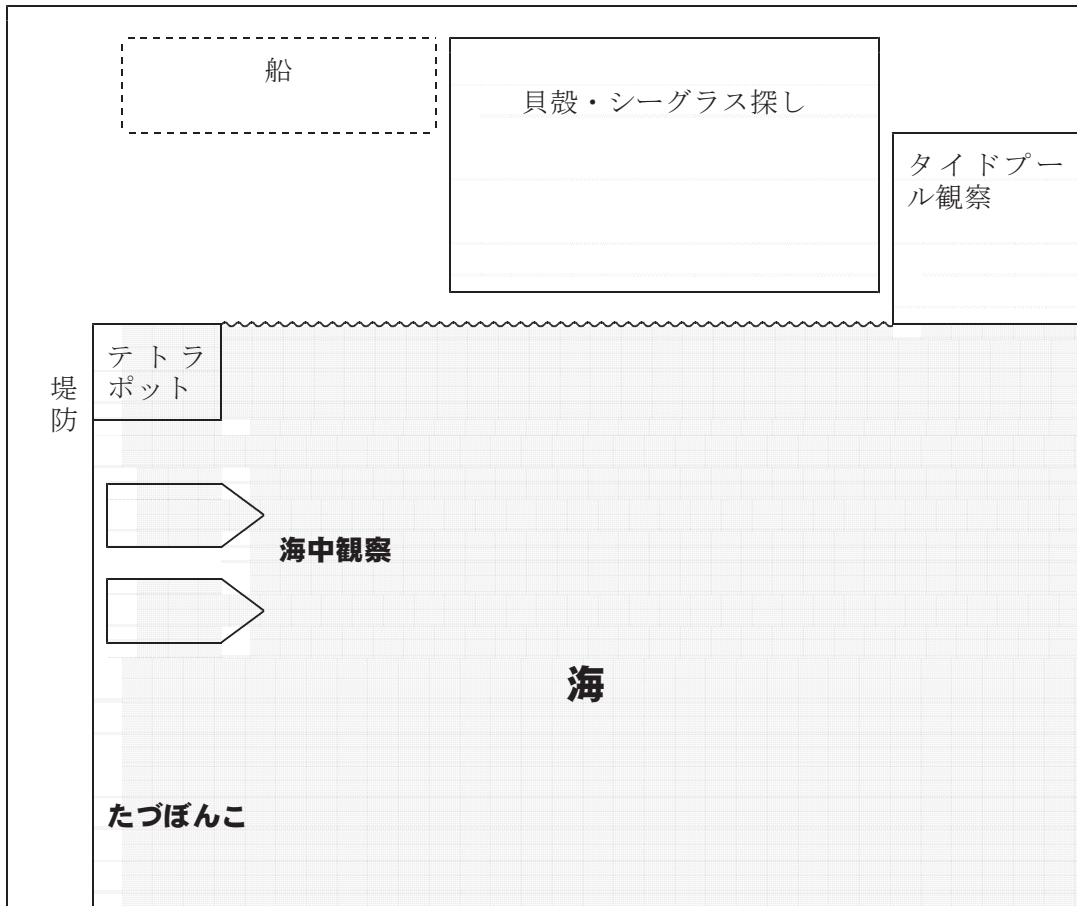
活動2 海の楽しさと危険 ()

- ①海の生物観察と注意点
- ②滝浜の特徴 (急に深くなる, 裸足での活動は危険, 大人と一緒に)
 - ・海に入ってみよう
 - ※深くなる地点に監視員を立てる。()
 - (目印になるロープ・浮き球等を準備する) ※背泳ぎ用標識
- ③活動3のオリエンテーション



10:30 活動3

1～3年生 ()	4～6年生 ()
<ul style="list-style-type: none"> ・タイドプール（潮だまり）での生き物探し ※生き物は原則として持ち帰らない。 ・浜での貝殻やシーグラス探し 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱めがねでのぞいてみよう（係留している船から） 希望者は ・「たづぼんこ」に挑戦 ※健康観察を十分に行う。 ※保護者の承諾を得る。



- 11:00 帰りの準備・滝浜出発
 11:15 学校到着・後片付け（必要に応じてシャワー） 着替えは各教室，特別教室
 ※プール更衣室は使用しない。
 11:25 終了

7 持ち物

- (1) 学校 救急バッグ 児童名簿 トランシーバー AED 毛布
バスタオル ゴミ袋（燃えるゴミ用×12 燃えないゴミ用×6）
ポータブルマイク たづぼんこ用水浴びバケツ（ロープ付き）
携帯電話（各担任） 救命浮き輪 経口補水液 保冷バッグ
メガホン ライフジャケット（公民館より借用） 軽トラック 簡易テント
- (2) 児童 水筒（水かお茶） 水泳セット（水着・水泳帽・バスタオル・フェイスタオル）
 ※ゴーグルは不要です。
軍手 ビニール袋
水に濡れてもよい靴かサンダル（脱げやすいビーチサンダルは不可）

8 その他

- (1) 事前に実地踏査を実施し，事故防止や感染防止対策を十分に考慮する。
 (2) 健康観察を十分に行い，症状の悪化や熱中症などにならないよう注意する。
 (3) 気仙沼警察署唐桑駐在所・気仙沼消防署唐桑出張所・県漁協唐桑支所に連絡する。

小泉のことを知ろう～海とつながる～

1 海洋教育の概念と分野

海と人との共生のために、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する大切さを体験的探究的に身に付ける学習を推進する教育。（東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター提唱）

2 活動内容

地域の海に関心をもち、主体的に関わる活動を通して、海との共生の在り方を考える。				
【視点】	【海に親しむ○】	【海を知る●】	【海を利用する◎】	【海を守る★】
1年	○●身近な生き物を観察しよう			
2年	○●町探検 ●◎★サケのひみつ			
3年	●★田んぼの探検～生き物・水の流れ ●★ヒメシロチョウを守ろう（飼育） ●オイカワデニムのひみつを調べよう			
4年	●海の生き物について調べよう ●★◎ 川と海のとつながり～山から川、海へ ●★地域の自然を調べよう			
5年	○野外活動	●災害から地域を守ろう	◎★小泉の水産業を調べよう	●★地域の伝統芸能を守ろう
6年	●★小泉の魅力を調べよう（地域の伝統芸能を引継ごう） ◎★いのちのつながりを調べよう ○●◎★未来の小泉を考えよう（1～5年生までの活動を振り返りながら）			
全校児童の活動 ○海に親しむつどい				

※ 1～2年生：生活科 / 3～6年生：総合的な学習の時間

3 年間活動計画 ※海洋教育との関連がある単元は、赤字で示す。

学年 テーマ	3年 小泉のまちを調べよう	4年 小泉のまちを見詰めよう	5年 小泉の恵みを探ろう	6年 小泉の未来を考えよう
ESD としての のねら い	① 地域の良さを知り、地域に対する愛着を高める。【ふるさと】 ② 学校の防災マップを作成し、災害時に取るべき行動を考える。【防災】 ③ 高齢者、障害者の方の気持ちを知る。【福祉】	① 地域の自然環境を守ろうとする意識を高める。【ふるさと】 ② 自分の住んでいる地区の防災マップを作成し、災害時に取るべき行動を考える。【防災】 ③ 高齢者、障害者の方と共に生きる態度・技能を養う。【福祉】	① 地域の産業（水産業等）について調べ、特徴や課題について考える。【ふるさと】 ② 地域の防災や災害の歴史について調べ、できることを考える。【防災】 ③ 高齢者の気持ちに触れ、接し方を考える。【福祉】	① 会津について分かったことから、小泉について新たな視点で調べ、小泉の良さや未来像を考える。【ふるさと】 ② 市や県の防災の取組について調べ、災害時に取るべき行動について考え、地域に広げる。【防災】 ③ ボランティア活動を通して自分にできることを考える。【福祉】
1学期	総合的な学習の時間について知る（1） 地域の生き物を調べよう【ふるさと】（23） ○ 計画を立てよう ・ 学習計画を立て課題を設定する。（1） ・ 早春と初夏の水田周辺の生き物調べをして比較することを知る。（1） ※ 近くに水田がある児童には継続的な観察を呼び掛けておく。 ※ 課題別グループの編	地域の防災マップをつくらう【防災】（7） ・ 学習計画を立て課題を設定する。（1） ・ 学校の周りを歩き、危険箇所や防災に関連する設備を調べる。（2） ・ 調べたことを地図にまとめる。（3） ・ 振り返る。（1） 地域の自然について調べよう【ふるさと】（17） ○ ヒメシロチョウの観察	地域の伝統芸能を守ろう（6）【ふるさと】 ○ 小泉の伝統芸能を体験しよう① ・ 大漁打ばやしの歴史などを調べ、課題を設定する。（1） ・ 児童の中には経験者もいるので体験談を活用する。 ・ 保存会の協力を得て練習計画を立てる。（1） ・ 練習をする。（4） 人にやさしい小泉をつくらう【福祉】（10）	小泉の魅力を調べよう【ふるさと】（16） ○ 小泉の伝統芸能を引継ごう① ・ 5年生から続けてきた大漁打ばやしの練習に向けて、課題を設定する。（1） ・ 「地域の財産の継承」という意識をもたせ練習に取り組みさせる。（4） ○ 小泉の魅力を考えよう ・ オリエンテーションをする。（1） ・ 意識調査をする。（2）

	<p>成も考えられる。</p> <p>○ 生き物調べ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早春の田んぼの生き物調べをする。(3) ・ まとめと振り返りをする(3) <p>○ ヒメシロチョウの観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川へ行きヒメシロチョウを探す。(2) ・ 食草や幼虫を育てて観察する。(3) ・ ハマナデシコの観察をする。(4) <p>○ 生き物調べ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画を立てる。(1) ・ 調査をする。(2) ・ 前回と比較して分かったことをまとめる。(3) ・ 1学期を振り返る。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地の観察。(4) ・ 食草の栽培。(3) <p>○ 外尾川を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川について知っていることを話し合い、学習計画と課題を設定する。(1) ・ 水生生物調査の計画を立てる。(1) ・ 川の生物を調査する。(4) ・ 調べた結果をまとめる。(4) 	<p>○ お年寄りが困っていることを調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を立て、高齢者から聞いた、困っていること等を発表し、課題を設定する。(1) ・ 認知症について学ぶ。(2) ・ 分かったことや考えたことをまとめる。(2) <p>○ お年寄りとの接し方を学ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問計画を立てる。(1) ・ 「春園苑」の見学・調査をする。(2) ・ 興味関心をもったことや、疑問に思ったことについて調べる。(1) ・ 分かったことをまとめる。(1) <p>小泉の恵みを調べよう【ふるさと】(11)</p> <p>○ 海について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川と海のつながりについて調べる。(2) ・ 地球温暖化等の環境問題について調べる。(2) <p>○ 野外活動で地域の海に親しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 準備をする。(3) ・ 活動する。(2) ・ 調べたことをまとめる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小泉や気仙沼の魅力について話し合う。(6) ・ 山内先生を招き、小泉の歴史について講話を聞く。(2) <p>ボランティア活動しよう【福祉】(4)</p> <p>○ ボランティア活動の計画を立てよう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアとは何か知り、自分たちが地域のためにできることを考え課題を設定する。(1) ・ 「はまなすの丘」訪問の計画を立てる。(3) <p>災害対策について調べよう【防災】(10)</p> <p>○ 防災の取組を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を立て課題を設定する。(1) ・ 「わたしたちの気仙沼市デジタル副読本」や市の統計などで市や町の防災の取組を調べる。(1) ・ 災害が起きたときに市や県はどのような対策を取るのかを調べる。(3) ・ 調べたことをまとめる。(3) ・ 災害が起きたときに自分たちにできることを考える。(2)
	【1学期 計24時間】	【1学期 計24時間】	【1学期 計27時間】	【1学期 計24時間】
2学期	<p>みのりの園を訪問しよう【福祉】(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉について考えながら、老人福祉、身障者福祉などについて知り課題を設定する。(1) ・ 訪問の計画・準備をする。(2) ・ オイカワデニムの製品を扱っており、次の単元への意欲付けとして調べる。(1) ・ 訪問する。(3) ・ まとめと振り返りをする。(1) <p>オイカワデニムのひみつを調べよう【ふるさと】(12)</p> <p>※ 地域に根ざした企業であり、外国へも製品を輸出している。「高品質な製品作りのひみつ」の視点で課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット等を活用しオイカワデニムに 	<p>川と海のつながりを考えよう【ふるさと】(19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津谷川について知っていることを話し合い、課題を設定する。(1) ・ 外尾川、津谷川、海のつながりを、地図などを使って調べる。(1) ・ 水質調査の計画・準備をしよう。(2) ・ 海(河口)と外尾川ピオトープに行き、海水の水質調査や生き物調査、環境調査を行う。(6) ・ 海(川)での観察の結果をまとめる。(6) ・ 山(田東山)～川(外尾川～津谷川)～海という水の流れを地図で確かめ、小泉の海の豊かさについて考え、まとめる。(3) <p>地域の自然について調べよう【ふるさと】(11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒメシロチョウの蛹の観察、食草の観察、植替えな 	<p>小泉の災害の歴史を調べよう～災害から地域を守る～【防災】(9)</p> <p>○ 小泉の災害の歴史を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の被災状況に配慮し、課題を設定する。(1) ・ 震災前の町の写真や市の統計などが利用して市や地域の被害について調べる。(2) ・ 分かった事を共有する。(1) <p>○ 地域の防災の取組について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復興工事により、町の様子が変わってきたのかを調べる。(2) ・ 災害に備えて自分たちにできることは何かをまとめる。(3) <p>地域の伝統芸能を守ろう【ふるさと】(5)</p> <p>○ 小泉の伝統芸能を体験しよう②</p>	<p>小泉の魅力調べよう【ふるさと】(10)</p> <p>○ 他の地域と比較しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を立てる。(1) ・ 会津の魅力調べる。(2) ・ 自主研修の計画を立てる。(2) ・ 修学旅行：課題別自主研修(2) ・ 会津と気仙沼の比較等をまとめる。(3) <p>ボランティア活動しよう【福祉】(4)</p> <p>○ ボランティア活動しよう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「はまなすの丘」を訪問する。(3) ・ まとめと振り返りをする。(1) <p>小泉の魅力調べよう【ふるさと】(5)</p> <p>○ 小泉の伝統芸能を引き継ごう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習発表会での披露に向

	<p>ついて調べる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オイカワデニムの訪問計画を立てる。(2) ・ 訪問する。(3) ・ 分かったことをまとめる。(4) ・ お礼の手紙を書く。(1) <p>みのりの園と交流会をしよう【福祉】(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会の計画・準備をする。(3) ・ 交流会をする。(3) ・ まとめと振り返りをする。(1) ・ お礼の手紙を書く。(1) ・ 2学期を振り返る。(1) <p>【2学期 計29時間】</p>	<p>どをする。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒメシロチョウについて学んだことを振り返る。(2) ・ ヒメシロチョウを守っていくためにできることを考える。(2) ・ ヒメシロチョウ保護について知らせる方法を考える。(1) ・ ポスターなどを作成する。(3) ・ 発表会をする。(1) ・ 2学期を振り返る。(1) <p>【2学期 計31時間】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習発表会での披露に向けて、太鼓の練習をする。(5) <p>小泉の恵みを調べよう【ふるさと】(16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小泉の水産業を調べよう ・ 学習計画を立て課題を設定する。(1) ・ 地域の水産業について情報を集める。(2) ・ わかめの育成について調べる。(1) ・ 種挟みを体験する。(3) ・ まとめと振り返りをする。(1) ○ 海洋サミットに向けて ・ 資料の準備をする。(4) ・ 発表練習をする。(4) <p>【2学期 計30時間】</p>	<p>けて、太鼓の練習をする。(5)</p> <p>小泉の魅力を発信しよう【ふるさと】(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小泉の未来について考えよう。 ・ 小泉の現状について視点を決めて調べる(3) ・ 調べたことをもとに未来の小泉についての考えをまとめる。(5) ・ 学級で発表し、質疑応答を考えて練習する。(2) <p>いのちのつながりを調べよう【ふるさと】(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生で放流したサケを観察する。(1) ・ 産卵した後のサケの行方を調べ、山～川～海のかながりを考える。(1) <p>【2学期 計31時間】</p>
3学期	<p>学校の防災マップをつくる【防災】(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の危険を調べよう ・ 学習計画を立て課題を設定する。(1) ・ 校内を歩き、危険箇所や防災に関連する設備を調べる。(3) ○ 防災マップをつくる ・ 調べたことを地図などにまとめる。(4) ・ 発表会をする。(1) ・ まとめと振り返りをする。(1) <p>まとめと振り返り・発表準備(5)</p> <p>生活総合発表会(2)</p> <p>【3学期 計17時間】</p>	<p>人にやさしい学校をつくる【福祉】(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰にとっても過ごしやすい学校について考え、課題を設定する。(1) ・ 「バリアフリー」について本やインターネットで調べる。(1) ・ 校内のバリアフリーを探す。(1) ・ ハンディキャップ体験をする。(2) ・ 目の不自由な方からお話を聞き、分かったことをまとめる。(2) ・ やさしい学校をつくるために必要なことを考える。(1) <p>まとめと振り返り・発表準備(5)</p> <p>生活総合発表会(2)</p> <p>【3学期 計15時間】</p>	<p>小泉の恵みを伝えよう【ふるさと】(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワカメの刈り取りを体験しよう ・ 課題設定をする。(1) ・ 計画・準備をする。(1) ・ 刈り取り体験をする。(3) ・ 振り返りをする。(1) <p>まとめと振り返り・発表準備(5)</p> <p>生活総合発表会(2)</p> <p>【3学期 計13時間】</p>	<p>小泉の魅力を発信しよう【ふるさと】(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小泉の魅力や未来の小泉について外部に発信する ・ 外部へ発信する準備を行う。(2) ・ 発信する。(2) ○ ボランティア活動をしよう【福祉】(4) ・ お世話になった地域のためにボランティア活動をする。(4) <p>まとめと振り返り・発表準備(5)</p> <p>生活総合発表会(2)</p> <p>【3学期 計15時間】</p>

4 活動内容

(1) 海に親しむつどい(全学年:6月)

小泉海水浴場を活動場所として「海に親しむつどい」を行った。今年度は小泉幼稚園との合催で、幼小縦割り班をつくって活動に取り組んだ。

始めに、KUBU(小泉ユニバーサルビーチユニット)の方々から、海洋プラスチックごみについてお話いただいた。東日本大震災のときに流された冷蔵庫が海に漂っていたことを聞き、児童は驚いた様子だった。また、海岸に漂着したプラスチックごみの種類について目を向けさせることで、海に流れ出たプラスチックが海の生き物に影響を及ぼしていることを知るこ

【幼稚園児と協力した砂の造形作品】



ができた。短い時間だったが、自分たちでゴミ拾いをして、集まったごみの種類を見ながら、どうすれば海洋ごみを減らすことができるかを考えるきっかけになった。

次に行った砂の造形活動では、浜辺に打ち上げられた海藻や貝殻を集め、縦割り班ごとに考えた海に関する砂の造形を完成させるため、園児と交流しながら作品作りを楽しんだ。今回は KUBU の方々が造形活動の手伝いをしてくださったこともあり、例年以上にスケールの大きな造形作品に仕上がった。

日頃、海に親しむ機会が少ない児童にとって、地域の海にはたくさんの学習材があることや、小泉の海は多くの人を楽しめる場所になっていることなど、多くの発見がある活動となった。

(2) ヒメシロチョウを守ろう (3, 4年: 6月~11月)

【ヒメシロチョウの探索】

3, 4年生は、ヒメシロチョウが生息している場所に行き、ヒメシロチョウの生態や特徴を調べる活動を行った。地域に絶滅危惧種がいるという導入から、3年生はヒメシロチョウの生態や特徴について調べる活動を行った。実際に生息地に行き、観察したことで、ヒメシロチョウの個体数が激減していることに気付いた。ヒメシロチョウを絶滅から救うために、食草であるツルフジバカマを増やすことや、生息している環境を維持することなど、植栽活動と自然環境の保全が必須であることを実感するなど、主体的に活動に取り組むことができた。



また、4年生は学区内を流れる津谷川やその支流になる外尾川の水質調査や生き物調べを行い、周囲の自然環境が川の生き物に影響することを学んだ。児童は、調査や体験を通して、生息地となる小泉地域の環境を整えることが、ツルフジバカマやヒメシロチョウなどの生物を守ることにつながり、川や生き物、海の保全にもつながっていることについての理解を深めることができた。

5 今年度の成果と課題

- 児童は学習を通して、海の恵みに触れ、地域の良さについて考えることができた。また、身近なことから自分にできることを行っていこうとする態度が、11月に行われた海洋サミット等の発表に表れた。
- 学習後の児童の感想には、「地元にあるのに、今まで分からなかった。」「初めて体験した。」という内容のものが見られた。体験活動をしての驚きや感動を、次の学習活動への意欲へとつなげることができた。
- ▲ 児童が探求的に活動したり、教師がRPDCAサイクルを回しながら学習を展開したりするところまでは至らなかった。海洋教育の全体計画や年間指導計画を見直し、職員が目標を共通理解した上で、児童に学習に取り組ませることを次年度は取り組む。また、地域の海に対してほこりをもたせるために、情報機器等を活用しながら、学んだことを保護者や地域の方々に発信し、感想等を交流することを通して、学んだ成果を実感できるようにする。
- ▲ 来年度は2・3年生と4・5年生が複式学級になることを踏まえ、今後は海洋教育を含めた生活科、総合的な学習の時間のカリキュラムを見直すことが必要である。

令和3年度

海洋教育全体計画

気仙沼市立小泉小学校

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領
- ◆ 知識・技能
- ◆ 思考力・判断力・表現力
- ◆ 学びに向かう力・人間性等
- 国連持続可能な開発目標(SDGs)
- 海洋基本法
- 国連持続可能な海洋科学の10年
- 気仙沼市教育大綱

【学校教育目標】
志をもち、心豊かで、よく学び、たくましく生きる児童を育成する

〈目指す児童像〉
思いやりのある、やさしい子供(徳)
進んで学び、考える子供(知)
体をきたえ、やりぬく子供(体)

- 〈今日的課題〉**
- ・ 社会で生きて働く力
 - ・ Society5.0社会
- 〈児童の実態〉**
- ・ 明るく素直である。
 - ・ 思いやりのある声掛けができる
 - ・ 異年齢間の仲がよい
- 〈保護者・地域の願い〉**
- ・ 思いやりのある子に育てほしい
 - ・ 地域を誇りに思う子に育てほしい
- 〈教師の願い〉**
- ・ つながりを大切にする子供

海洋教育のねらい ※国連持続可能な海洋科学の10年に向けて

「海洋と人間の共生(海とともに生きる)」についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力などの海洋教育リテラシーを有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進する。

本校の海洋教育の目標

- 1 地域の海に関心を持ち、児童が海と関わり、海からの恩恵を見詰め直す意識と態度を育む。
- 2 海の世界や資源、海を取り巻く人や社会との深いつながりについて関心を高めさせる。
- 3 持続可能な海との関わり方について進んで考え、行動しようとする児童を育む。

4つの視点と目指す児童の姿

- 〈海に親しむ〉**
海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童
- 〈海を知る〉**
海の自然や資源、海をとりまく人や社会との深い関わりについて感心を持ち、進んで調べようとする児童
- 〈海を守る〉**
海の世界について調べる活動やその保全活動などの体験を通して、海の世界保全に主体的に関わろうとする児童
- 〈海を利用する〉**
水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結び付きについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童

各学年の生活科・総合的な学習の時間における活動(4つの視点との関連)

1年	「身近な生き物を観察しよう」(親しむ,知る)〈6~9月実施,10時間扱い〉	「海に親しむ集い」(親しむ,知る,利用する,守る)
2年	「サケのひみつ」(知る,利用する,守る)〈11~3月実施,7時間扱い〉	
3年	「地域の生き物を調べよう」(知る,守る)〈5~7月実施,22時間扱い〉 「オйкаワデニムのひみつを調べよう」(知る,利用する)〈11月実施,12時間扱い〉	〈6月実施,4時間扱い〉 ※全校,幼稚園,公民館
4年	「川と海のつながりを考えよう」(親しむ,知る)〈7~9月実施,47時間扱い〉	「地域の伝統を守ろう」(知る,守る) 〈5~10月実施,8時間扱い〉 ※4~6年
5年	「野外活動」(親しむ,知る,利用する)〈6月実施,2時間扱い〉 「小泉の水産物を調べよう」(知る,利用する,守る)〈11~2月実施,11時間扱い〉	
6年	「小泉の魅力調べよう」(知る,守る)〈4~12月実施,16時間扱い〉 「いのちのつながりを調べよう」(知る,守る)〈3月実施,2時間扱い〉 「未来の小泉を考えよう」(知る,守る)〈12~2月実施,11時間扱い〉	「生活総合発表会」(知る,守る) 〈2月実施,2時間扱い〉 ※全校

探求型学習の構成要素

- ストーリー性と探求のスパイラルを構成する単元構成
- 教科横断的な指導
- 学習形態の工夫
- ICT機器の活用
- 評価の工夫

地域・関係機関との連携

- ・ 小泉公民館
- ・ 小泉川鮭増殖組合
- ・ オйкаワデニム
- ・ 小泉ユニバーサルビーチユニット(KUBU)
- ・ 気仙沼土木事務所等の機関
- ・ 地域振興会
- ・ 蔵内之芽組
- ・ 小泉浜大漁打囃子

5 : 4 5	校長, 教頭, 教務 園長, 担当 (高橋)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地に集合して実施可否の判断をする。 ・ 延期の場合は6 : 30にメールを配信する (担当 : 教務)。 ・ 校長, 教務, 担当は自家用車で, 教頭は軽ワゴンで現地へ向かう。実施の判断後, 軽ワゴンから荷物を降ろし, テントを設置する。校長は自家用車で学校へ戻る。教頭と教務, 担当は現地へ残り, 運んだ荷物を降ろすなどして準備する。 ・ 準備完了後, 教務と担当は学校へ戻る。 ・ 健康観察, 運動着に着替えさせ, 事前指導を行う。
登校	担任	学校出発
8 : 30		小泉海岸到着
8 : 40		園児集合
8 : 45		開会行事 (進行) 縦割り班ごとに整列する。
9 : 00		<ol style="list-style-type: none"> ① 校長先生の話 ② 防災主任の話 (非常時の対応, 現地での避難経路の確認等) ③ 諸連絡 <ul style="list-style-type: none"> ・ 協力者の紹介 (一言いただく) ・ 活動についての確認 ・ 海を背景にして集合写真を撮影 (担当 : 教務)
9 : 20		清掃活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃について講師 (KUBU) の方よりお話をいただく。 ・ 縦割り班ごとに清掃活動を行う。 ・ 担当が引率し, 移動しながら, 浜全体の様子や危険箇所を確認させる。 ・ 6年生はゴミ袋を持ってゴミを回収する。可能な限り分別する。 ・ 拾うゴミは, 人工物 (小型の漁具, プラスチック類, ビンや空き缶など) のみとする。大型のものを拾うかどうかの判断は, 班担当の教員が行う。
9 : 45		砂の造形活動 (海岸散策) <ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り班の計画やテーマなど班長に発表させる。 ・ 活動範囲や場所の確認, 諸注意 (素足で活動しないなど) をする。 ・ 完成した班から写真を撮る (撮影 : 教務)。 ・ 海岸については, 足首程度までは水くみ等で入ることを許可する。
10 : 40		後片付け <ul style="list-style-type: none"> ・ 片付けの最中に, 審査を行う。※校長・園長
11 : 00		閉会行事 (進行) 縦割り班ごとに整列する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 成績発表 : 校長 ② 感想発表 (班長1名), 御礼の挨拶 (6年生1名) ③ 講師の方の話 ④ 園長先生の話 ⑤ 諸連絡
11 : 20		現地出発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年ごとに後片付けをする。 ・ 到着後は玄関前の水道で砂を流し, サンドルは各自袋に入れて持ち帰る。 ・ ブルーシートは中庭で水を掛けて汚れを落とし, 乾燥させて収納する。 <p>※ 放課後, 全職員で行う。</p>

～海とともにマナンボウ～

1. はじめに

大谷地区のシンボルは大谷海岸であり、「日本の水浴場88選」に選ばれるなど、県内有数の美しい海岸であった。この大谷海岸は東日本大震災の津波により砂浜が流され、10年間遊泳禁止になっていたが、令和3年度、無事復活することができた。震災の影響により、本校の児童は小さい頃からこの大谷海岸で遊んできた経験がほとんどなく、大谷海岸への思い入れも強くなかった。そこで、震災前まで取り組んでいた大谷海岸を中心とした地域の海での活動を再開させ、児童が積極的に海と関わり、海のすばらしさを感じることで、大谷の海に愛着を持ち、海を守り、発展させていこうとする児童を育てていきたいと考え、平成29年度より海洋教育の実践に取り組んできた。

2. ねらい

地域のシンボルである大谷の海と関わる活動に取り組みせ、海のすばらしさを感じさせることで、大谷の海への愛着を持たせ、海を守り、発展させていこうとする子供を育てる。

3. 全体計画

単元名	学年	教科
1. 海に親しむ集い	3～6年	行事
2. なつがやってきた・いきものとなかよし（おおやのうみであそぼう）	1年	生活科
3. どきどきわくわくまちたんけん・生きものなかよし大作せん（海の生きもの）大谷のいいところつたえよう	2年	生活科
4. 地域の人々に学ぼう（ワカメ名人）	3年	総合
5. エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～	4年	総合
6. 大谷の環境について考えよう 海の豊かさを知ろう	5年	総合
7. 探ろうふるさと 考えよう未来の大谷	6年	総合
8. 砂浜の花を未来に	5・6年	委員会

4. 単元（活動）計画・実践記録写真

3～6学年 【海に親しむ集い】（行事）

ねらい

- 地域の海岸に親しむことにより、地域のよさに気付くとともに地域への愛着を深める。
- 地域の海岸の清掃活動に取り組むことにより、自分たちの住む地域の環境を自分たちで守っていこうとする気持ちを持たせる。

内容

- ①開会行事
- ②浜の清掃（生活ごみ・燃やせないごみ等）
- ③砂の造形（縦割り班ごとに話し合ったものをつくる。）
- ④閉会行事



<高学年は水くみ担当>



<縦割りで協力した砂の造形>



<出来上がった作品>

1・2学年 【おおやのうみであそぼう・生きものなかよし大作せん】（生活科）

ねらい

- 大谷の海に関心を持ち、安全な行動について考えながら楽しく遊ぶことができる。（1年）
- 安全に気を付けて海で生き物探しをすることを通して大谷の海に親しみ愛着を持つことができる。（2年）

内容

- ①海での安全について確認する。
- ②どんな生き物がいるか予想する。
- ③沼尻海岸で生き物探しをする。
- ④見付けた生き物について表現する。
- ⑤気付いたことをカードにまとめ、発表する。



<沼尻海岸で生き物探し>



<水中生物を水槽で観察>

2学年 【大谷のいいところをつたえよう（平磯虎舞ほか）】（生活科）

ねらい

- 地域のよさについて調べ、まとめたことを発表する活動を通して、地域への親しみや愛着が増し、地域のよさに気付くことができるようにする。

内容

- ①町探検やこれまでの経験から地域の人と関わったことを振り返り、地域の出来事や伝統から調べてみたいことを見付ける。
- ②調べたいことについて家の人や地域の方から話を聞く。（浜わらす、平磯虎舞）
- ③伝えたい内容を決め、カードにまとめ、家庭に持ち帰り紹介する。



<海を守る講話(浜わらす)>



<平磯虎舞体験>

3学年 【地域の名人に学ぼう（ワカメ名人）】（総合的な学習の時間）

ねらい

- 特産物であるワカメについて調べたり、ワカメの養殖に携わる人々と関わったりする活動を通して、大谷の海のよさや面白さに気付き、大谷の海に愛着を持ち、海を守っていこうという気持ちを持つ。
- ワカメの養殖や海藻について調べたり、体験したりしながら、分かったことなどを工夫してまとめ、発表することができる。

内容

- ①オリエンテーション（ワカメについての講話）
- ②ワカメの種付け見学と体験
- ③生長の様子を見学し、学校で観察
- ④海藻の生態や成分等、疑問に思ったことについて情報を集める。
- ⑤ワカメの収穫見学
- ⑥収穫したワカメを調理・試食(各家庭)
- ⑦活動のまとめ（新聞）



<ワカメの種付け体験>



<学校でワカメの観察>

4 学年 【エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～】（総合的な学習の時間）

ねらい

- 身近な地域の環境問題を知り，その解決や環境保全の大切さについて理解し，調査やまとめ，環境保全のための活動をすることができる。
- よりよい環境づくりを目指した活動を考え，実践したことを伝えることができる。
- 大谷海岸のごみについて興味を持って追究する活動を通して，より広い視野で環境問題を捉え，人と自然との共生について考えることができる。

内容

- ①大谷海岸での清掃を通して，地域の自然環境に興味・関心を持つ。
- ②大谷海岸のごみについて追究する。
- ③講師から，海洋ゴミ問題について話を聞く。
- ④毎日の暮らしの中で，実践可能な環境保全対策について考え，実践する。（みつろうエコラップ作り）
- ⑤海の自然や環境問題に関心を持って調べ，保全について自分の考えや意見を持つ。
- ⑥分かったことをまとめ，学習発表会で保護者に発表する。



<大谷海岸の清掃活動>



<海洋ゴミ問題についての講話>

5 学年 【大谷の環境について考えよう】【海の豊かさを知ろう】（総合的な学習の時間）

ねらい

- 大谷の環境を守るための取組や産業について見つけ，体験し調べ，発表する活動を通して，郷土への愛着を深め，よりよい郷土にしていこうとする意欲を持つことができる。
- ふるさとのよさを再確認するとともに，さらに魅力あるふるさとにするための提案をし，その目標に向けて自分たちができることを考え，実践することができる。

内容

- ①環境をよりよくする取組について関心を持つ。
- ②滝根川の水生生物調査をする。
- ③森川海のつながりについての話を聞き，自分たちにできることはないか考える。
- ④大谷の産業について話し合い，漁業について調べる計画を立てる。
- ⑤地元の日門漁港の漁業者から大谷の海の環境や漁業についての話を聞く。
- ⑥環境をよりよくする取組や，大谷の漁業の特徴や漁業者の仕事内容について調べたことをグループごとにまとめて発表する。（学習発表会）



<滝根川の水生生物調査>



<漁業についての講話>

6 学年 【探ろうふるさと 考えよう未来の大谷】（総合的な学習の時間）

ねらい

- 自分たちのふるさとの自然や産業，文化について様々な視点から見つけ調べる活動を通して，郷土を愛する気持ちを高め，自分たちのふるさとをよりよくしていこうとする意欲を持つことができる。
- 「ふるさと大谷」のよさを再認識するとともに，さらに魅力あるふるさとにしていくための方法を提案し，それに向けて自分たちにできることを考え，実践していこうという意欲を持つことができる。

内容

- ①これまでの学習や「海に親しむ集い」から、大谷の海やまちについて考えを持つ。
- ②大谷地区の復興に携わる方から話を聞き、地域の方々の思いや願いに気付く。
- ③他地域のまちづくりについて調べる。
- ④未来の大谷について考え、まちづくりについて提案する。(学習発表会とこどもサミット in 東北で発表)
- ⑤これまで育てていた海浜植物を大谷海岸に植栽する。(委員会活動と連携)



<復興に携わる方からの講話>



<海浜植物を大谷海岸に植栽>

5. 成果と課題

【成果】

本年度は、11年ぶりに地域の宝である「大谷海岸」が復活し、3～6年生による「海に親しむ集い」を大谷海岸で実施することができた。また、昨年度はゲストを招くことや体験することに制限が掛かる部分もあったが、本年度は感染症対策を十分にとりながら、全学年で学年に応じた海辺の活動を予定通りに実施することができた。その中で、児童が大谷の海の豊かさを実感するとともに、課題追究を通じて「海の環境を自分たちが守っていかなければならない」という思いを持つことができた。6年生においてはこどもサミット in 東北において同じ海洋教育を学んでいる他地域の小学生と意見交換することにより、考えを深めることができた。また、「学習発表会」で、海洋教育の発表会を実施し、学年ごとに家庭に向けて一人一人の学習成果を紹介することができた。

地域連携の面では、「NPO 法人浜わらす」との連携が一層充実し、協力を得ながら活動を進めることができた。昨年度までの「海の安全についての講話」「ワカメ体験」「海洋ごみについての講話」「海岸の清掃活動」「海洋プラスチックごみについての講話」「みつろうエコラップづくり」の他に「海浜植物についての講話」「海浜植物植栽体験」が加わり、全学年において関わりを持ち、学びを深めることができた。

副読本『海と生きる』を学ぶガイドブックは、3年生の「地域の名人に学ぼう（ワカメ名人）」で活用を図った。ワカメの種付け体験と生長観察の後に関連性のある図や文章を見つけて読み合い、追究していきたい課題を設定するための導入時間とした。「海の中でどうやって生長しているのか」「ワカメの体のつくりを調べたい」など、副読本をヒントにして調べていきたいことを見付けることができた。



<6年：こどもサミット in 東北>



<海浜植物講話：浜わらす>



<3年：副読本の活用>

【課題】

平成29年度より改善しながら実施してきた内容を改めて見直し、その系統性や「海洋リテラシー for 気仙沼」との関連性について確認していく必要がある。また、副読本『海と生きる』を学ぶガイドブックを各学年においてどのように活用することができるのか、探っていくことが課題と考えられる。

震災体験を聞く・学ぶ・共有する

—津波死ゼロを目指して—

1 ねらい

「海と安全」の分野より「津波死ゼロ」の達成を目指し、「海のまち気仙沼に生きる」市民として、海と地域の災害特性を知り、生命の大切さや防災・減災への正しい理解と必要な能力や資質の向上を図る。

2 海洋教育の位置づけ

本校が位置する気仙沼市鹿折地区は、東日本大震災において津波・火災により壊滅的な被害を受けた地域である。震災から10年が経過し、震災を知らない世代の入学や震災の記憶の風化が危惧されている。そこで、総合的な学習の時間を活用し、『海を知る学習』『海からの教訓』『海のまちに生きる人たちと共に』という視点で、防災学習を中心とした探究的な学習や体験的な学習に取り組み、「海のまち気仙沼に生きる」市民として「津波死ゼロ」を達成するために必要な知識や態度、実践力を身に付けることを目指した。

3 年間計画

【 A『海を知る学習』， B『海からの教訓』， C『海のまちに生きる人たちと共に』 】

月	学 習 内 容	ね ら い
5	◇全学年：防災学習ガイダンス ・防災学習のねらい ・本校の防災学習，今年度の計画 ・防災マニュアル，避難所初期設営マニュアルの読み合わせ	・防災学習のねらいやこれまでの取組，今年度の計画を理解し，学習に対する見通しを持つ。 ・防災マニュアル，避難所初期設営マニュアルの読み合わせを行い，災害時や緊急時の身の安全の確保，基本的な動きについて理解する。
6	◇全学年：地震・津波対応避難訓練 【C】 ・避難経路，避難行動の確認	・非常災害に対し，日頃の訓練の必要性を，体験を通して理解するとともに，敏速・沈着・協力的な態度で行動する姿勢を身に付ける。
6	◇全学年：地域合同避難所初期設営訓練(新型コロナ対応) 【C】 ・地域の方々との打ち合わせ（設営班ごと） ・避難所初期設営訓練 ・振り返り	・地域・行政の方々と合同で設営訓練を行うことを通して災害発生時の実践力を養うと共に，自分たちにできるより実践的な設営方法や行動に付いて考え，緊急時に迅速に行動できるようにする。
6	◇1学年：防災伝承学習 【B】 ・講義「伝承・語り継ぐことについて」 ・ワークショップ	・講師による講話，ワークショップを通して，震災伝承，ボランティア，地域貢献の視点から中学生にできることについて考える。
	◇2学年：救急・救命講習 【C】 ・応急手当の方法 ・AEDの使い方	・応急手当の方法やAEDの使い方を学ぶことで，緊急時の対処の仕方を理解する。
	◇3学年：震災遺構研修（陸前高田市）【A】【B】 ・震災遺構研修 ・振り返り	・東日本大震災を振り返り，震災遺構の見学や実体験の聞くことで，生命の重さや尊さについて考えさせる。 ・他地域との比較を通して，地域による地震・津波の災害特性に気付かせ，防災意識の向上を図る。

7	<p>◇1学年：環境保全調査活動 【A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田の浜清掃 ・漂着物調査 ・水質調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・大島小田の浜における，清掃，漂着物・水質調査を行い，気仙沼の海洋や世界の海で起こっている実態について理解し，環境保全活動に関心を持つ。
9 12	<p>◇全学年：震災伝承学習 【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス（レクチャー） ・避難行動，心情，地域の様子，教訓など地域住民から聞き取る。 ・聞き取った内容の整理 ・テーマの設定，活動計画立案 ・課題の追究・分析・考察 ・発表・発進準備 ・中間発表（振り返り） ・リハーサル ・防災学習発表会 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災の記憶の風化を防ぎ，震災の教訓を語り継ぐ。 ・甚大な被害を受けた鹿折地区の当時の状況を知り，生命の大切さや防災・減災への正しい理解と必要な能力や資質の向上を図るため，地域の被災者からインタビュー形式での調査し，避難行動の可視化を通して教訓や気づき，学びを伝承する。 ・学んだことや教訓を保護者や地域に発信し，防災・減災への意識を共有し，地域や社会の一員として貢献しようとする。 <p>○防災学習アドバイザー： 東北大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔准教授</p>
11	<p>◇総合防災訓練 【C】</p> <p>[事前]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス（訓練の概要，役割分担の確認） ・委員会ごとの打ち合わせ，仕事内容・準備物等の確認，活動の工夫 <p>[当日]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政区（自治会）の・地域の方々との打ち合わせ（設営班ごと） ・避難所初期設営訓練〔テント，受付，本部〕 ・運営訓練〔備蓄庫点検，簡易湯たんぼ作り，発電機の使い方〕 ・振り返り（合同） <p>[事後]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所初期設営マニュアルの見直し，改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時，自分たちにできる避難所設営の初期対応について考え，主体的に行動しようとする態度や実践力を身に付ける。 ・総合防災訓練のねらいと内容について理解する。 ・訓練を通して，自己の役割や責任を果たすとともに，課題を見付け協働でその解決に迫る。 ・避難所開設の初期設営に必要な判断・技能を身に付ける。 ・各自治会の訓練に参加し，地域の一員として中学生ができることについて考える。 ・訓練後は，振り返りを行い，避難所初期設営マニュアルの見直しに生かす。
11	<p>◇全学年：火災対応避難訓練 【C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期消火訓練 ・濃煙体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災に対し，日常における訓練の必要性を，体験を通して理解する。 ・敏速・沈着・協力的な態度で行動する姿勢を身に付ける。
3	<p>◇2学年：震災遺構研修（気仙沼市）【A】【B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災遺構研修 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災を振り返り，震災遺構の見学や実体験の聞き取りを通して，生命の重さや尊さについて考えさせるとともに，地震・津波の災害特性に気付かせ，防災意識の向上を図る。

4 今年度の海洋教育の成果と課題

(1) 『海を知る学習』

離島大島の小田の浜において，気仙沼海上保安署の協力のもと，気仙沼市立大島中学校の生徒とともに，清掃および漂着物・水質調査を行った。今年度から，新たに取り組んだ学習である。生徒は調査活動を通して，気仙沼や世界の海洋で起こっている実態を知り，自然環境や海洋における問題について関心を高めた。特に，漂着物の分別を通して，海洋ゴミの種類の多さに驚くとともに，生態系への影響や日常生活との関連をより深く考える契機となった。

また，気仙沼市や陸前高田市の震災遺構・伝承館研修では東北，気仙沼周辺での津波の挙動や地震・津波の脅威と爪痕の様子を知り，それぞれの地域の地震・津波災害の特性や被害の大きさについて学んだ。被災当時の状況や被災者の声を聞き，改めて生命の重さや尊さ，減災・防災の必要性について考えることができた。



↑ 環境保全調査活動



↑東日本大震災津波伝承館「いわて TSUNAMI メモリアル」研修（岩手県・陸前高田市）

(2) 『海からの教訓—震災伝承学習』

過去の津波災害、震災経験や教訓から命の大切さや命を守る行動について学び、震災の記憶風化と震災を知らない世代への伝承を目指し、東日本大震災時に鹿折地区にいた被災者の避難行動の可視化を通して、震災の教訓や学びを伝承する学習に取り組んだ。学習にあたり、東北大学災害科学国際研究所の佐藤翔輔准教授を防災学習コーディネーターとし、ご指導・ご協力を頂き、学習全体を通して「聞く」「学ぶ」「共有する」という視点を重視しながら学習を進めた。

地域の方に調査協力を依頼し、学年縦割りのグループごとに震災当日の避難行動や地域の被災状況についてインタビューを行った。調査後は、3・11当日（発生時～夜まで）の避難行動や場所について、時系列で整理し、避難行動と心情を分析・考察した。学んだ事実から改めて命を守る教訓を考え、その効果的な発表・発信方法について試行錯誤しながら取り組んだ。

防災学習発表会は、調査協力者や保護者の方々を前に、ポスターセッション形式で行った。学んだ事実や教訓をテレビ番組形式（討論）や小学生が覚えやすい標語を作成して伝えるなど、昨年度よりもさらにレベルが高いものとなった。また、2月にはオンラインにて近隣の小学校へ発表（伝承活動）を行い、学びを発信・共有し、防災・減災意識の啓発活動を行った。



震災体験を「聞く」



震災体験を「学ぶ」



震災体験を「共有する」：〔防災学習発表会〕
各グループの発表後は、互いの発表について自発的に感想や意見を述べ合う姿が多く見られた。

(3) 『海のまちに生きる人たちと共に』

地域や行政の方々と連携した防災訓練を実施した。1回目は6月に、昨年度作成した「新型コロナウイルス対応避難所初期設営訓練マニュアル」をもとに鹿折地区自主防災組織、鹿折地区振興協議会などの地域の方々や市役所（危機管理課）と協働で行った。事前準備の時間は少なかったが、3年生のリーダーを中心に、生徒が情報交換しながら準備を進め、当日の係ごとの設営説明は各委員会委員長（3年生）の生徒が務めるなど、率先して取り組む様子が見られた。



避難所初期設営訓練（体育館）

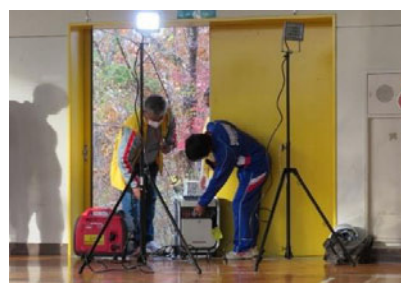
また、2回目11月は市総合防災訓練と合わせて行った。地域に居住する外国人技能実習生の参加やペットボトルを活用した簡易湯たんぼづくり、発電機の使い方、災害用備蓄庫の点検を行うなど、さらに非常時を想定した訓練を実施することができた。訓練終了後は地域・学校合同による振り返りを行い、成果と課題を共有した。訓練後は成果と課題を振り返り、避難所初期設営マニュアルの見直しを行った。訓練を通して、生徒は大人の経験と知恵を学ぶ貴重な機会となり、大人は生徒の機動力や新しい発想など互いに学ぶことが多い取組となった。これらの学習は、有事の際、よりの確で迅速な命を守る行動につながると共に、生徒の地域の一員としての自覚を高めるものになったと考える。



外国人技能実習生と共にテント設営



簡易湯たんぼづくり



参加者の前で、発電機の使い方を説明する生徒



災害用備蓄庫の点検と整理。後日、備蓄庫の保管図を作成し、マニュアルへ記載。



地域の方々と共に手順を相談

(4) 今後に向けて

生徒はこれらの学習を通して「海と安全」という視点から、より一層命の大切さや命を守る行動について深く考えていた。他者と協働での探究的・体験的な学びを繰り返していく中で、新たな考えや課題を持ち、その解決策や地域の一員として自分たちができることを実践しようとする姿が見られた。




一方、学びの還元、発信方法については、まだまだ改善・工夫の余地があり、生徒の「聞く力」や「質問力」も、さらに力を入れて伸ばしたい能力である。予測困難な時代であるからこそ、様々な課題を乗り越え、豊かにたくましく未来に生きる人材の育成を目指し、今年度の成果と課題をふまえて、指導計画の見直しや生徒主体の活動を推進していきたい。

地域・社会とのつながりを考える

～防災・減災を軸とした個人探究を通して～

◎ 海洋教育全体計画

防災・減災を軸とした海洋教育

単元名	「防災×○○」の学びから、地域・社会とのつながりについて考える	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科、英語、保健体育、道徳
単元の目標	防災・減災を軸とした学習を通して、地震津波災害とその備えについて学び、発災後の適切な判断・行動ができるようにするとともに、広く海のことについて学び、地域・社会とのつながりを考えるようにする。	SDGs 関連	   
身に付けたい資質・能力	<p>【知識・技能】 災害発生に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動や日常の備えについて理解することができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 自然災害への適切な思考・判断に基づき意思決定や行動選択をしたり、防災・減災について学習した内容を表現したりする。</p> <p>【学びに向かう力・人間性等】 地域住民の一員として、自分ができることを主体的に実践したり、学んだことを積極的に発信したりする。</p>		
活動時期	評価の観点	学習内容及び学習活動	地域、教科等との関わり
4月		1 学年	〈国語〉
5月		2 学年	「学びの扉／学びを支える言葉の力」
6月	<p>◇探究学習についてのガイダンス</p> <p>・防災学習のねらいや前年度の取組と成果、今年度の計画等について確認する。</p> <p>◇SDGs, Society5.0 等に関するワークショップ</p> <p>◇海洋×防災講座</p> <p>・専門家や講師から話を聞く。</p> <p>◇課題設定</p> <p>・これまでの学びや生活の中から問題を見だし、個人で探究課題を設定する。</p> <p>◇課題追究</p> <p>・探究課題の視点を考察し、調査から収集した情報をKJ法やマトリクス等で整理する。</p> <p>◇調査の考察・まとめ・中間発表</p> <p>・防災・減災における取組の特徴、災害の仕組みと影響等について考察とまとめをし、中間発表をする。</p>	1 学年	「自然災害と防災・減災への取組」
7月	知識・技能	<p>◇実地研修</p> <p>・震災遺構等施設訪問（陸前高田）</p> <p>◇体験学習</p> <p>・野外活動（海を知り、カッター体験）</p>	〈理科〉
8月	思考力・判断力・表現力	<p>◇実地研修</p> <p>・震災遺構等施設訪問（女川）</p> <p>◇体験学習</p> <p>・福祉体験学習</p>	「火山と地震」
9月		<p>◇実地研修</p> <p>・職場体験学習（企業の防災対策、海に関わる仕事）</p>	「自然の恵みと災害」
10月			〈英語〉
11月	主体的に学習に取り組む態度	<p>◇市総合防災訓練</p> <p>・各行政区での避難訓練への参加</p> <p>◇防災学習発表会（全学年）</p> <p>・探究の成果や課題、テーマに対する解決策やアイデアを発信する。</p> <p>・災害や自然環境及び地域、社会との関わりを考える。</p>	「ALTとの交流活動」
12月		<p>◇市総合防災訓練</p> <p>・各行政区での避難訓練への参加</p> <p>◇防災学習発表会（全学年）</p> <p>・探究の成果や課題、テーマに対する解決策やアイデアを発信する。</p> <p>・災害や自然環境及び地域、社会との関わりを考える。</p>	〈保健体育〉
			「自然災害による危険」
			「自然環境に優しく」
			◇地区防災教育推進委員会
			◇海外のユネスコスクールとの交流

◎ 単元計画

単元指導計画 (74時間)		
時	学習活動・主な学習	○：指導上の留意点 △：教科等との関連 ◇：評価
総合 (2)	ガイダンス ・学習のねらいや前年度の取組と成果、今年度の計画等について確認する。	○ 市探究学習コーディネーターから、探究活動の視点についてガイダンスを行う。 ○ 今年度の学習に対する意識調査を生徒に行い、学習への興味・関心度を把握する。 ◇ 学習のねらいやこれまでの取組、今年度の計画を理解している。 【知識・技能】
総合 (4)	講話 ・SDGs, Society5.0 等に関するワークショップや海洋に関する講座から、課題を立てるために知識を増やす。	○ 専門的な知識を持った講師を招き、課題を立てるために知識を増やす。 ◇ 講話や活動を通して何を学んだか理解している。 【知識・技能】
総合 (18) 社会 (2) 国語 (4)	探究学習 防災・減災を 考えよう (1) 課題(テーマ)を決めよう ・これまでの学びや生活の中から問題を見いだし、個人で課題(テーマ)を設定する。 (2) 課題解決を追究しよう ・情報収集し、比較、分類、関連付け等、整理・分析する。場合によってはテーマが共通する生徒どうしが共同で聞き取りやアンケート調査を行う。その結果から「自助・共助」や「伝承」について個人でまとめ、考えを深める。 (3) 中間発表会 ・個人探究した結果について中間発表をし、相互評価を行う。 ・探究学習コーディネーターから中間発表に関する指導助言をもらい、考察やまとめ方について再検討する。	○ これまでの学びや日常生活の中から、疑問や興味のある内容を個人で選択し、探究のテーマを検討させる。 ○ テーマを基に課題を立て、個人探究を進めさせる。 ◇ 課題(テーマ)を見付け、表現している。 【思考・判断・表現】 ○ 「共助」の観点から、地域への提言等も加えるように促す。 ○ 発表内容を参観者に分かりやすく発表するための手立てについてアドバイスする。 △ 社会科「過去からの継承と未来に向けた社会づくり」 △ 国語科「学びの扉／学びを支える言葉の力」 (根拠を明確にして書く、案内や報告の文章を書く、調べて考えたことを伝える) ◇ 伝える内容や提案を明確にし、伝える対象や場所を意識した資料を作成している。 【思考・判断・表現】 ○ 発表物の作成過程であるので、「良いところ探し(自分の探究にも取り入れられそうだ)」の観点で、相互に評価させる。 ○ 指導助言されたことを理解する。「防災学習発表会」に向けて不足している部分を確認し、今後の見直しを持たせる。 ◇ アドバイザーや教師、他の生徒からの助言を生かし、改善点について話し合っている。 【思考・判断・表現】 ◇ 地域との関わりを意識しながら提案を伝えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
総合 (15) 理科 (2) 保体 (4) 英語 (2) 道徳 (1)	体験学習・ 実地研 修 (第1学年) 「海のめぐみと災害を知ろう」 ・震災遺構等施設訪問(陸前高田) ・野外活動(海を知る、カッター体験) (第2学年) 「海に触れ、人に学ぼう」 ・震災遺構等施設訪問(女川) ・福祉体験学習 ・職場体験学習(企業の防災対策、海に関わる仕事) (第3学年) 「防災啓発と意見交流をしよう」 ・救急救命講習会 ・小学生への防災啓発活動(防災カルタ、クイズ、紙芝居等の作成・活用) ・関係団体との減災に関する意見交流	○ 教科との関連に気付かせながら、活動のねらいや活動内容を理解させる。 ○ 災害の知識と自然との関わりについて理解を深め、災害発生後の対応について体験させる。 △ 理科「火山と地震」「自然災害による危険」 △ 英語「ALTとの交流活動」 △ 特別な教科 道徳「自然環境に優しく」 ◇ 災害の知識と自然との関わりについて理解を深めている。 【知識・技能】 ◇ 災害発生後の対応を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】
行事 (4) 総合 (2)	総合 防災 訓練 (1) 自治会ごと防災訓練 ・午前に行われる各自治会の防災訓練に参加する。 ・各自治会の行動マニュアルに従いながら、中学生ができることを考え、積極的に行動する。 (2) 避難所初期設営訓練 ・生徒会各種委員会でグループを編成し、避難所初期設営で果たす役割を考え、活動する。	○ 地区住民の一員としての自覚を高めるため、必要に応じて自治会の会合に生徒の参加を促す。 ○ 地域住民の一員として、自発的に活動するよう促す。 ○ 生徒たちが学校にいる時間帯に災害が発生したという想定で訓練を実施する。 ○ 小学生、高校生も役割を果たすことができるようにする。 ○ 避難後の小学生の世話についても考えるよう、事前に指示する。 ◇ 避難訓練及び避難所開設の初期対応に必要な事柄や役割等について理解している。 【知識・技能】 ◇ 防災訓練等を通して、地域住民の一員として自分ができることや果たすべき役割等を、主体的に実践しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
総合 (12)	防災 学習 発表 会 (1) 防災学習発表会に向けて ・個人探究の成果や解決策については、発表形式を考え(ポスター、プレゼンテーション等)まとめる。 (2) 防災学習発表会 ・発表会場ごとに司会や記録等の役割分担をし、発表する。 (3) 振り返り ・今年度の防災学習を振り返り、自己評価する。	○ 教員は、一人一人が十分に発表及び質疑応答ができるように場を設定する。 ○ 参観者からの質問で分からないことについては、再度調査して回答するようにさせる。 ◇ 探究を基にまとめた内容や提案を表現している。 【思考・判断・表現】 ◇ 「自助・共助」や「伝承」についての考えを深め、地域の一員としての自覚を高めるとともに、自分が地域にどのように関わっていくか考え、実践しようとする意欲を高めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○ 次年度の防災学習に向けた振り返りともなるようにする。 ○ 防災ガイダンス時に行った意識調査を再度実施し、個々の行動変容を見取る。

◎ 今年度の海洋教育の成果と課題

【実践例】

(1) ガイダンス、講話、探究学習

探究学習の進め方を学ぶため、ガイダンス時に、学習の視点と見通しについて気仙沼市探究学習コーディネーターから講話をいただいた。また、生徒に学習の素地を身に付させるため、SDGs, Society5.0 等に関するワークショップを実施した。さらに、東京大学の丹羽淑博准教授の「海洋×防災講座」(図1)で津波の速さに関する実験を行った。

探究学習では、防災を軸としながらも海洋、環境、産業や地域づくり等に発展させ、学習内容の幅を広げるため、「防災×〇〇」というテーマを基に個人で課題を設定させた。調査方法として、聞き取りやアンケート集計、実地踏査、文献研究等での情報収集、比較、分類、関連付けから課題解決を図った。



図1 「海洋×防災講座」

(2) 体験学習

体験を通した学びを増やすため、実地研修・体験学習を学年ごとに実施した。1年生は陸前高田市の伝承施設を訪問し、他地域における東日本大震災の被害について学んだ。2年生は女川町を訪問し、海の魅力を最大限に生かしながら減災を図ったまちづくりについて学んだ。3年生は、アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム教員研修会に参加した全国の教員とオンラインで対話・交流(図2)した。東日本大震災の教訓から学んだことと次世代への継承、地域が災害を乗り越えた道のり、地域連携や地域づくりを強化するためのネットワーク構築等について、中学生が自身の言葉で考えを述べた。



図2 オンラインでの対話・交流

(3) 総合防災訓練

毎年11月に開催される本市の総合防災訓練に全校体制で参加した。午前中は家族と共に地区毎の一時避難場所へ避難し、避難所リストの作成や小学生のお世話等、中学生としての役割を果たした。今年度は、感染症拡大防止のため規模を縮小して実施した地区もあったが、本校校庭をメイン会場として行われた、気仙沼市、消防署、消防団等と連携した倒壊家屋救出訓練や自助共助強化訓練に参加した。加えて、ヘリコプターによるつり下げ救助訓練等を見学し、防災意識を高めた。

午後には本校体育館で避難所初期設営訓練(図3)を行った。生徒が在校中に災害が発生したことを想定し、地域の災害対策本部に引き渡すまでの設営をいかに迅速にできるかを目標とした。昨年度改訂した設営マニュアルを基に、新型コロナウイルス感染症に対応した初期設営を試みた。パーティションの設営や、受付での検



図3 避難所初期設営訓練

温・消毒セットの準備等，これまでに身に付けた方法には手早く取り掛かったが，感染症拡大防止のためのスペース確保等には時間を要したことなど，課題も浮き彫りになり，更なる改訂が必要であることが明らかになった。

【成果】

- (1) カリキュラムを整理し，学習内容を津波防災・減災だけでなく，海洋や環境等に広く波及させながら個人探究を行ったことから，生徒自身が気候変動などによる災害の種類の多様化にも気付き，学習の幅を広げることができた。
- (2) 探究学習コーディネーターや関係専門機関と連携したことから，本校の防災学習を SDGs や Society5.0 との関連にも波及させ，生徒へアプローチすることができた。さらに，探究学習コーディネーターから直接的な生徒への助言や教員との意見交換もあり，多面的・多角的な授業づくりにつなげることができた。
- (3) 昨年度改訂した設営マニュアルを基に，避難所初期設営訓練を実施したことで，その手順を確実に確認することができた。また，周囲の状況を的確に判断し，役割以外で自分ができることを実行する姿が見られ，地域住民の一員としての自覚が高まった。

【課題】

- (1) 地域の課題を見極めさせ，生徒一人一人が課題を自分事として捉えさせるために，生徒の素地となる地域やものごとを増やしてから探究学習を進めさせること。
- (2) 津波防災・減災ばかりでなく，地球温暖化問題などに視点を広げ，海との関連を図りながら地域と地域人材とのつながりについて考えさせる学習を充実させ，推進していくこと。
- (3) 探究学習の前後に行った意識調査の結果では，地域の課題の解決方法で，提案したアイデアを実行に移すことができたと感じていた生徒が少なかったことから，行動に移していくための発信方法について，国語や理科をはじめとする各教科の学習と関連付けながら進めること。

「30年後の大島に伝えよう」

～大島の良さを未来に伝えるために、今の自分にできることを考えよう～

1 はじめに

気仙沼湾に浮かぶ故郷「気仙沼大島」は古来、海と関わり、海からの恩恵を受け、海とともに生きてきた。平成31年4月7日に「気仙沼大島大橋」が開通し、さまざまな変化や交流が生まれている。

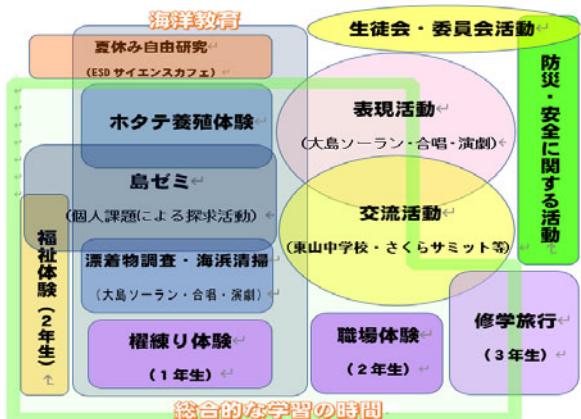
本校では、大島という特色ある地域に根ざし、地域の教育素材と人材を生かした海洋教育に取り組んでいる。総合的な学習の時間を中心に、体験活動や調査活動等を計画的に展開し、課題の発見とその解決に取り組んでいる。また、気付いたことや提案したいことをまとめ、各方面に発信していくための方法を身に付けさせたいと考えている。

2 ねらい

- (1) 海を活用した体験活動を充実させ、地域の魅力を知り、課題の発見とその解決を図るとともに人との関わりや将来の生き方を考えさせる。
- (2) 活動を通して知ったこと身に付けたことを発信するとともに、効果的に伝えるための手段を身に付けさせる。

3 学習活動の概要

(1) 学校活動内での海洋教育



(2) 海洋教育の主な学習内容

1学期		2学期										
・海洋講話	・漂着物調査・海浜清掃 (小田の浜)	・ホタテ養殖体験 ～1年生～ 【背ばたき・耳吊り】	・権繰り体験 ～1年生～									
		・ホタテ養殖体験 ～2年生～ 【背ばたき・水揚げ】	表現活動 文化祭 「全校演劇」									
年間：表現活動 ：個人課題研究		「島中ソーラン」 (文化祭・運動会 等)	・ホタテ養殖体験 ～3年生～ 【調理体験】									
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">島ゼミ「個人課題研究」</th> </tr> <tr> <th>1学期</th> <th>夏休み</th> <th>2学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人課題の設定 ガイダンス、先生方との面談 等</td> <td>探究活動 実験、アンケート、インタビュー 等</td> <td>まとめ・発表 レポート作成 文化祭発表</td> </tr> </tbody> </table>				島ゼミ「個人課題研究」			1学期	夏休み	2学期	個人課題の設定 ガイダンス、先生方との面談 等	探究活動 実験、アンケート、インタビュー 等	まとめ・発表 レポート作成 文化祭発表
島ゼミ「個人課題研究」												
1学期	夏休み	2学期										
個人課題の設定 ガイダンス、先生方との面談 等	探究活動 実験、アンケート、インタビュー 等	まとめ・発表 レポート作成 文化祭発表										

4 総合的な学習の計画

(1) 目標

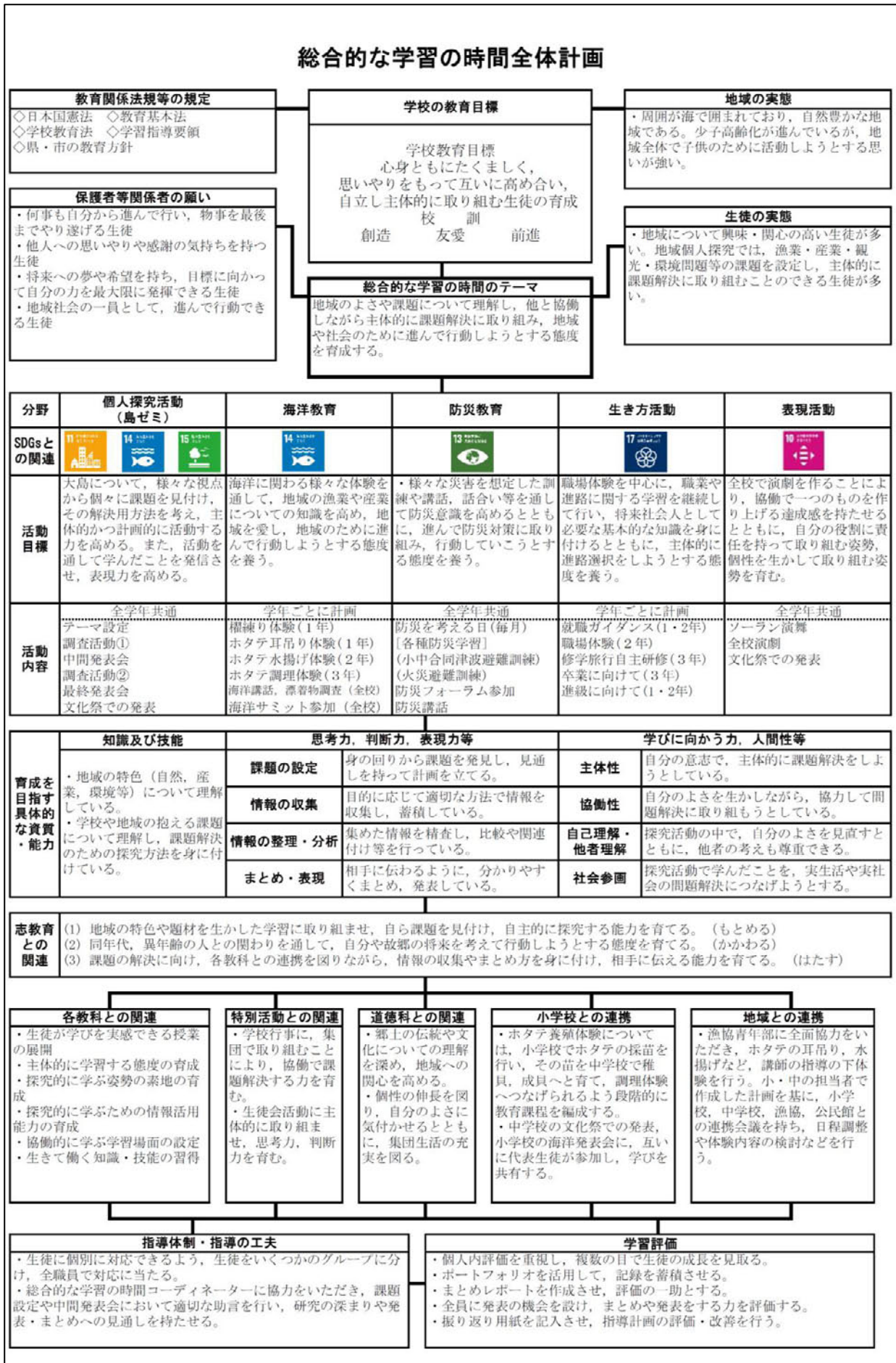
海洋教育を中心とした総合的な学習の時間の指導を通して、地域に根差し、将来にわたって、生徒自らが生き方を考え、実践する態度や能力を身に付けさせる。

- ① 地域の特色や題材を生かした学習に取り組みせ、自ら課題を見付け、自主的に探究する能力を育てる。(もとめる)
- ② 同年代、異年齢の人との関わりを通して、自分や故郷の将来を考えて行動しようとする態度を育てる。(かかわる)
- ③ 課題の解決に向け、各教科との連携を図りながら、情報の収集やまとめ方を身に付け、相手に伝える能力を育てる。(はたす)

(2) 学習内容と活動目標（5領域）

<p>① 島ゼミ 個人課題探究活動</p>		<p>大島について様々な視点から個々に探究課題を見付け、その解決方法を考え、計画的に活動する力を高める。また、活動を通して学んだことを発信するとともに、効果的に伝えるための手段を身に付けさせる。</p>	
<p>課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校から継続している海洋教育の学習の内容をもとに、個々に探究課題を設定 ・活動計画を立案 	<p>探究活動（全学年一斉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験 ・実地踏査（浜） ・インタビュー（大島地域住民,漁業従事者等） ・アンケート（大島中学校生徒・保護者・教員,市役所,水産試験場,等） 	<p>まとめ・発表（各学年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに中間発表会,発表会を行い,全員が自分の探究内容について発表 ・タブレットを活用して発表資料,レポート作成 	
			
<p>② 海洋教育 ホタテ養殖体験 ホタテ調理体験 漂着物調査 櫂練り</p>		<p>海洋に関わる様々な体験を通して、地域の漁業や産業についての知識を深めることにより、地域を愛し、地域のために進んで行動しようとする態度を養う。</p>	
<p>③ 防災教育 防災を考える日(毎月) 防災フォーラム参加 防災校外学習</p>		<p>様々な災害を想定した訓練や講話、話し合いを通して、防災意識を高めるとともに、進んで防災対策に取り組み、行動していこうとする態度を養う。</p>	
<p>④ 生き方活動 職場体験 修学旅行</p>		<p>職場体験を中心に、職業や進路に関する学習を継続して行い、将来社会人として必要な基本的な知識を身に付けるとともに、主体的に進路選択をしようとする態度を養う。</p>	
<p>⑤ 表現活動 全校演劇 大島ソーラン 全校合唱</p>		<p>全校で演劇を行うことにより、協働で一つのものを作り上げる達成感を持たせるとともに、自分の役割に責任を持って取り組む姿勢、個性を生かして取り組む姿勢を育む。内容はSDGsに関連させ、メッセージ性を持たせる。</p>	

(3) 総合的な学習の時間全体計画



4 成果と課題

大島（自分たちの住む地域）という視点に立って課題設定を行うことにより、様々な活動を通して、地域のみならず地球の将来のためにはどのような行動が必要なのかということを考え、今後の未来を見据えて行動をしようとする態度を育てることにつながった。

様々な改善や見直しによって、生徒は、大島という地域の特色をよく考え、地域の良い点、課題となる点を主体的に見付け、自分の興味・関心と照らし合わせながら探究課題を設定することができた。また、継続的な指導によって、多くの生徒が情報収集の仕方、相手に思いを伝えるためのまとめ方や情報発信の仕方を向上させた。

探究課題の設定場面で探究コーディネーターを活用した。それにより、教員とは違う視点、立場での助言を受けることができた。生徒一人一人の課題設定の内容の幅が広がり、「誰にどのような方法で伝えるのか」といった視点の明確化が図られた。また、教員に対しても「探究テーマ設定」に関する資料を提示していただいたことで、一人一人の生徒に対して具体的な指導を行うことに繋がった。

各教科で積極的にタブレットを活用し、探究的な学習の機会を多く取り入れた。アンケートやインタビューなどの調査活動において、何をどのような方法で調べ、どのようにまとめるのかをイメージすることができ、非常に有効だった。また、個人探究活動（島ゼミ）では、全員がタブレットを有効に活用し、課題設定、探究活動、まとめ・発表を行うことができた。

多くの生徒が、「今後の取組」や「更に調べたいこと」をレポートとしてまとめている。限られた学習時間の中で、これらを今後どのように実行に移し、継続した取組としていくのかを模索する必要がある。

「海と生きる」気仙沼

～未来のために私たちにできること～

【総合的な学習の時間の計画】

1 全体目標

探究的な見方・考え方を働かせ、海洋に関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 海洋に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴や良さに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
- (2) 海洋に関わることの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 海洋に関わる探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

2 学習内容

(1) テーマ

＜海洋教育＞ 「海と生きる」気仙沼 ～未来のために私たちにできること～

(2) 概要

気仙沼市の未来を考えることを通して、気候変動への対策や海の豊かさを守ること等が、自分たちの暮らしを守ることに繋がっていることを再認識させ、具体的な行動変容を目指す。

(3) ねらい（期待する生徒の姿）

探究的な活動を通し、課題意識の向上を図るとともに、課題解決の方法を多面的・多角的に考える力を一層養う。また、考えたことを多様な方法で表現し、外部へ発信することで表現力に磨きをかける。具体的な行動変容が見られるところまでを期待したい。

(4) 探究課題

①第1学年 「食・環境」 ＜ミッション型＞

食文化を切り口に、震災後の地形や海・漁港の変化、防災・減災の取組等、様々な視点から気仙沼市を取り巻く環境について改めて見直すことで、現状・課題を把握する。「食・環境」の面において、未来の気仙沼のために自分たちにできる具体策を考えていく。

②第2学年 「地域・産業」 ＜選択型 ※ミッション型 or 自己決定型＞

気仙沼市の地域・産業の特色や魅力について、地域の方々との関わりや職業体験等を通して学びを深めさせる。「地域・産業」の面において、気仙沼市がさらに発展を遂げるために、自分たちにできる具体策を考えていく。

③第3学年 「未来の気仙沼」 <自己決定型>

「食・環境」「地域・産業」を通して考えたことを基に、気仙沼市が掲げる「海と生きる」まちづくり・人づくりのために、自分たちにできる具体策を考え、発信する。

3 海洋教育で目指すもの

(1) 海洋教育のねらい

地域との結びつきを大切にし、人と関わりながら気仙沼の未来を考えることを通して、自分の考えを持ち、行動する生徒の育成を目指す。

(2) 重視する視点

- ① 協働的・・・人と関わり、協力して実践する
- ② 主体的・・・課題を自分事としてとらえ、思いや考えを表現する
- ③ 意欲的・・・挑戦し、粘り強く取り組む

(3) 海洋教育で育てたい資質・能力

海洋教育で育てたい資質・能力		学年		
		1	2	3
①人と関わる力・協力して実践する力	課題解決のために交流したり、話し合ったりする力/多様な価値を認め、相手の立場に立って考え、行動しようとする態度	◎	○	○
②自分事としてとらえる力・自分の考えを持つ力	他者の意見や情報を基に、自分なりに、より良い解決策を見出す力	○	◎	○
③思いや考えを表現する力	収集した情報や調べた結果を関連付けて整理・分析し、自分の思いや考えを伝える力	○	○	◎
④挑戦する力	自分たちの生活や暮らしの在り方を見直し、行動する態度/失敗しても粘り強く取り組む力	◎	◎	◎

4 評価

(1) 観点と評価規準

評価の観点	評価規準		
	1年生	2年生	3年生
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食・環境についての現状や特徴を理解している。 ・地域の食・環境と海洋及び自分との関わりを理解している。 ・各教科等で学んだ知識や技能を生かしている。 ・情報を比較、分類、関連付けて考えるなど、探究の過程に応じた基礎的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や産業についての現状や特徴を理解している。 ・地域や産業と海洋及び自分との関わりを理解している。 ・各教科等で学んだ知識や技能を生かしている。 ・情報を多面的・多角的に見る、具体化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりと海洋及び自分との関わりを理解している。 ・まちづくりや地域活性化の取組に関わる人々の思いや願いを理解している。 ・各教科等で学んだ知識や技能を生かしている。 ・情報を構造化する、抽象化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。
思考力 ・ 判断力 ・ 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を決定し、見通しを持って計画を立てている。 ・必要な情報を収集し、整理している。 ・調べたことを相手や目的に応じてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を見だし、見通しを持って計画を立てている。 ・必要な情報を収集し、多面的・多角的な視点で分析している。 ・調べたことを相手や目的、 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を見だし、見通しを持って計画を立てている。 ・必要な情報を収集し、視点を定めて分析している。 ・調べたことを相手や目的、意図に応じて論理的に表

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を振り返り、次の活動に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 意図に応じてまとめている。 ・学習活動を振り返り、次の活動に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現している。 ・学習活動を振り返り、次の活動・生活に生かしている。
<p>学びに向かう力 ・ 人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に、課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ・協力して探究活動に取り組もうとしている。 ・海洋と自分との関わりを見直し、自己理解に努めている。 ・他者の考えを受け入れ、尊重しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に、課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ・協力して探究活動に取り組もうとしている。 ・海洋と自分との関わりを見直し、自己理解に努めている。 ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に、課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ・自他の良さを生かしながら、協力して探究活動に取り組もうとしている。 ・海洋と自分との関わりを見直し、自己理解に努めている。 ・多様な考えを受け入れ、尊重しようとしている。 ・積極的に地域の活動に参加しようとしている。

(2) 評価の場面（方法）

- ①学習計画表の作成（計画表の点検）
- ②課題への取組（観察，自己評価，相互評価）
- ③学習計画表や自己評価の記録，収集した資料・情報等（ポートフォリオによる評価）
- ④学習のまとめ・成果物等（観察，パフォーマンス評価，自己評価，相互評価）
- ⑥文化祭での発表（観察，自己評価，相互評価，他者評価）

【総合的な学習の時間年間予定表（学年毎の活動計画）】

	行事等	1年生 「食・環境」	2年生 「地域・産業」	3年生 「気仙沼の未来」
4月	始業式・入学式	○ガイダンス① ○G.T.（事業者）講話②	○ガイダンス① ○G.T.（事業者）講話②	○ガイダンス① ○G.T.（事業者）講話②
5月	職場体験 中総体	○課題設定① ○グループ編制①（2～4人）	○課題設定のための フィールドワーク④ ○課題設定③ ○グループ編制①（2～4人）	○課題設定のための フィールドワーク④ ○課題設定③ ○グループ編制①（2～4人）
6月	期末テスト	○宿泊学習④ （海洋に関する体験） ○救急救命講習④	○課題探究⑥	○課題探究⑧
7月	駅伝大会 修学旅行	○課題探究②	○救急救命講習④ ○職場体験⑫	○救急救命講習④ ○課題探究②
8月		○課題探究 （夏休み課題）	○課題探究 （夏休み課題）	○課題探究 （夏休み課題）
9月	運動会 新人大会	○課題探究についての フィールドワーク④ ○課題探究① ○まとめ作業のための 技術講習② ○まとめ作業④ ○陸運局の体験⑥	○課題探究についての フィールドワーク④ ○課題探究① ○まとめ作業のための 技術講習② ○まとめ作業④	○課題探究についての フィールドワーク④ ○課題探究① ○まとめ作業のための 技術講習② ○まとめ作業⑧ ○修学旅行④（豊洲見学）
10月	文化祭	○まとめ作業② ○発表準備② ○文化祭発表④ （食・環境について）	○まとめ作業③ ○発表準備④ ○文化祭発表④ （地域・産業について）	○まとめ作業④ ○発表準備④ ○文化祭発表④ （気仙沼の未来について）
11月	教育相談 総合防災訓練 期末テスト 指導主事訪問 海洋教育こども サミット	○総合防災訓練⑥ ○防災講話①	○総合防災訓練⑥ ○防災講話① ○立志式に向けて⑤ （これまでの学びと 将来を結び付けて）	○総合防災訓練⑥ ○防災講話①
12月	立志式	○次年度に向けて① （さらに追究したいこと）	○立志式発表② ○次年度に向けて① （さらに追究したいこと）	○自分にできること① （これまでの学びのまとめ）
1月				○卒業に向けて②
2月	期末テスト			○卒業に向けて④
3月	入試 卒業式	○職業講話② （次年度の職場体験に つながるもの）		
	合計時数	50	70	70

【今年度の海洋教育の成果と課題】

＜成果＞

【1学年】 「気仙沼市の食・環境」について考える

- ・1学年では、「食・環境」をテーマに、未来の気仙沼のために自分たちにできることを考えさせた。地元の企業である八葉水産様と連携し、「企業として大切にしているもの」や「社会のニーズ」を自分たちなりに想像し、それに見合った商品のパッケージ「2030年の八葉水産が扱う商品とパッケージ」を考えることで、地域の現状や課題を把握し、具体策を考えさせることができた。「企業として大切にしているもの」や「社会のニーズ」を自分たちなりに考え、それに見合った商品のパッケージを検討することを通して、地域の現状や課題を把握させ、具体策を考えさせることができた。



1年生
「めかぶの湯通し体験」の様子

【2学年】 「気仙沼市の地域・産業」について考える

- ・2学年では、「気仙沼市という地域・産業」をテーマとして、海洋教育と関連付けて学習させた。グループごとに商業や観光業に関するテーマを設定し、市役所や地域の会社の協力をいただいで調べ学習を行わせた。観光業では、自分たちで考えた観光客を増やすためのアイデアを実現できるか、地域のNPO法人の方々と話し合いを行った。この学習を通して、気仙沼市の産業は海と密接に関わっており、自分たちの生活にも大きな影響を及ぼしていることを学習させた。



2年生
「地域・産業」発表会の様子

【3学年】 「未来の気仙沼」について考える

- ・3学年では、「未来の気仙沼」をテーマとして、「食・環境」「地域・産業」を通して考えたことを基に、気仙沼市が掲げる「海と生きる」まちづくり・ひとづくりのためにできることをSDGsとの関わりを大切にしながら考えさせた。地域の交通網のメリットとデメリットに目を向けさせ、地域の方々へのアンケート結果を生かして交通網の改善策を提案したグループや、平坦な土地が少ない気仙沼に「水中トンネル」を作り、そこにレストランなどを作って観光客を増やそうと提案したグループもあった。「未来の気仙沼」を創造しようとする取り組みが未来の気仙沼を支える大人への第一歩とさせることができた。



3年生
「未来の気仙沼」発表会の様子

<課題>

- ・来年度、海洋教育を推進し、3年目を迎える。面瀬小学校との連携を図り、小・中9年間の見通しを持った教育課程の編成を考え、総合的な学習の時間の充実を図っていかなければならない。探究的な見方・考え方を働かせ、海洋に関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるように更なる指導の工夫が必要である。今後も地域との結び付きを大切に、人と関わりながら気仙沼の未来について考えを巡らせる中で、自分の考えを持ち、行動できる生徒の育成を目指していきたい。

気仙沼市立唐桑中学校

「海のまち」唐桑の未来を考える

～まちを知り、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか～

1 海洋教育にかかる計画（総合的な学習の時間全体構想図－抜粋）

「総合的な学習の時間」全体構想図



テーマ「まちを知り、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか？」

	学習テーマ（問い）	主な学習活動	現代の課題等
1年	探究的な学習「防災」 「防災のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか	1 全体導入、問題紹介、ノート指導 2 単元①「災害に備える－海抜表示」（集団学習） 3 夏休み自主活動 4 単元②「自然に感謝する」（集団学習） 5 文化祭発表 6 個人ノート、レポートづくり	自然破壊、自然災害、食糧問題、温暖化、少子高齢化、第一次産業衰退、TPP、震災、仮設住宅
2年	探究的な学習「福祉」 「福祉のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか	1 全体導入、問題紹介、ノート指導 2 単元③「福祉と共生を学ぶ」（集団学習） 3 夏休み自主活動 4 単元②「仲間と共に歩む」（集団学習） 5 文化祭発表 6 個人ノート、レポートづくり	いじめ、不登校、少子高齢化、ニート、引きこもり、挨拶や言葉、男女、宗教、コミュニケーション、震災復興、家族の問題、障がい者との共生
	職場体験学習	希望する職場での体験学習から職業生活の実際を学ぶ	
3年	探究的な学習「海」 「海のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか	1 全体導入、問題紹介、ノート指導 2 単元①「人々を元気にする作戦を考える」（集団学習） 3 夏休み自主活動 4 単元②「私の考えた大切なこと」（集団学習） 5 文化祭発表 6 個人ノート、レポートづくり	地域づくり、国際紛争、男女や幼老の問題、人権問題、虐待や暴力、格差社会、自然破壊
	進路探究学習	修学旅行で企業等を訪問して自己の進路の探究に役立てる	

2 単元計画（3年）

テーマ	時数
海のまち「唐桑」を知る	7時間
海のまち「唐桑」の未来を考える	17時間
海のまち「唐桑」の未来のために行動する	16時間

3 今年度の実践概要（グループによる探究活動から）

実践1：小学生を対象とした「海と親しむイベントの企画・運営」

小学生からのアンケートに基づき、震災前のように子どもが唐桑の海ともっと親しめるようになることを目的に、夏季休業中に「ギョリンピック」と名付けたイベントを企画した。地域支援コーディネーターや公民館などの関係機関の協力を得て準備を進めたが、当日は台風接近のため中止となってしまった。一つのイベントを企画するために楽しませる視点の根底に、安全面の配慮や準備がいかに大切かを学ぶことができた。

実践2：身入りの少ないウニの異常繁殖のために起こる「磯焼け」とその解決の試み

報道で耳にしていた海の磯焼けについて、唐桑の海の現状を漁協に取材し、改善に向けた取組にはどのようなものがあるかを調査した。身入りの少ないウニを捕獲し、畜養して商品として出荷している企業があることを知り、その取組を多くの方々を知っていただく活動を通して、困り事をチャンスに変える実践があることを学ぶことができた。

実践3：生分解プラスチックの開発の現状と課題

海洋ゴミの問題を解決するための方法の一つとして、自然に分解してしまうプラスチックがあればという考えに基づき探究した。実際に研究・開発している企業にメールで取材をお願いしたが、残念ながら返事は得られなかった。生分解プラスチックの存在と、この先の可能性について、チラシを作って文化祭に来ていただいた方に知らせた。これらの活動を通して、視点を変えることで問題解決の方法が見つかることを学ぶことができた。



フィールドワーク

- ・Coco唐さんで、制作に使用している布地についてインタビュー



海から見た「唐桑」研修

- ・大島汽船の方から、船舶の識別番号についての説明を聴く

4 今年度の海洋教育の成果と課題

〔成果〕

- ・生徒の興味や関心に基づいた課題を設定したことで、生徒が主体的に探究活動に取り組むことができた。
- ・地域支援コーディネーターの方々に、定期的に探究活動の過程を確認していただき、適切な助言をいただいたことで、生徒は見通しをもって活動することができた。
- ・ICT機器を活用して作成した動画を発表に活用するなど、複数の情報発信の方法からより効果的なものを選択することができた。
- ・地域の団体や商店での取材やオルレコースでのフィールドワークなどを生徒自身が計画し、実行したことで、体験から学ぶことができた。
- ・探究学習を通して、自分たちにできることを広めていこうという前向きな行動が見られた。

〔課題〕

- ・与えられた提案等に対して受け入れる気持ちが強く、批判的に物事を考えることが課題である。
- ・グループ毎に計画する体験活動やフィールドワークに対応するための人的、方法的な工夫をしていくことが課題である。

気仙沼市立大谷中学校

「海と生きる大谷地区がより活気づくためのプロジェクトを提案し、行動しよう」

本校の海洋教育の位置づけ

地域、自然を活用した様々な活動を通して、大谷の海と山の関係から地域のよさを知り、学校テーマ「海と生きる大谷地区がより活気づくためのプロジェクトを提案し、行動しよう」の下、プロジェクトを提案し、行動する実践力を育む。そのために、地域企業や研究者の方々に講師になっていただき、山と海の関係についての学習活動の他に、海藻養殖、磯焼け、ウニの畜養の実態、大谷の各漁協（魚市場）に水揚げされる魚種調査、大谷道の駅での養殖したウニの販売などの調査・体験活動を踏まえた探究的な学習を行う。それらの活動・学習を通し、自分たちの生きる地域の魅力について知り、地域に対する愛着を深める。

○時数 4月から12月（総合的な学習の時間50、理科、社会科、技術家庭科、国語）※他教科は次年度以降に関連項目で実施する。

○関連教科 理科、社会科、技術・家庭科

○目標

- (1) 与えられた課題を解決するためにどのような方法を用いて課題解決に迫るか自ら検討し、調べ学習や体験学習にとどまらない活動を実施する。
- (2) 「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、小課題を発見・設定する。
- (3) 各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えさせる。
- (4) 地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来を考えさせる。

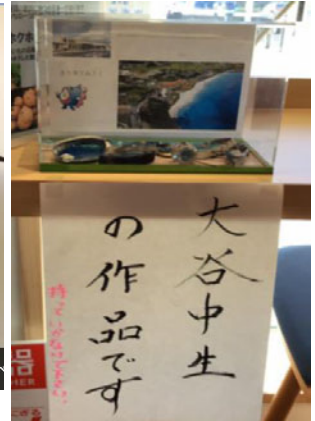
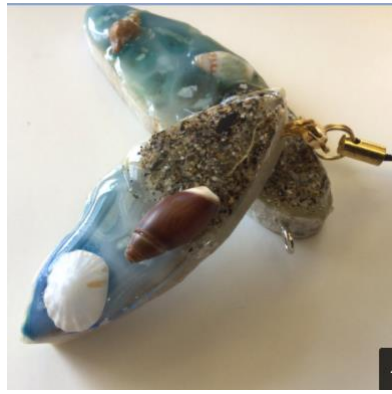
全体計画

日程	4月	5月	5~7月	8月	9~11月	12月	2月
	オリエンテーション 企画書作成	企画書関係 関係機関とのアポイント 活動開始	調査活動 探究活動	フィールド ワーク実施	調査活動 探究活動	まとめ発表 大谷公民館での成果発表会	海洋教育全国ネット
活動の流れ	<p style="text-align: center;">プロジェクト型学習 「海と生きる大谷地区がより活気づくためのプロジェクトを提案し、行動しよう」(50時間)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>オリエンテーション</p> <p>① 昨年までの取り組みを知る（教員） ② 地域を知る。（まちづくり委員会、道の駅職員など） ③ 地域の取り組みを知る。（パネルディスカッション） ④ 課題をとらえる。（それぞれについて課題を知り、班編制実施）</p> <p>現状を知る！ 課題意識を持つ！</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>多くの人とかわかり、考えを広げ、深める！ 思い、願い、考えを形（提案・行動）にする！</p> <p>企画書作成 企画書を作成し、見直しの中で何をどのように調査するかなどの日程を自分たちで計画立案。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>調査活動 各関係機関と連携しながら、体験活動や調査活動を実施し、そこから大谷中学生としてできることを提案する。 ※インターネットによる調べ学習で終わる学習形態を少なくする！</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">成果発表および提案</p> <p>地域の人や学習に携わった方々、報道機関を招致して、大人に提案する！ 地域の方と連携して取り組んだことを発表し、更に協力を依頼する！ 大谷公民館などで地域住民に提案する。</p>						
他教科との関連	<p>【理科】 ・わかめとめかぶ遊走子の観察と海藻の生活史、・天気の変化を予想しよう、気象災害への備え、パファンウニを用いた稚ウニの実態、セキツイ動物の出現と進化、ウニの有性生殖と発生&継続観察による飼育</p> <p>【社会】 ・世界から見た日本の姿、日本の諸地域、北海道地方</p> <p>【技術・家庭科】 ・パソコン技術、地域の恵みを使った調理実習、持続可能な社会を考える</p>						

本校で実践した探究的（協働的・往還的）な活動の具体事例

1. 海洋教育の中で、地域を元気に活性化するためにはどうするかを子供達に考えさせ、調査や探究活動を実施しながら、「私たちにできること」を考えて行動させる活動を実施した。

- ・メカジキのフンでアクセサリー作成
- ・アワビの殻でアクセサリー作成
- ・ウニの殻を使って作ったウニランプ



地域資源として捨てられてしまっているものに注目し、アクセサリーを作成した。作成した物を大谷海岸道の駅に展示してもらうだけでなく、道の駅で7000円分の買い物をしていただいたお客さんにプレゼントするプロジェクトを道の駅で実施した。※スタンプラリー活動

・海藻染め復活プロジェクト

地域で厄介者になっている海藻に注目し、利用できないかと考え、海藻染めに注目した。海藻染めに関わっていた地域住民の方に資料提供を頂いて試行錯誤しながら海藻染めを行った。地域の大谷公民館で地元住民の方を対象とした海藻染めで作ったバックに大谷の海をイメージしたデザインを行うワークショップを実施した。地域住民の方に海を取り巻く現状や、海藻染めについて伝える場を設定した。



・海藻アイス

・メカカツで創作料理、地元飲食店との共同開発

・ウニパンでラスク

・大谷芋でポテトチップス

・マンボウ肉で調理したバーガー

地域の食材資源に注目し、地元の飲食店（おだづまっこ様、この後どうする様）とコラボレーションすることができた。何度か味付けや調理方法について打ち合わせを行った。協議の結果、お弁当として販売したり、新たな商品としてメカカツサンドの商品化が決定した。



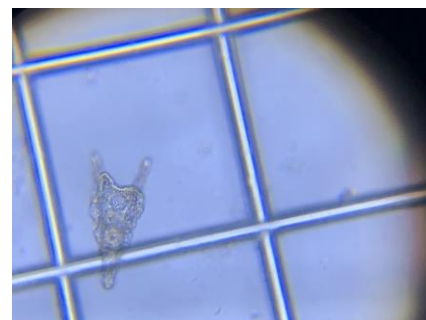
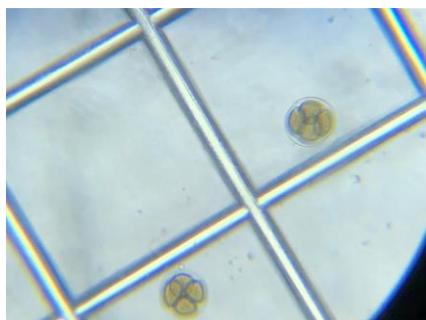
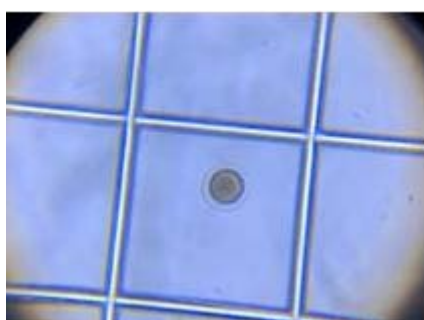
・新聞バックでプラスチック削減

海と環境をテーマにしたグループは、プラスチックゴミが増えていることに注目し、ビーチクリーン活動や道の駅にゴミのポイ捨てを啓発するメッセージを添えた、ゴミ箱を設置することでゴミを減らす取り組みを行った。

以上のような取り組みを実践した。今年度は更に具体的な提案や行動に踏み込んだ活動が増えた。自分たちでこの大谷地区を活気づかせるためには何が必要なのかをテーマに沿って考え、実現に向けて地域の様々な方々との繋がりを増やし、実際に会い、思いを伝える活動を実施した。その中でも、2年生のグループでは、海と地域資源を着眼点とし、地域の飲食店、道の駅、公民館に何度も足を運び、自分たちの思いを伝え、商品化や公民館でのイベントの実施、道の駅でのスタンプラリー活動など、地域が活性化するための具体的行動を実施できた。

・リサイクルゴミ箱の設置

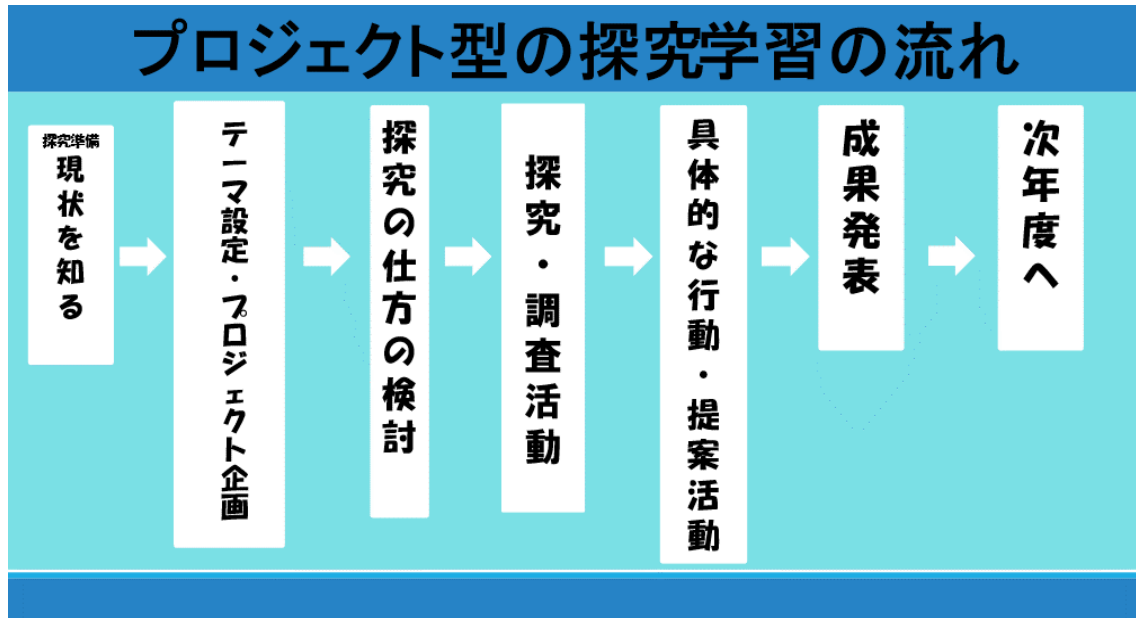
2. ウニの生殖の実験から継続観察の実施、厄介者になっているウニがどのように誕生するのかを中学校3年生の理科の生物単元で実施した。※略案は別紙参照



今年度改善した取組の概要（改善の視点や意図、改善の方向や計画、改善した内容など）

1. 調べ学習に重きを置いていた学習活動からプロジェクト型の探究活動に切り替えたこと。

地域との関わりや課題の中から、中学生である「私たちに」できることは何かを考え、提案することで、自分達が住んでいる地域を元気にするためにはどうするかを考え行動できる生徒を育めるような活動計画を立て、実践した。



2. デザインシートを用いた誰もが実施できる活動計画の作成

ESD や海洋教育を研究者が行うような難しい学習と捉えて、実施にあたってはハードルが高いと感じている教員が多かった。そのため、関係機関先をまとめ、どのような道筋で探究活動を進めていくかを一目見れば分かるデザインシートを作成した。

3. 外部連携先のリスト化

担当者以外でも、子供達の探究的な学習を深めるために研究者、研究施設、漁業者、道の駅、NPO 団体などをリスト化して、教職員全員が様々な関係機関とつながることができるようにした。

科学的な探究活動、社会的な探究活動の両面で活動を支援いただける連携機関とあらかじめ繋がりをづくり、子供の探究を深める環境を構築した。

主 な 連 携 機 関	内 容
大谷道の駅	地域企業の事業と山と海の関係の学習、養殖
大谷漁協、三島漁協、赤牛漁協	大谷の各漁協（魚市場）に水揚げされる魚種調査や復興に関するインタビューなど、海藻養殖、磯焼け対策
お茶の水女子大学湾岸研究センター	ウニの発生、ウニはどのように大きくなるか ※教材の提供
北日本水産	アワビの稚貝、アワビの養殖、アワビの殻を提供してもらいアクセサリーを作成
気仙沼市立大谷小学校	授業参観、拡大校内研修会
本吉共同調理場	大谷の物産を生かした新メニューの開発、給食での提供
大谷地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動
大谷まちづくり委員会	地域活性化のイベント（観光客を呼び寄せるにはどうするか）

はまわらす	地域の NPO 法人でビーチクリーン活動について
水産試験場	海を取り巻く状況について講話実施
地域の漁師さん 2 名	メカジキのフンの提供、大谷地区の海の地域資源の講話
地域の農家さん 1 名	海藻を肥料とした大谷芋の飼育
アクアラボ（菅原理香さん）	アクセサリーの作成方法

改善による（改善に向けた）成果と課題

教科などにおける往還的な取り組みは、理科を中心に行った。ウニの生態観察を中学 3 年生「有性生殖」にて取り扱った。また、中学 2 年生では海洋教育副読本を活用して、気象と海流を関連付けて海流が止まるとどんな影響があるかを考えさせることにより、海と地球温暖化について考えさせた。

海洋教育を通して、海との関わりだけではない SDG's の目標を達成できるように、地域の人、商品開発や販売の方々と関わりの中で、地元を活気づかせる取り組みを考えて行動することを通して、海洋教育で目指したい資質能力を身に付けることにつながったと考える。

地元をどうすれば活性化することができるかという視点で、様々なアイデアを出し、地域の飲食店（おだずまっこ様、この後どうする？様）や地域の道の駅の駅長さんに提案することができた。

この海洋教育の活動を通して、「地域の一員として地域を愛し、生まれ育った住む場所の未来を考えて行動できたか」というアンケートの項目では、「地域に貢献しようとする気持ちが高まった」、「もっと大谷地区を元気にしたい」、「自分たちにできることは何かという視点で地域のことを考えることができた」などの記述から、**地域社会に貢献しようとする態度**の高まりが見られた。また、本年度より海洋教育を全校で実施している。着眼点に 1 年生が「環境保全」、2 年生が「資源活用」、3 年生が「経済活性化」である。1・2 年生で取り組んだ探究を 3 年生で経済活性化と結びつけ、地域でイベントを開催したり、商品開発に結び付けるなど、系統的な学習プログラムを確立することができた。全学年を通して、地域の方々に提案をする場まで到達した。特に 2 年生では地域資源を活用した商品開発を地域の飲食店と成し遂げたことがより踏み込んだ探究となった。実際のルーブリック評価によるアンケートでも、地域の方々と連携して課題解決できたという項目の上昇が見られた。人と関わり課題を解決する力を伸ばすことができたと考える。

課題としては、より一步踏み込んだ提案性のある探究にしていくことである。行動に移し、地域の道の駅の駅長さんに提案することができるが、何度も検討して、ブラッシュアップしながら課題解決を進めていくことができない学年も見られた。教師が探究とは何かを考え、生徒の意見を実現しうる教師自身の探究心の向上が課題であり、校内研修を通したより具体的なイメージの共有化を行っていく必要があると感じる。

次年度はテーマに基づいたより具体的な行動に踏み込んでいける探究学習の環境を整えることを目標として活動していきたい。

別紙資料 1 : 3 年理科「ウニを活用した授業実践（有性生殖）」

過程	学習内容と活動	形態	指導上の留意点(○),評価(◇),活用の場(◎)
2分	<p>1. 既存の知識を確認する。 ○有性生殖について確認する。 ○受精とは何か。</p>	一斉	○課題につながるように,受精について視覚的に写真や絵で示す。(卵に精子がつく様子)
	<p>2. 本時の課題を把握する。 受精すると卵にはどのような変化が起こるか。</p>	一斉	○ワークシートを配り,課題を書かかせる。
3分	<p>3. 予想を立てる。 ○「受精すると受精卵にはどのような変化が起こるか」考える。</p>	個人	◎予想をいくつか挙げて,全体で共有させる (考える場) 。
	<p>4. 予想を全体で共有する。 ・「膜を張る」 ・「他の精子を寄せ付けない成分を出す」</p>	一斉	○予め,ワークシートや板書に注意事項や流れを示しておく。
3分	<p>5. 観察の方法を理解する。 ・実験器具についての使い方を習得する。</p>	一斉	○精子と卵は排出させておき,すぐ観察できるようにしておく。
26分	<p>6. 観察を行う ・卵の入ったプレパラートに精子を入れて,その様子を観察する。 ・受精した際の受精卵の変化をスケッチする。</p>	個人	◇◎受精膜を観察することができる (活用の場) 。 ○観察の終わった生徒から観察器具を片付けさせる。
8分	<p>7. 観察結果から分かったことをまとめ発表の準備をする。 ○「受精卵に起こった変化は何か」考える。</p>	グループ	◎グループで,分かったことについてまとめ,発表させる (活用の場) ◇根拠をもとに課題を解決しようとしているか。
8分	<p>8. 観察結果を共有し,本時のまとめを行う。</p>	一斉	

第9回海洋教育こどもサミット in 東北(オンライン)本番 実施要項

1. プログラムのねらい

これまでのこどもサミットでは、学習内容の発表・交流を経て、こども達の学習をさらに深める議論の時間などを設定してきました。今回のプログラムは、発表動画の作成を行うことで学習内容を整理し発信したうえで、ワークショップにて、一人一人の課題意識や考えがどのように深まったかを見取ること

に焦点を定めています。
「海のはた」のデザインに挑戦することで、各校の海洋教育の学習から形成された一人一人の思考を深めるとともに、その様子を具体的に可視化し見取ることができるものとするのが、今回のワークショップ全体のねらいです。11月26日の本番は、自己の考えを他者に伝える機会、そして多様な考えに出会い多角的・多面的思考を今後深めるためのきっかけとして設定しています。

2. 開催概要

期 日：令和3年11月26日(金) 13:35～15:20

主 催：東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター、公益財団法人日本財団

後 援：文部科学省

参加校： 1 岩手県洋野町：

種市小学校、角浜小学校、宿戸小学校、中野小学校、大野小学校、林郷小学校、
帯島小学校、向田小学校、種市中学校、中野中学校、大野中学校

2 宮城県気仙沼市：

唐桑小学校、面瀬小学校、中井小学校、大島小学校、大谷小学校、小泉小学校、
松岩小学校、鹿折小学校、気仙沼小学校、階上小学校、面瀬中学校、大島中学校、
大谷中学校、階上中学校

3 福島県只見町：只見中学校

日 程： ※「7. プログラムの流れ」もご確認ください。

- ① 開会行事 こども代表の開会宣言、主催あいさつ(日本財団 梅村岳大様)
発表動画を含むこどもサミット全体のねらいの共有
- ② ワークショップ 日程の共有
交流×2回 *ブレイクアウトルーム。交流相手は「4. 組み合わせ一覧」参照。
1校目 発表(5分)+他2校からコメント/感想(計3分めど)
2校目 発表(5分)+他2校からコメント/感想(計3分めど)
3校目 発表(5分)+他2校からコメント/感想(計3分めど)
クロージング(参加校からのシェア、クリエイターからのコメント)
- ③ 閉会行事 主催まとめの言葉(海洋教育センター長 田中智志)
こども代表の閉会宣言、事務連絡

3. 11月26日の本番接続先

開場～開始時刻の間に、下記に接続いただくようお願いいたします。「5. 接続テスト（任意）」もご活用ください。

日時：11月26日（金） 13時35分～14時20分 （13時00分 開場）

<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/82714598839?pwd=Y1lWOXpjSCtBa3B0SjJFaEh4dXArdz09>

（ミーティング ID: 827 1459 8839 パスコード: 965480）

4. ワークショップ交流組み合わせ一覧（予定）

	1 ターン目のブレイクアウトルーム（発表順）	2 ターン目のブレイクアウトルーム（発表順）
1	<u>宿戸小学校</u> → 唐桑小学校 → 種市小学校	<u>宿戸小学校</u> → 小泉小学校 → 鹿折小学校 B
2	<u>中野小学校 A</u> → 鹿折小学校 B → 帯島小学校	<u>中野小学校 A</u> → 角浜小学校 B → 唐桑小学校
3	<u>大谷小学校</u> → 角浜小学校 B → 林郷小学校	<u>大谷小学校</u> → 中野小学校 B → 松岩小学校
4	<u>角浜小学校 A</u> → 小泉小学校 → 中井小学校	<u>角浜小学校 A</u> → 大島小学校 → 帯島小学校
5	<u>面瀬小学校</u> → 中野小学校 B → 階上小学校	<u>面瀬小学校</u> → 種市小学校 → 気仙沼小学校
6	<u>大野小学校</u> → 気仙沼小学校 → 大島小学校	<u>大野小学校</u> → 階上小学校 → 向田小学校
7	<u>鹿折小学校 A</u> → 向田小学校 → 松岩小学校	<u>鹿折小学校 A</u> → 林郷小学校 → 中井小学校
8	<u>階上中学校</u> → 大野中学校 A → 只見中学校	<u>階上中学校</u> → 大島中学校 → 大野中学校 B
9	<u>中野中学校</u> → 大島中学校 → 種市中学校	<u>中野中学校</u> → 只見中学校 → 面瀬中学校
10	<u>大谷中学校</u> → 大野中学校 B → 面瀬中学校	<u>大谷中学校</u> → 種市中学校 → 大野中学校 A

※ 複数グループで参加される学校は、便宜上 A グループ・B グループとしております。

※ ブレイクアウトルームでの交流の間は、進行役の分担にご協力ください（「7. プログラムの流れ」参照）。児童生徒が進行することも歓迎しますが、交流の終了時間にご注意ください。

※ ブレイクアウトルームでの交流の開始時間は準備次第で早めていただいても問題ありません。終了時間は予定通りになるようご協力ください。

5. 接続テストのご案内（任意参加）

本番の前日・前々日に接続テストを実施いたします。Zoom の操作や接続にご不安のある場合は、実施時間内に下記 URL よりご参加ください。本番での Zoom 操作の流れ・方法を 15 分程度で確認いただくことができます。

日時：11月24日（水）、25日（木） 各 14時30分～17時30分

<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/86318968140?pwd=dkl4amE3cEdheVICQTILcVR5eDBwdz09>

（ミーティング ID: 863 1896 8140 パスコード: 285069）

6. 11月26日当日の緊急連絡先

機器関係 担当：布施（080-5525-0126）

その他 担当：田口（090-1997-6903） ※布施へつながらない場合もこちらへおかけください。

海のはたプロジェクト

「海のはた」をデザインしよう

デザイン・テーマ

わたしが叶えたい、未来の海

「はた」には、「シンボルマーク」「意思表示」「士気を高める」などの役割があります。このワークショップでは、海洋教育に取り組む子どもたち一人ひとりに、学習の中で感じたこと・考えたことを「海のはた」として形にしてもらいます。レクチャーするのは、テレビCMなどの広告やコンテンツ制作などを手がける、デザインや言葉のプロたち。デザインの視点を通して、楽しみながら自らの考えを深めてもらうことを目指します。

学習のねらい

海を取りまく課題を
自分ごと化する

自分の考えを
明確にする

自分なりの
表現を見つける

自分と違う
考えや価値観を知る

11月26日の交流会では、自分と違う考え・価値観と出会います。

他の人の「叶えたい未来の海」とあなたの「叶えたい未来の海」は、どう関わっているのでしょうか。

そして、両立させるには何が必要になるのでしょうか。ぜひ考えてみましょう。

スケジュール

① 10月最終週	オンラインレクチャー(希望校のみ)	広告制作会社(サン・アド)によるレクチャーです。参加されない学校は、アーカイブ動画や資料を利用して、子どもたちへ「はた」作成のねらいをお伝えください。
② 11月16日(火)	「海のはた」づくり → 提出	「海のはた」の作成を進めながら、はたを紹介する写真を各校3点お送りください。制作途中のもので構いません。
③ 11月26日(金)	オンライン発表会	子どもサミット当日!各校の代表者に自分たちの「海のはた」を発表してもらいます。
④ 12月~1月中	「海のはた」共有と仕上げ	発表会での交流と、プロからのアドバイスをもとに、子どもたち全員で各自の「海のはた」をさらにブラッシュアップしてみましょう。
⑤ 2月中	メッセージ交換 & 表彰コメント	他の学校がつくった「海のはた」で、良いと思ったものへ感想を送りましょう。2月下旬にサン・アドから表彰コメントを発表します。



第9回海洋教育こどもサミット in 東北 (オンライン大会)

令和3年11月26日(金)に、『第9回海洋教育こどもサミット in 東北』がオンラインで開催されました。気仙沼市、岩手県洋野町、福島県只見町の3地域26の小中学校による発表録画の視聴と、私が叶えたい未来の海を表現した「海のはた」ワークショップによる交流を行いました。各地域・各校の海洋教育の実践を紹介するとともに、一人一人が思い描く海のイメージを感性豊かに表現し、意見交換を通して地域理解や相互理解を深めながら、海と自分たちとのつながりを考え、海と人との共生について学び合いました。各校の発表録画は「海洋教育ウィーク」の期間中に配信され、海洋教育に関わる多くの方々にも広く視聴していただくよい機会となりました。



開会行事

13:35~13:45

- 1 こども開会宣言 … 洋野町立宿戸小学校 代表児童4名
- 2 主催者あいさつ … 日本財団 梅村 岳大氏
- 3 こどもサミットのねらいの共有 … 東京大学海洋養育センター 特任講師 田口 康大氏



各地域・各校の取組紹介(海洋教育ウィーク 11/19~11/26 YouTube配信)

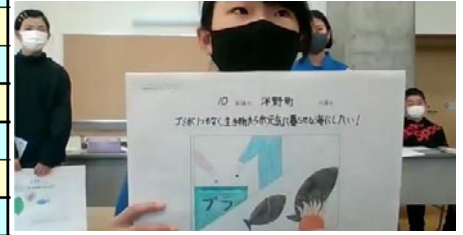
公開日	公開時刻	学校名	発表タイトル
11月19日(金)	1時00分	岩手県洋野町立宿戸小学校	「宿戸の海を守る!」~わたしたちができること~
	2時00分	宮城県気仙沼市立唐桑小学校	私たちの未来のために
	2時00分	宮城県気仙沼市立鹿折小学校	海で復興 未来へつなぐ「気仙沼の魅力発信」プロジェクト
	2時00分	岩手県洋野町立帯島小学校	森と海をつなぐ川
	3時00分	宮城県気仙沼市立小泉小学校	小泉の海めぐみについて
	3時00分	宮城県気仙沼市立中井小学校	「海と生きるビジョン」~私たちにできること~
11月22日(月)	1時00分	宮城県気仙沼市立大島小学校	大島の海と生きる
	2時00分	岩手県洋野町立角浜小学校	洋野のウニPR大作戦
	3時00分	岩手県洋野町立中野小学校	洋野の魅力を未来へつなごう~洋野の海や魚を守るために~
	2時00分	宮城県気仙沼市立階上小学校	豊かな海をいつまでも
	1時00分	宮城県気仙沼市立大谷中学校	海と生きる大谷地区がより活気づくためのプロジェクトを提案し、行動しよう
	2時00分	岩手県洋野町立大野中学校	海洋発表
11月24日(水)	1時00分	岩手県洋野町立向田小学校	豊かな海を守る森林づくり
	2時00分	宮城県気仙沼市立松岩小学校	森と海をつなぐ
	1時00分	岩手県洋野町立大野小学校	ふるさと大野大発見~一人一葉の里に生まれて~
	2時00分	宮城県気仙沼市立気仙沼小学校	「気仙沼復興プロジェクト」~気仙沼の魅力と人と人とのつながりを~
	2時00分	福島県只見町立只見中学校	自然首都 只見からの発信 世界を変える中学生の挑戦
11月25日(木)	2時00分	宮城県気仙沼市立階上中学校	津波災害への備えや教訓から、自分の将来、地域・社会とのつながりについて考える「防災×海洋」
	1時00分	宮城県気仙沼市立大谷小学校	考えよう 大谷の未来
	2時00分	岩手県洋野町立林郷小学校	有家川から考えた洋野の海
	2時00分	宮城県気仙沼市立立涌中学校	気仙沼の農業 気仙沼の特産物や地産地消・震災後の農業の変化
11月26日(金)	2時00分	岩手県洋野町立中野中学校	洋野町と他地域との比較から 洋野町の海の課題解決
	1時00分	岩手県洋野町立種市小学校	海の豊かさを守り、生かして、人々が幸せを感じる町になるように
	2時00分	宮城県気仙沼市立立涌小学校	ふるさと気仙沼の海
	2時00分	岩手県洋野町立種市中学校	100年先も、おいしいウニを食卓に
2時00分	宮城県気仙沼市立大島中学校	30年後の大島に伝えよう	



「海のはた」ワークショップ・交流

13:55~14:50

グループ	1ターンのブレイクアウトルーム (発表順)	2ターンのブレイクアウトルーム (発表順)
1	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	宿戸小 → 小泉小 → 鹿折小B
2	中野小A → 鹿折小B → 帯島小	中野小A → 角浜小B → 唐桑小
3	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	大谷小 → 中野小B → 松岩小
4	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	角浜小A → 大島小 → 帯島小
5	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	面瀬小 → 種市小 → 気仙沼小
6	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	大野小 → 階上小 → 向田小
7	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	鹿折小A → 林郷小 → 中井小
8	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	階上中 → 大島中 → 大野中B
9	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	中野中 → 只見中 → 面瀬中
10	宿戸小 → 唐桑小 → 種市小	大谷中 → 種市中 → 大野中A



まとめのこたば

15:10~15:20

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター長 田中 智志 氏

- 「海のはた」づくりでは、見えないものを見る構想力を養える。自分の想像力を解放することが大切であり、自由な感性により自分で考え表現していくことの楽しさを味わってほしい。
- 海を大切にしたいという共通の思いが海とのつながりを表している。旗という具体的な物を通してそのことが見えてくる。なぜ海を大切にしたいという思いが失われていくのか、どうしていけばよいか、答えのないことを探究して行ってほしい。



閉会行事

15:20~15:30

- 1 こども開会宣言 … 気仙沼市立大島中学校 代表生徒
- 2 事務局連絡 … 東京大学海洋教育センター 特任研究員 梶川 萌 氏



生徒代表あいさつ(大島中)

令和3年度
市教育研究員

海洋教育領域
実践概要

【研究主題】

思いを持って表現し，学びを深める海洋教育の在り方

～対話的な学びに重点を置いた指導の工夫を通して～

【研究実践（指導案）】

- 1 気仙沼市立松岩小学校 教諭 三浦 大樹
6年2組 総合的な学習の時間
「地球温暖化と海洋」
- 2 気仙沼市立大谷小学校 教諭 佐藤 祐司
3年1組 総合的な学習の時間
「身近な場所の避難の仕方を考えよう」



I 研究について

1 研究主題

思いを持って表現し、学びを深める子どもの育成

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

我が国では、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく急激に変化しており、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決したり、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現したりするなど情報を再構築することができるようにすることが求められている。

幼稚園教育要領では、幼稚園教育で育てたい資質・能力が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示され、「生きる力の基礎」を育むことの重要性が示されている。教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めると示されている。

小・中学校学習指導要領では、教育課程に基づく教育活動を展開する中で、子どもたちに必要な資質・能力がバランスよく育まれるよう、学校段階等間の接続や教科等間の連携を図った教育課程について明記されている。また、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むため、「何を学ぶのか」「どのように学ぶか」を重視することや社会に開かれた教育課程をつくる必要があると示されている。

第2期気仙沼市教育大綱（令和2年1月）においては、10項目を基本目標としている。基本目標の1つに当たる「学ぶ力と自律する力の育成」では、具体的な取り組みを次の4つ挙げており、「基礎的な学力の定着と活用する力の伸長」においては、小・中学校の学習活動を工夫して授業改善を図ることが述べられている。また、「防災教育の推進」においては、東日本大震災の経験を生かす、地域や関係機関と連携・協働した防災教育を進めることが述べられている。「読書活動の推進」においては、情報化社会に生きる基盤、感性や論理性を磨き高い志を育む基礎として読書活動を推進することが述べられている。「『幼・保・小・中・高』つながりを重視した教育の推進」においては、子どもの成長と学びの連続性を踏まえ、幼児教育から義務教育、高校教育へのつながりを重視し、校種間の接続と系統的な学びの構築について述べられている。また、基本目標の6つ目に当たる「幼児教育の充実と家庭・学校・地域が協働して子どもを育てる環境づくり」においては、「幼児教育の充実」が述べられており、子どもの基本的な生活習慣の確立と豊かな情操を育み、学びの土台づくりを進め、カリキュラム編成や教員研修の充実を通して小学校への円滑な接続を図ることが重要であると示されている。

以上のことを踏まえ、幼稚園・小学校・中学校のいずれにおいても、自分の思いや考えを持たせ、友達と伝え合う活動や集団での学びを通して、様々な意見や考えに触れさせ、自分の考えを更に深めることができる子どもの育成を目指して研究を進めていく。

(2) 幼児・児童・生徒の実態から

これまでの授業実践から、幼稚園では年齢や経験の差から様々な活動へと向かう姿に個人差が見られること、小・中学校では与えられた指示や課題には熱心に取り組むが、その学びを展開していくことは苦手であるという姿が見られたことから、主体的に学びに向かうという点において課題が感じられた。また、意見を発表したり伝え合ったりする場面では、発言する子どもがいつも同じになりがちであるという課題が幼稚園・小学校・中学校においてどの段階でも見られた。それらの背景には、発言力のある友達に意見が言えない、自分の意見

を持っていても自信がない、発言を躊躇してしまうなど、様々な要因があると考えられる。

小学校4年生から中学校3年生までを対象に行った、令和2年度児童生徒質問紙調査（5月、12月実施）において、（1）学習全般（教科学習）で、「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」という項目で肯定的な回答が増加した。一方で“課題設定”“自力解決”“振り返り”の項目では回答の比率に変化のない学年や、低くなっている学年もあった。

このことから、自ら学びに向かおうとする姿や、自信を持って思いを伝えようとする姿、友達との伝え合いから学んだことを更に自分の学習や活動に活かしていこうとする姿を育むために、対話的な学びを今後も積極的に取り入れていくとともに、対話的な学びで得たものが子ども一人一人の深い学びに結び付くように、活動の工夫や授業改善を行う必要があると考える。

（3）昨年度の課題から

昨年度は「自ら考え、学び合う気仙沼っ子の育成」を研究主題として、幼児教育、教科指導、海洋教育の3領域で、それぞれ2つの視点から手立てを講じ、分析・考察を行った。

幼児教育では、「幼児の自発的な遊びを促す工夫」、「幼児の気付きや発想を生かした遊びの工夫」の2つの視点から研究を進めた。遊びのヒントや発達段階に応じたドキュメンテーションを掲示したり、幼児の思いや活動の見通しなどを可視化して表示したりすることで、友達との関わりを広げ、活動意欲を引き出すことにつながった。また、友達と思いを共有したり、自ら遊びを進めようとしたりする主体的な姿を引き出すことにつながった。しかし、育てたい幼児の姿の捉えが不十分で、具体的な手立てが不足していたため遊びに広がりが見られないこともあった。また、自分の考えを伝える場面では、自信を持って伝えられるようになってきたが、一人一人が安心して自己を発揮できるように援助する必要がある。

教科指導では、「学びの見通しを持たせ、進んで課題解決に向かわせる指導の工夫」「学び合いを通して、見方や考え方を広げ、深めさせる指導の工夫」の2つの視点から研究を進めた。課題解決までをスモールステップで分かりやすく提示したり、終結段階で確認問題を行ったり、思考ツールを活用したりすることで生徒の課題に取り組む姿勢が向上し、学習内容への理解が深まった。しかし、学習内容を日常生活に関連させ、「活用したい」と感じさせることや、発問において考える視点を明確にすることなどを考えていく必要がある。

海洋教育では、『『考え方を教える』授業づくりの工夫』『『探究スパイラル』を意識した授業展開の工夫』の2つの視点から研究を進めた。思考ツールやワークシートの活用は自分の考えを持ったり、考えを整理したりする上で有効であった。また、単元構想図を作成することで見通しを持って指導することができた。今後は、児童一人一人が思考の習慣化を図るために他教科でもこれらを活用していく必要がある。また、課題解決に向けて、自分自身で必要な情報を収集し取捨選択できるようにする必要がある。

これらの成果と課題から、今年度は、幼・小・中のつながりを念頭に置き、発達段階に応じて個々の子どもに自分の考えを持たせ、主体的に活動や学習に取り組む姿勢を育てながら、対話的で深い学びを実現できるよう、本研究の主題を設定し、目指す子どもの姿に迫っていきたい。

3 研究主題の捉え

領域に共通した捉えとして、「思いを持つ」とは活動や学習から感じたり、気付いたりしたことをもとに自分なりの考えを持つこと、「表現する」とは相手意識を持って自分なりの方法で伝えること、「学びを深める」とは他者との関わりから自分の考えを見いだしたり、見直したりすることとした。これを各領域において更に具体的に捉えることとした。

【研究主題】

思いを持って表現し、学びを深める子どもの育成

共同研究による授業実践

気仙沼スタンダード

気仙沼・未来創造力



中

教科指導

視点1

学びの意欲を持たせる指導の工夫

視点2

他者の考えを取り入れたり、比較したりして、自分の考えを広げ深める指導の工夫



小



教科指導で目指す子どもの姿



海洋教育

視点1

児童に自分の思いを持たせるための指導の工夫

視点2

他者との関わりを意識した授業づくりの工夫

海洋教育で目指す子どもの姿



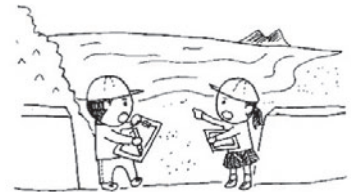
幼

幼児教育

視点1 意欲を引き出すための工夫

視点2 思いや考えを遊びに生かすための工夫

幼児教育で目指す子どもの姿



教育の
今日的課題

気仙沼市の
子どもの実態

指導上の課題

Ⅲ 海洋教育

1 研究主題の捉え

「思いをもつ」とは、児童が学習や海洋教育に関わる体験活動などから感じたり気付いたりしたことを生かし、学習に主体的に取り組むこと。「表現する」とは、児童が様々な学習や体験活動から得た思いを、自分の言葉で表現し、他者に伝えたいと思うこと。「学びを深める」とは、自分以外の他者の考えにふれ、考えを見つめ直し、自分の考えをより良いものにしようとする事。

2 目指す子どもの姿

- 自分にてきることを主体的に考え、学んだことを進んで表現することができる子ども
- 他者との対話を通して、自己の見方、考え方を広げ、深めることができる子ども

3 研究目標

思いを持って表現し、学びを深める子どもを育成するための海洋教育の在り方はどうあればよいか、実践を通して明らかにする。

4 研究の視点

思いをもって表現し、学びを深める子どもを育成する海洋教育の在り方を探るために、次の2つの視点に沿って手立てを工夫しながら授業を展開する。

	視 点	手 立 て
視点1	他者との関わりを意識した授業づくりの工夫	①自分の思いを持ち、考えを表現するための場を設定する。 ②個の意見を全体で共有させるために、ICT 機器を活用する。
視点2	児童に自分の思いを持たせるための指導の工夫	①児童が主体的に学習に取り組むために、実体験を伴った活動を取り入れる。 ②児童が実体験から得た気付きや考えを、言語化する場を設定する。→探究する姿勢につなげる

5 研究計画

内容	月												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
研究主題、目標、視点の設定													
研究内容、方法などの検討													
授業実践計画の立案													
意識調査													
授業実践													
授業実践の検討・考察													
研究のまとめ													

6 実践・研究の対象

- (1) 気仙沼市立松岩小学校 教諭 三浦 大樹
6年2組 男16名 女17名 計33名
- (2) 気仙沼市立大谷小学校 教諭 佐藤 祐司
3年1組 男 8名 女10名 計18名

7 成果と課題

(1) 成果

【視点1】『児童に自分の思いを持たせるための指導の工夫』

①児童が主体的に学習に取り組むための実感を伴った活動の工夫

自分たちの生活にとって、身近な海と関わる学習や体験活動を取り入れたことで、児童は意欲的に学習に取り組み、活動を通して課題に対して思いをもつことができた。

②児童が体験活動から得た気づきや考えを、言語化する場の設定

身近な海と関わる学習の振り返りや専門家の方から話を聞いたことにより、児童は学習したことから様々なことに気づきを自分なりの思いを持ってグループの友達に表現することができた。海について、もっと詳しく知りたいという探究的な学びにつながった。

【視点2】『他者との関わりを意識した授業づくりの工夫』

①自分の思いを持ち、考えを表現する場の設定

自分の思いは、付箋紙やワークシートに書いたことにより、グループでの話合いに主体的に参加し、思いを表現することができた。また、自分の考えに対して、友だちが付け足しをしたり質問をしたりしたことで、海に関して多角的に考えることができた。

②個の意見を全体に共有するための ICT 機器の活用

個の意見をグループ交流した後、全体の場でロイロノートを活用し意見を全体共有することができた。また、ポイントを拡大表示するなどして、分かりやすく伝えることができた。

(2) 課題

【視点1】『児童に自分の思いを持たせるための指導の工夫』

①児童が主体的に学習に取り組むための実感を伴った活動の工夫

学習課題に対して、考えを書いたり整理したりする時間が十分に確保する必要がある。

②児童が体験活動から得た気づきや考えを、言語化する場の設定

普段の授業から、自分の考えをノートに書いたり、話したりする活動を行うことで、体験活動後も言語化させる習慣を作る必要がある。

【視点2】『他者との関わりを意識した授業づくりの工夫』

①自分の思いを持ち、考えを表現する場の設定

グループ学習では、自分の思いを反映できず、意見の集約や練り合いに時間がかかってしまった。児童一人一人が考えを安心して伝えられる場を設ける必要がある。

②個の意見を全体に共有するための ICT 機器の活用

児童一人一人が一斉学習の場面で意見を共有できるように、ICT 機器の操作に普段の授業から活用していくことが必要である。

第6学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 令和3年11月25日(木) 2校時

場 所 わかばホール

指導者 教諭 三浦 大樹

1 単元名 地球温暖化と海洋

2 単元の目標

- (1) 地球温暖化と海の変化の関係や、海面温度の変化とその影響について調べ、環境の変化に応じて、そこに住む生き物の様子や人々の産業や文化の暮らしが変わってきていることに気づき、海との関わり方について自分事として考えることができるようにする。
- (2) 地球温暖化が海洋に及ぼす影響を知り、自分たちの生活を見直し、自分たちができることを行動に移すことができるようにする。

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、全体計画に定めた探究課題「身近な環境とそこで起きている環境問題」を踏まえて構想した単元である。

近年、地球温暖化が叫ばれている中、海と生きる気仙沼にとって、考えていかなければいけない課題に直面している。そこで、本単元では、地球温暖化が海洋にどのような影響を与えるのかについて学習した後、自分たちができることを行動化していくことをねらいとしている。

上記のねらいを達成するために、前期は、地球温暖化の影響で海水面が上昇し、キリバス諸島がなくなってしまうという学習を行った。現地に住んでいる日本人の方をゲストティーチャー(以下GT)として本校に招き、海水面の上昇によって人間の暮らしができなくなることを学び、温暖化の影響について関心を高めた。

後期は、地球温暖化による海の町気仙沼への影響について考える。豊かな漁場である気仙沼で水揚げされる魚類の変化や、それに伴う市民の生活、環境等について自分事として考え、温暖化を防ぐ生活を実践させる予定である。

以上の学習から、地球温暖化が海洋に与える影響について、自分が興味をもち、調べていきたいことを探究し、他者に発信することをゴールとする学習を展開する。

また、課題を自分事として捉えさせるために、漁業者の立場、消費者の立場、環境を守る立場の3つの立場を児童に与え、多様な気づきや多角的な考えを尊重した学習を構成していく。この学習を通して、人間が海とどのように関わっていったらよいかを考えさせ、普段の生活の中から行動を通して取り組ませていきたい。

そして、他教科との関連という点では、理科や社会の学習を知識基盤とするばかりではなく、国語の学習で、事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたり、グループで話し

合って考えを一つにまとめたりする言語スキルを身に付けている。こうした他教科で培った力を活用しながら、本学習を進めていく。

(2) 児童の実態について（男16人，女17人，計33人）

児童は、地球温暖化に関する学習に対して意欲的に取り組んでいる。また、地球温暖化と海洋との関わりを自分事として捉えている児童も見られる。反面、基礎知識の不足や自分には関係ないと思っている児童も見られる。また、全体的にこれまでに学習してきた総合的な学習の時間、社会や理科の知識を活用して事象を理解したり、情報を精査して自分の考えを書いたり発表したりすることは苦手である。

(3) 指導について

本単元では、地球温暖化が海洋にもたらす影響について学習し、自分たちが今後どのように行動していったら地球温暖化を遅らせることができるかを自分なりに考えることをねらいとしている。地球温暖化の影響で海水温が上昇していることに気付かせ、海水温の上昇によって気仙沼の漁業者、消費者、海洋環境を守る立場の視点からどのような影響があるかを自分事として考えさせる。考えた課題を追究するために、G T（水産試験場の方など）を招いた話を聞いたり、質問状を送ったりして課題解決に取り組ませる。その後、温暖化を遅らせる具体的な方法を実践させ、意識して日常生活を送らせる。学習の成果として、今までお世話になったG Tの方々や市役所の方などに対し、温暖化と海洋について調べたことと、自分たちができることを発表したり、校内の下級生に伝えたりする。また、児童の実態からグループワークを取り入れ、自分の考えや意見を話せる場を設定し、考えを受け入れ、認め、更には全体共有を図ることで様々な意見に気付かせていきたい。

(4) 指導の構想

研究テーマ	思いを持って表現し、学びを深める子供の育成 ～ 対話的な学びに重点を置いた指導の工夫を通して～
-------	--

本研究では、研究の視点に沿って以下の手立てを講じ、指導に当たりたい。

【視点1】他者との関わりを意識した授業づくりの工夫

① 自分の思いをもち、考えを表現するための場の設定

ア：漁業者、消費者、環境の立場から物事を考えさせ、グループで共有をさせる。

イ：自分の意見をグループで共有し、さらに全体で様々な考えに触れさせる

② 個の意見を全体に共有させるためのICT機器の活用

ア：個の意見を全体で共有する時には、学習ソフトのロイロノートを活用し全体で共有させる。

【視点2】児童に自分の思いを持たせるための指導の工夫

① 児童が主体的に学習に取り組むための実感を伴った活動の導入

ア：漁業者、消費者、環境を守る立場から、当事者意識をもたせ、自分事として考えられるようにする。

② 児童が体験活動から得た気づきや考えを、言語化する場の設定

ア：違う立場の人の話を聞いて、自分の考えを書き足したり、新たに気付いたことについて感想を書いたりして、様々な立場の方々のよさや問題点を理解させる。

イ：自分たちの実践や体験活動から得た気づきや学びは、下学年にも分かるように校内放送等で伝え、児童の行動化への意識づけを図るようにする。

4 単元の評価規準

【知識・技能】

- ・地球温暖化と海洋との関係について理解し、自分たちの生活の見直しを行うことができる。

【思考・判断・表現】

- ・地球温暖化と海洋との関係や対応策を調べる活動を通して、自分たちにできることがあることに気づき、地球環境に配慮した自分の生活について考えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・地球温暖化と海洋との関係に関心を持ち、その対応策に、主体的に取り組もうとしている。

5 単元の指導計画（30時間扱い 本時12／30）

時間	学習のねらい	主な学習活動	評価規準（方法）
1	地球温暖化が海洋にもたらす影響を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・このまま地球の気温が上昇するとどのようになっていくかを考える。 ・福島県相馬市で南の方に生息する魚が獲れた記事を紹介し、海での異変について知る。 	主 地球温暖化が地球にもたらす影響について知ることができる。（発表、ワークシート）
2	気仙沼の気温変化のグラフを作り、課題を見つける。 日本近海の海水温がこの100年間でどのようになったかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼市の気温の変化の表をもとにグラフを作る。 ・グラフを見て、平均気温が上昇していることに気付かせ、どんなことが問題か考える。 ・この100年間で日本の海の海水温がどのように変化してきたかを資料から読み取る。 	知 資料から海水温の上昇を読み取り、原因について考えることができる。（発表、ワークシート）
3	気仙沼の海水温の変化について知り、今後の気仙沼の海で考えられる課題を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習から、気仙沼の海水温の変化を予想させる。 ・海水温が上昇していることが分かり、海ではどのようなことが起こるか課題を考える。 	思 海水温の上昇が見られる気仙沼の海は、今後起こりうる問題について考えることができる。（発表、ワークシート）

4	気仙沼の海の現状を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・水産試験場の方に、今の気仙沼の海も海水温が上がっていることについて話を聞き、現状を学ぶ。 ・生態系が今後どのように変化していくのかを知る。 	知 G Tの方の話から分かったことから、より具体的な課題を設定することができる。 (発表, ワークシート)
5	温暖化による気仙沼の海への課題を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの内容から,【漁業者】【消費者】【環境保全家】の3つの立場になって課題を考える。 	思 自分が調べてみたい課題を考えることができる。 (発表, ワークシート)
6 7	3つの視点で課題を精査する。	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツール(マトリクス表, KJ法など)を活用して取り組む。 ・【漁業者】【消費者】【環境保全家】の立場を1つ選び,それぞれの課題を明確にする。 	思 思考ツールを活用し,自分事としての問いをもつことができる。 (発表, ワークシート)
8 9 10 11	課題解決に向けて調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・水産試験場や自然環境活用センター(以下G T)の方に,自分達で質問リストを作成し,それぞれの立場で課題解決に取り組む。 ・図書やインターネットを利用したり,海の専門家の方に質問したりしながら解決する。 	知 自分たちで課題解決に向けて取り組み,調べることができる。 (ワークシート)
12 本時	課題解決に向けて情報を整理し,問い直し点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・【漁業者】【消費者】【環境保全家】の自分との違う立場の人たちと話し合い,多角的な視点から問い直したい事柄を考える。 	思 自分の課題解決に向け,他者の意見を取り入れて,整理しようとしている。 (発表, ワークシート)
13	温暖化が進むと,気仙沼の海洋がどのようになるのか問い直しをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・G Tと新たな課題について問い直し,温暖化が進むと気仙沼の海洋がどのように変わっていくかを知る。 ・課題解決に向けて,質問をして解決に向けて取り組む。 	思 温暖化の影響で,気仙沼の海洋がどのように変わるかメモをしたり,考えたりしている。 (ワークシート, 発表)

14 15 16	課題解決に向けて分かったことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、これから自分たちができることを話し合い、自分の生活を見直すと共に実践する。 ・温暖化と海洋の関係についてタブレット端末や模造紙にまとめ、発表に向けた準備をする。 	知・思 自分事として考え、生活を見直す具体的なことを考えることができる。 (ワークシート, 発表)
17	温暖化と海洋の関係について中間発表を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・水産試験場の方に、学習の成果を発表する。 	思 課題解決に向けて、自分たちの発表を分かりやすくまとめ、発表することができる。 (発表)
18	分かったことを実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表したことは、これからどのように行動化していくかを整理する。 	主 自分の考えたことは、行動しようとするようワークシートにまとめることができる。 (ワークシート)
19	行動計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動化するために、どのようなことに取り組んでいくか、計画を考える。 	思 自らが行動化するための計画を立て、継続して取り組むことができる。 (ワークシート)
20	行動を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画を確認し、自分が取り組んでいく内容を確認する。 ・計画を立てて1週間実践する。 	主 対応策に主体的に取り組もうとしている。(ワークシート)
21 22	実践したことを整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が取り組んできた実践を振り返り、全校に広げられそうなものを見つける。 	思 自分の実践から、行動できそうなことを整理してまとめている。(ワークシート)
23 24 25 26 27 28	全校に広めるための方法を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化防止に向けて、全校児童で取り組める内容をどのようにして広めるか、広めるための方法を見つける。 	主 対応策を広めるために、自ら取り組もうとしている。
29 30	地球温暖化と海洋の発表会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・G Tを招待し、学習の成果を発表する。 	思 課題解決に向けて、分かりやすくまとめ、発表することができる。

6 本時の指導

(1) 単元名「地球温暖化と海洋」

(2) 本時のねらい

- ・自分の立場を明確にして、漁業者、消費者、環境保全家の立場との意見交換を通し、自分の課題解決に向けて問い直したい事柄を考え、整理する。

(3) 本時の指導の手立て

- ・漁業者、消費者、環境保全家を守るそれぞれの人と話し合い、多角的に問いを捉えさせ、その場に出てきた意見や疑問は、付箋紙を使ってグルーピングさせ、問いを深めたり広げたりさせる。

(4) 準備物

【教師】タブレット、テレビ、付箋紙

【児童】筆記用具、タブレット、総合ファイル、付箋紙、付箋紙貼り付け用画用紙、立場バッジ、ループリック

(5) 学習過程

段階	主な学習活動：数字 教師の発問：◎，指示：○ 予想される児童の反応：・	指導上の留意点：・ 研究の視点に基づく手立て：◇ 視点との関連：【視点○】	評価：・ 評価の方法：() 準備物等：※
導入 3分	1 本時の課題をつかむ。 ③ 3つの立場で意見を交わして、自分たちの立場の問いを深めよう。 ○今日は、漁業者、消費者、環境を守る立場から意見交換をします。		
展開 38分	◎自分の課題と考えを、グループの仲間に伝え合ひましょう。 2 グループで対話し、意見や質問をしよう。 ◎自分とは違う立場の友達と話し合い、課題解決の内容をより深めていきましょう。	・自分の課題と考えは、付箋紙に記入しておく。 ・違う立場の児童同士でグループを作る。 ・【漁業者】【消費者】【環境保全家】のそれぞれの立場で相手に自分の考えを伝えるようにさせる。 【視点1-①ア】	※付箋紙 ※画用紙 ※付箋紙 ※タブレット

	<p>3 同じ課題のグループに戻って情報を共有し整理させる。 ◎他の立場から出た意見に着目し、画用紙に付箋を貼って、さらに問いたいことを考えよう。</p> <p>4 グループでまとめた付箋付き画用紙を全体で共有させる。</p>	<p>・話し合いから出た新しい意見や課題，質問は桃色の付箋に書かせて，発表させる。 【視点2-②ア】</p> <p>・最初のグループに戻って，意見や課題を共有させる。</p> <p>・ロイロノートを活用し，全体で問い直しの様子確かめる。</p>	<p>思 課題解決に向け，意見交換を行い，漁業者，消費者，環境保全家の立場になって考えることができる。 (ワークシート)</p> <p>※タブレット端末 ※テレビ</p>
<p>終末2分</p>	<p>5 次時の予告をする。 ◎みんなの意見を聞き，課題解決に向けて自分が更に調べたいことを確かめ，更に追究していきましょう。 ◎自分の今日の学びをループリックで確かめましょう。</p>	<p>・学びの振り返りは，ループリックを活用し，今日の学びについて自己評価させる。</p>	<p>※ループリック</p>

(6) 評価

- ・違う立場の人たちとの意見交換を通して，自分の課題解決に向けて問い直したい事柄を整理することができたか。【思考・判断・表現】

(7) 板書計画

<p>11 / 25 地球温暖化と海洋</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課 3つの立場で意見を交わし，自分たちの問いを深めよう。</p> </div> <p><漁業者> <消費者> <環境保全家></p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; padding-bottom: 5px;">漁業者</td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding-bottom: 5px;">消費者</td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding-bottom: 5px;">環境保全家</td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 5px;"></td> <td></td> </tr> </table>	漁業者					消費者					環境保全家				
漁業者																
消費者																
環境保全家																

自分の学びを止めるな！！<ループリック> 名前()

今日の自分の学習の様子はどうだったかな？<評価のポイント>を参考に自分自身の取り組みを振り返り，当てはまるところに○を書きましょう。

月 日	段 階	A	B	C	D
10 / 26	①海洋と温暖化について興味をもつ				
10 / 28	②海水温上昇について知識をもつ				
10 / 29	③気仙沼で考えられる課題について問いをもつ				
11 / 2	④気仙沼の海について知識をもつ				
11 / 5	⑤温暖化による海への影響について問いをもつ				
11 / 10	⑥漁業者，消費者，環境保全家の立場から問いをもつ				
11 / 11	⑦課題解決に向けて探究する				
11 / 12	⑧課題解決に向けて探究する				
11 / 15	⑨課題解決に向けて探究する				
11 / 17	⑩課題解決に向けて探究する				
11 / 19	⑪課題解決に向けて探究する				

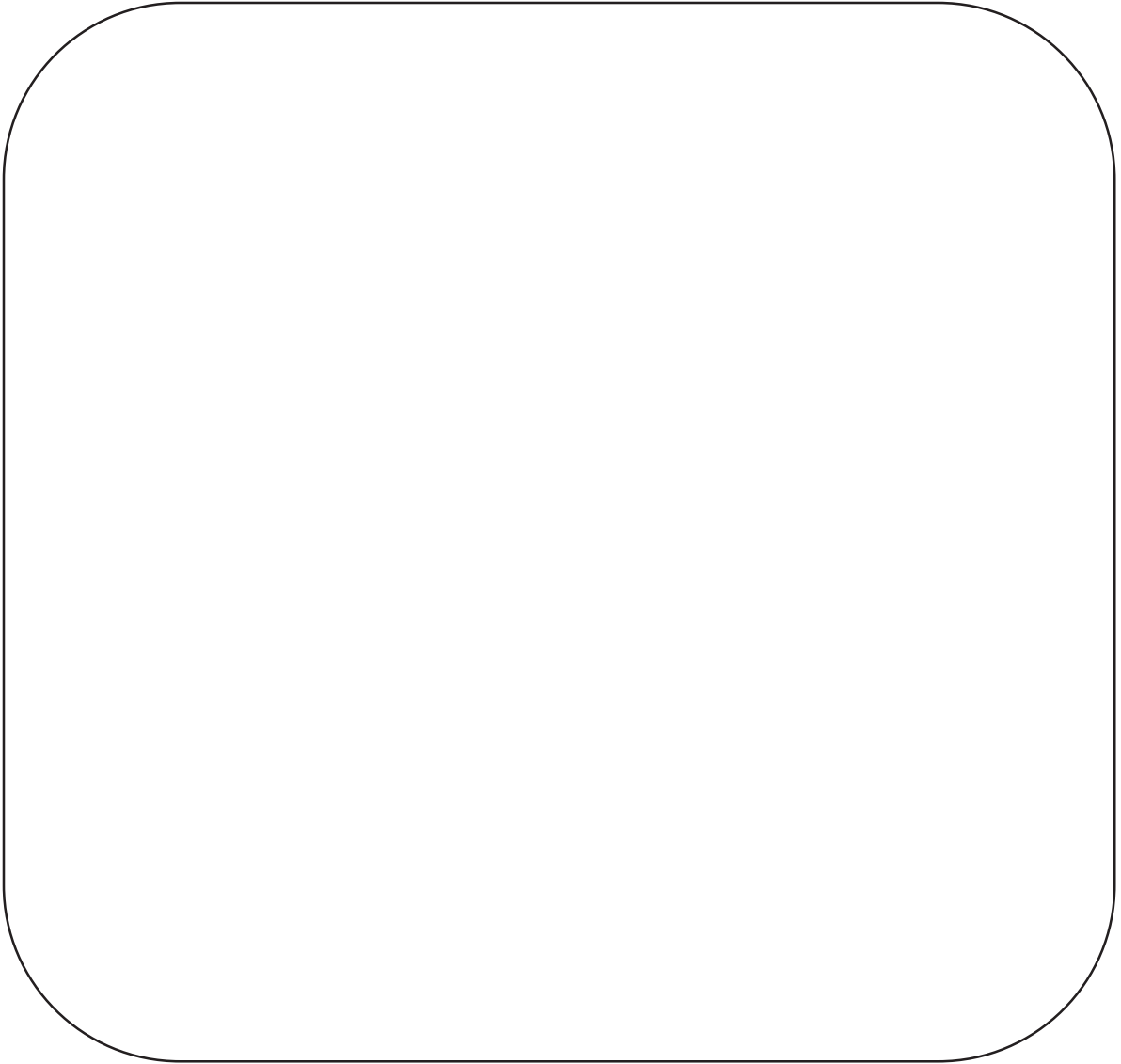
月 日	段 階	A	B	C	D
11 / 25	⑫課題解決に向けて問いを立てる				
<感想>					
11 / 29	⑬課題解決に向けて問い直しをする				
<感想>					
/					
<感想>					
/					
<感想>					
/					
<感想>					
/					
<感想>					
/					
<感想>					

<評価のポイント>

- A・・・友達との話し合いを通して、新しい意見をもつことができた。
- B・・・友達の意見と比較して、自分の考えを整理することができた。
- C・・・自分の意見をもつことができた。
- D・・・自分の意見がもてなかった

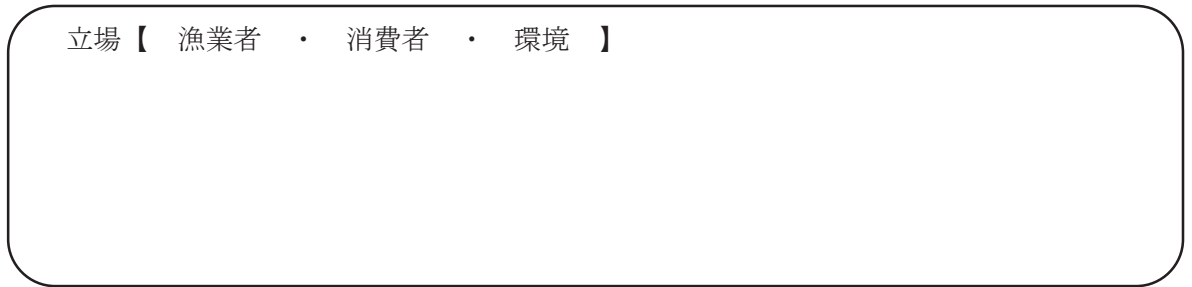
名前 ()

- 1 自分の考えを付せんを書いて考えよう。



- 2 今後、もっと考えていきたい課題について立場を明確にして書きましょう。

立場【 漁業者 ・ 消費者 ・ 環境 】



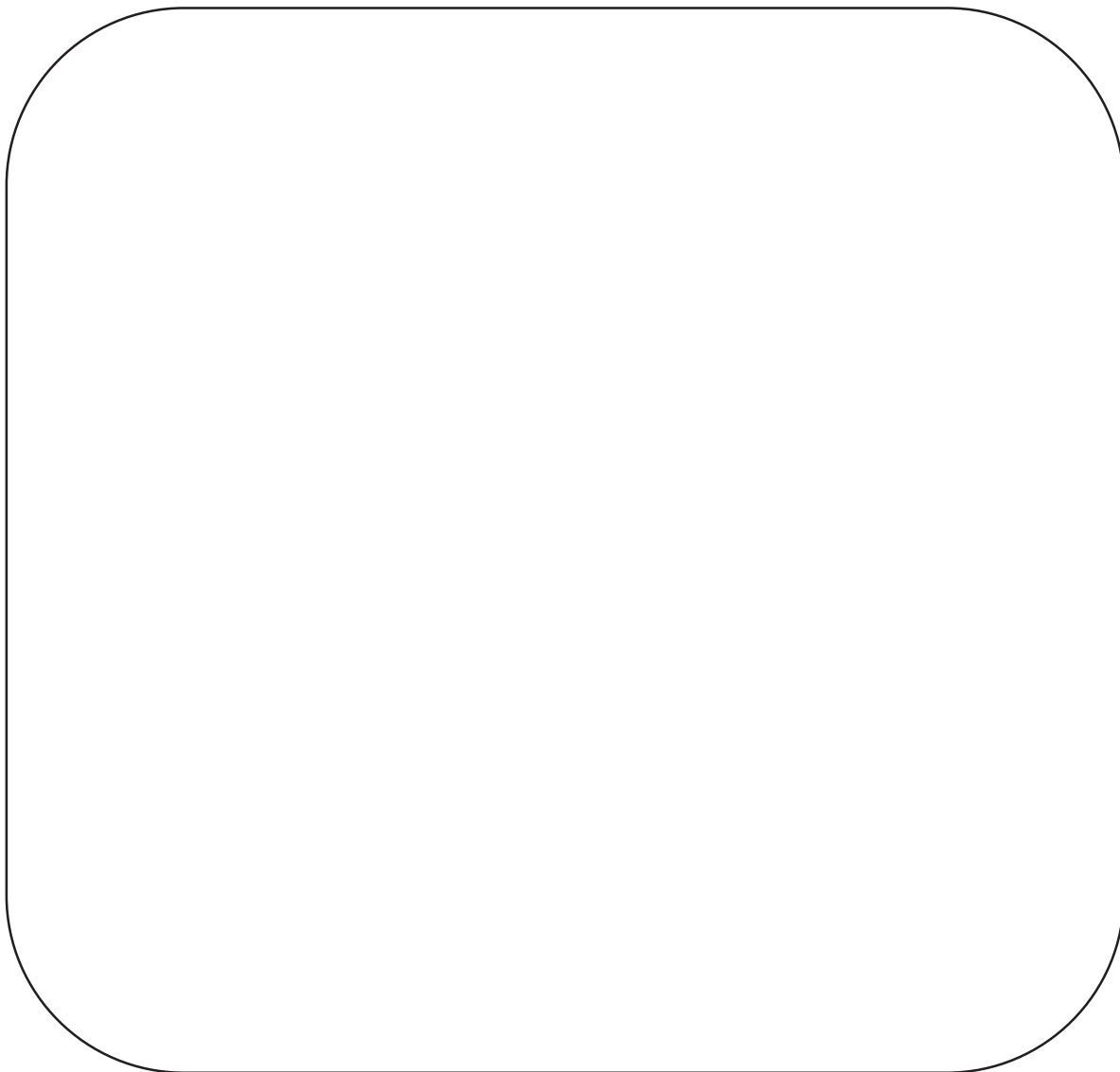
総合的な学習の時間ワークシート④

地球温暖化と海洋

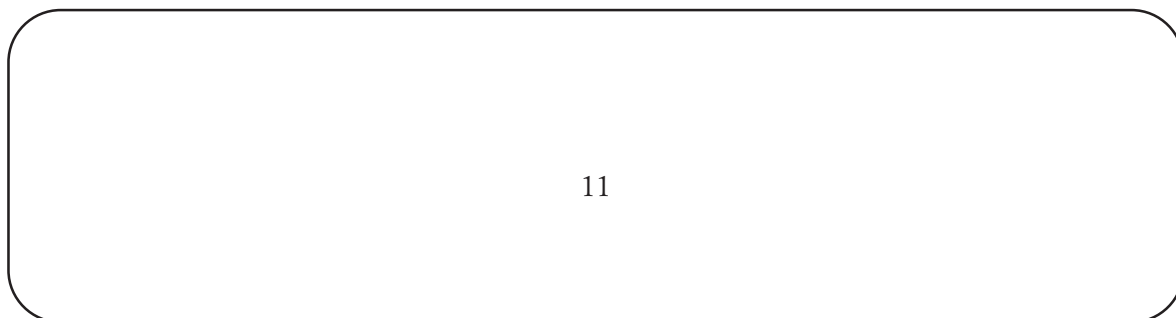
名前（ ）

今日の5校時の総合的な学習の時間は、気仙沼水産試験場の方をゲストティーチャーに招き、地球温暖化が海に与える影響について話をさせていただきます。自分の課題を確認して話をききましょう。今後は、自分の課題を解決するために、追究していく学習になります。疑問点を少しでも解決できるように、自ら質問するなどして学びを深めましょう。

- 1 自分の課題を確認し、水産試験場の方の話を聞いて分かったこと



- 2 今日の話を聞いて、分かったことや疑問に思ったことを具体的に書きましょう。



6学年 単元全体構想(プログラムチャート)

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

第6学年で身に付ける力

- ①地球温暖化と海洋環境の関係や対応策について、調べたり実践したりしたことを通して、分かったことを工夫して表現したり発表したりすることができる。【知識・理解】
- ②地球温暖化と海洋環境の関係や対応策を調べる活動を通して、自分たちにできることがあることに気づき、地球環境に配慮した自分の生活について考えることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ③活動を通して分かったことや考えたことをまとめ、相手に分かりやすく工夫して伝えることができる。【学びに向かう力・人間性等】

海洋教育の視点

- 【生命】持続可能な水産資源の活用のための生態系保全 <海洋リテラシー5 海は、豊かな生命の多様性や生態系を支える>
- 【環境】地域の山・川・海の世界と産業 <海洋リテラシー6 海と人間は、密接につながっている>

1 探ろう！松岩の地域遺産 (20時間)

通年課題設定
○地域の歴史について興味のあることや調べてみたいことを通して課題設定する。

課題設定 1 地域の歴史について考えよう
○松岩の歴史を調べるためにどのような見学場所があるか考える。

課題追求

歴史について調べよう
○羽田神社や水梨にある高大堰を見学し、その土地や場所について話を聞いたり調べたりする。
○その土地で長年にわたって続けられている行事には、どのような意味があるのかを調べることで、自分たちにできることを考える。

2 海と私達は 地球の仲間(30時間) ~地球温暖化と海洋~

課題設定 2 地球温暖化の影響で気仙沼の海に与える影響を考えよう

○地球温暖化が陸上だけでなく、海にも大きく影響を与えていることについて、考える。

課題追求

○気仙沼の漁業者・消費者・環境を守る立場から地球温暖化が海洋に与える影響への課題と温暖化を防ぐために自分ができることについて実践を通して調べる。
○大学や各種関係施設にインタビューやFAX、メールでの連絡を取り、課題を追求し温暖化を防ぐためにできることを自らの行動化して実践したことを踏まえて、ゲストティーチャーに向けて発表する。

3 未来の気仙沼(松岩)を描こう (20時間)

行動・発信・振り返り 未来の気仙沼(松岩)を考えよう

○これまで学んできた地域の環境や歴史、人々の生活との関わりについて振り返り、自分たちが住む気仙沼(松岩)の未来について考え、理想の町作りの可能性を探っていくと共に、自分たちができることを考える。

- <例>
- ・地球に優しいけせんぬま
 - ・長持ちする漁業
 - ・防災の町 けせんぬま
 - ・人と人がつながる町

総合的な学習の時間

教科等との関連

【社会】貴族のくらし
○世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、貴族の生活や文化を理解している。
○学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の電灯や文

【国語】知りたいことを聞きだそう
○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、質問をして必要な情報を聞き出す。
【国語】環境問題について報告しよう
○テーマに沿って集めた資料から情報を読み取り、分かったことや考えたことを、集めた資料を活用しながら報告する文章にまとめる。

【理科】魚のたんじょう
○卵の誕生から飼育までを経験し、その環境の大切さを理解する。
【社会】水産業のさかんな地域
○水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考える。
【国語】問題を解決するために話し合おう
○思考ツールを使いながら、多くの意見をまとめて考えを広げたり、比べてまとめたりする。

【国語】プロフェッショナルたち
○人物の生き方や考え方から、自分の将来や生き方について考えることができる。
【国語】町の幸福論ーコミュニティデザインを考えるー
○複数の資料を読み、必要な情報を関係付けながら、それらを目的に応じて活用することができる。
○自分の考えを伝えるために、構成を工夫したり、資料を活用するなどの工夫をして発表する。

第3学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

日 時：令和3年10月8日（金）2校時

指導者：教諭 佐藤 祐司

場 所：3年1組教室

1 単元名 身近な場所の避難の仕方を考えよう

2 単元の目標

これまでに起きた地震・津波について振り返ることを通して、地震・津波が起きた際の安全な身の守り方や避難の仕方を理解し、身近な場所の危険箇所を探し、どう避難したらよいのかを考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 指導にあたって

(1) 単元について

2011年の東日本大震災や2016年の熊本地震、更に近年毎年のように洪水や土砂災害などの自然災害が発生しており、いっどこで命に関わる大災害が発生してもおかしくない状況にある。特に10年前の東日本大震災において、大谷地区は津波によって壊滅的な被害を受けた。しかし、現在大谷小学校に通う児童で、震災を記憶している児童はほとんどいない。震災後に生まれた児童が大半を占めており、壊滅的な被害を受けた大谷地区の当時の様子を詳しくは知らない。当時、津波は海から約400m、標高16.7mに位置している大谷小学校の校舎や体育館にも到達した。体育館の壁面には、現在も津波によって浸水した跡が残されている。

美しい砂浜が広がる大谷海岸。今年は震災後初めて大谷海水浴場が海開きを行い、大谷海岸は多くの海水浴客でにぎわった。6月には大谷小学校の3～6年の児童が、大谷海岸で「海に親しむ集い」を行った。集いでは海岸清掃と砂の造形を行い、子供たちは地域の宝である砂浜で、友達と楽しみながら計画した作品を協力して作ることができた。気仙沼市民にとっても、大谷地区住民にとっても、海は身近なもので、海とともに暮らしていかなければならない。このような地域で育つ子供たちには、日頃から命を守るために、地震・津波についての正しい知識を持たせ、地震・津波に対して十分な備えが必要であることを認識させることが大切である。

大谷小学校では、地震・津波を想定した避難訓練（幼稚園・小・中学校と公民館との合同避難訓練）や、下校時の避難訓練、引き渡し訓練などを毎年行っている。合同避難訓練では、第二次避難場所に指定されている高台への速やかな避難の仕方、防災講話等では地震・津波発生時の移動の約束等の学習を積んできている。発達段階による違いはあるが、児童には、学校行事等の時間において、いざという時にどのように行動すればよいかを考えさせてきた。また、3年生の学習では、社会科「市の様子」の単元の中で、大谷地区の土地利用について学習した。本単元では具体的に身近な地域を題材として、地震・津波発生時に危険な場所や安全な場所、避難場所の特徴などを調べていく。それにより災害に対して、どうすれば自分の身を自分で守る行動ができるか考え、実践へとつなげることのできる教材であると考え。

(2) 児童の実態について（男8名、女10名、計18名）

児童は、避難訓練や海に関する行事に真剣に取り組んでいる。防災への意識調査によると、「学校で津波が来そうな時、逃げる場所を知っていますか。」の問いに対しては、77%の児童が「知っている」と回答し、合同避難訓練で地区の高台へと避難した経験が児童の防災意識へと結び付いていることがうかがえる。しかし、「大谷地区では、どんな災害に気を付けたらよいか知っていますか。」の問いになると、自信を持って「知っている」と回答した児童は33%にとどまり、「少し知っている」は55%、「あまり知らない」と回答した児童は22%だった。「知っている」「少し知っている」と回答した児童については、大谷地区で気を付ける災害に「津波」「地震」「土砂災害」などを挙げていた。「登下校時に津波が来そうな時、逃げる場所を知っていますか。」の問いに対しても、「知っている」と回答した児童の割合は33%にとどまり、「あまり知らない」と回答した児童は28%だった。

以上のことから、児童は、大谷地区で起こりうる災害について、これまでの生活体験や学校での学習を通してある程度理解できているものの、学校を離れた場合（登下校時や自宅に居る場合、浸水区域、または学区内）の身の守り方に関する理解は、十分とはいえない実態がうかがえた。児童は、日常生活や学校生活において、海とよく関わり、海との接点こそ多くあるものの、防災の視点から見た地域の見方については個人差が大きい。このような児童の実態、海とのつながりが深い大谷地区の性質を踏まえると、児童に災害から身を守る方法を学ばせながら防災意識を高めさせていくことが大切であると考え。

(3) 指導について

以上のことを踏まえて、本単元の指導を進めるに当たり、以下のような手立てを講じる。

- ①単元の導入段階では、東日本大震災の被害について児童に伝える。
 - ・大谷小学校にも震災当時、津波が到達したという事実を基に、大谷小学校付近にいるときに地震・津波が発生した場合、どのように避難すべきかを、実際に現地調査（体験活動）を行わせながら児童に考えさせる。
- ②児童それぞれの防災に関する個人差が大きいことをから、グループ活動を中心に学習を展開する。
 - ・グループ学習を取り入れることで、児童が自分の意見を発言する機会を増やし、課題をより自分事として捉えさせる。また、他者の多様な考えに触れることで、新たな気付きを得ることができるようさせる。
- ③自分で考えをまとめたり、情報を共有したりする場面では、授業支援アプリ（本校ではロイロノートを使用。以下、ロイロノート）を活用する。
 - ・児童の考えを可視化し、共有しやすくするために、グループで話し合ったり意見をまとめたりする際には、ロイロノートを活用させる。
- ④現地調査（体験活動）を行った後には、振り返りの時間を設定する。
 - ・自分の考えを整理する時間を設けることで、グループでの話し合いの際には明確に考えを持って臨ませ、話し合いに意欲的に参加できるようさせる。
- ⑤現地調査（体験活動）で調べたことを、グループごとに防災マップにまとめる。
 - ・自分たちの考えを防災マップにまとめ、可視化させることで、いざという時にどのように行動するべきなのか考えることができるようにする。
 - ・防災マップの作成に当たっては、作成の方法を理解させるために、みやぎ防災教育副読本「未来へのきずな」（小学校3・4年）を活用する。

(4) 指導の構想

研究テーマ	思いを持って表現し、学びを深める子供の育成 ～ 対話的な学びに重点を置いた指導の工夫を通して ～
-------	---

本研究では、研究の視点に沿って以下の手立てを講じ、指導に当たりたい。

【視点1】児童に自分の思いを持たせるための指導の工夫

- ① 児童が主体的に学習に取り組むための実感を持った活動の導入
ア：児童が課題を自分事として捉えることができるよう、体験活動を単元計画の中に意図的に位置付ける。
- ② 児童が体験活動から得た気付きや考えを、言語化する場の設定
ア：体験活動の実施後には「振り返りの時間」を設定し、体験活動から得た学びを自分の言葉で表現する時間をつくる。
イ：振り返りの時間にまとめた自分の考えを、グループ内の友達に交流学習を通して紹介する。

【視点2】他者との関わりを意識した授業づくりの工夫

- ① 自分の思いを持ち、考えを表現するための場の設定
ア：話し合いを行う際は、話し合いの事前段階（前時等）において、自分の考えを整理する時間を設け、主体的に話し合いに参加できるようにさせる。
イ：グループでの話し合いが円滑に進むよう、話し合いの際にはグループごとに司会を立てる。
- ② 個の意見を全体に共有させるための ICT 機器の活用
ア：個の考えをグループの友達に伝えたり、グループの考えをまとめたりする活動の際には、「ロイロノート」を活用し、意見を全体で共有しやすいようにする。

(5) 校内研究との関連

研究主題	主体的に判断し、行動できる児童の育成 ～地域の災害特性に対応した防災教育の工夫を通して～
研究目標	総合的な学習の時間や学級活動などの時間を通して、地域における災害特性を理解し、安全な行動ができるようにするための指導の在り方を、実践を通して明らかにする。
目指す児童像 (中学年)	災害の危険性を理解し、自ら安全に行動できる子
本単元の授業 づくりの主な 視点	<p>視点1 災害への理解を深めるための学習活動の工夫</p> <p>①東日本大震災による大谷小学校周辺の被災状況について、当時の写真や体育館の浸水跡などを児童に見せることで、その被害の大きさを知ることができるようにする。</p> <p>②単元の導入段階で地域調査を実施し、地域の特性（土地の高低、海からの距離）や避難場所の性質などについて自分たちで調べさせることで、児童の主体的な学びにつなげる。</p> <p>視点2 知識を行動に結び付けるための伝え合う活動や体験する活動の工夫</p> <p>①個の考えをグループや全体で共有させる際にはロイロノートを活用する。</p> <p>②地域調査から学んだことを基に、白地図を活用した防災マップを作成させる。作成に当たっては「未来へのきずな」を活用する。</p> <p>③単元の終わりには児童が作成した防災マップを使いながら、下学年に避難の仕方を伝える活動を取り入れ、学習に目的意識を持たせる。</p>

4 単元の評価規準

【知識・技能】

- ・これまでに起きた地震・津波について知り、防災の大切さについて理解している。

【思考・判断・表現】

- ・体験活動から課題を見付け、解決の見通しを持って課題を追究している。
- ・身近な場所の安全について見直し、自分ができることを考え、それを分かりやすくまとめて表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・身近な地域に潜む災害の特性や防ぎ方を調べることを通して、自分と身近な地域との関わりを見直そうとしている。

5 単元の指導・評価計画（15時間扱い）

時間	学習のねらい	主な学習活動(時数)	活動における評価規準 (評価方法)
① 地震・津波の際の身近な避難場所について探ろう 6時間			
1	これまでの地震を振り返り、地震・津波はいつどこで起きるのか分からないことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに世界や日本で起きた地震・津波の場所や時間、被害などを知り、いつ地震がきてもよいように備えておくこと（事前防災）の大切さを知る。 ・大谷小学校の津波浸水被害について知る。 	【知】 地震・津波の怖さについて知り、防災の大切さを理解している。(発表, ワークシート)
2	学校周辺の危険な場所を調べ、地震・津波が起きたらどんなことが起きるか予想する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を見ながら、学校周辺で調べたいこと(場所)を決める。 ※課題の設定 ※地図上では分からない、土地の高さ(高低)を調べる必要があることに気付かせる。 	【思】 身近な場所の避難の仕方を探る課題を自らつくり、解決に見通しを持っている。(発表, ワークシート)

3・4		<ul style="list-style-type: none"> ・設定した学習課題を基に、グループを分ける。 ・グループごとに調べる計画を立てる。 ※「未来へのきずな」を活用（津波到達標識、避難誘導標識 等）	【態】 身近な場所の避難の仕方を考えるという目的に向け、課題を解決しようとしている。（行動観察、ワークシート）
5・6		<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに計画した場所を巡り、その場所の危険性等について調べる。※地域見学 ・地震・津波が起きた時、どのようなことが起きるか予想し、まとめる。 	【思】 地域の特性（土地の高低）に応じた危険場所を見付け、起こりうる危険について考えている。（ワークシート）
② 身近な場所の避難の仕方を伝えよう 8時間			
7	調べたことの中からどのような情報を防災マップに取り入れればよいかグループで話し合い、構想を練る。	<ul style="list-style-type: none"> ・見学したことを振り返り、調べたことを整理する。（個人） ・ロイロノートに自分の考えをまとめる。 ・調べたことのまとめ方について話し合う。（防災マップ） 	【思】 危険箇所や地震・津波が起きたときの対処法など収集した情報を分類・整理し、内容や方法について考えている。（ワークシート、防災マップ）
8 本時		<ul style="list-style-type: none"> ・見学したことを振り返り、調べたことを整理する。（グループ） ・前時の振り返りを基に、 <ol style="list-style-type: none"> ①見学して分かったこと ②防災マップのまとめ方 について話し合い、意見を交流する。（考えを共有する時間） 	
9～ 12	身近な場所で地震・津波が起きたときどうすれば良いのか、調べたり考えたりしたことを防災マップにまとめ、防災の意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを防災マップにまとめる。 ※「未来へのきずな」を参考にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波が起きたときどのようにして自分の身を守るのかを考え、防災マップに書き足す。 	
13	発表の仕方を工夫し、防災の大切さについて	発表会の練習を行う。	【態】 身近な場所の避難の仕方について伝えるために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。（行動観察、発表）
14	他の学年の児童に伝える。	2年生に身近な場所の危険について調べたことを発表する。 ※発表会	
③ これからの行動について考えよう 1時間			
15	これまでの活動を振り返ってまとめる。	これまでの活動を振り返り、防災の大切さをまとめる。	【態】 調べたことをこれからの生活に生かし、安全に生活しようとしている。（発表、自己評価）

6 本時の指導

(1) 活動名 身近な場所の避難の仕方を考えよう

(2) 本時のねらい

- ・調べたことの中からどのような情報を防災マップに取り入れればよいかグループで話し合い、構想を練る。

(3) 手立て (研究員の視点)

【視点1】児童に自分の思いを持たせるための指導の工夫

② 児童が体験活動から得た気づきや考えを、言語化する場の設定

イ：振り返りの時間でまとめた自分の考えは、交流学习でグループ内の友達に紹介する。

【視点2】他者との関わりを意識した授業づくりの工夫

① 自分の思いを持ち、考えを表現するための場の設定

イ：グループでの話し合いが円滑に進むよう、話し合いの際にはグループごとに司会を立てる。

② 個の意見を全体に共有させるための ICT 機器の活用

ア：個の考えをグループの友達に伝えたり、グループの考えをまとめたりする活動の際には、「ロイロノート」を活用し、意見を全体で共有しやすいようにする。

(4) 準備物

【教師】タブレット、プロジェクター、航空写真、白地図

【児童】タブレット、ワークシート、未来へのきずな(3・4年)

(5) 指導過程(別紙)

(6) 評価

- ・危険箇所や地震・津波が起きたときの対処法など収集した情報を分類・整理し、内容や方法について考えていたか。【思考・判断・表現】

「努力を要すると判断される状況(C)の児童への手立て」

- ・危険箇所や地震・津波が起きたときの対処法など、収集した情報について教師と一緒に確認したり、分類・整理したりしながら、防災マップの内容や作成方法について考えられるようにする。【思考・判断・表現】

(7) 板書計画(別紙)

【別紙】6 (5) 指導過程 (本時 8 / 15)

段階	主な学習活動と教師の発問・指示 (○), 児童の反応 (・)	指導上の留意点 (◇), 視点は研究員の視点	評価
導入 5分	<p>1 前時の学習を振り返るとともに本時の流れを確認する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>◇学習の流れを確認し見通しを持たせる。</p> <p>◇前時は、現地調査について、個人ごとに振り返ったことを確認する。 →前時の段階で、タブレットに振り返りをまとさせておく。</p> <p>◇本時は、個人の振り返りを基に、グループでの話し合いを行うことを伝える。</p>	
展開 35分	<p>3 防災マップの作り方について確認する。 ○防災マップには、どのような情報を入れるとよいですか。 ・土地が高いところ ・土地が低いところ ・これまでに浸水したところ など</p> <p>4 防災マップの構想を練る。 ○グループごとに、どのような防災マップに仕上げたいか、考えを話し合みましょう。</p> <p>5 防災マップの構想を発表する。 ○グループごとに考えたことを、発表しましょう。どのようにまとめるのでしょうか。</p>	<p>◇防災副読本：「未来へのきずな」の「防災マップの作り方」を参考に、どのような観点到に注意しながら、防災マップを作成すれば、見る人に伝わりやすい防災マップとなるか確かめる。</p> <div data-bbox="655 768 1257 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【防災マップにまとめる際の観到】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全なところ ・危険なところ ・土地の高さ </div> <p>◇現地調査を行ったグループごとに、話し合い活動を行わせる。 (視到 1 ②-ア)</p> <p>◇班に一枚、白地図の入った模造紙を配布し、話し合いに活用させる。</p> <p>◇前時の振り返り活動で使用したワークシートタブレット (個人ごと) を使わせることで、目的意識を持って話し合いに参加できるようにさせる。 (視到 2 ②-ア)</p> <p>◇話し合いがスムーズに進むよう、グループごとに司会を立てさせる。 (視到 2 ①-イ)</p> <p>◇意見を交換しながら、どのようなことをワークシートにまとめていけばよいかを話し合わせる。</p> <p>◇ロイロノートを活用し、自分たちの防災マップの構想を、簡単なプレゼン形式にまとめさせる。 (視到 2 ②-ア)</p> <p>◇3つのグループに、自分たちの班の防災マップの構想を発表させる。</p> <p>◇発表の際は、ロイロノートを活用する。 (視到 2 ②-ア)</p> <p>◇話し合いが十分にまとまらなかった場合には、できたところまでの構想を口頭で発表させる。</p>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所や地震・津波が起きたときの対処法など収集した情報を分類・整理し、内容や方法について考えている。 <p>(防災マップ・発表・ワークシート)</p>
	<p>①グループ (海洋館ルート) ②グループ (公民館ルート) ③グループ (大谷中学校ルート)</p>		

	6 防災マップ作りに当たり, 共有したい点について話し合う。 ◎3つのグループの発表から, 自分たちのグループに生かせそうなことはありましたか。	◇他グループの発表を参考に, 共有したい点について話し合わせる。 (視点2①-イ) ◇全体の発表から得たことを, 自分たちのグループの構想に生かすようにさせる。	
終 末 5 分	5 本時の学習の振り返りを行う。 6 次時の学習について知る。	◇今日の学習で「分かったこと」「難しかったこと」「これからがんばりたいこと」等について, 振り返りを行わせる。 ◇次回からは, 防災マップ作りに取り掛かることを伝える。	

【別紙】6 (7) 板書

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>げん地ちょうさをもとに, 防災マップのまとめ方を考えよう。</p> </div> <p>【防災マップにまとめる際のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いところ。 ・低いところ。 ・これまでにしん水したところ。 ・きけんなところ。 など <p><話し合い></p> <ul style="list-style-type: none"> ①グループ (海洋館ルート) ②グループ (公民館ルート) ③グループ (大谷中学校ルート) 	<p>◎みんなで確認したいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <p>プロジェクター (児童の考えを投影する)</p> </div>
---	--	--

3学年 総合的な学習の時間における教科横断的な指導

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

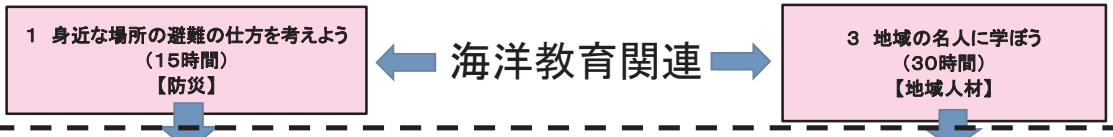
第3学年で身に付ける力

- ・身近な地域における体験活動や漁業に携わる人々との交流を通して、大谷の地理や自然環境について理解する。
- 【知識・技能】
- ・調べたり、体験したりしながら、分かったことなどを工夫してまとめ、発表することができる。【思考・判断・表現】
- ・地域の名人の生き方や考え方にふれたり、地域の地理的特性を理解したりすることで、大谷のよさについて考

海洋教育の視点

- ・これまでに起きた地震・津波について調べることを通して、地震・津波が起きた際の安全な身の守り方や避難の仕方を理解する。また、身近な場所の危険箇所を探し、どう避難したらよいかを考えると、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。
- ・特産物であるワカメについて調べたり、ワカメの養殖に携わる人々と関わったりする活動を通して、大谷の海のよさや豊かさ、人とのつながりに気づき、大谷の海に愛着を持ち、海を守っていくとする気持ちを育てる。

総合的な学習の時間



1 身近な場所の避難の仕方を考えよう
(15時間) 【防災】

～身近な場所の避難の仕方を考えよう～
1 「地震・津波の際の身近な避難場所について探ろう」
○これまでに起こった災害について知るとともに、学校周辺の危険な場所を調べ、地震・津波が起きたらどんなことが起こるか予想する。
2 「身近な場所の避難の仕方を伝えよう」
○身近な場所で地震・津波が起きたときどうすればよいのか、調べたり考えたりしたことを防災マップにまとめ、防災の意識を高める。
3 「これからの行動について考えよう」
○調べたことをこれからの生活に生かし、安全に生活しようとする。

2 まちのお年寄りや仲良くなろう
(25時間) 【福祉】

～まちのお年寄りや仲良くなろう～
1 「お年寄りについて知ろう」
○デイサービスセンターの見学を通して、高齢者施設に関心を持つ。
2 「お年寄りの気持ちを考えよう」
○交流体験や疑似体験を通して、お年寄りの気持ちを考える。
3 「お年寄りと交流しよう」
○デイサービスセンターのお年寄りと交流する。
4 「自分たちができることを考えよう」
○交流会を通して、自分たちができることを考え

3 地域の名人に学ぼう
(30時間) 【地域人材】

～地域の名人に学ぼう～
1 「名人をさがそう」
○地域の名人に関心を持ち、調べようとする意欲を持つ。
2 「名人のひみつをさがろう」
○講話やワカメの種付け体験等を通して課題を設定し、追究する。
3 「名人のひみつを伝え合おう」
○伝えたいことをまとめ、発表する。
4 「名人から学んだよ」
○体験や調べたことから大谷のよさや大谷の人々のよさに気づく。

特別活動

- 【学校行事】
 - ・幼小中合同避難訓練
 - ・下校時避難訓練
 - ・引き渡し訓練
- 【学校行事】
 - ・海に親しむ集い
- 【学級活動】
 - ・安全に避難しよう

特別な教科道徳

- 「動植物に寄せる思い」
 - ・ツバメの赤ちゃん
- 「自然を大切に」
 - ・ホテルの引っ越し
- 「わたしたちのふるさと」
 - ・ふるさといいところさがし

教科等との関連

- 【国語】調べて書こうわたしのレポート
 - 身の回りのことの中から知りたいことに応じた方法で調べ、書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考える。
- 【社会】わたしたちのまち みんなのまち
 - 学校のまわりの様子(身近な地域の地形や土地利用、交通や主な公共施設の場所と働き)
- 【算数】長いものの長さのはかり方と表し方
- 【国語】グループの合い言葉を決めよう
 - 話し合いの目的を理解して、司会の役割や話し合いの進め方を意識しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。
- 【国語】パラリンピックについて調べよう
 - 目的を意識して、中心となる語や文を見付けながら文章を読み、書かれていることを要約する。辞典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する。
- 【国語】自分の考えを伝えよう
 - 話題について自分の考えが読み手に伝わるように、自分の考えとそれを支える理由を明らかにして文章を書く。
- 【国語】外国のことを紹介しよう
 - グループで調べたことを、聞き手に伝わるように、話の組立てを考え、話し方を工夫する。
- 【社会】農家の仕事(6～9月単元)
 - 地域に見られる農家の仕事(地域の人々の生活との関連)

発行 令和4年3月31日
編集 気仙沼市教育委員会 学校教育課
気仙沼市・宮城教育大学連携センター
印刷 菅原印刷

